

多摩市 基礎 データ集

令和4年3月

企画課 企画調整担当 統計担当

はじめに

本市では、令和4年度から令和5年度にかけて、次期総合計画の改定を予定しており、本データ集はそのための基礎資料として、多摩市の現状を示す客観的なデータをグラフ化し、経年変化や他市との比較を行うことで、分かりやすく取りまとめたものです。

過去、同様の「多摩市基礎データ集」は、第五次多摩市総合計画基本計画第3期基本計画を策定するための基礎資料として、平成29年度に作成し、市民ワークショップや審議会等で活用されてきました。

本データ集は、次期総合計画の改定にあたって、更新を行いました。また、多摩市の「注目！トピックス」編を作成し、収集したデータをもとに市民の皆さんと特に共有すべきデータを抜き出すとともに、トピックス形式で分かりやすくまとめています。

昨今、新たな政策課題が数多く発生し、行政だけでは課題解決を図ることが難しい社会にあり、これまでのまちづくりを進めてきた前提が変わる過程にある転換期のまちづくりが求められています。今後は、本データ集を適宜活用しながら、市民ワークショップ等で活発な意見交換を行い、市民の皆さんとともに次期総合計画の改定を行ってまいります。

目次

はじめに.....	2
第1章 本書の構成について.....	6
第2章 多摩市の「注目！トピックス」編.....	6
第1節 わくわく子育てのまち、多摩へ.....	7
第2節 健幸寿命 都内トップクラス 多摩市のひけつは？.....	9
第3章 基礎編.....	11
第1節 人口.....	11
1-1 人口の推移.....	11
1-2 人口ピラミッド（令和4年1月1日現在）.....	13
1-3 年齢3区分別人口割合（26市比較）.....	14
1-4 人口・世帯（26市比較）.....	15
1-5 人口伸び率.....	16
1-6 年齢3区分別人口割合の推移.....	17
1-7 一般世帯数及び一世帯あたりの人員の推移.....	18
1-8 一般世帯の家族類型別比率.....	19
1-9 65歳以上・6歳未満の親族がいる一般世帯数の推移.....	20
1-10 平均寿命.....	21
1-11 人口動態の推移.....	22
1-12 外国人人口の推移.....	23
1-13 外国人人口比率（26市比較）.....	24
第2節 市政 ～多摩市の評価～.....	25
2-1 施策の満足度.....	25
2-2 施策の要望度.....	26
2-3 定住意向.....	27
2-4 定住意向住みよさの総合評価.....	28
2-5 市政への関心度.....	29
2-6 審議会・懇談会等における市民委員の参画状況.....	30
第3節 行財政 ～多摩市のお金～.....	31
3-1 一般会計決算額.....	31
3-2 歳入構造.....	32
3-3 歳出構造.....	33
3-4 財政指標（26市比較）.....	35
3-5 26市の経常収支比率・財政力指数の関係.....	36
3-6 基金の内訳と推移.....	37
3-7 地方債現在高の推移.....	38
3-8 職員一人当たり人口（26市比較）.....	39
第4節 土地.....	40
4-1 地価公示価格の推移.....	40

第4章 目指すまちの姿編	41
第I節 「子育て・子育てをみんなで支え、子どもたちの明るい声がひびくまち」	41
I-1 合計特殊出生率の推移	41
I-2 合計特殊出生率（26市比較）	42
I-3 夫婦共働き世帯比率の推移	43
I-4 就学前児童人口に対する保育サービスの利用率（26市比較）	44
I-5 児童相談対象件数の推移	45
I-6 学童クラブ利用状況	46
I-7 児童館利用状況の推移	47
I-8 学校開放の件数と利用人数の推移	48
I-9 多摩市立小・中学校の児童・生徒数、学校数の推移	50
I-10 1校当たりの児童・生徒数（26市比較）	51
I-11 不登校児童・生徒数の推移	52
I-12 教育相談件数の推移	53
I-13 就学援助支給状況の推移	54
第II節 みんなが明るく、安心して、いきいきと暮らしているまち	55
II-1 主観的健康感の推移	55
II-2 高齢者の主観的健康感の推移	56
II-3 「健康診査」及び「がん検診」受診者の推移	57
II-4 医療施設数（26市比較）	58
II-5 医療施設病床数(26市比較)	59
II-6 生活保護率（26市比較）	60
II-7 生活保護人員数・世帯数の推移	61
II-8 65歳以上による幸福度について	62
II-9 高齢者世帯比率	63
II-10 高齢者世帯比率の推移	64
II-11 65歳以上の要支援・要介護認定比率（26市比較）	65
II-12 地区別65歳以上の単身世帯数及び高齢化率	66
II-13 シルバー人材センターの会員数と受託件数の推移	67
II-14 障がい者人口（障害者手帳所持者数）の推移	68
II-15 障がい者の外出時の支障項目	69
II-16 障がい者の就労状況	70
第III節 みんなで楽しみながら地域づくりを進めるまち	71
III-1 地域活動への参加状況	71
III-2 地域における支え合い	72
III-3 生活環境の総合評価	73
III-4 生涯学習への参加状況	74
III-5 1人当たりの個人貸出冊数（26市比較）	75
III-6 多摩市公式ホームページの閲覧状況	76
III-7 「たま広報」の購読状況	77
III-8 NPO法人数（26市比較）	78

Ⅲ-9 協働事業の推移.....	79
Ⅲ-10 総合体育館の利用状況の推移.....	81
Ⅲ-11 温水プールの利用状況の推移.....	82
Ⅲ-12 文化財関係施設の見学者等の推移.....	83
Ⅲ-13 女性センターにおける相談件数の推移.....	84
第Ⅳ節 働き、学び、遊び みんなが活気と活力を感じるまち.....	85
Ⅳ-1 企業誘致数の推移.....	85
Ⅳ-2 事業所数及び従業者数（26市比較）.....	86
Ⅳ-3 市内地域別事業所数及び従業者数.....	88
Ⅳ-4 昼夜間人口比率（26市比較）.....	92
Ⅳ-5 年齢別昼夜間人口比率.....	93
Ⅳ-6 労働力人口比率.....	94
Ⅳ-7 農業経営体数（26市比較）.....	95
第Ⅴ節 「いつまでもみんなが住み続けられる安全で快適なまち」.....	97
Ⅴ-1 自主防災組織数の推移.....	97
Ⅴ-2 まちの安全・安心度の推移.....	98
Ⅴ-3 刑法犯認知件数.....	99
Ⅴ-4 交通事故発生件数—人身事故—（26市比較）.....	100
Ⅴ-5 交通事故発生件数の推移.....	101
Ⅴ-6 市内7駅における乗降客数.....	102
Ⅴ-7 道路率（26市比較）.....	103
Ⅴ-8 住まい・住生活に関する意識調査.....	104
Ⅴ-9 住宅ストック状況.....	107
第Ⅵ節 「人・自然・地球 みんなで環境を大切にすまち」.....	112
Ⅵ-1 公害苦情受付件数（26市比較）.....	112
Ⅵ-2 二酸化炭素排出量の推移.....	113
Ⅵ-3 1人当たり都市公園等面積（26市比較）.....	114
Ⅵ-4 みどり率.....	115
Ⅵ-5 1人1日当たりごみ量（26市比較）.....	116
Ⅵ-6 総資源化率（リサイクル率）（26市比較）.....	117

第1章 本書の構成について

本書は、下記の3部で構成されています。

1 多摩市の「注目！トピックス」編

次期総合計画の改定にあたって、本市の現状分析を踏まえ、本市のセールスポイントや、課題等について、市民の皆さんと特に共有すべきデータについて、トピックス形式で分かりやすく、掲載しています。

2 基礎編

多摩市の基礎的なデータとして、「人口」、「市政」、「行財政」、「土地」の4項目の各種データを掲載しています。

3 目指すまちの姿編

現在の総合計画である第五次多摩市総合計画の目指すまちの姿に沿って、多摩市の状況等を示すデータを掲載しています。

なお、目指すまちの姿は以下のとおりです。

【市民の暮らし】

- ① 子育て・子育てをみんなで支え、子どもたちの明るい声がひびくまち
- ② みんなが明るく、安心して、いきいきと暮らしているまち

【市民の力・地域の力】

- ③ みんなで楽しみながら地域づくりを進めるまち

【活力ある都市】

- ④ 働き、学び、遊び みんなが活気と魅力を感じるまち
- ⑤ いつまでもみんなが住み続けられる安全で快適なまち

【環境】

- ⑥ 人・自然・地球 みんなで環境を大切にするまち

第2章 多摩市の「注目！トピックス」編

多摩市は、男性・女性とも健康寿命が都内でもトップクラスであり、要支援・要介護認定率も都内26市では最も低い状況をキープするなど元気な高齢者の多いのが大きな特徴です。また、多摩市では「妊娠から18歳まで切れ目のない子育て・子育て支援」を行っており、子育てに力を入れているのも大きな特徴です。

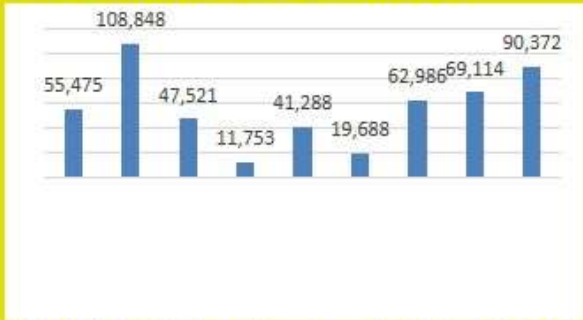
今後、計画改定やまちづくりを行う上で、大きな要素となり得る、これらの2点について、収集したデータをもとに、トピックス形式で分かりやすくまとめています。

第1節 わくわく子育てのまち、多摩へ

WellnessLife&FunLife

親になるまで 《仕事と遊びを両立できる環境》

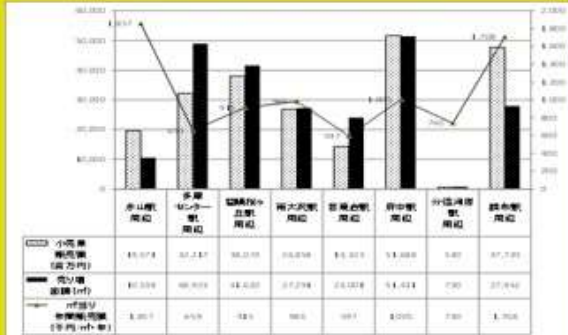
■市内及び周辺駅の鉄道駅乗降客数(1日平均)
・多摩センター駅は3路線が乗り入れており、周辺鉄道駅より乗降客は突出して多い状況です。



[出典]京王電鉄、小田急電鉄、多摩都市モノレールの令和2年度の1日平均による。各駅は、乗り入れ路線の合計の乗降客数を示す

■商業販売力の比較

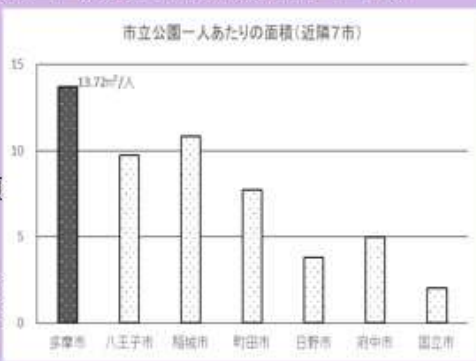
・市内では、聖蹟桜ヶ丘駅周辺が販売額が高いです。



[出典]商業統計表立地環境特性別統計簿(平成27年度)による。なお、各駅周辺は、駅北口、駅南口、また駅周辺を合算した数値とする。

■市立公園一人あたりの面積(26市中1位)

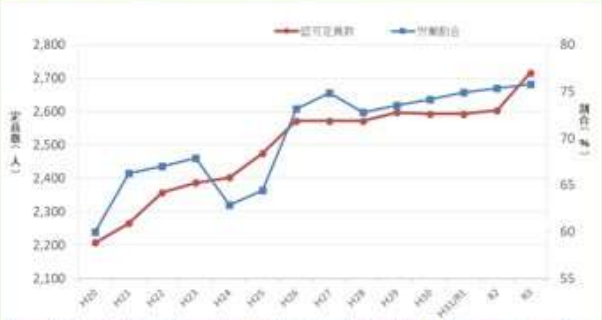
充実した都市基盤・住宅ストック
・東京都南部のエリアは、市立公園一人あたりの面積が大きくなる傾向にあり、子どもの外遊びの環境が豊富に確保されています。



[出典]東京都建設局公園緑地部管理課「公園調査(令和3年4月1日現在)」(令和3年9月公開)

子どもが0~5歳 《地域で子育て!!ママも働ける環境を》

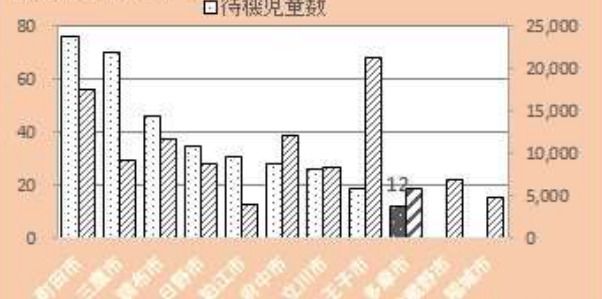
■多摩市の認可保育所定員と労働割合
・女性の働く割合が上がるにつれて、認可保育所の定員数も年々増加していきます。



[出典]住民基本台帳による東京都の世帯と人口 女性の労働割合=多摩市の業種別女性従業員数合計/多摩市の15~64歳の女性人口

■認可保育所等の待機児童数の比較

・近隣市と比較すると、0~5歳児の人口が少なく、待機児童も少ない状況です。



[出典]都内の保育サービスの状況(区市町村別状況 令和3年4月1日)(東京都福祉保健局)

■住宅ストック

空家率は10%

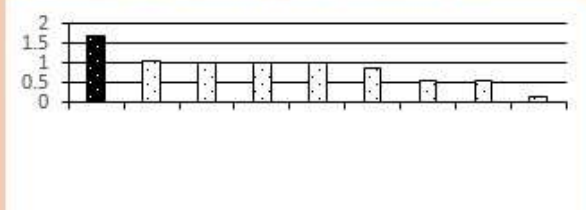


[出典]平成30年 住宅・土地統計調査

わくわく子育てのまち、多摩へ

■乳幼児1,000人あたりの児童館数(26市中2位)

・近隣市と比較すると、乳幼児(※)人口に占める児童館の数が多く、ママ・パパが子どもと安心して過ごし、子育て仲間と繋がる場を提供しています。



※乳幼児: 0~5歳の児童をいう。

[出典] 住民基本台帳/令和3年1月、令和2年度の東京の児童館実施状況(東京都福祉保健局)

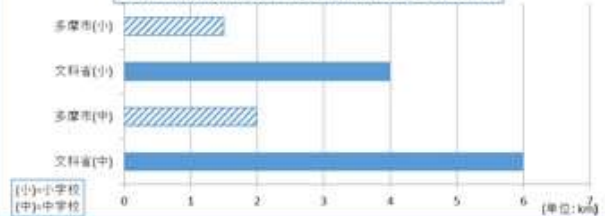
子どもが6歳～

《親も子どもも安心して学べる環境を》

■多摩市立小・中学校の通学距離

・多摩市内の小・中学校では、ほとんどの地域で、通学距離が、小学校1.5km、中学校2km以下になるように学校が配置されており、徒歩30分以内で安心して通学できます

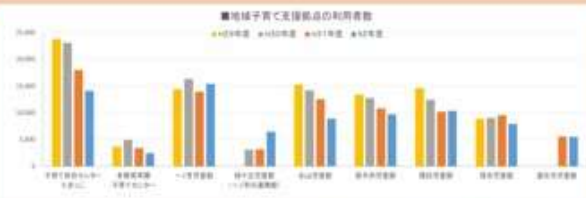
通学距離比較(国の配置基準と多摩市)



■地域子育て支援拠点の利用者数(乳幼児の親子)

・地域子育て支援拠点事業等を実施している施設での乳幼児の親子の利用が増えています。

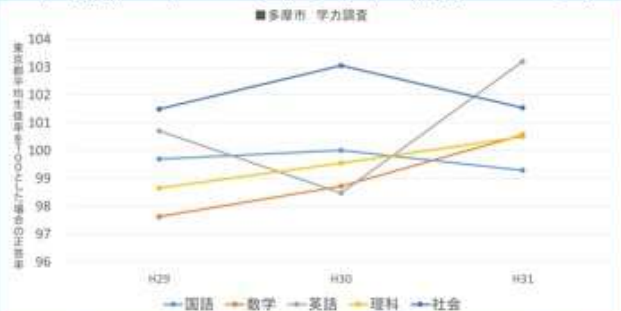
拠点施設では、親子がゆったり過ごせる「ひろばスペース」の設置や子育てに関する相談を受ける専任のマネージャーを配置しています。



[出典] 子育て支援課・児童青少年課

■中学2年生の学力調査正答率

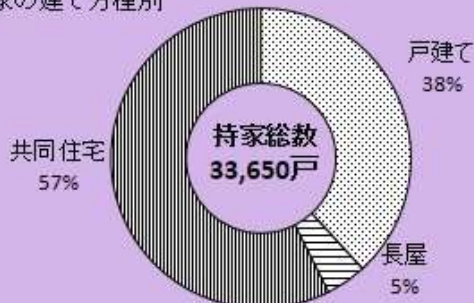
・市立中学校2年生の学力調査正答率は、東京都の平均値(100)をほぼ上回る水準を維持しています。



[出典] 児童・生徒の学力向上を図るための調査

・住宅総数の約54%が持家で、その内、約57%が共同住宅です。

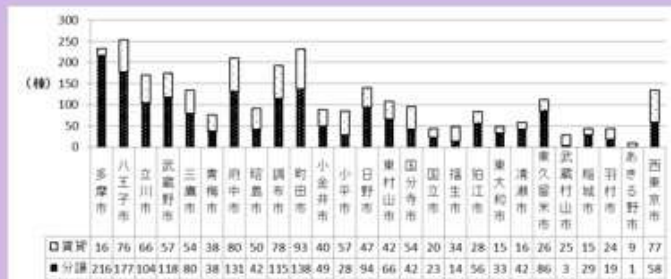
持家の建て方種別



[出典] 平成30年 住宅・土地統計調査

■持家の共同住宅の安全性

・旧耐震基準の共同住宅が多い状況ですので、今後の再生が期待されます。



[出典] 東京都マンション実態調査結果(平成30年3月)

第2節 健康寿命 都内トップクラス 多摩市のひけつは？

WellnessLife&FunLife

多摩市のひけつ① 《安心安全な暮らし》

■ 協力事業者による多摩市地域見守り活動 見守り協力事業者数

32事業者（令和3年4月1日現在）



■ 整備された道路空間



～総延長約41km！
歩車分離された遊歩道～
26市で1位の遊歩道延長に加え、道路率1位、平均幅員1位と都市基盤が整備されています。また、歩車分離されていることにより、人対車両の事故が事故件数の1割程度となっています。

～公共交通機関の交通網～
3路線7駅の鉄道に加え、バス停留所は184ヶ所、平均1.6km毎に設置されています。

多摩市のひけつ② 《働く人、地域で活動する人》

■ 働くことを通じた「生きがい」

公益社団法人多摩市シルバー人材センターでは、元気に働くことで地域社会とのふれあいを高め、活力ある高齢社会を目指しています。

会員数は 1137 名

就業数は 78% ※

[令和2年度実績 高齢支援課資料より]

※令和2年は新型コロナウイルスの影響により就業数が大幅に減少しており、例年は約95%程度となる。

特別な資格や免許は必要ありません。

また、技能、技術を高める各種の講習（シニアワークプログラム等）も実施しています。

■ 地域・経験を地域活動で活かす。

多摩市は地域活動が盛んで、長年培った知識や経験を活かす環境が整っています。

NPO法人が多摩市内に85団体

→10万人あたりのNPO法人数57.6団体

[出典：東京都生活文化局資料「認証NPO法人一覧 令和4年2月1日・住民基本台帳令和4年1月1日」]

アダプト制度

2制度・113団体・決算額 1,754千円

[令和3年度実績 公園緑地課・道路交通課]

これからの多摩市

■ 多摩市の将来人口は？

・人口が1.5割減り、高齢化率は4割近くなる人口推計が出ています。

年齢に関係なく、みんなで力を出し合い持続可能な多摩市をつくるべく、より一層多様な主体の連携が必要になります。

多摩市の人口推計



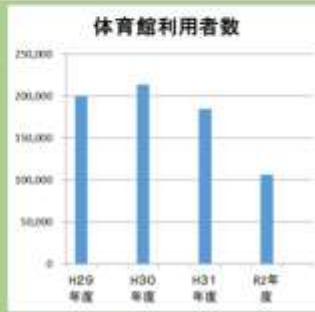
健幸寿命 都内トップクラス多摩市のひけつは？

多摩市のひけつ③

《いつもの人もたまにの人も楽しめる》

■充実した施設

運動したり、趣味に打ち込んだり、仲間と活動するのに利用できる場所がすぐそこに。市立総合対区間は市内外の人が利用でき、利用者数も年間20万人を越えました。



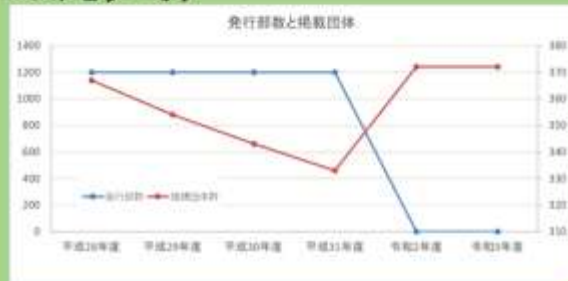
【出典】スポーツ総興課

■四季折々を感じる

多摩市が発行している各種観光ガイドは年間1万部を配布しており、中でも毎月2000部を配布しているよこやまのガイドマップは桜や紅葉の名所を多数掲載しています。

■スポーツ・芸術・娯楽も仲間と共に楽しむ

多摩市では、多種多様なサークル・団体が市内各地で活動しています。それらを紹介する地域デビュー手引書(令和2年度よりHp掲載のみ)は、市役所の隠れたベストセラーです



【出典】企画課

■人とともに街も高齢化！

多摩市では都市基盤や公共施設を集中的に整備したため老朽化も、一斉に進展します。そういった課題に対して「公共施設の見直し方針と行動プログラム」を策定し、持続可能なまちづくりをハード面からも実現していきます。



【出典】行政管理課

多摩市のひけつ④

《みんなの居場所》

■こどもひろばOLIVE

こどもひろば

パルテノン多摩4階に、子育て中の方が子どもとゆっくり過ごせてみんなで遊べる、木のぬくもりが感じられる室内型の遊び場が令和4年3月にオープンしました。



一時保育

パルテノン多摩でのイベント参加時や多摩センターエリアでの買い物など、

「ちょっと子どもを預けたい」というときに子どもを預けることができます。

■地域のつながりの場

多摩市内には数多くの自治会・管理組合が組織されており、多摩市への提出があります。届出団体数は増加傾向です。自治会・管理組合は、自治の発展に寄与して頂いているとともに地域コミュニティ活動の場になっています。



【出典】コミュニティ生活課

第3章 基礎編

第1節 人口

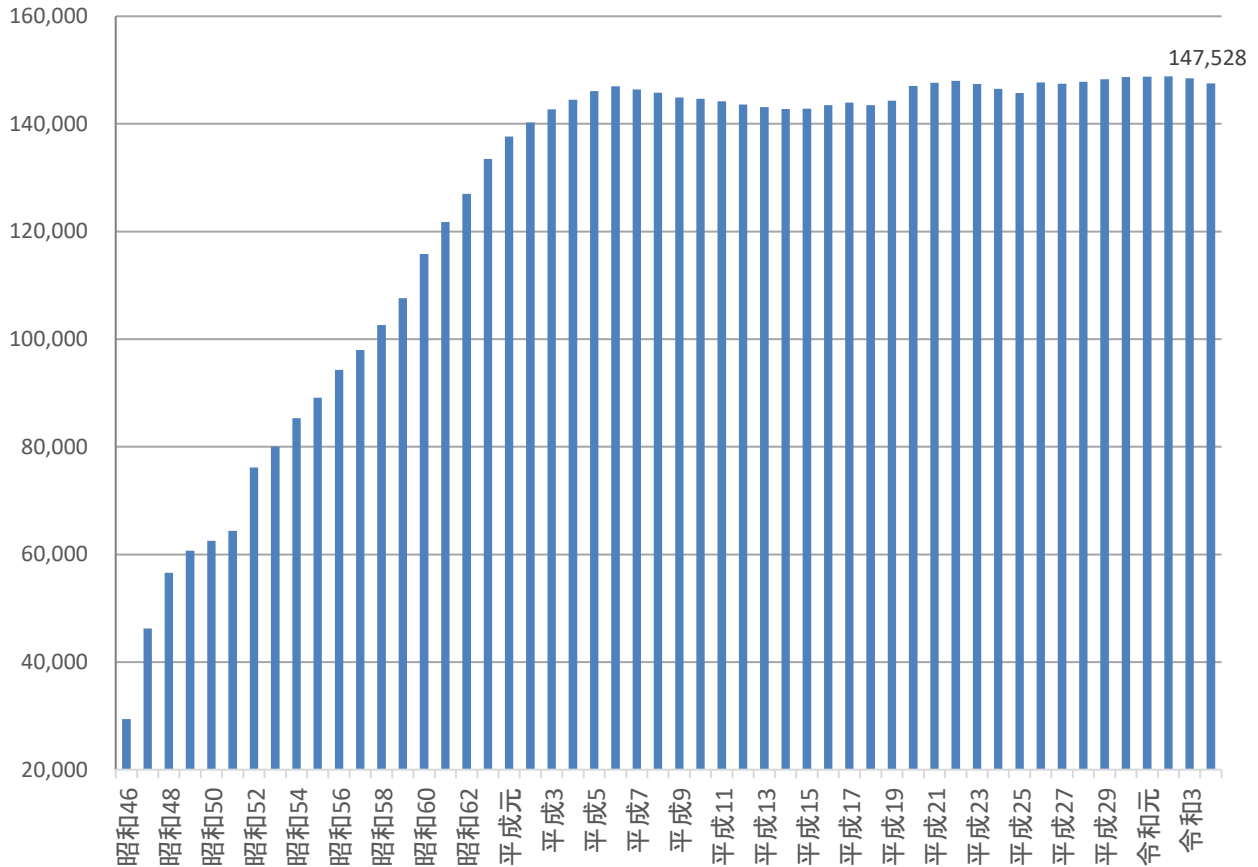
1-1 人口の推移

多摩市の人口は、令和4年1月1日現在で、147,528人です。

昭和46年のニュータウンの入居開始以来、人口は急増を続け、平成6年（146,976人）まで上昇を続けました。その後、微減・横ばいの状況が続いていましたが、平成19年以降は再び増加傾向に転じ、令和2年の人口は過去最高の人口を記録しています。

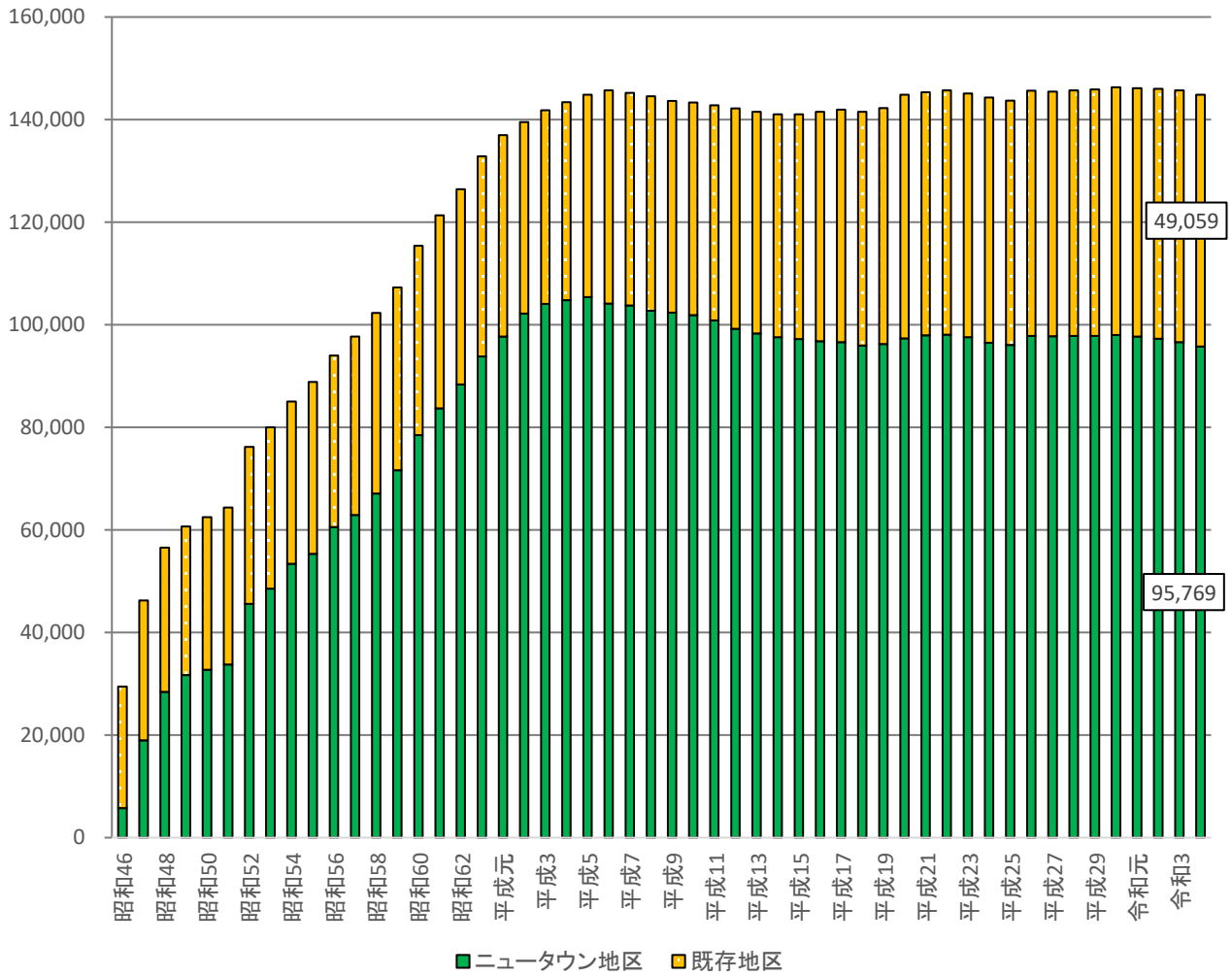
■市の総人口推移

(人)



出典：「住民基本台帳（各年1月1日）」

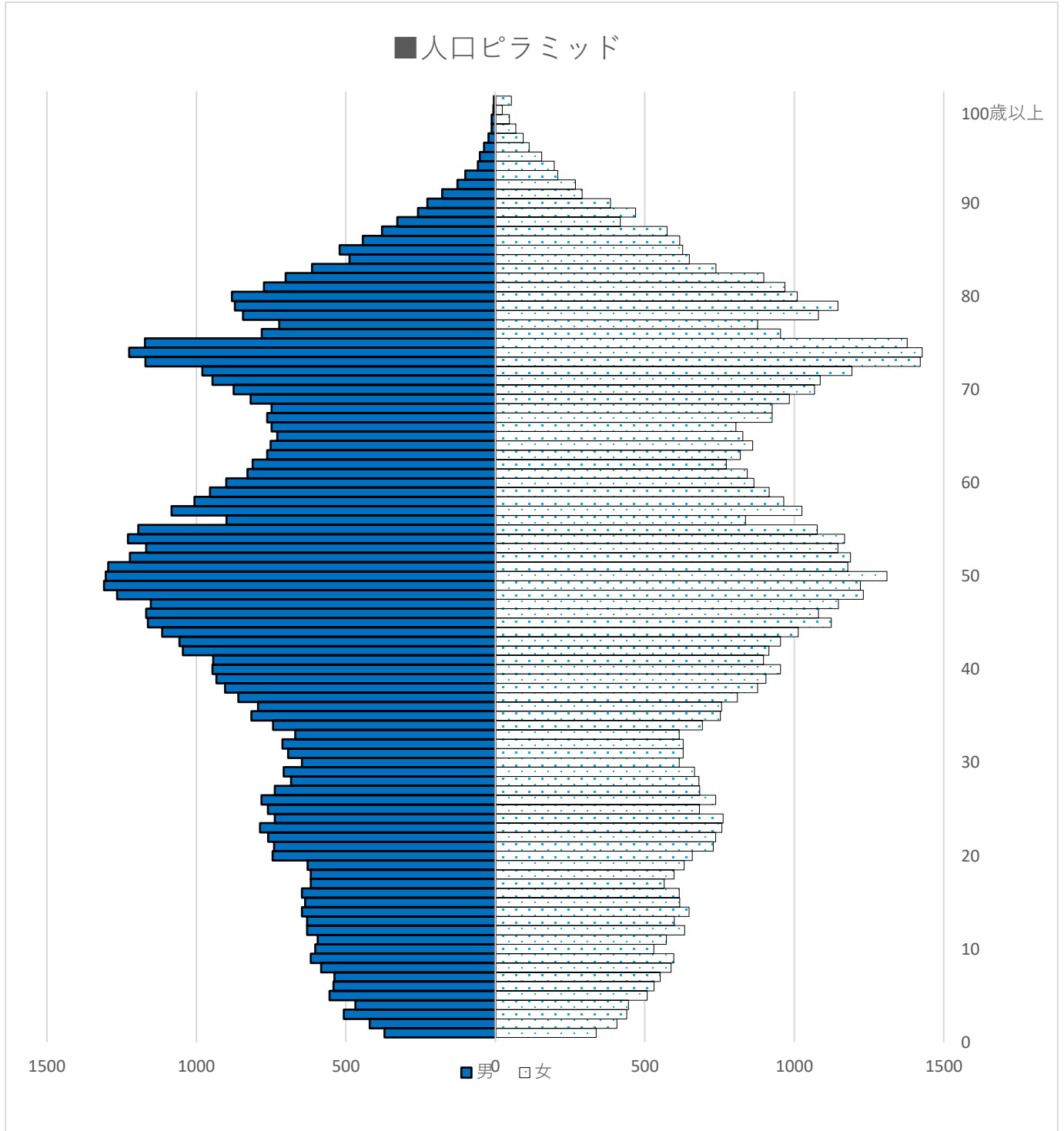
■地域別人口推移（※日本人人口のみ）



出典：「住民基本台帳（各年1月1日）」

1-2 人口ピラミッド（令和4年1月1日現在）

人口構成をみると、概ね70歳～75歳の団塊世代と、50歳前後の団塊ジュニア世代が多くなっています。人口ピラミッドの形は、65歳以上の人口の割合が高く、14歳以下の人口の割合が低い「つぼ型」となっています。

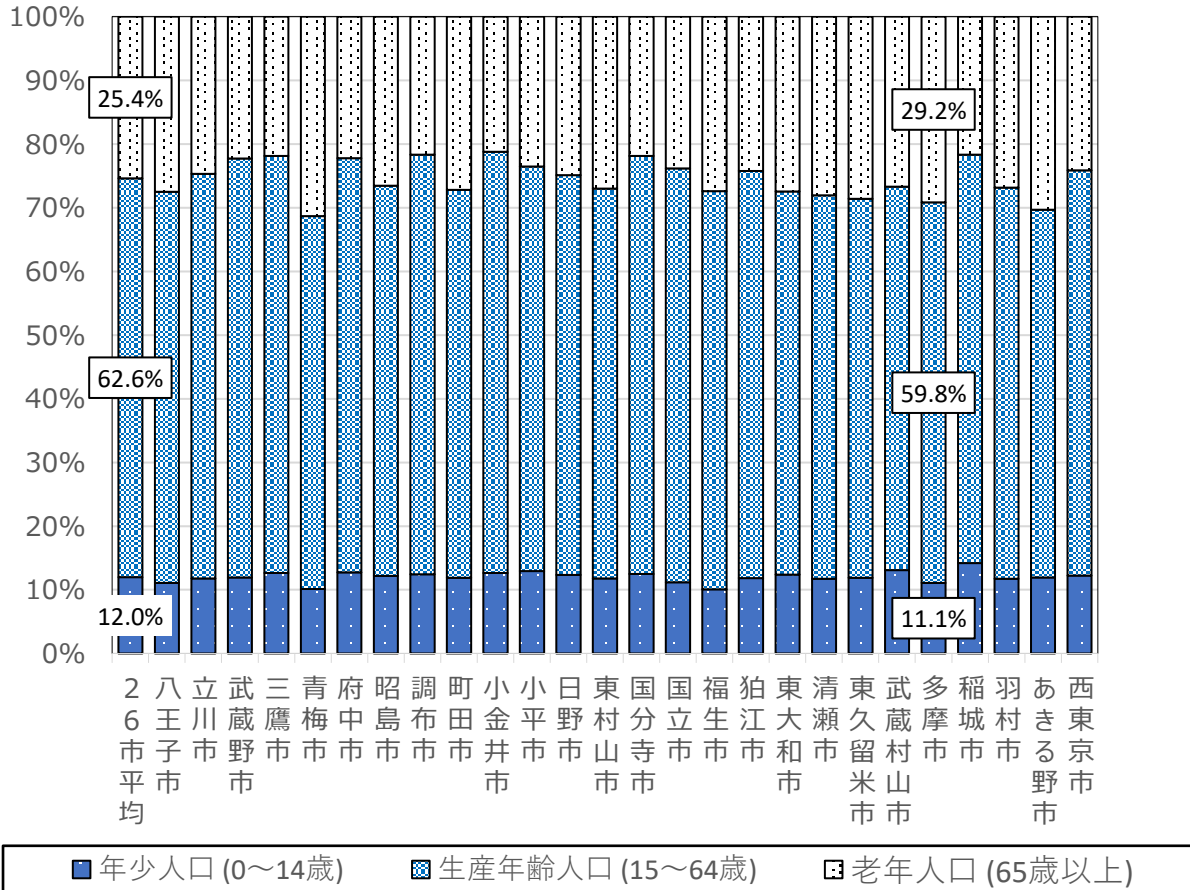


出典：「住民基本台帳」

1-3 年齢3区分別人口割合（26市比較）

令和4年1月1日現在の年少人口は11.1%(16,343人)、生産年齢人口は59.8%(88,149人)、老年人口は29.2%(43,036人)となっています。老年人口の割合の高い順に見ると、26市中3番目となっています。

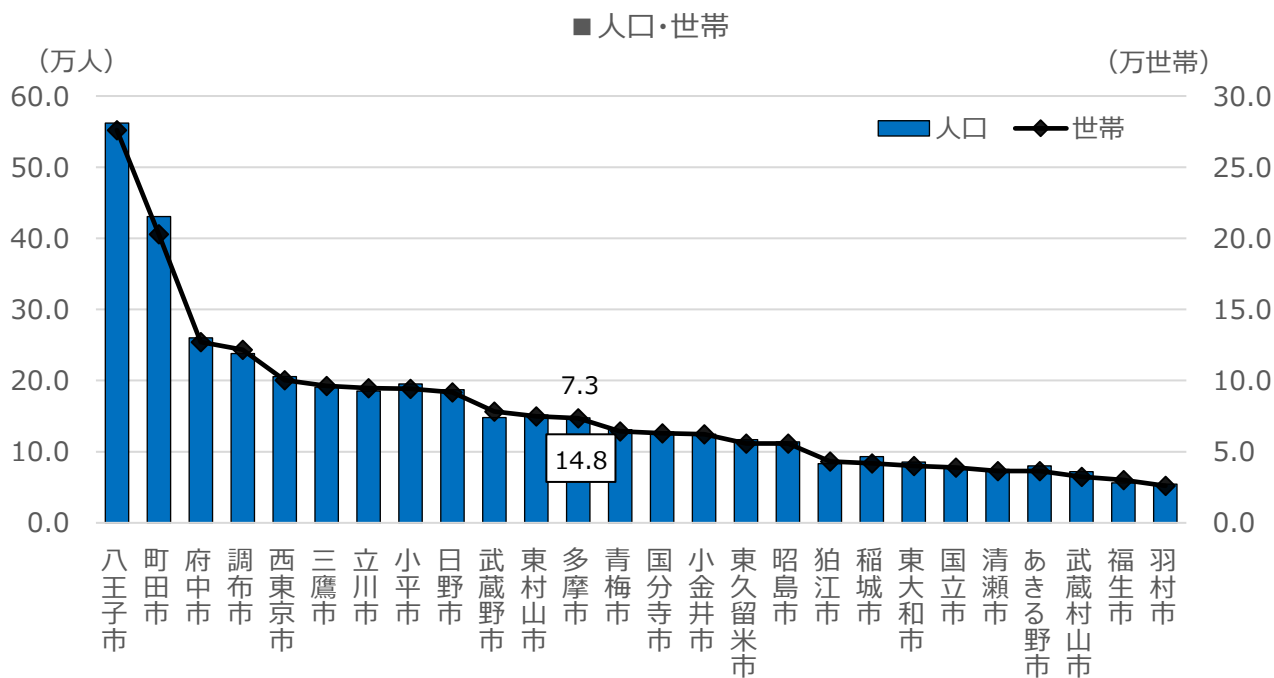
■ 年齢3区分別人口構成



出典：「住民基本台帳」

1-4 人口・世帯（26市比較）

令和4年1月1日現在の多摩市の人口は約14万8千人、世帯数は約7万3千世帯となっています。人口は26市中12番目です。

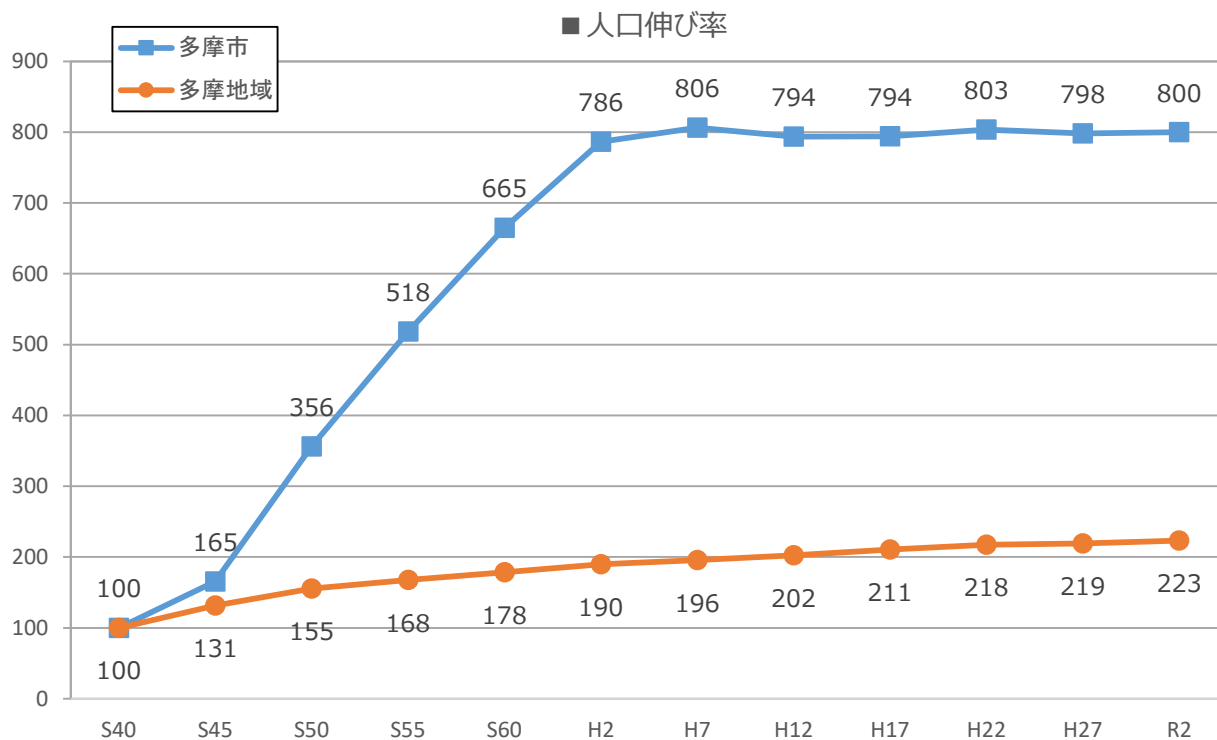


出典：「住民基本台帳」

1-5 人口伸び率

多摩市の人口は、昭和40年を100とした場合、令和2年で800と8倍になっています。昭和45年頃から平成2年頃にかけて急速に増加し、その後はほぼ横ばいとなっています。

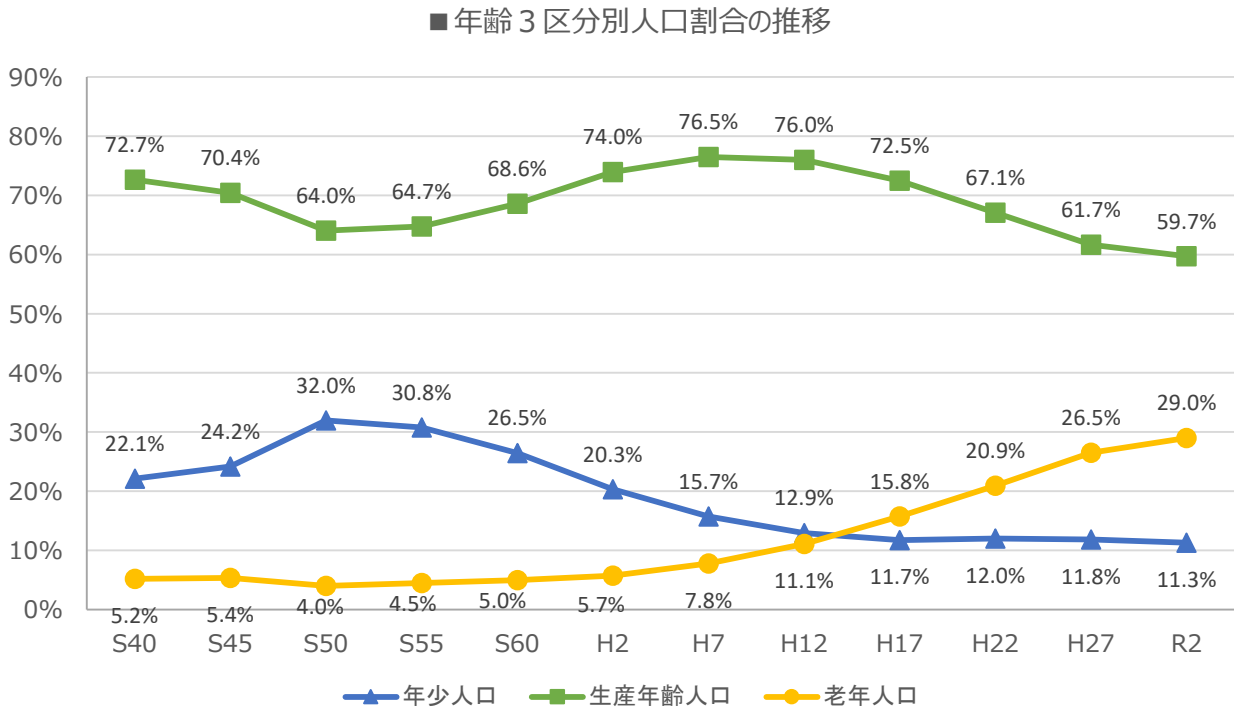
多摩地域全体と比較しても、伸び率が大きいことがうかがえます。



出典：「国勢調査」

1-6 年齢3区分別人口割合の推移

年齢3区分別人口割合の推移を国勢調査の結果で見ると、昭和50年を境に年少人口の割合は減少傾向にあります。一方、老年人口の割合は増加を続けており、増加率は生産年齢人口の減少率とほぼ一致します。



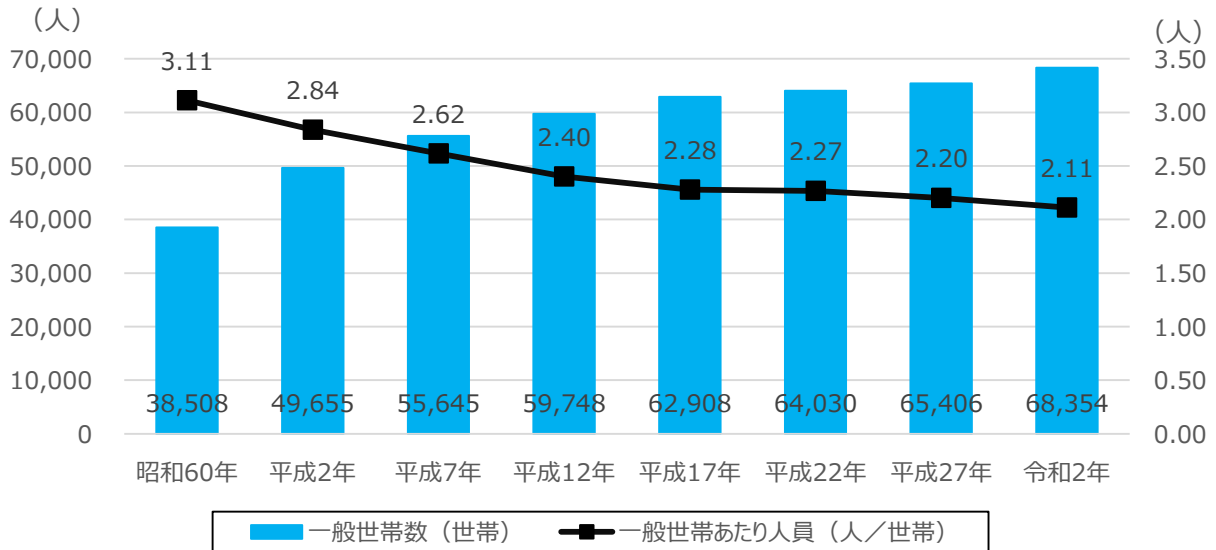
※年少人口：0～14歳、生産年齢人口：15～64歳、老年人口65歳以上

出典：「国勢調査」

1-7 一般世帯数及び一世帯あたりの人員の推移

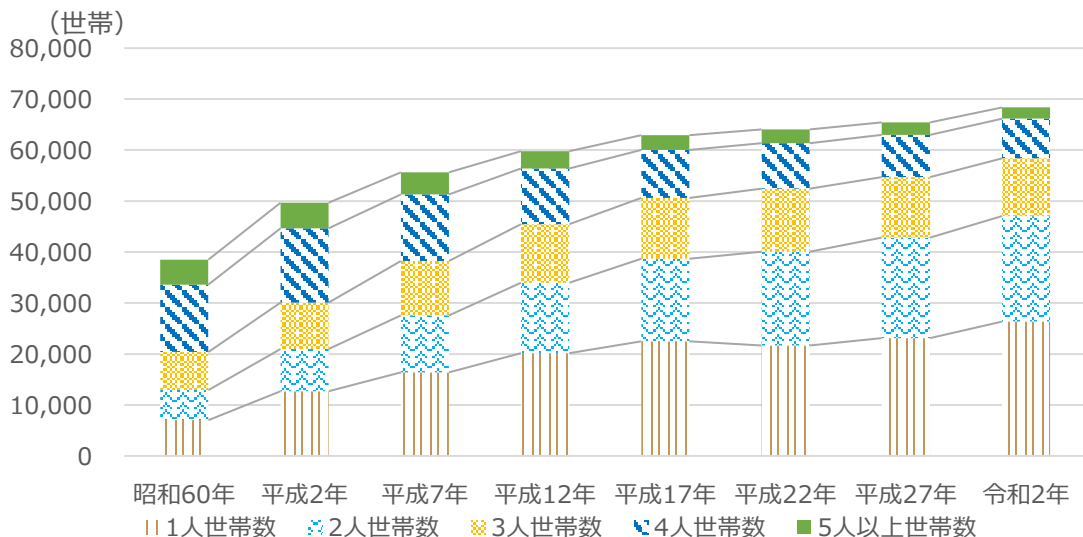
世帯数は漸増しているものの、世帯あたりの人員数が漸減しており、核家族化・単独世帯化が進んでいると考えられます。

■ 一般世帯数・一世帯あたり人員の推移



世帯あたりの人員数が2人以下の世帯は増加傾向にありますが、4人以上の世帯は平成2年をピークに減少の一途をたどっており、核家族化および少子化が進んでいると考えられます。

■ 人員別一般世帯数の推移



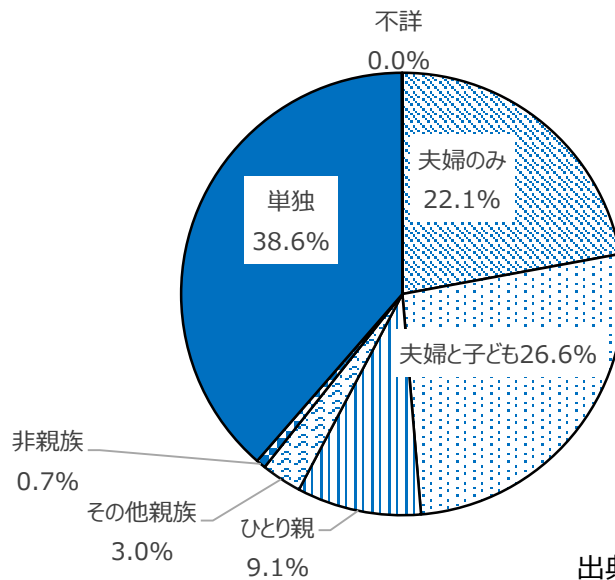
- ※ 一般世帯とは、住居と生計を共にしている人々の集まりである。
- ① 一戸を構えて住んでいる親族および単身者
 - ② 住居は共にしているが、別に生計を維持している間借り人の単身者や下宿者
 - ③ 会社・団体・商店・官公庁などの寄宿舍，独身寮などに居住している単身者

出典：「国勢調査」

1-8 一般世帯の家族類型別比率

一般世帯において、およそ96.3%が核家族および単独世帯となっており人々の暮らしの様子が変わってきている状況が見て取れます。

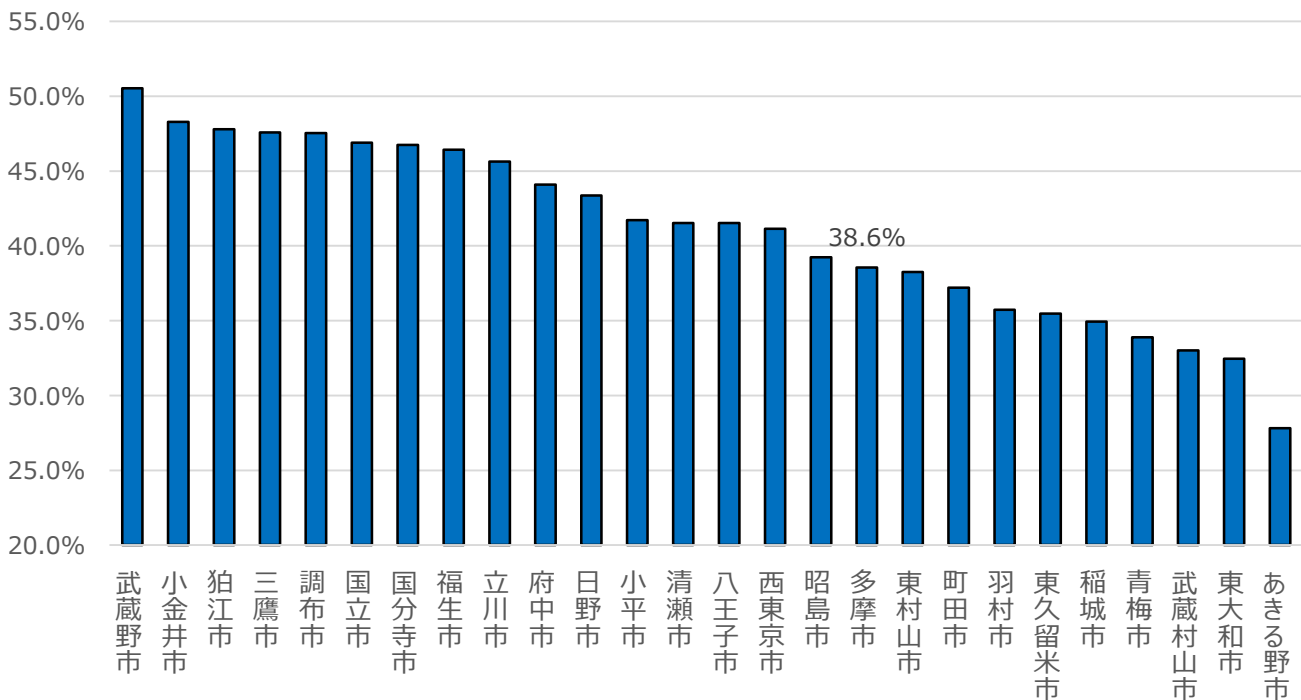
■ 一般世帯の家族類型別比率



出典：「国勢調査（令和2年度）」

単独世帯の比率は、26市平均（41.9%）を下回っており、上から数えて17位となっている。また、全国平均（38.0%）は上回っており、人口集中地区の世帯別傾向と同様の数値を示しています。

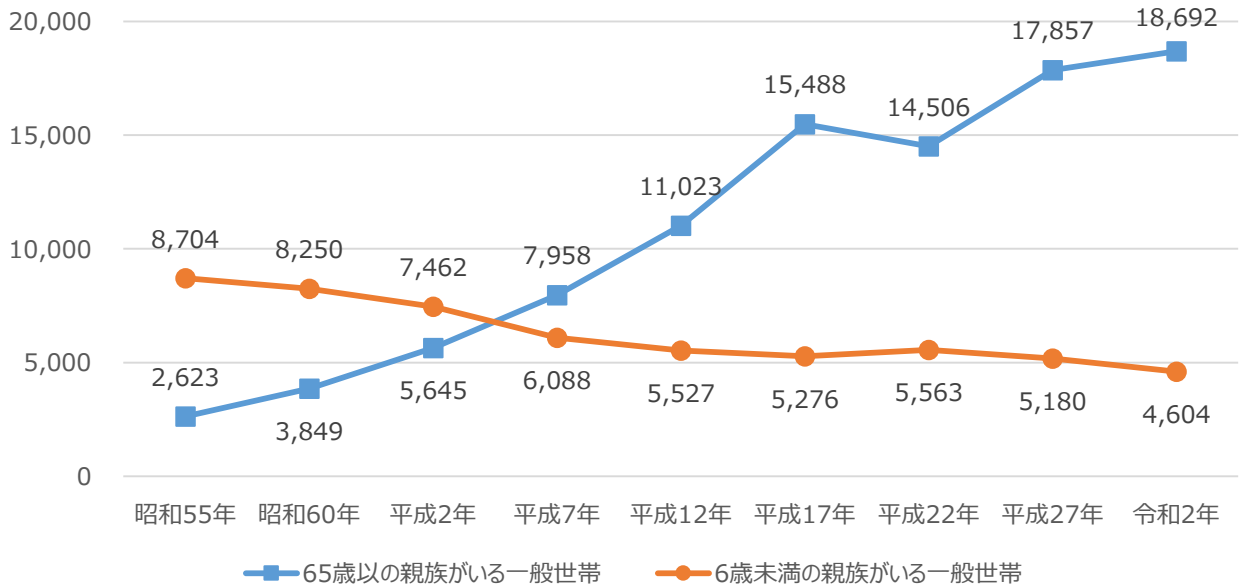
■ 単独世帯比率（26市比較）



出典：「国勢調査（令和2年度）」

1-9 65歳以上・6歳未満の親族がいる一般世帯数の推移

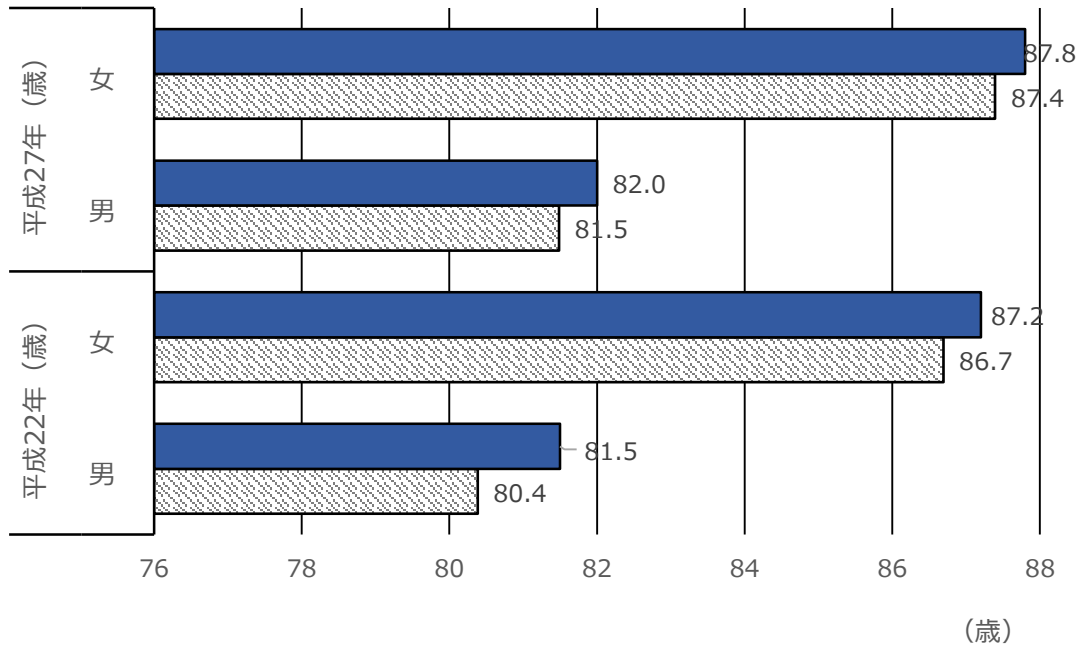
65歳以上の親族がいる一般世帯の増加は昭和55年から令和2年の40年間で約7倍に増え、6歳未満の親族がいる一般世帯は約半分に減少しています。



出典：「国勢調査」

1-10 平均寿命

平成 22 年から平成 27 年の間に、男女含め平均寿命が高くなっています。26 市町村平均と比較して、多摩市は男女とも平均寿命が高いです。(26 市中、男 4 位、女 6 位)



■ 多摩市 ▨ 26市平均

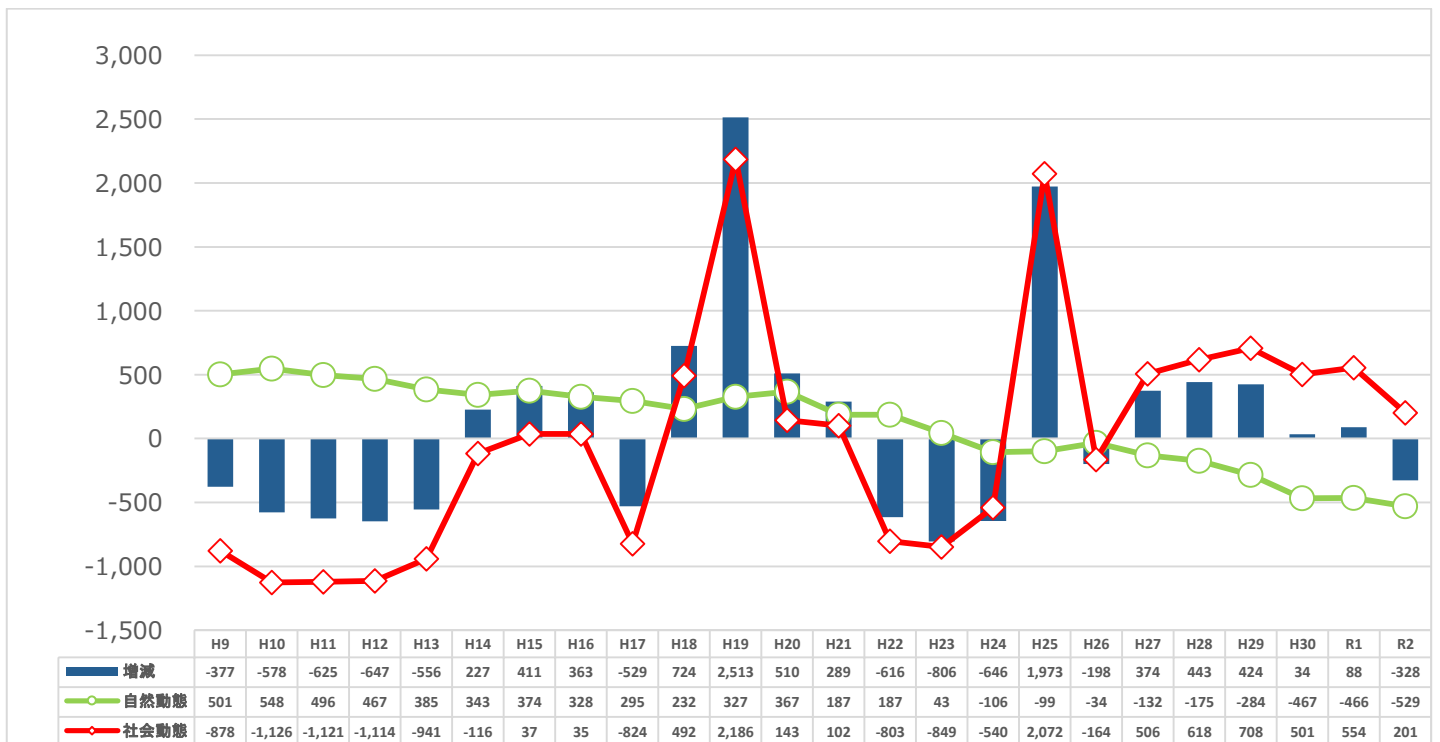
出典: 厚生労働省「市区町村別生命表」

1-11 人口動態の推移

平成13年までマイナスが続いていましたが、平成14年に増加に転じました。これは、転出者数が減ってきたことによるもので、平成19年には大規模マンションの建設等により、転入者数が転出者数を大幅に上回ったことからプラスとなりました。同様に、平成25年にも、転入者数が転出者数を上回り、2千人近いプラスとなりました。これは、諏訪2丁目住宅マンションの建替事業が完了し、入居が始まったことが影響しています。

一方、平成24年からは、死亡者数が出生者数を初めて上回り、自然減に転じたことがわかります。

■ 人口動態の推移



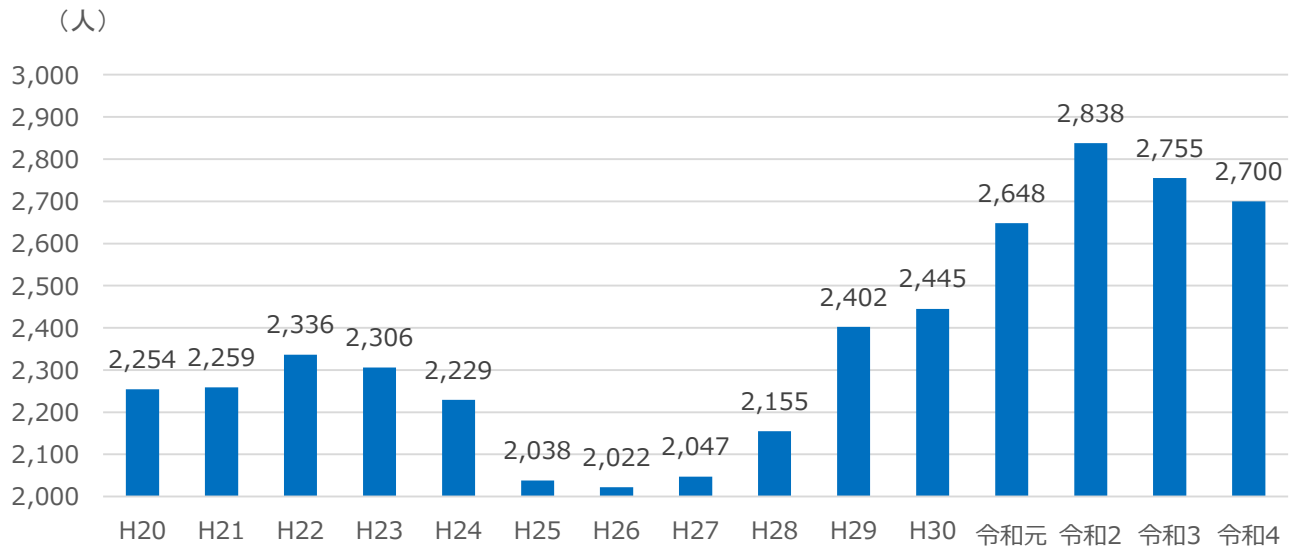
出典：「統計たま」

1-12 外国人人口の推移

外国人人口は、平成 22 年以降減少し、特に平成 24 年から平成 25 年にかけて大きく減っています。この時期は、平成 23 年 3 月に東日本大震災の発生直後となっています。

しかし、平成 26 年以降は一転して増加し、令和 2 年には過去最高を記録しました。平成 25 年には外国人登録制度が廃止され、住民登録に移行しました。

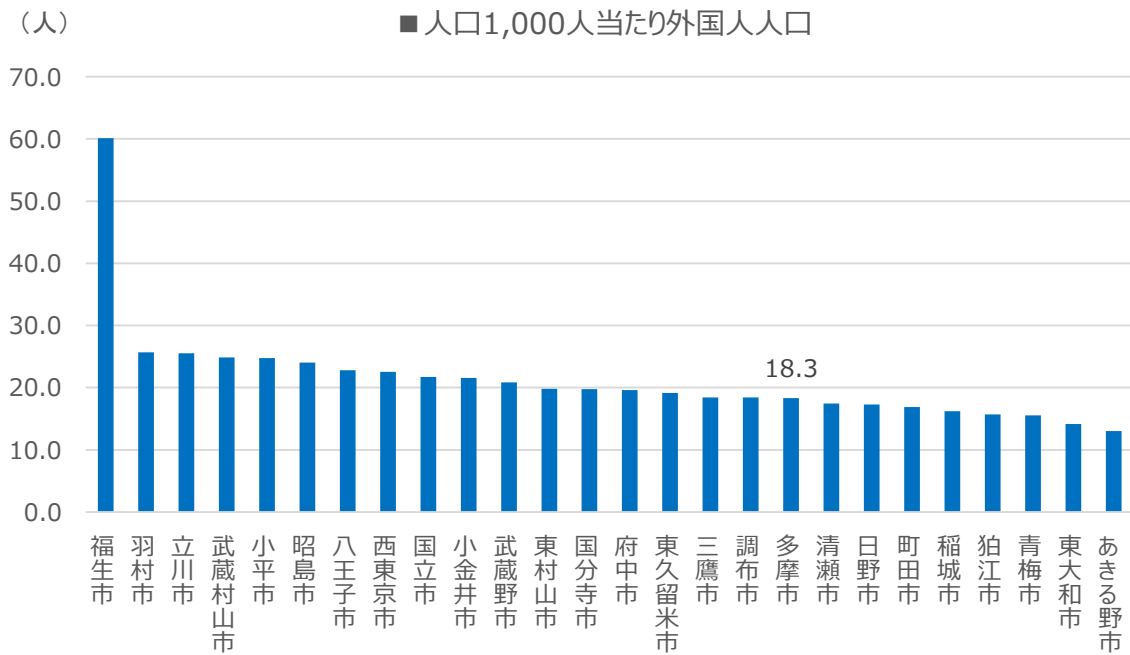
■外国人人口の推移



出典：外国人人口トップページ(東京都総務局統計部)(各年1月1日)

1-13 外国人人口比率（26市比較）

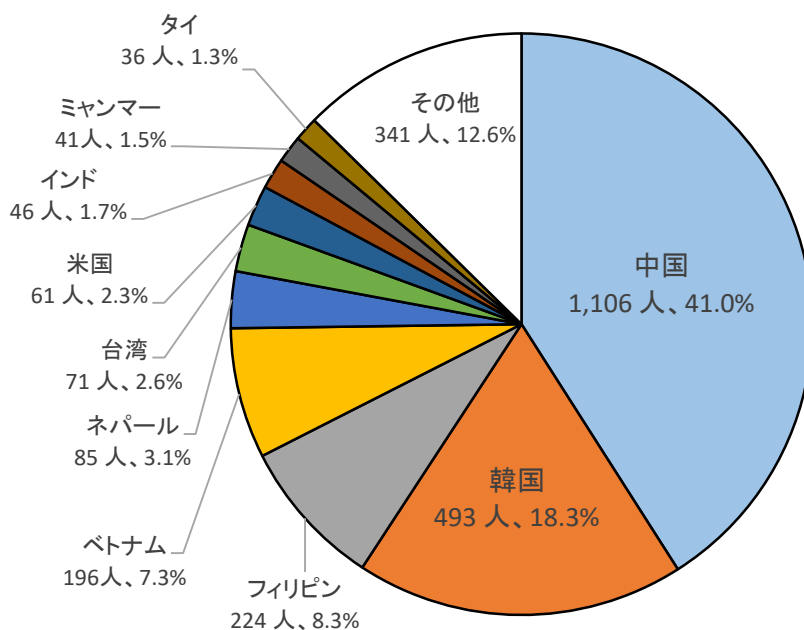
令和4年1月1日現在、人口1,000人あたりの外国人人口は、18.3人です。



出典：「住民基本台帳」

多摩市における区市町村別国籍・地域別外国人人口（上位10か国・地域）の内訳によると、中国・韓国をはじめとした、アジアの国が多く占めています。

■ 国別外国人人口（上位10か国・地域（令和4年1月1日現在））



出典：区市町村別国籍・地域別外国人人口（上位10か国・地域）（東京都総務局統計部）

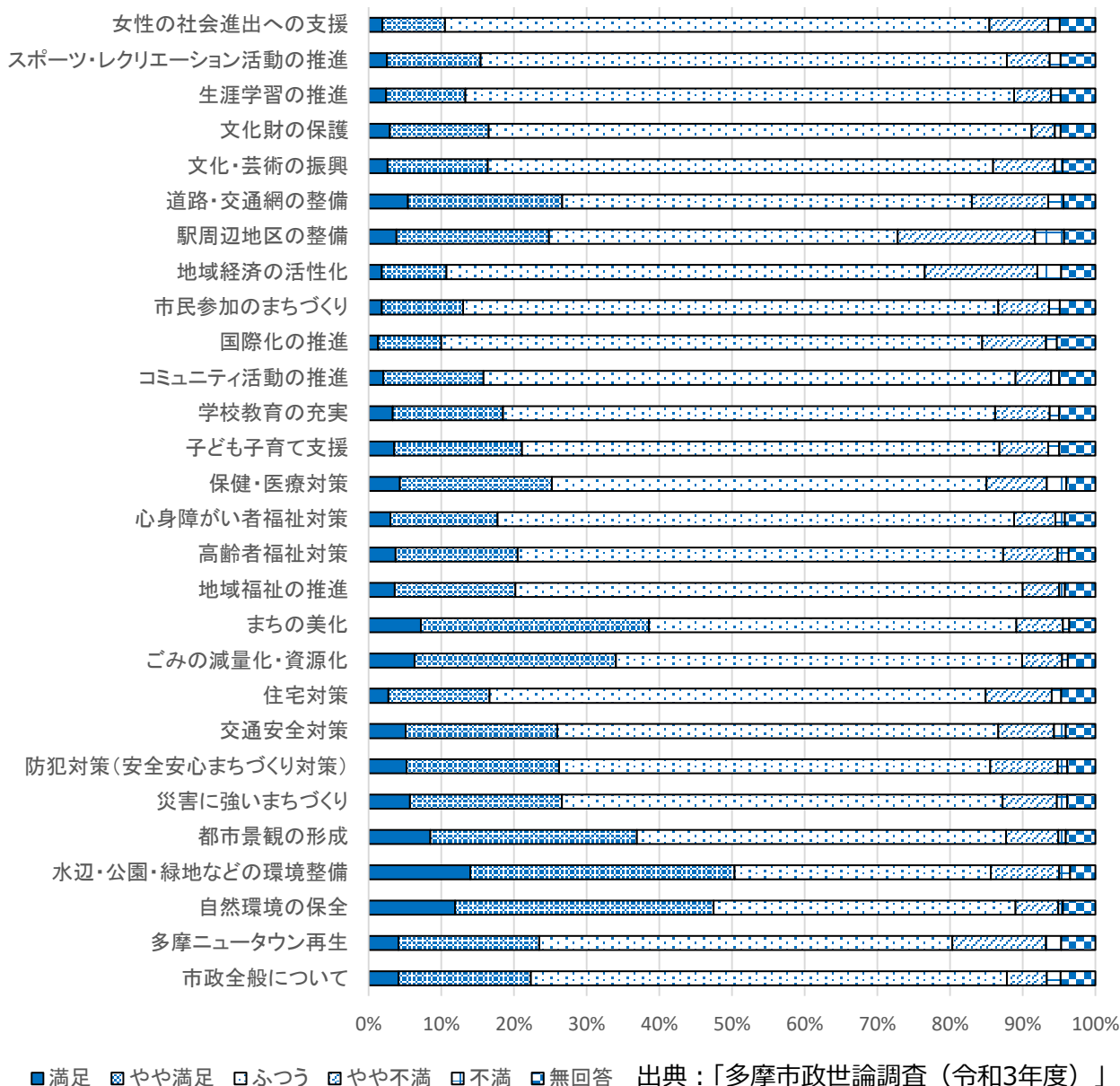
第2節 市政 ～多摩市の評価～

2-1 施策の満足度

令和3年度の市政世論調査では、満足度が高い（「満足」と「やや満足」をあわせた値が高い）施策として、「水辺・公園・緑地などの環境整備（50.4%）」、「自然環境の保全（47.5%）」、「まちの美化（38.6%）」、「都市景観の形成（36.9%）」、「ごみの減量化・資源化（34.0%）」があげられます。

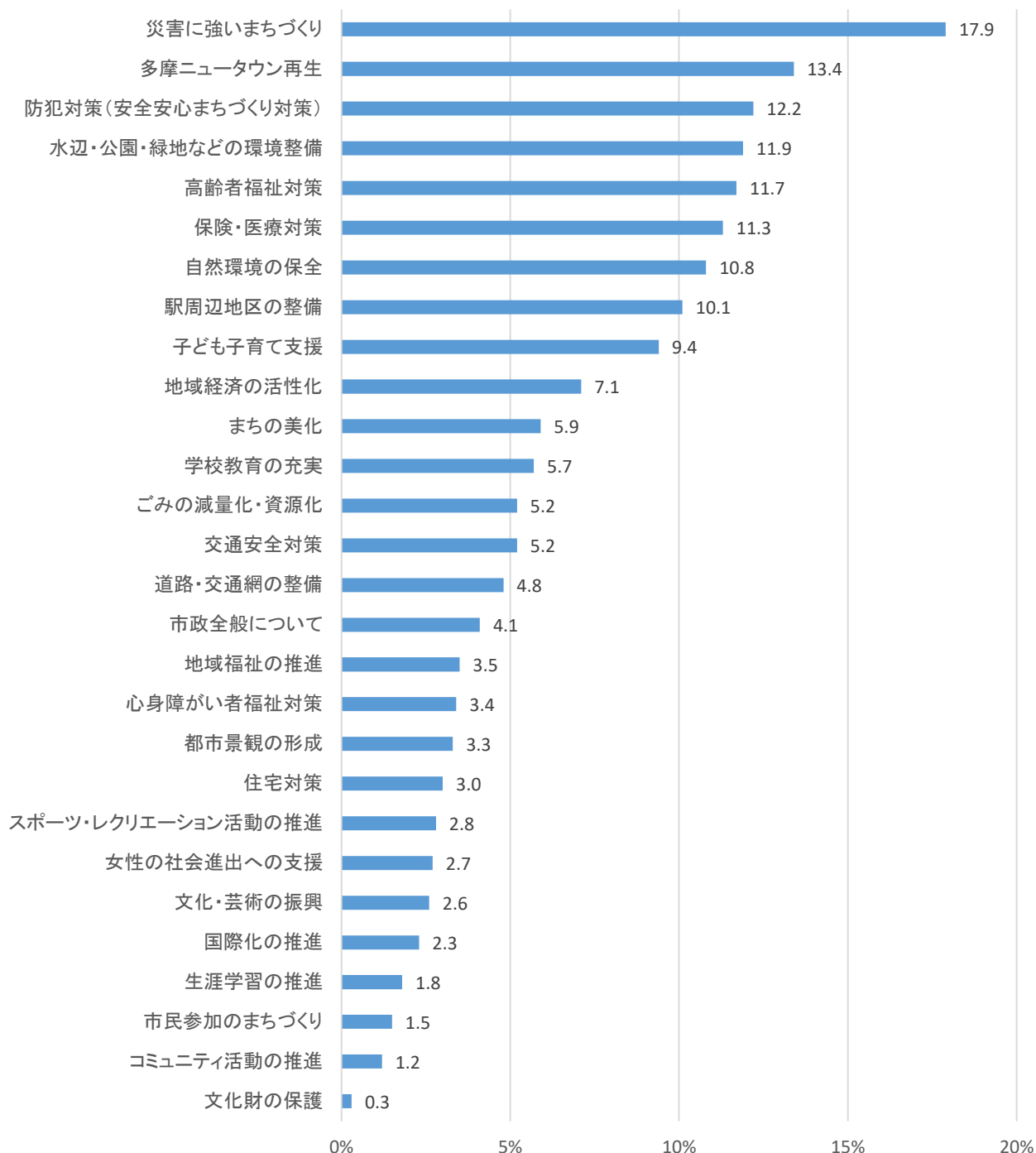
他方、「駅周辺地区の整備（22.9%）」、「地域経済の活性化（18.8%）」、「多摩ニュータウン再生(15.0%)」については、不満足とを感じる割合が大きい施策となっています。

■ 施策の満足度



2-2 施策の要望度

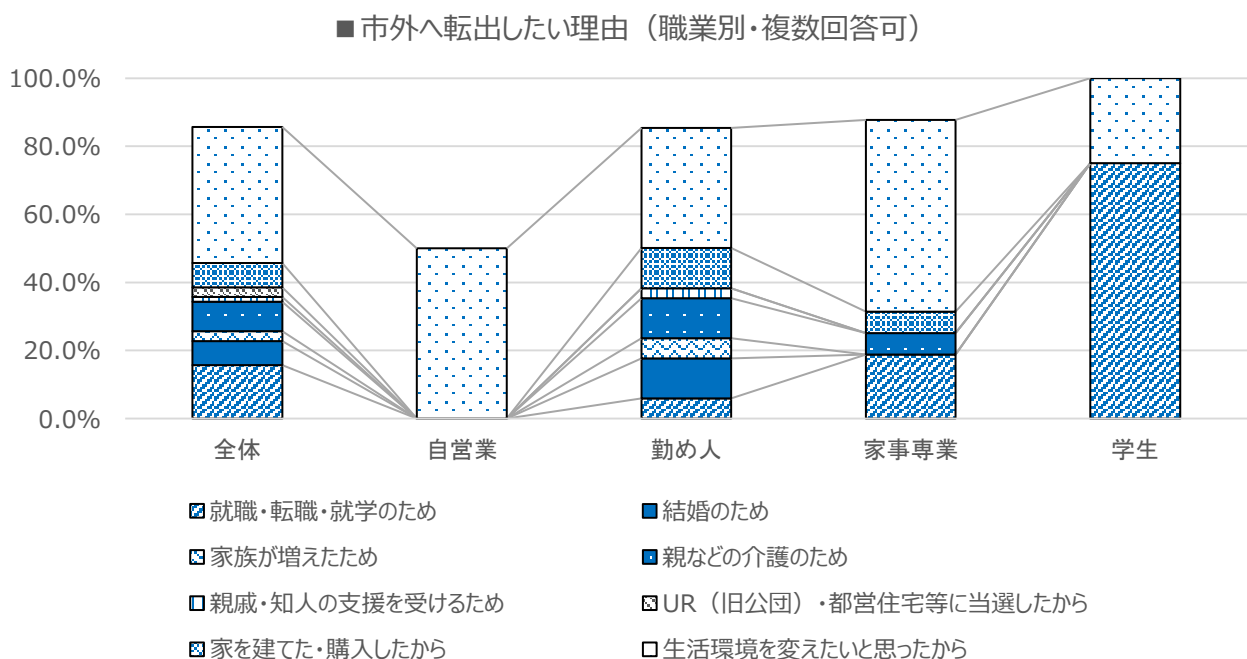
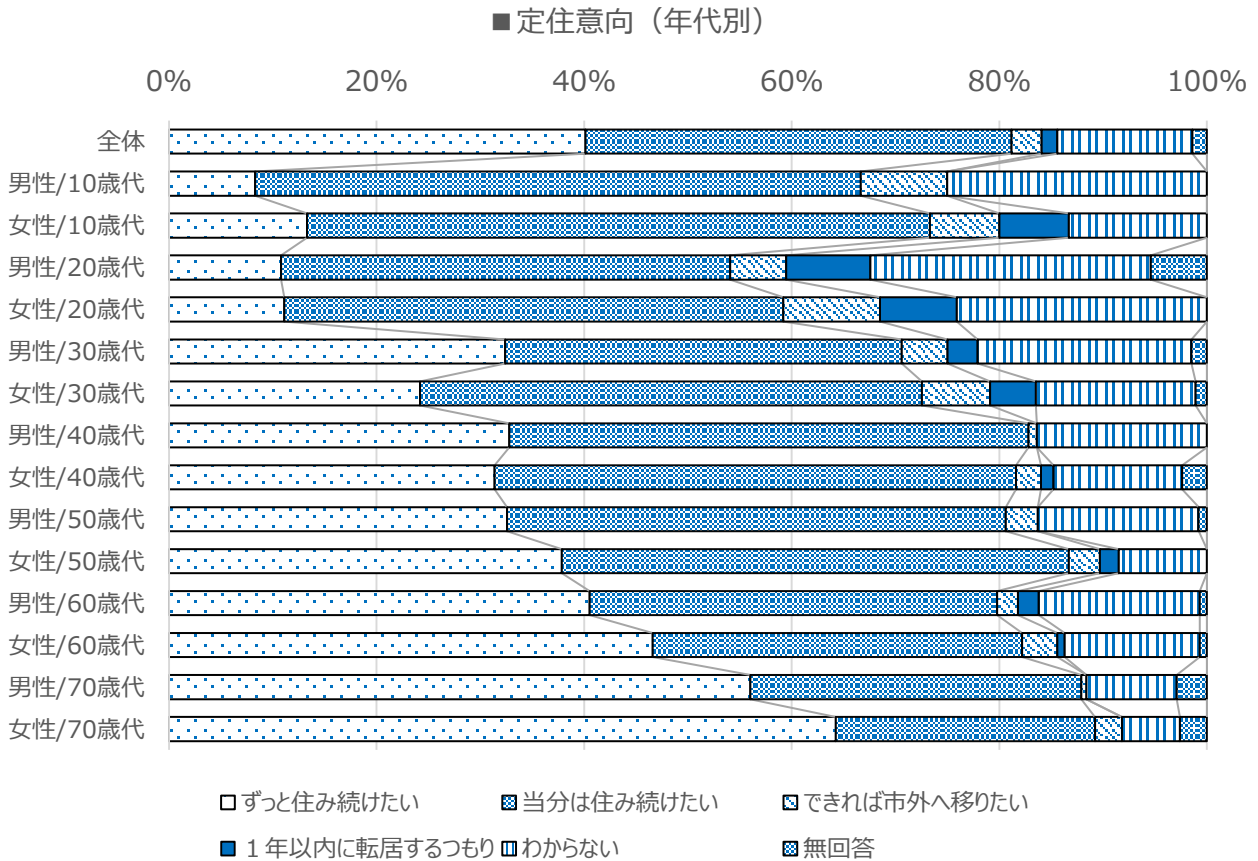
行政に特に力を入れて欲しい施策は、「災害に強いまちづくり」、「多摩ニュータウン再生」、「防犯対策(安全安心まちづくり対策)」、「水辺・公園・緑地などの環境整備」、「高齢者福祉対策」などが上位となっています。まちづくりなどのハード面と、高齢者福祉対策などのソフト面の両面で要望があることがわかりました。



出典：「多摩市政世論調査（令和3年度）」

2-3 定住意向

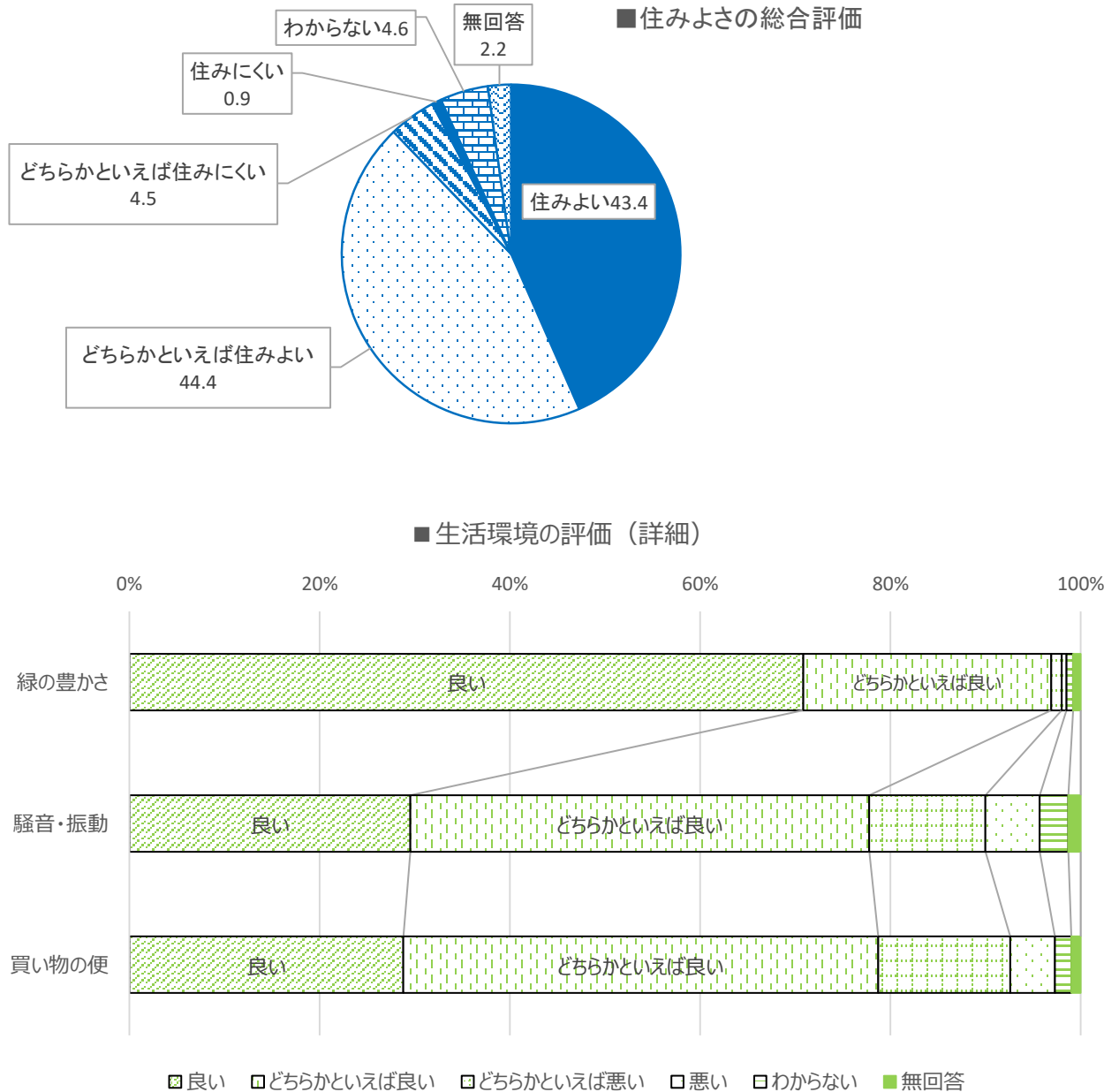
これからも多摩市に住み続けたい人の割合を年代別にみると、年代が高くなればなるほど定住意向が強まるのがわかります。一方、「できれば多摩市外へ移りたい」「1年以内に転居するつもり」と回答した人に理由を問うと、職業ごとに特色があり、自営業の人や会社等に勤めている人にとっては生活環境を変えたい気持ちが大いことがわかります。



出典：「多摩市政世論調査（令和3年度）」

2-4 定住意向住みよさの総合評価

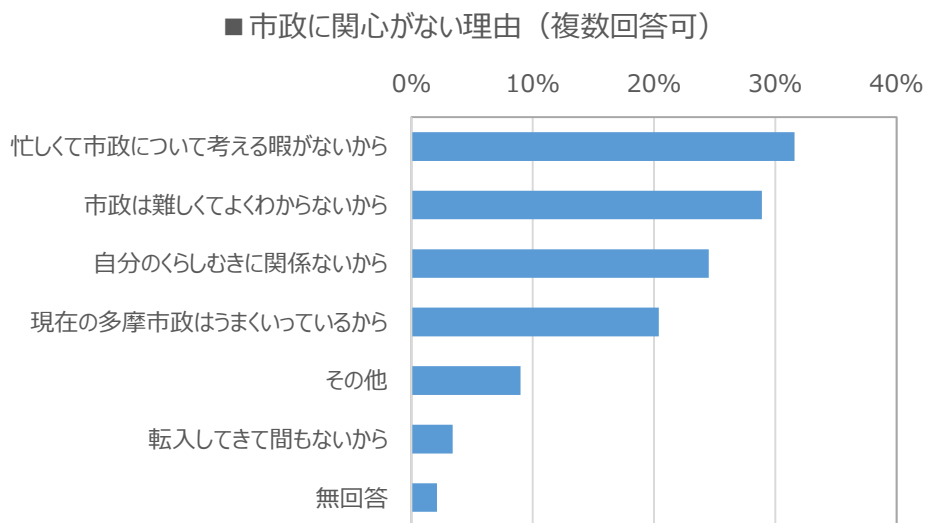
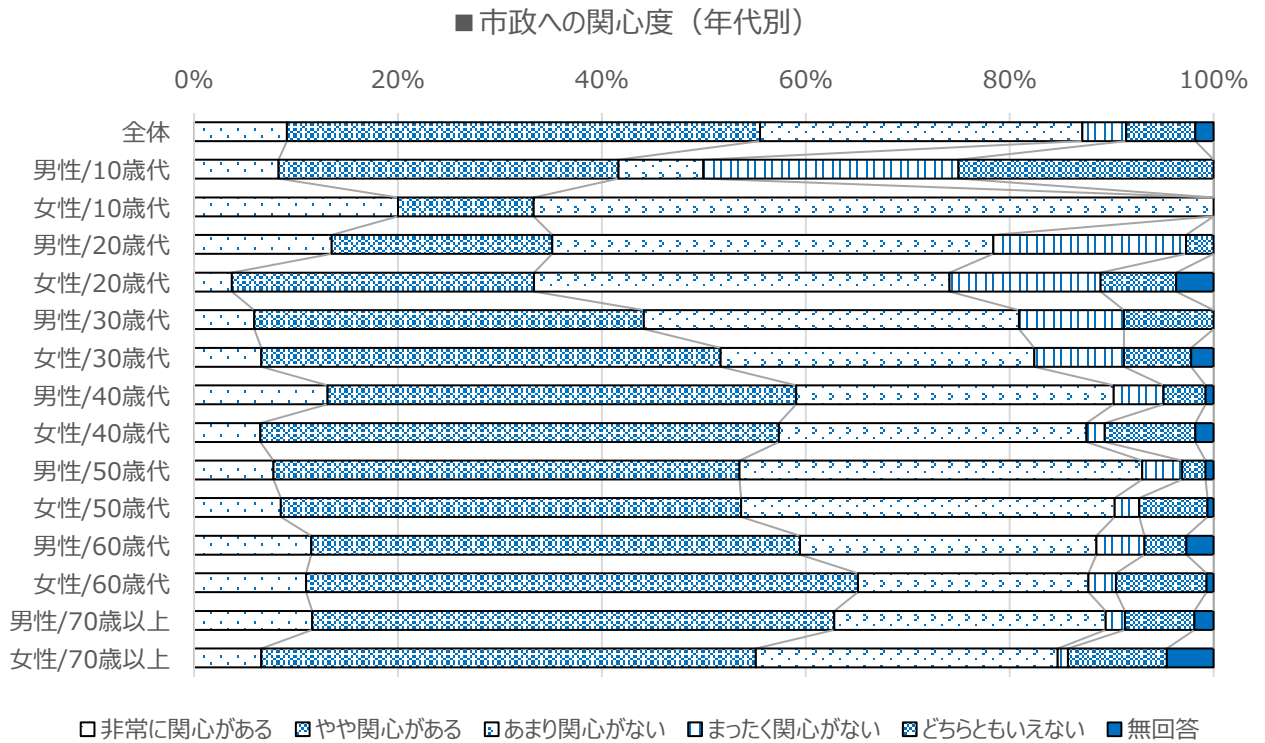
「住みよい」「どちらかといえば住みよい」をあわせた「肯定評価」が9割弱を占めています。経年で比較してもこの傾向は概ね変わりません。生活環境の評価を詳細に見ると、「良い」と回答した人が最も多かった項目は「緑の豊かさ」で70.9%となっており、「どちらかといえば良い」と合わせると97.0%となります。一方、「どちらかといえば悪い」「悪い」と回答した人が多かった項目は、「買い物の便」「騒音・振動」で、それぞれ18.6%、17.9%となっています。



出典：「多摩市政世論調査（令和3年度）」

2-5 市政への関心度

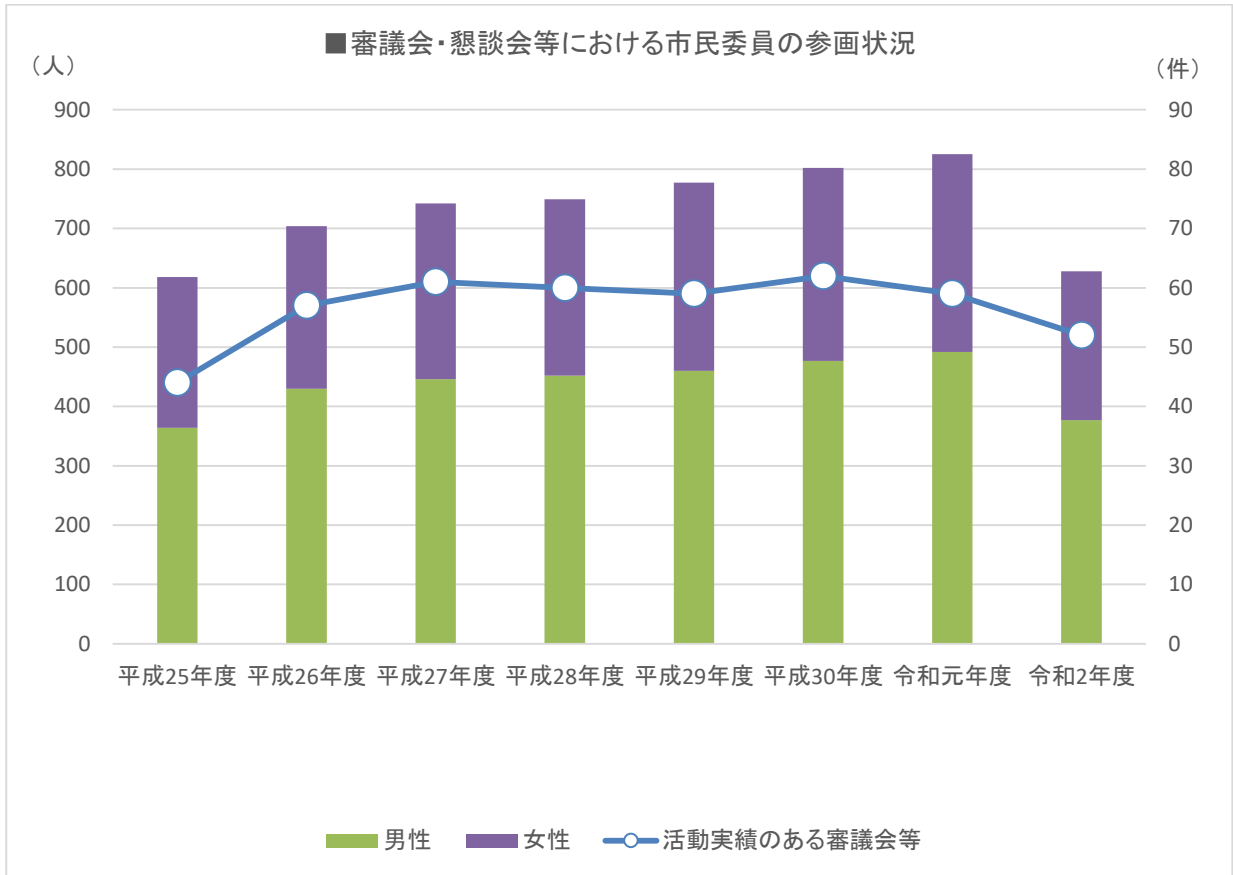
市政への関心度を年代別にみると、概ね年代が高くなればなるほど市政への関心が高まっており、同じ年代で比べると女性よりも男性の方がやや関心が高いことが分かります。また、市政に関心がない理由を問うと、「忙しくて市政について考える暇がないから」「市政は難しくてよくわからないから」と回答する割合が高くなっています。



出典：「多摩市政世論調査（令和3年度）」

2-6 審議会・懇談会等における市民委員の参画状況

市民委員総数は男女ともに増加しており、審議会の活動も増えてきていることから、行政への関心が高まっていると言えます。また、男女比はおおよそ6：4となっています。しかしながら令和2年度では新型コロナウイルスの影響から、各会自体が中止となり減少しています。



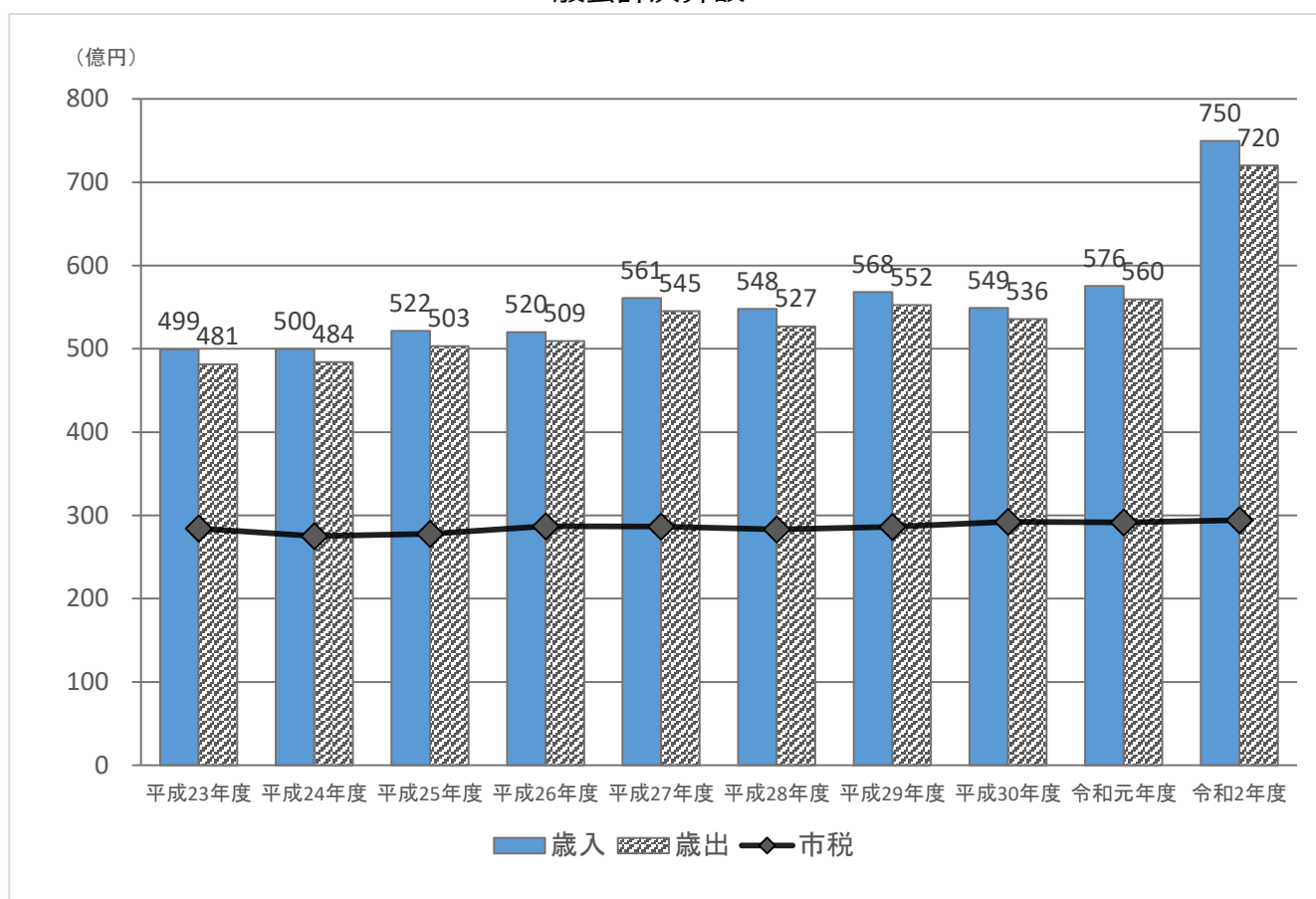
出典：企画政策部企画課

第3節 行財政 ～多摩市のお金～

3-1 一般会計決算額

近年、歳入・歳出ともに金額は増加傾向となっている。令和2年度においては、特別定額給付金に係る費用の補助金をはじめとした新型コロナウイルス感染症対策費用として、歳入は国庫支出金が、歳出は補助費等が大幅に増加しています。

■ 一般会計決算額

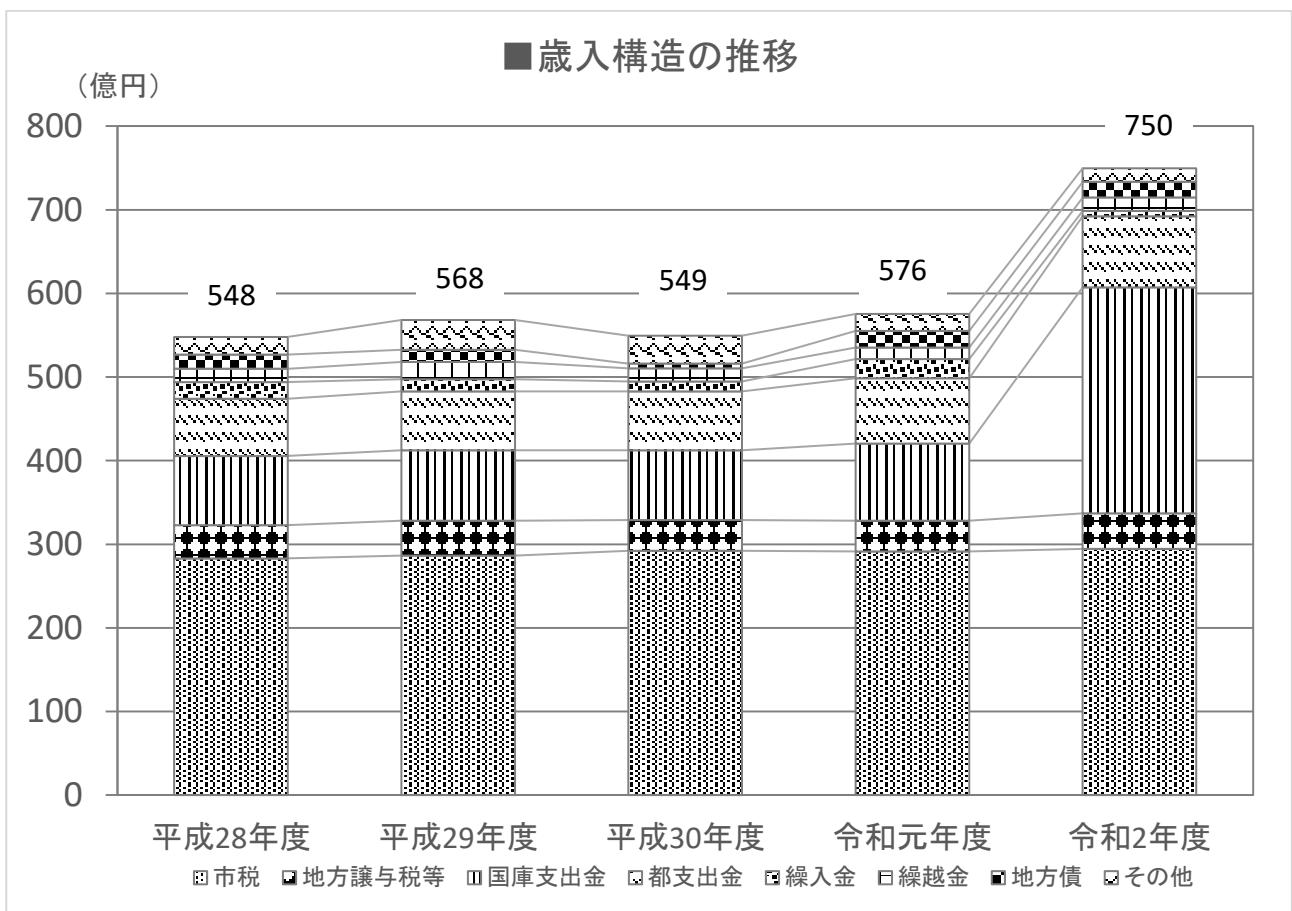


出典：企画政策部財政課

3-2 歳入構造

歳入は、ほぼ横ばいで推移してきましたが、令和2年度においては、国庫支出金が178億円の増加となりました。特別定額給付金に係る費用の補助金をはじめとした新型コロナウイルス感染症対策費用の財源によるものです。また、都の支出金についても新型コロナウイルス感染症対策費用に対する補助金等により7億円の増加となりました。そのほか、地方譲与税等も5.8億円増加したことなどにより歳入総額は174億円の増加となりました。

どの年度でも多摩市の歳入で一番大きなウエイトを占めているのが、市税となりますが、令和2年度においては、国庫支出金も同様に高い割合を占めています。また、市民税が前年の所得を基に税額を計算するため、令和2年1月から始まった新型コロナウイルス感染症拡大の影響は令和2年度には現れなかったと考えられます。

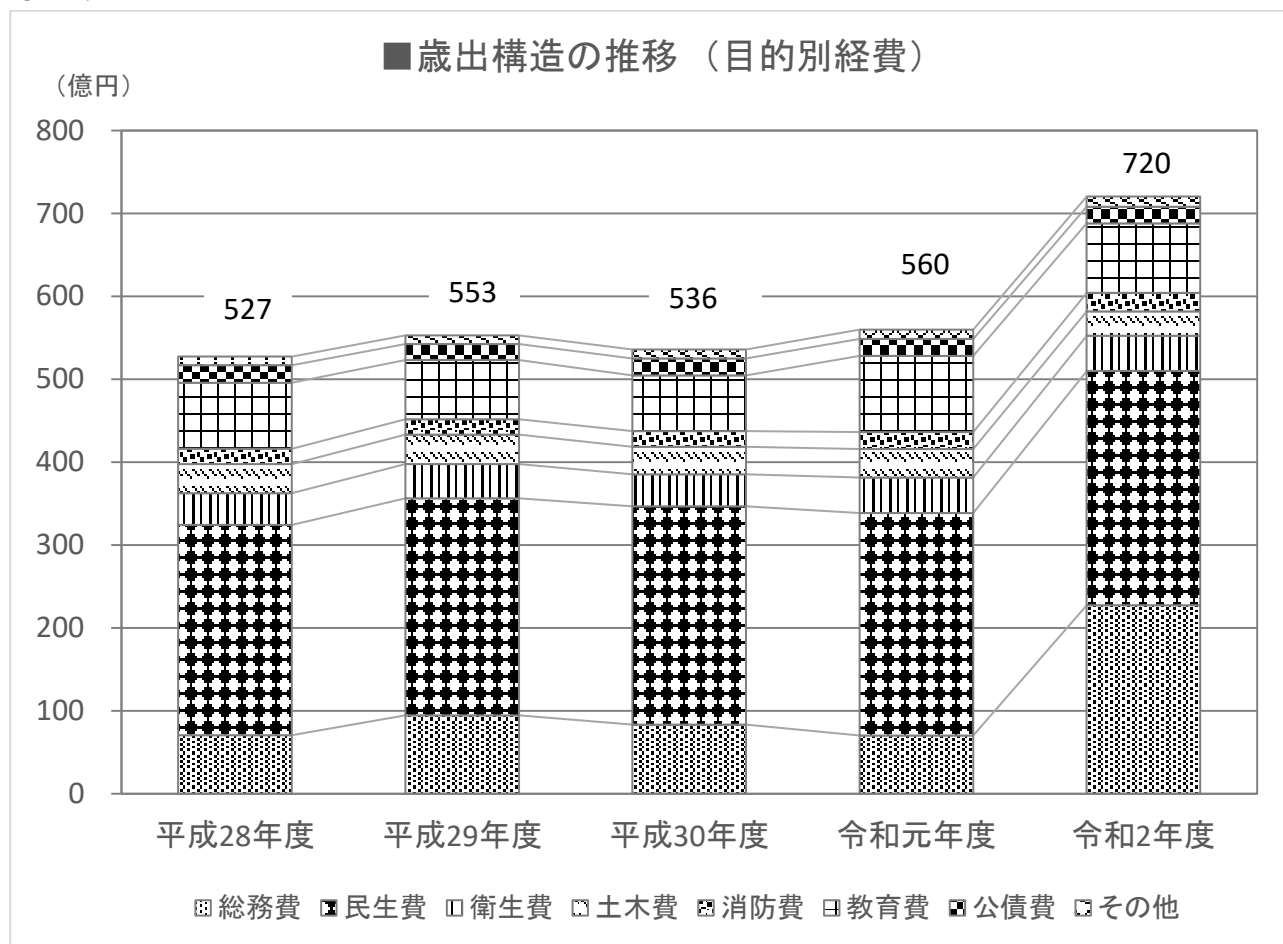


出典：企画政策部財政課

3-3 歳出構造

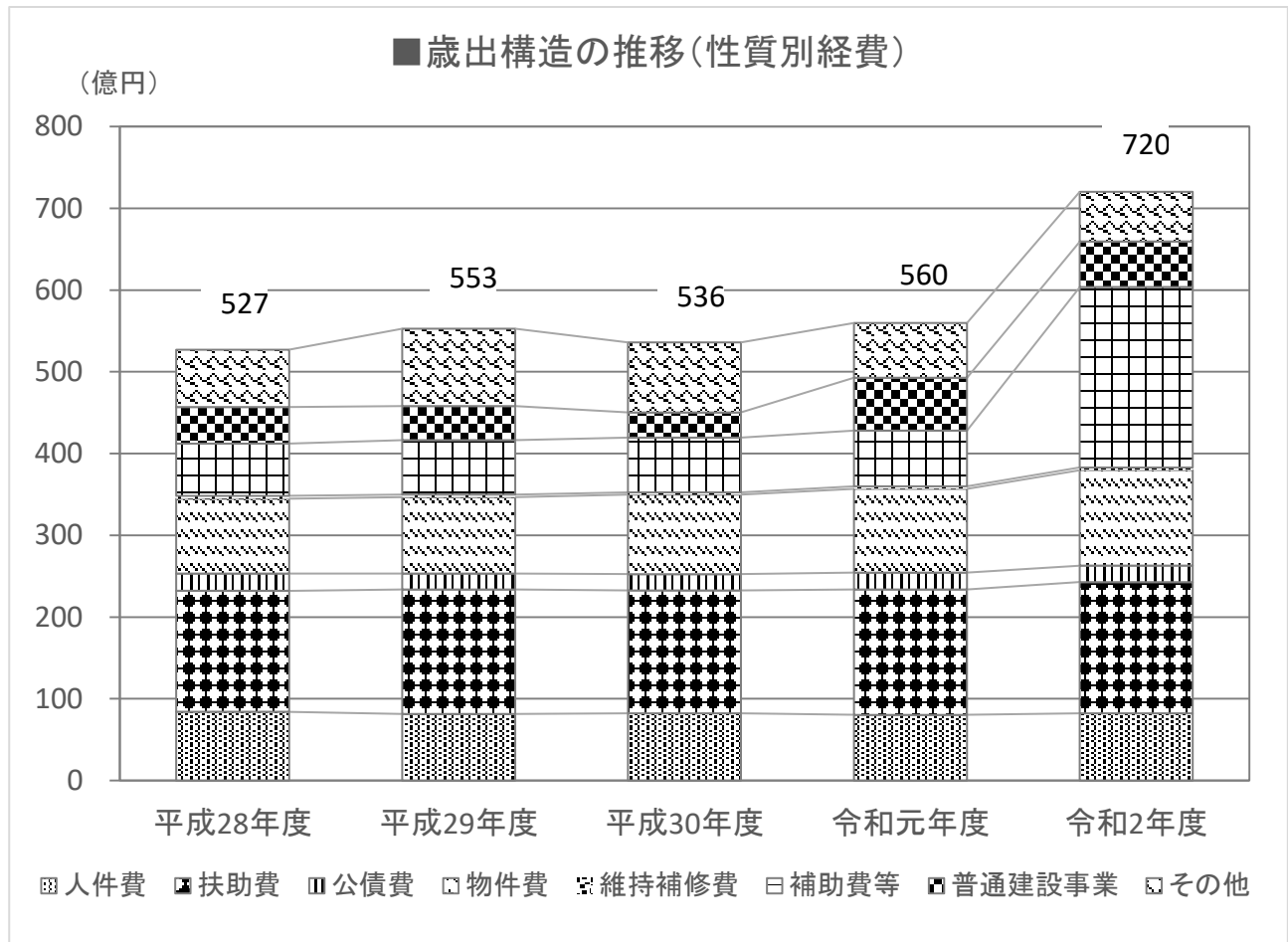
社会保障経費が多くを占める民生費は、引き続き増加しています。これは、障害サービス費など扶助費の増加や、後期高齢者医療特別会計及び介護保険特別会計への繰出金の増加によるものです。今後も民生費の増加は続く見込みで、財政の硬直化の要因の一つとなっています。

令和2年度においては歳出総額160億円増加しています。特別定額給付金により総務費が大幅に増加しています。



出典：企画政策部財政課

性質別の歳出では、148.5億円の費用を要した特別定額給付金をはじめとした新型コロナウイルス感染症対策などにより補助費等が152.5億円増加したことや、GIGAスクール構想による端末導入費や、子ども未来応援支給事業等の新型コロナウイルス感染症対策費用の新設などがあり160億円の増となっています。また、生活保護や障がい者福祉、子育てなどに係る扶助費や、国民健康保険・介護保険・後期高齢者医療の各特別会計への繰出金の伸びなど、社会保障関連経費が増加しています。人件費や公債費については、様々な取り組みによって減少傾向にありましたが、近年ほぼ横ばいとなっています。

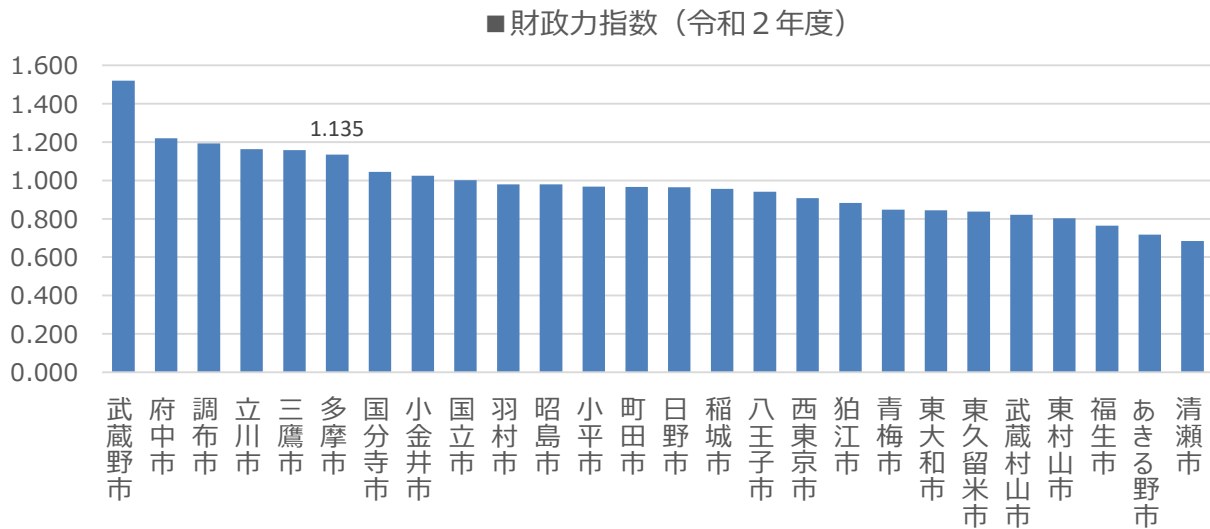


出典：企画政策部財政課

3-4 財政指標（26市比較）

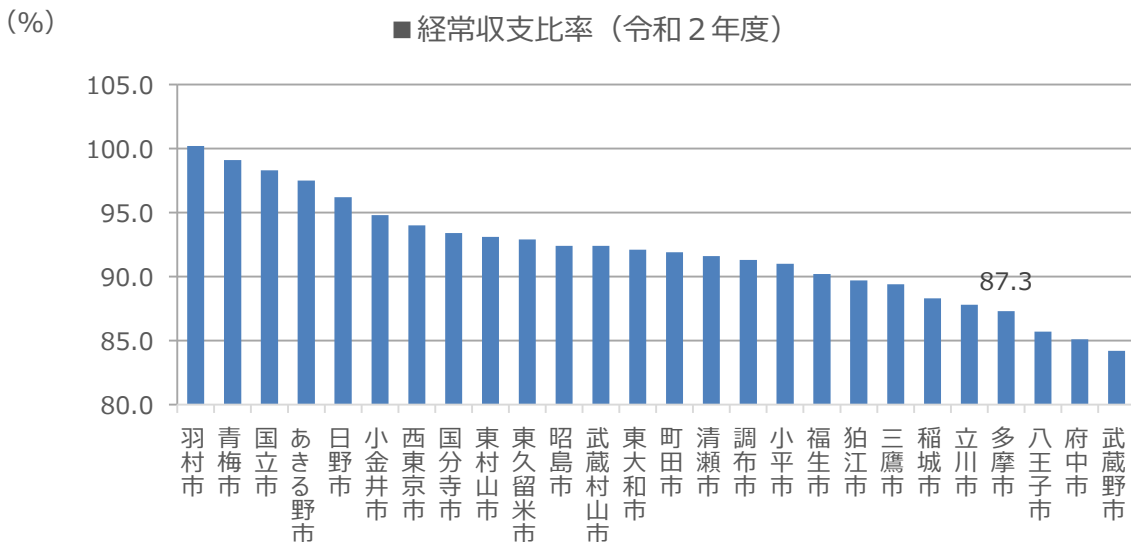
多摩市の財政力指数は 1.135 で、26 市中 6 番目となっており、比較的財政力は強いといえます。（過去 3 年平均では、1.136、26 市の過去 3 年平均は、1.007）

※財政力指数：地方交付税に基づいて算定された基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値をいいます。財政力指数が 1 以上のときは、収入額の方が需要額と比べて多いということとなり、その自治体は財政的に豊かということになります。



出典：東京都総務局（令和 2 年度市町村普通会計決算の状況）

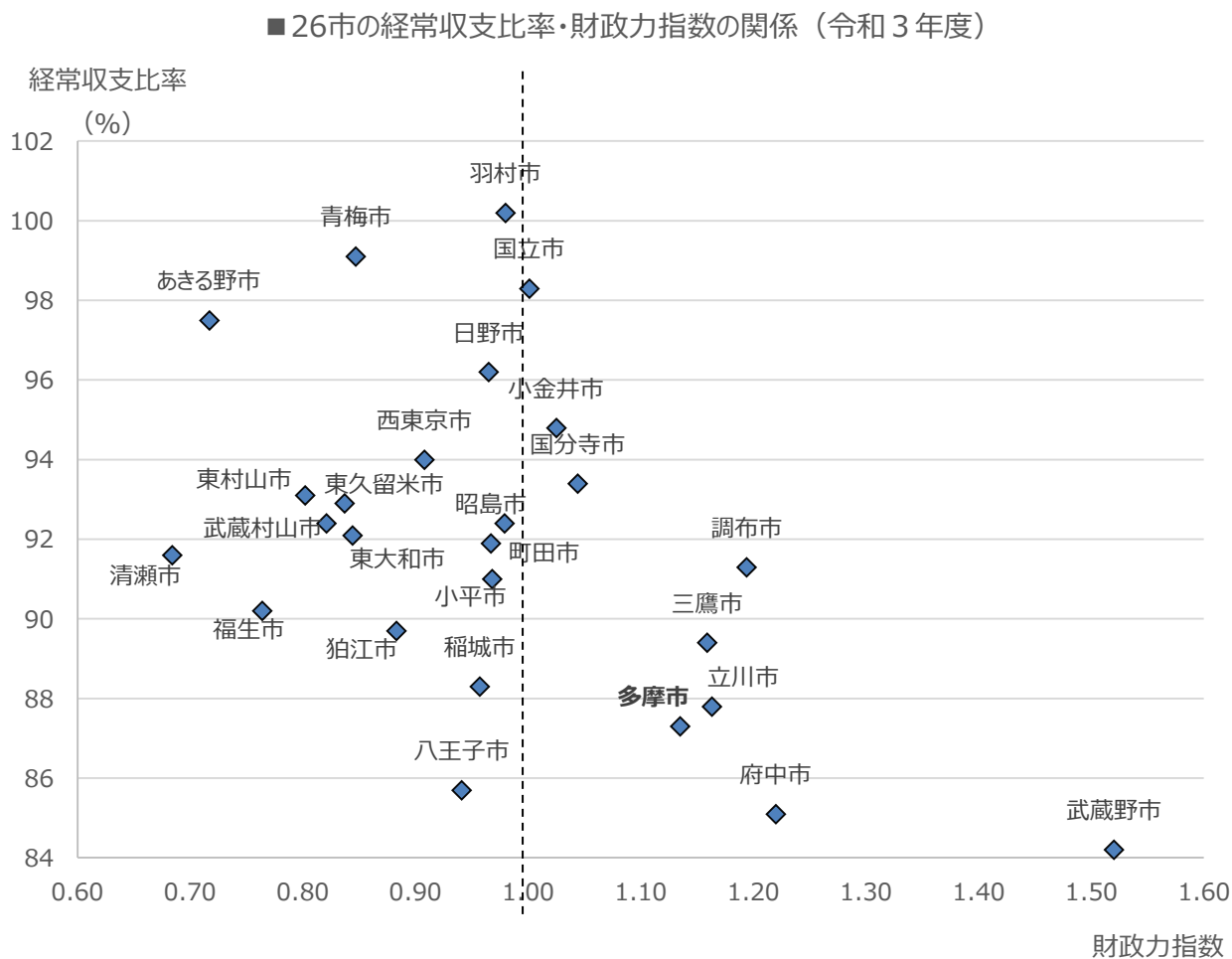
経常収支比率は、市税などの経常的な収入のうち、どのような経費にも充てることができる一般財源（経常一般財源）がどの程度経常的な支出（経常的経費）に充てられているかを示すもので、その自治体の財政構造の弾力性を判断する指標です。数値が低いほど、財政は弾力的であり、新しい施策に充当できる財源を多く持っていると考えられ、一般的には市では、70～80%が適正水準と言われていますが、多摩市のようにインフラの整った都市部では、少し高めの数値が出る傾向にあります。



出典：東京都総務局（令和 2 年度市町村普通会計決算の状況）

3-5 26市の経常収支比率・財政力指数の関係

各市の経常収支比率・財政力指数の関係を分布で示すと、下図のようになります。



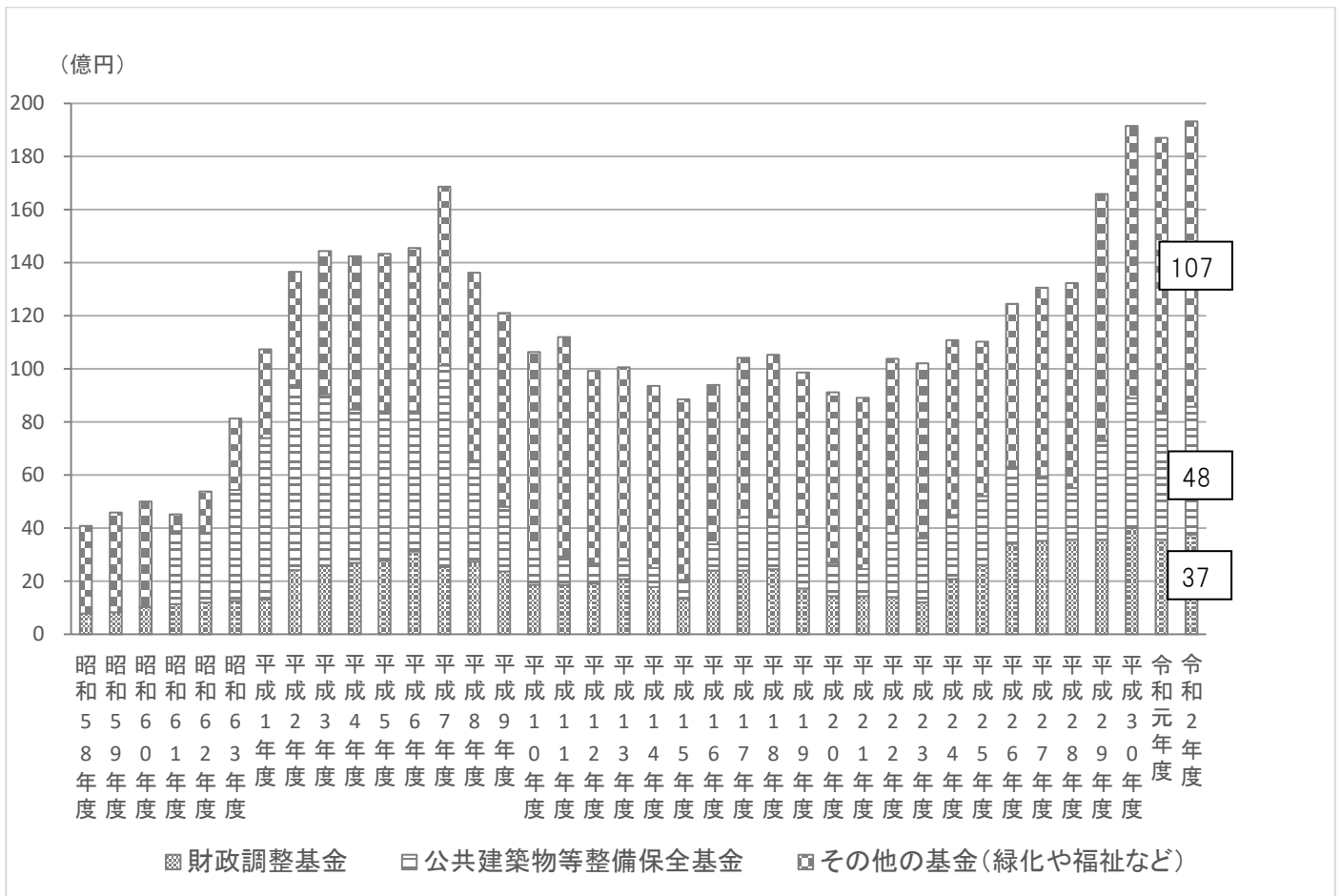
出典：東京都総務局（令和2年度市町村普通会計決算の状況）

3-6 基金の内訳と推移

基金は、特定の目的のために準備された資金のことです。目的に応じて積立ておき、必要になったら取り崩して、それぞれの目的のために使われます。財政調整基金は目標額約 30 億円（標準財政規模の 1 割程度）に平成 26 年度に到達し、令和 2 年度末まで維持しています。公共建築物等整備保全基金は平成 7 年度をピークに取り崩しが続いてきました。今後、公共施設などの大規模改修等を見据え、計画的な積み立てを行っていきます。その他の基金においては、令和 2 年度に新型コロナウイルス感染症対策基金を新設しました。

令和 3 年度末における基金残高は、全体で約 192 億円です。

■ 基金の内訳と推移

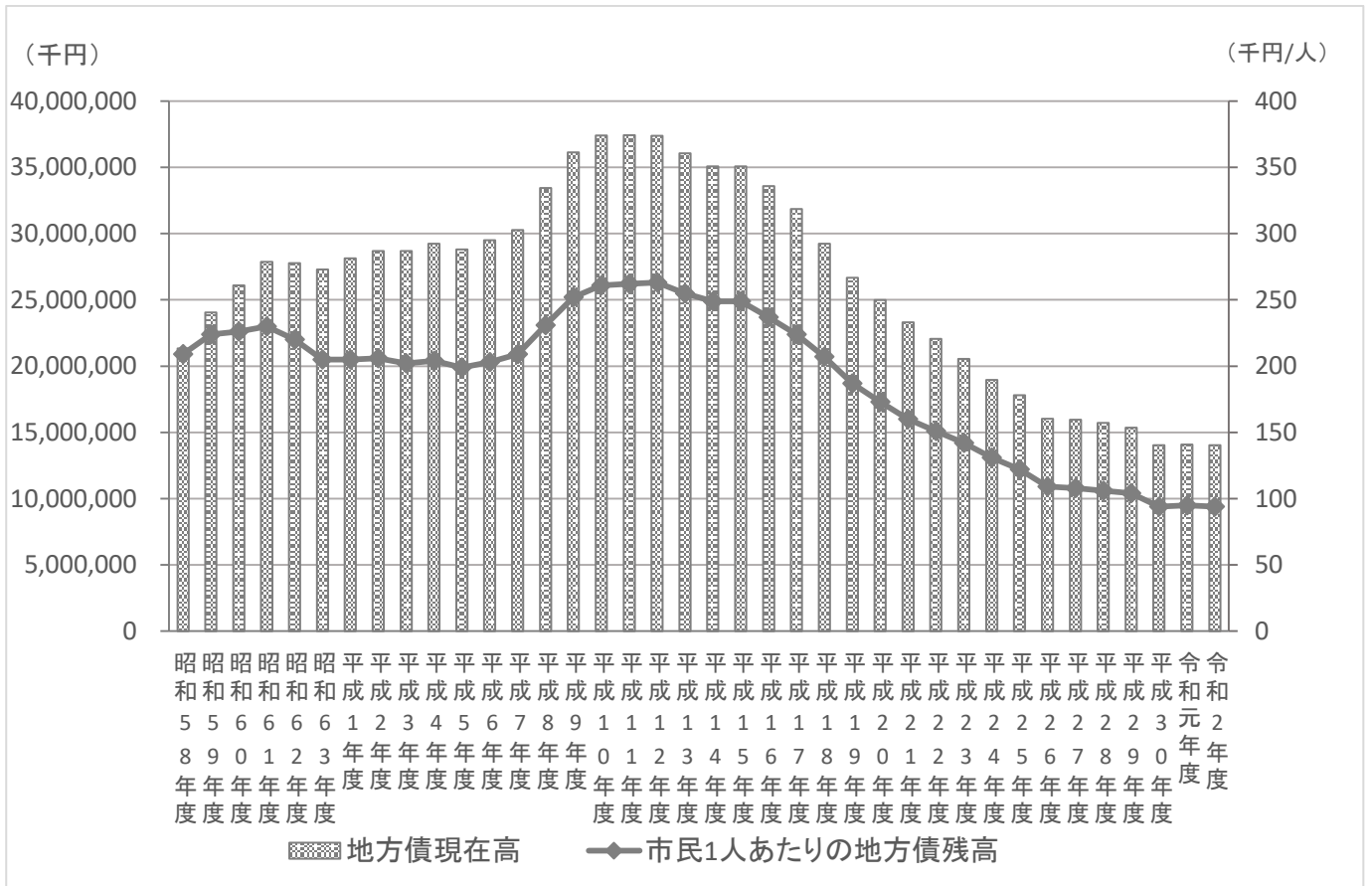


出典：企画政策部財政課

3-7 地方債現在高の推移

地方債は、事業等に必要資金を得るための借金のことです。地方債の発行は、将来の財政に大きな影響を与えるため、発行にはさまざまな制限があります。現在はピーク時（平成11年度）の半分以下となっており、近年はほぼ横ばいに推移しています。令和2年度は、複合文化施設等の大規模改修工事や防災行政無線のデジタル化工事等に地方債を発行しましたが、発行額全体としては前年に比べ減少しました。

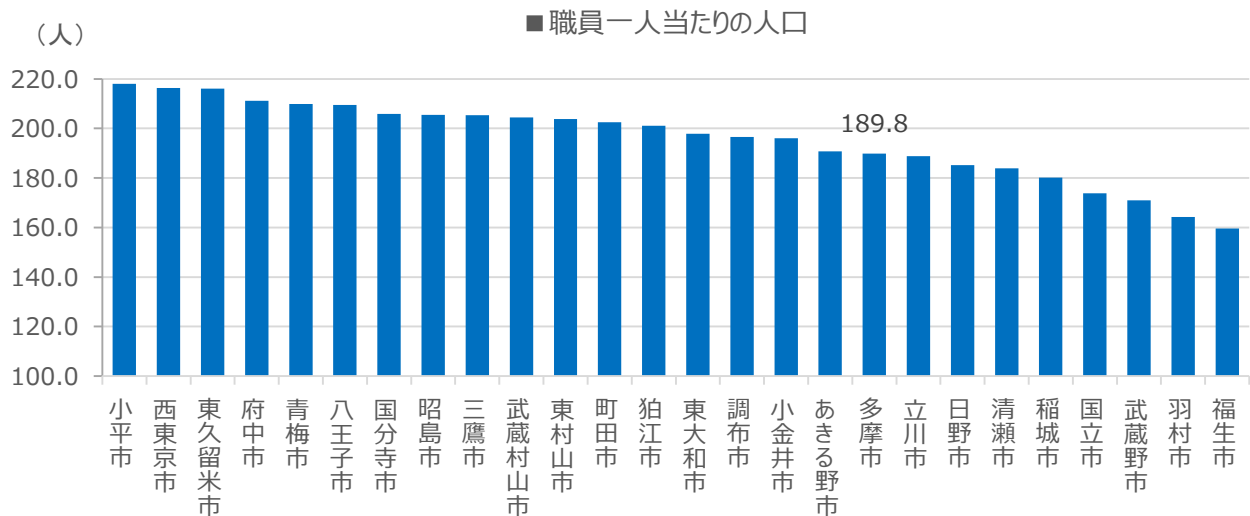
■ 地方債残高の推移



人口は各年1月1日時点（住民基本台帳）
出典：企画政策部財政課

3-8 職員一人当たり人口（26市比較）

多摩市は職員一人当たりの人口が約 190 人で、26 市中の順位では 18 位です。職員一人当たりの人口が 200 人を超えている自治体は、現在では 13 市となっています。



職員数は令和 2 年 4 月 1 日時点（普通会計の数値）、人口は令和 2 年 1 月 1 日時点のデータにて比較

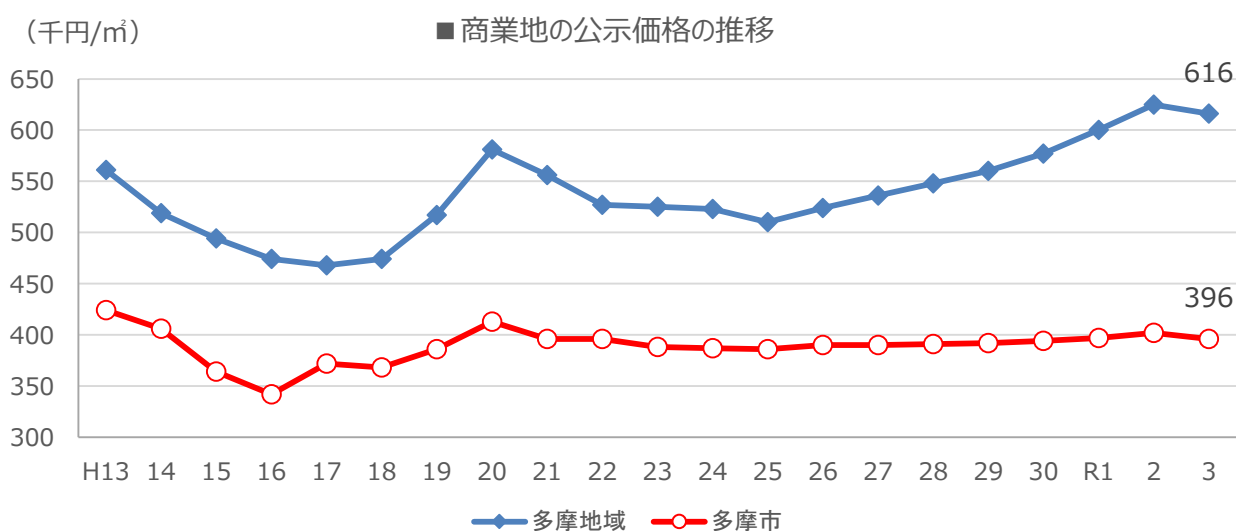
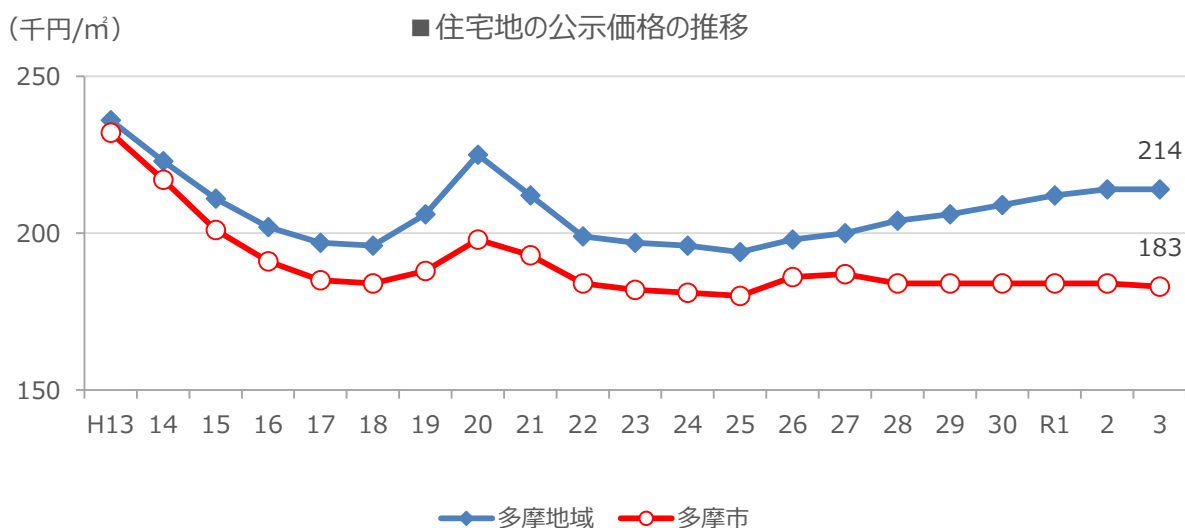
出典：職員数（令和 2 年地方公共団体定員管理調査結果）

人口（住民基本台帳）

第4節 土地

4-1 地価公示価格の推移

平均公示価格は、住宅地、商業地ともに下降傾向にありましたが、平成19年以降若干上向きしました。21年以降には再び下降し、その後はほぼ横ばいで推移しています。住宅地・商業地ともに多摩地域の平均価格を下回っています。



出典：東京の土地（東京都都市整備局）

第4章 目指すまちの姿編

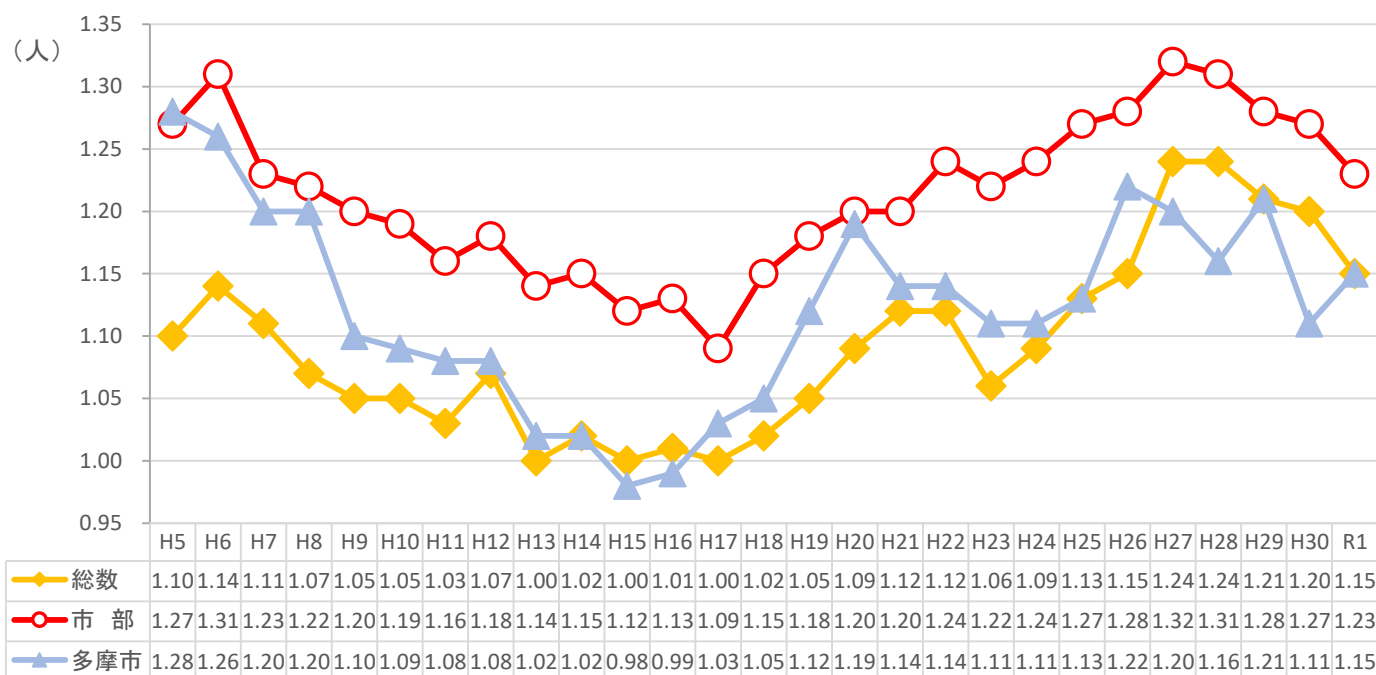
第1節 「子育て・子育てをみんなで支え、子どもたちの明るい声がひびくまち」

I-1 合計特殊出生率の推移

多摩市の合計特殊出生率は、東京都総数よりはだいたい高く、26市よりは低い推移となっています。今後上昇するためには、市内の未就学児を預ける施設の充実や子育てがしやすい環境づくり等が期待されます。

※合計特殊出生率とは、1人の女性が一生に産む子どもの平均数を示すものである

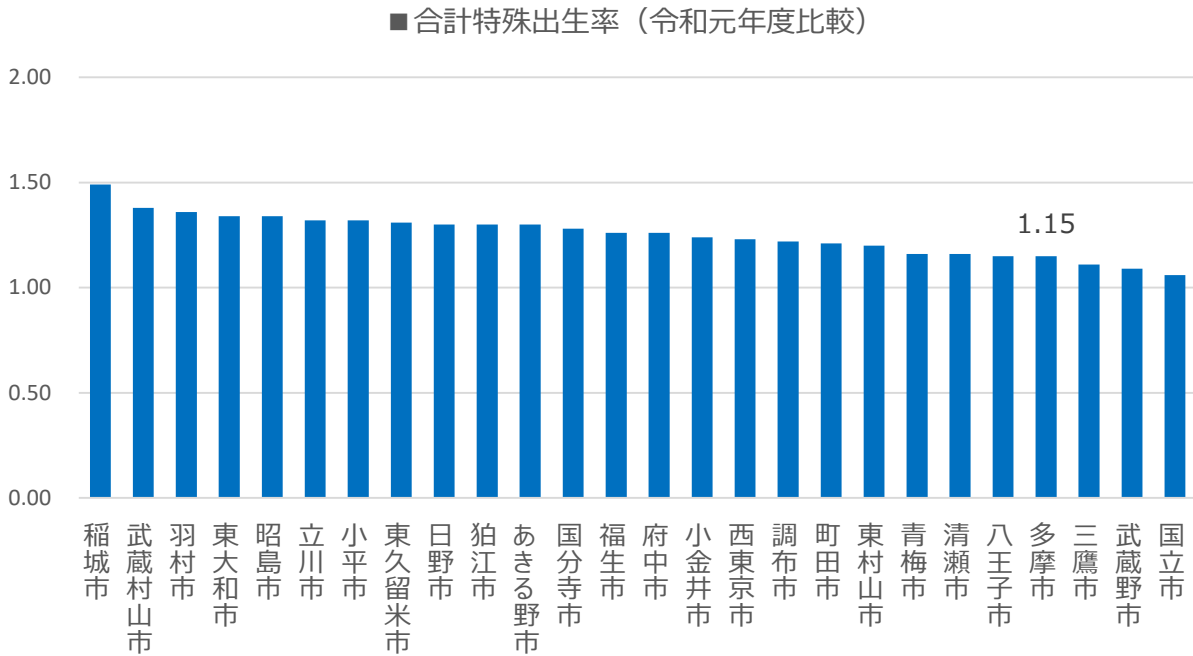
■ 合計特殊出生率の推移



出典：「人口動態統計」（東京都福祉保健局）

I-2 合計特殊出生率（26市比較）

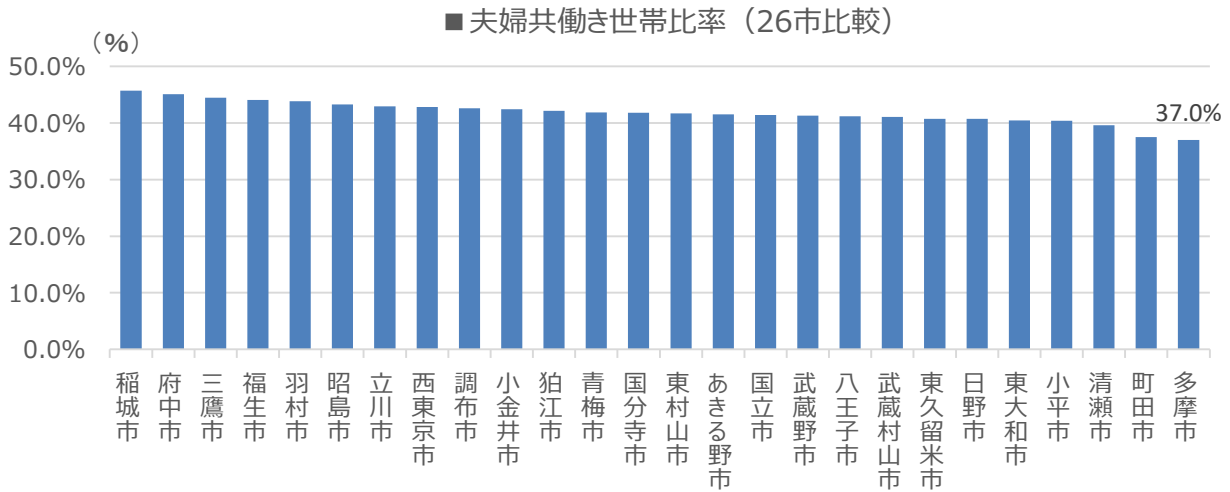
令和元年度の合計特殊出生率をみると、多摩市は、4番目に低い状況です。



出典：「人口動態統計」（令和元年度）

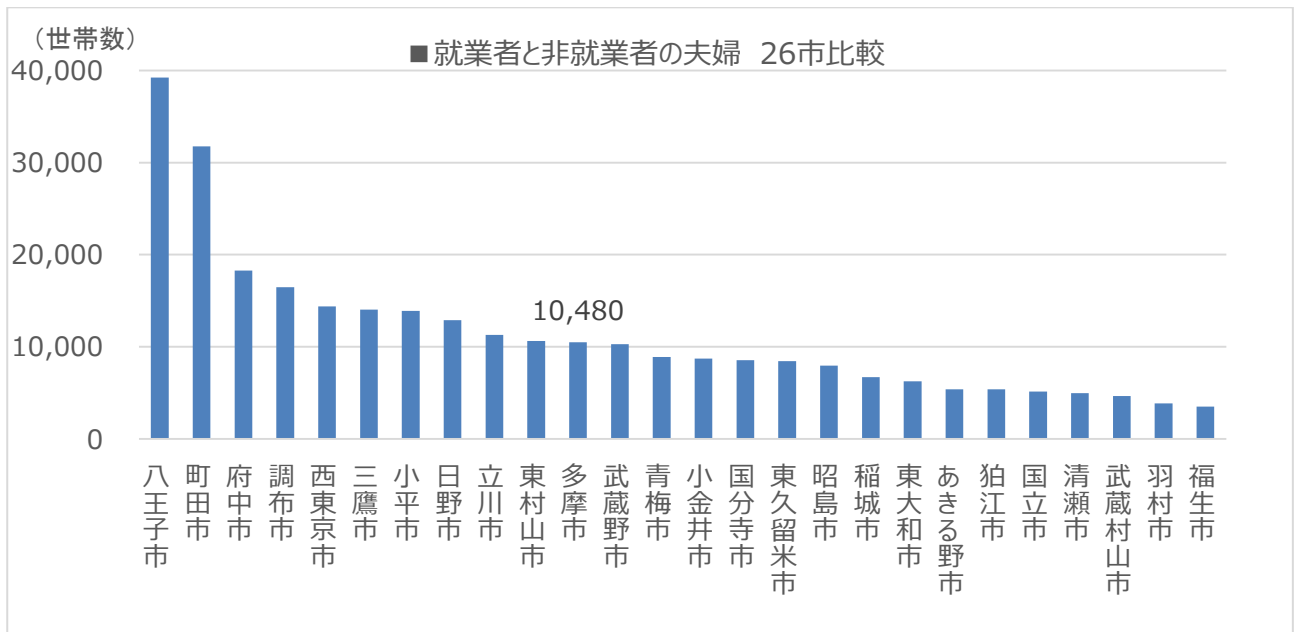
I-3 夫婦共働き世帯比率の推移

多摩市は26市で、一番低い割合になっています。



出典：「国勢調査（平成27年度）」

他方で、就業者と非就業者の夫婦数（夫か妻のいずれかが就業者である共働き世帯ではない夫婦）を26市で比較すると、多摩市は11番目に多くなっています。



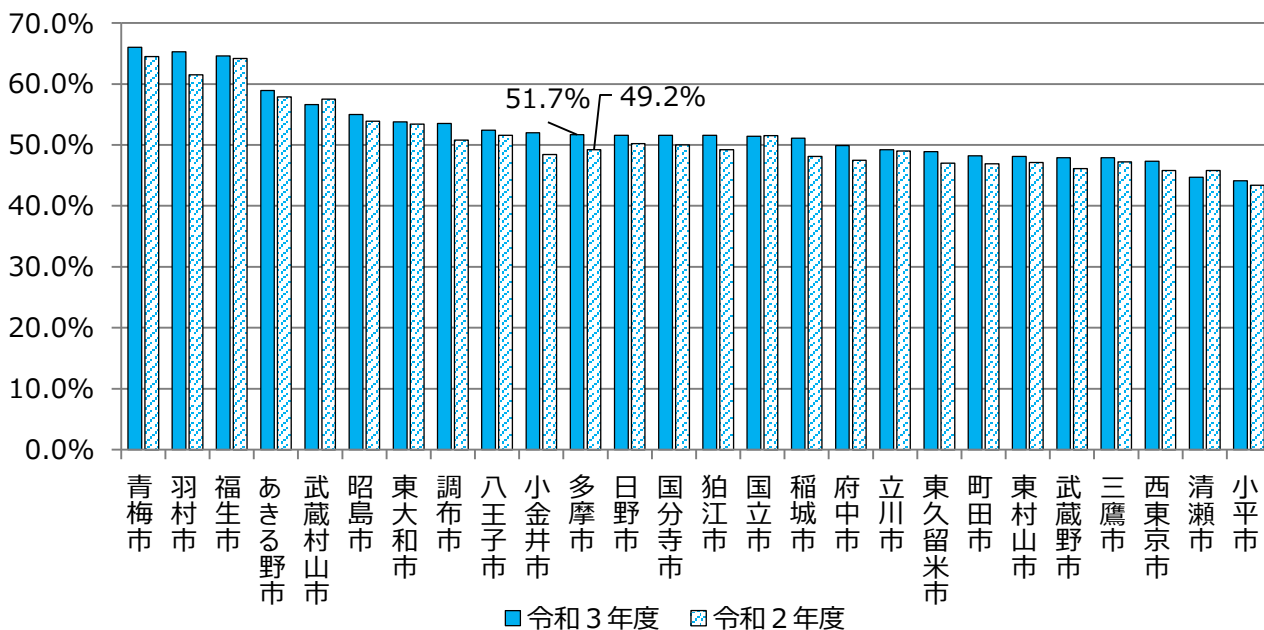
出典：「国勢調査（平成27年度）」

I-4 就学前児童人口に対する保育サービスの利用率（26市比較）

令和3年度と令和2年度を比較すると、多摩市は利用率が増加しています。

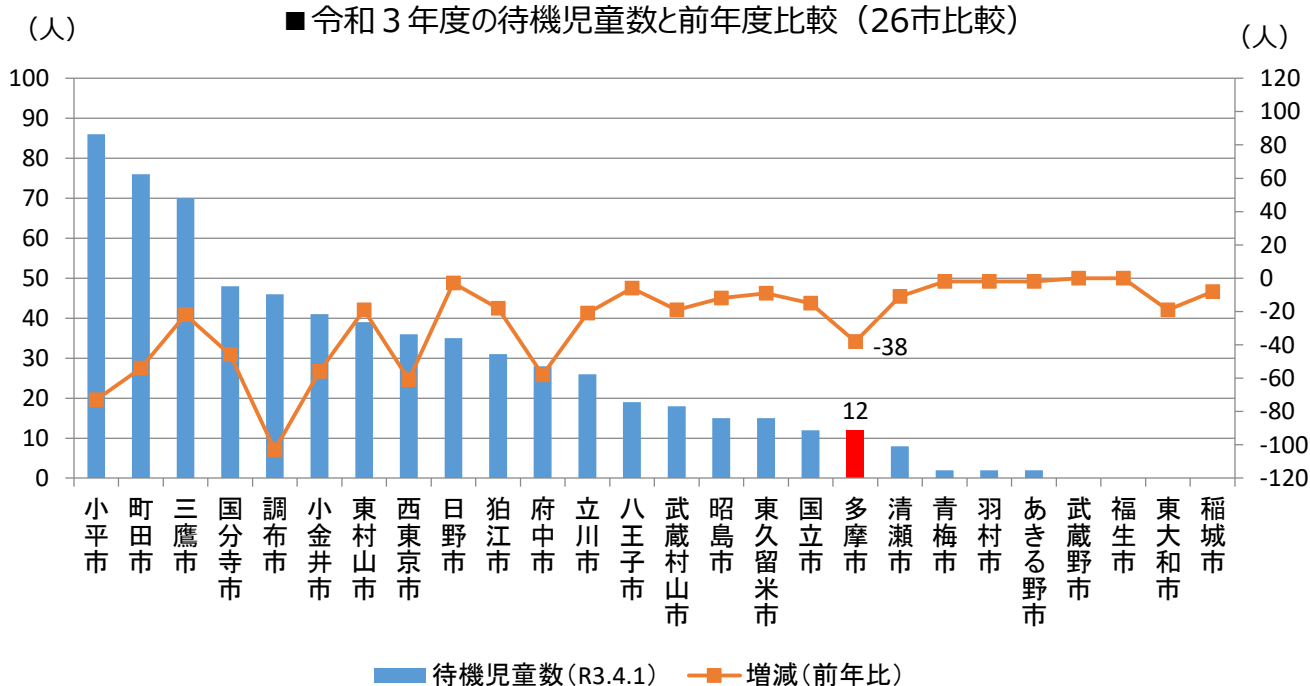
待機児童数は前年度に比べ大きく減少しているものの、少なからず発生していることから、一定程度の保育サービスのニーズはあると考えられます。

■ 令和2、3年度の就学前児童人口に対する保育サービスの利用率（26市比較）



出典：東京都福祉保健局「都内の保育サービスの状況について」（令和3年4月1日）

■ 令和3年度の待機児童数と前年度比較（26市比較）



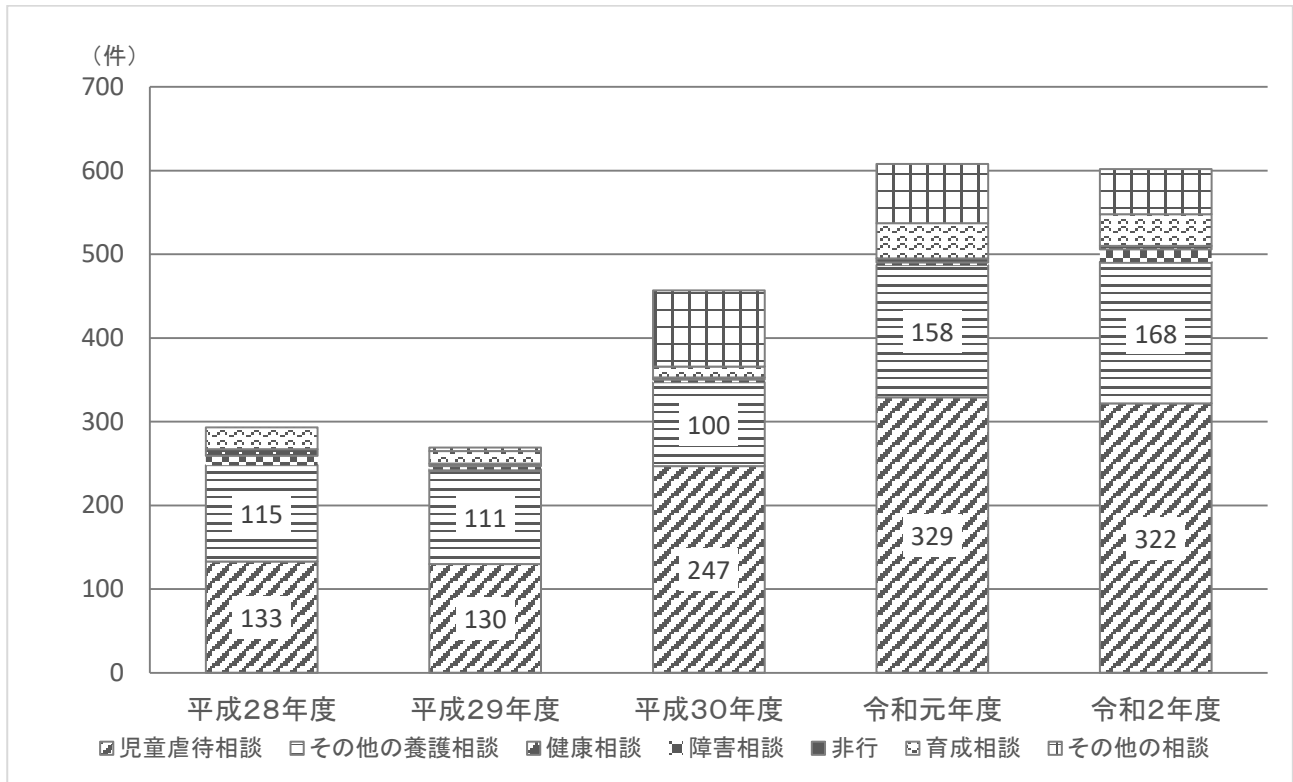
出典：東京都福祉保健局「都内の保育サービスの状況について」（令和3年4月1日）

I - 5 児童相談対象件数の推移

子育て家庭を支援する窓口は、平成 21 年度以降、子ども家庭支援センター（子育て総合センター）がその役割を担ってきました。

相談の件数は下図のとおりであり、養護（児童虐待）の相談が急激に増加しています。

■ 相談事業実績

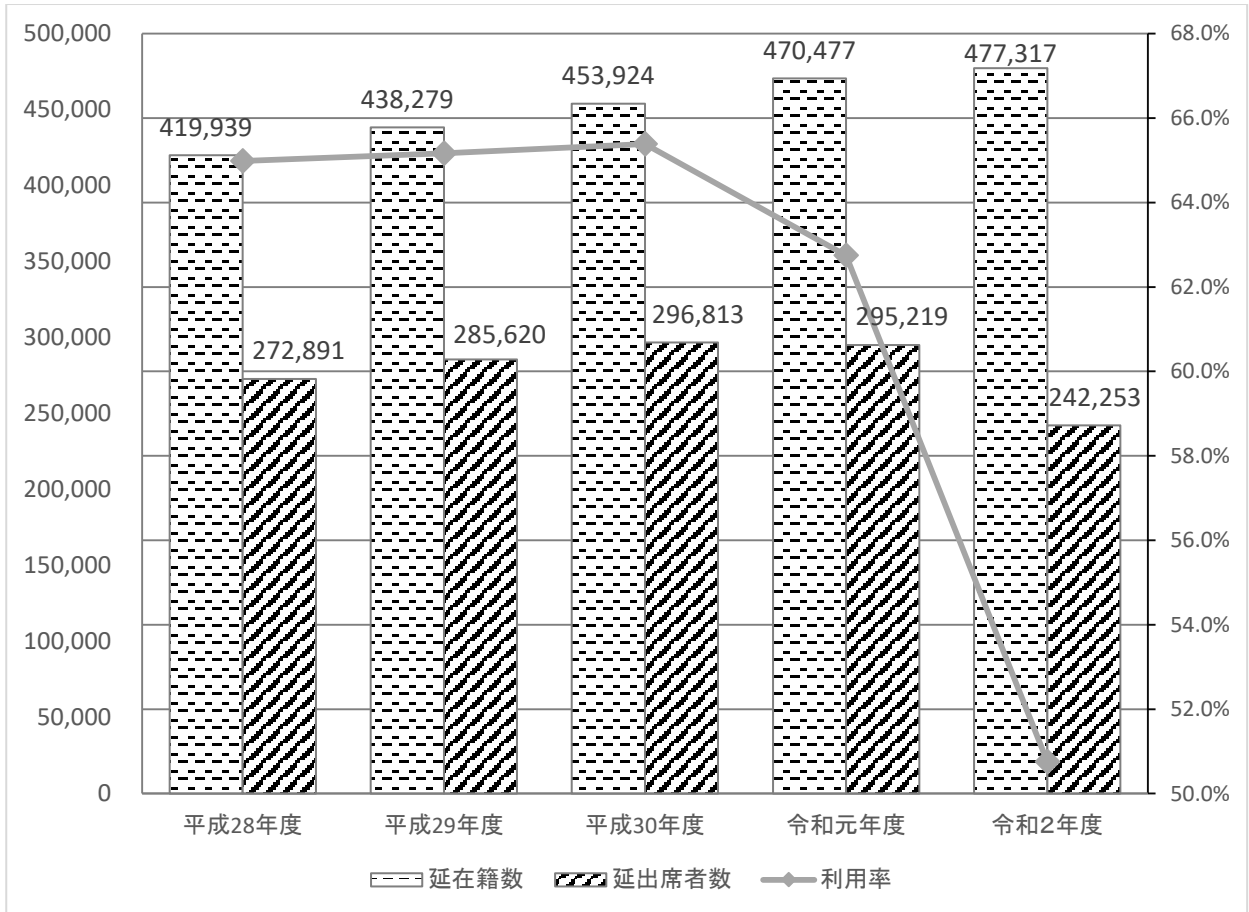


出典：子ども青少年部児童青少年課

I-6 学童クラブ利用状況

平成28年以降、学童の延在籍者数及び延出席者数は徐々に増加しており、利用率についても増加しております。令和2年度は新型コロナウイルスの影響により、利用率が大幅に下がっています。

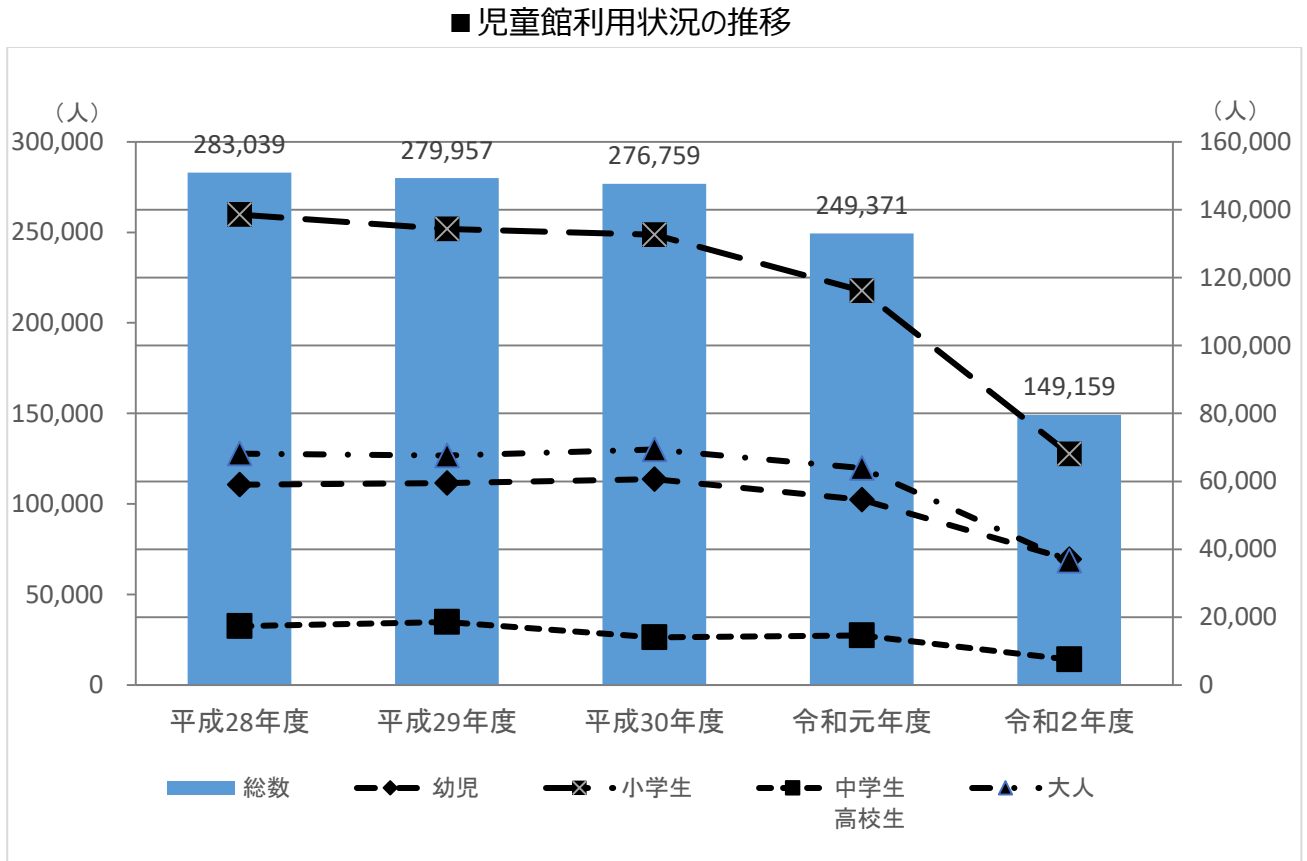
■ 学童クラブ利用状況の推移



出典：子ども青少年部児童青少年課

I-7 児童館利用状況の推移

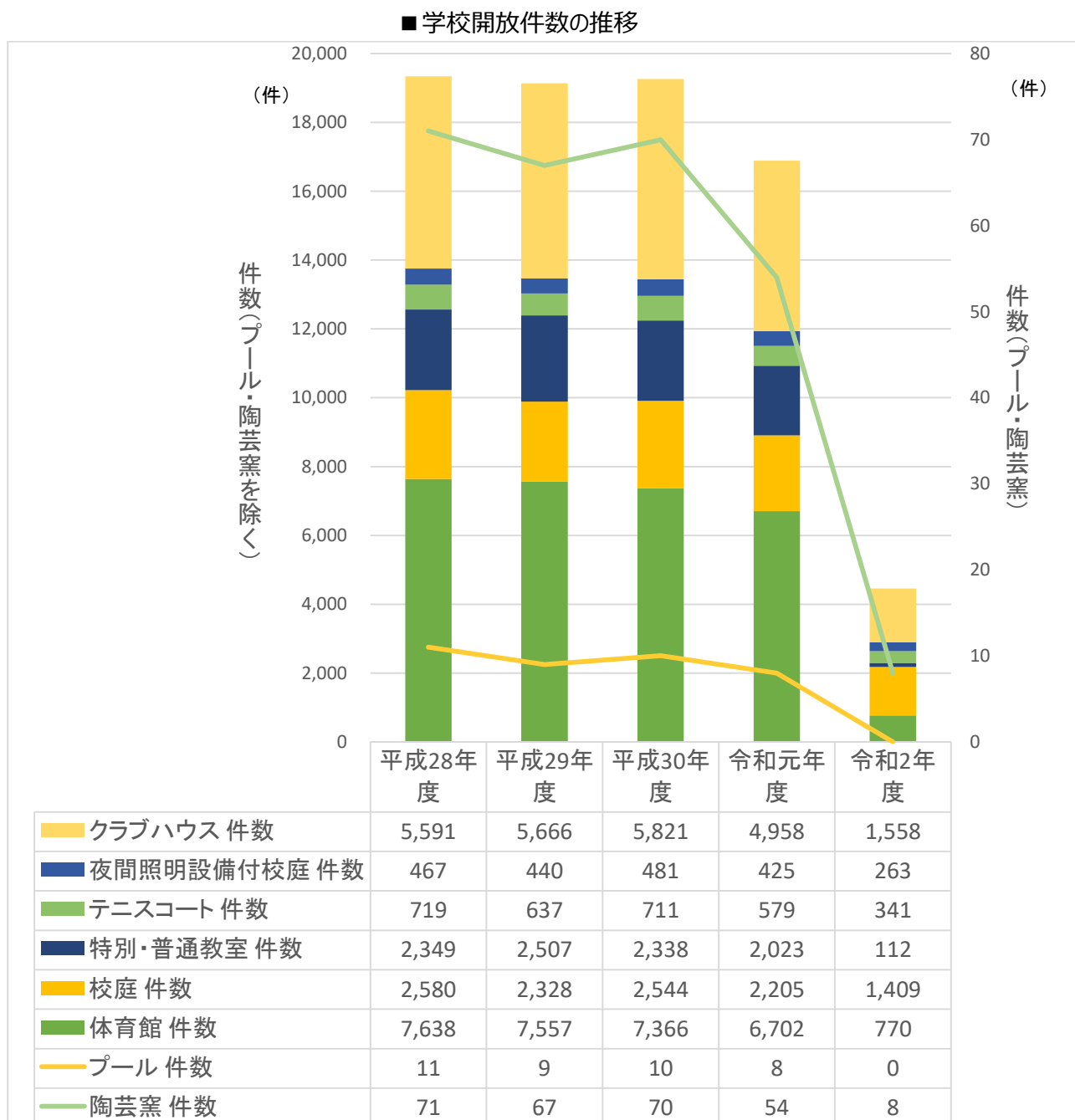
児童館施設の利用状況を見ると、平成28年度以降では年々微減傾向になっております。令和2年度は新型コロナウイルスの影響を受け、さらに減少しています。



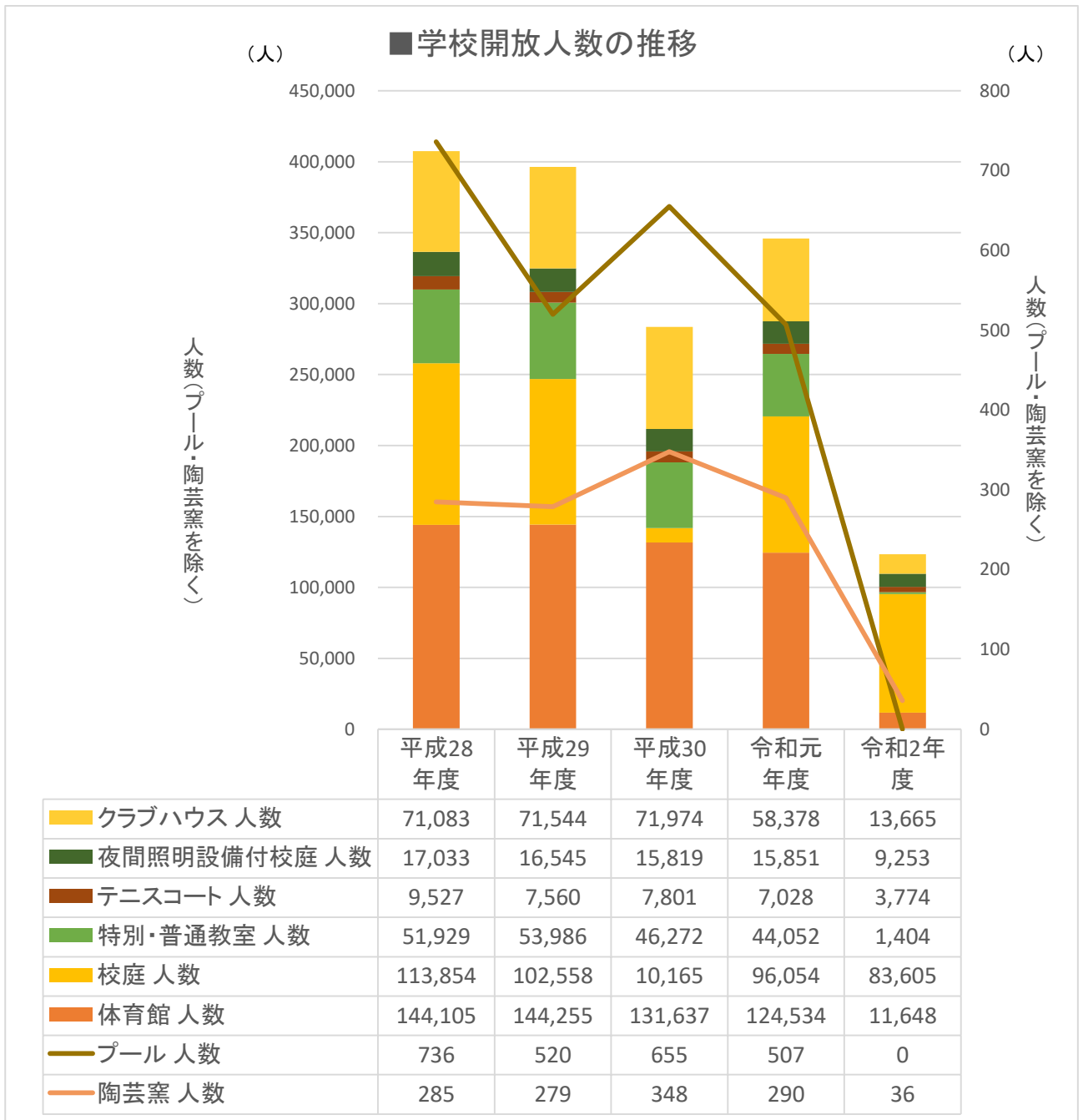
出典：子ども青少年部児童青少年課

I - 8 学校開放の件数と利用人数の推移

学校開放の利用団体は、野球、サッカー、バスケットボールといったスポーツ団体の外、子ども会、青少協地区委員会などがあります。学校開放以外でも、放課後等の子ども達の安全で健やかな活動場所の確保として、学校施設（校庭、体育館、教室等）を活用した「放課後子ども教室」が行われています。令和2年度は新型コロナウイルスの影響を受け、各件数が大幅に減少しています。



出典：「多摩市の教育（令和2年度実績）」

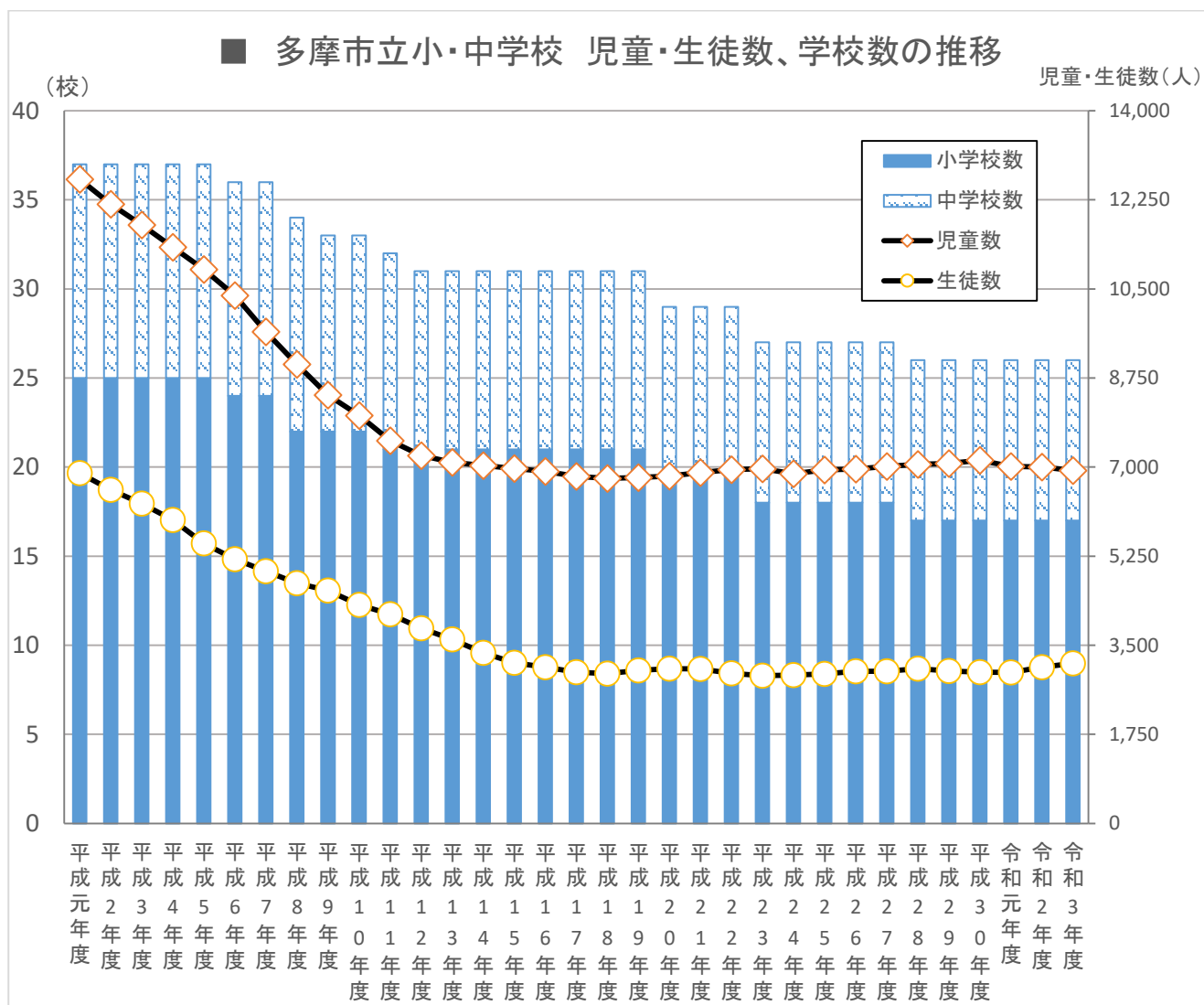


出典：「多摩市の教育（令和2年度実績）」

I-9 多摩市立小・中学校の児童・生徒数、学校数の推移

多摩ニュータウンの入居開始に伴い、児童生徒数が急激に増加したが、児童数は昭和59年、生徒数は昭和62年をピークに減少に転じました。近年は児童数・生徒数ともに、ほぼ横ばいの状況にあります。

学校数は現在26校（小学校17校・中学校9校）ですが、平成元年から平成5年までのピーク時には37校（小学校25校、中学校12校）の学校がありました。

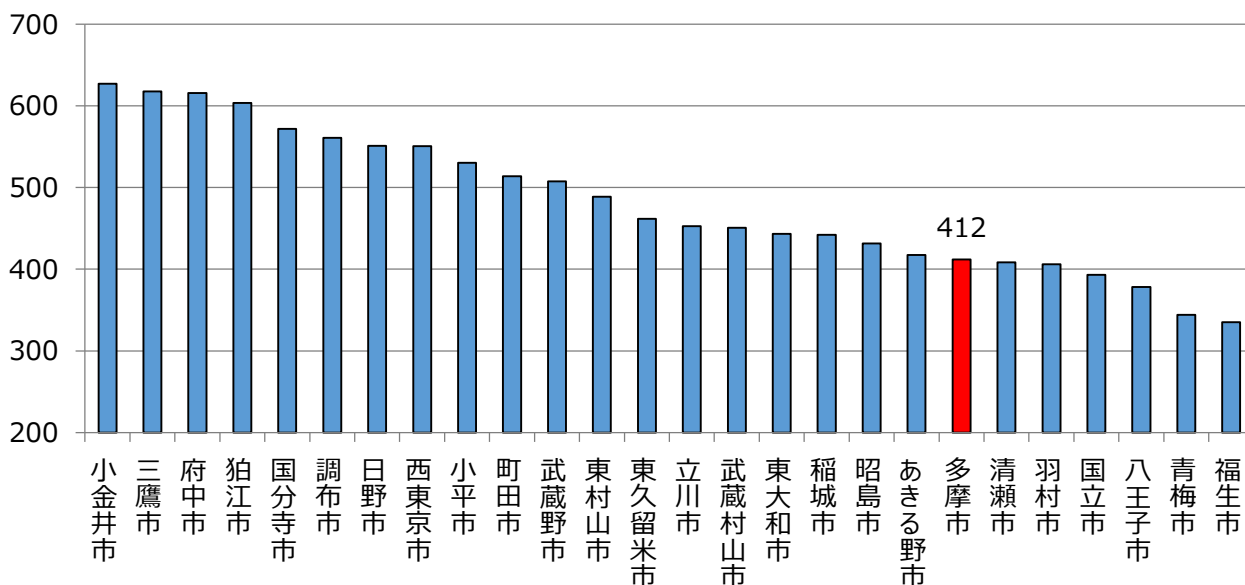


出典：教育部学校支援課

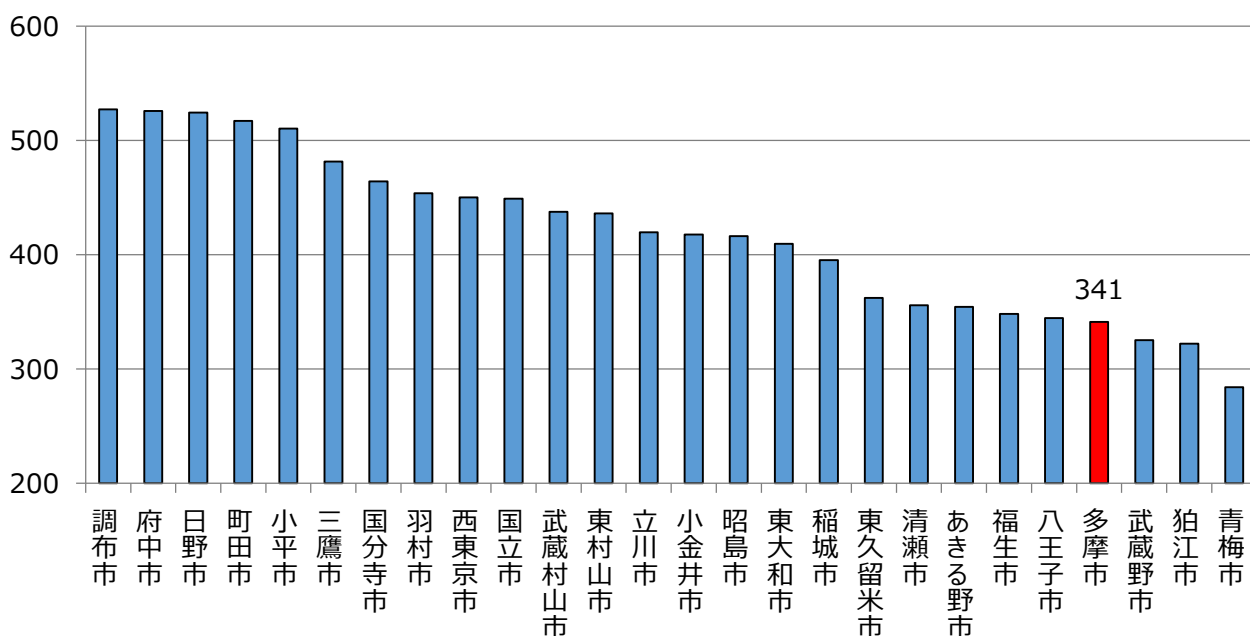
I - 10 1校当たりの児童・生徒数（26市比較）

多摩市内における小学校1校当たりの児童数は、412人となっており、26市中では少ないほうから7番目となっております。また、中学校1校当たりの生徒数は、341人となっており、こちらは26市中少ないほうから4番目となっております。

■ 1校あたりの児童数（小学校）



■ 1校あたりの生徒数（中学校）

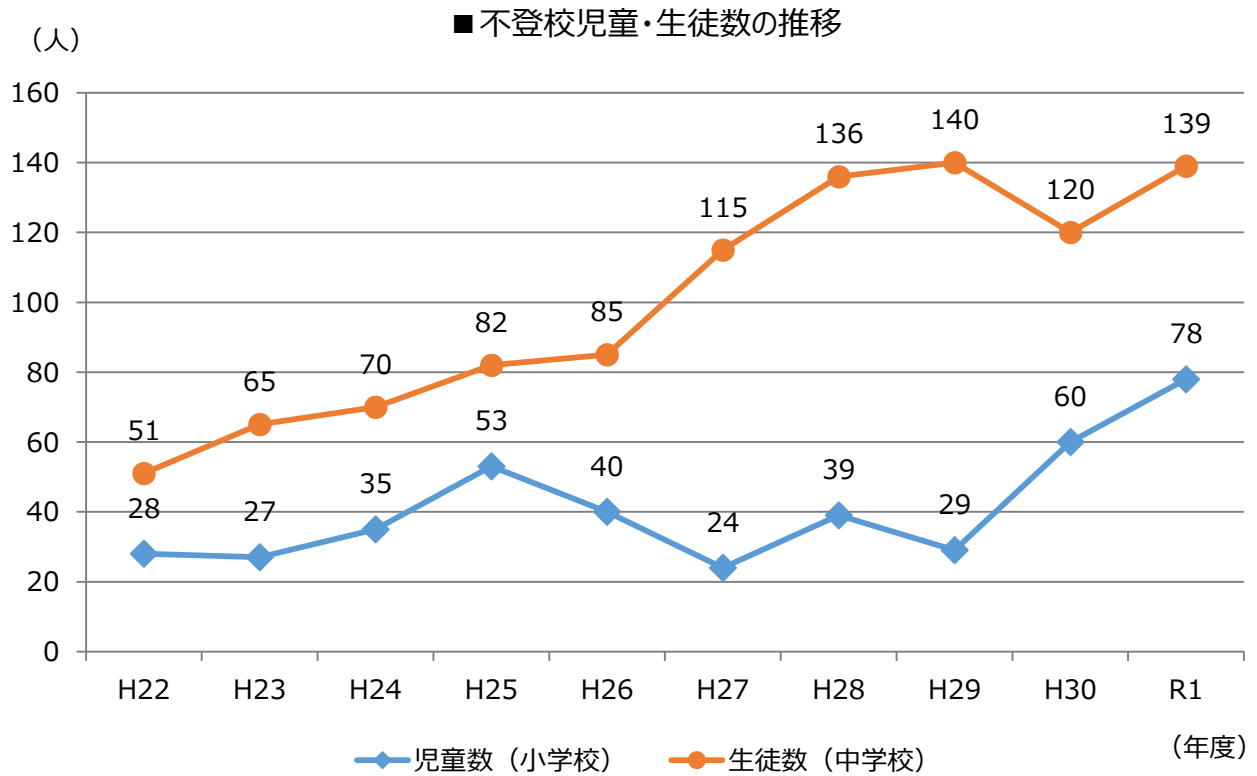


※ 1校当たりの児童・生徒数 = 児童・生徒数 ÷ 学校数

出典：「学校基本調査（令和2年度）」

I-11 不登校児童・生徒数の推移

不登校を理由に欠席した児童・生徒の推移をみると、児童数、生徒数ともに増加傾向にあります。

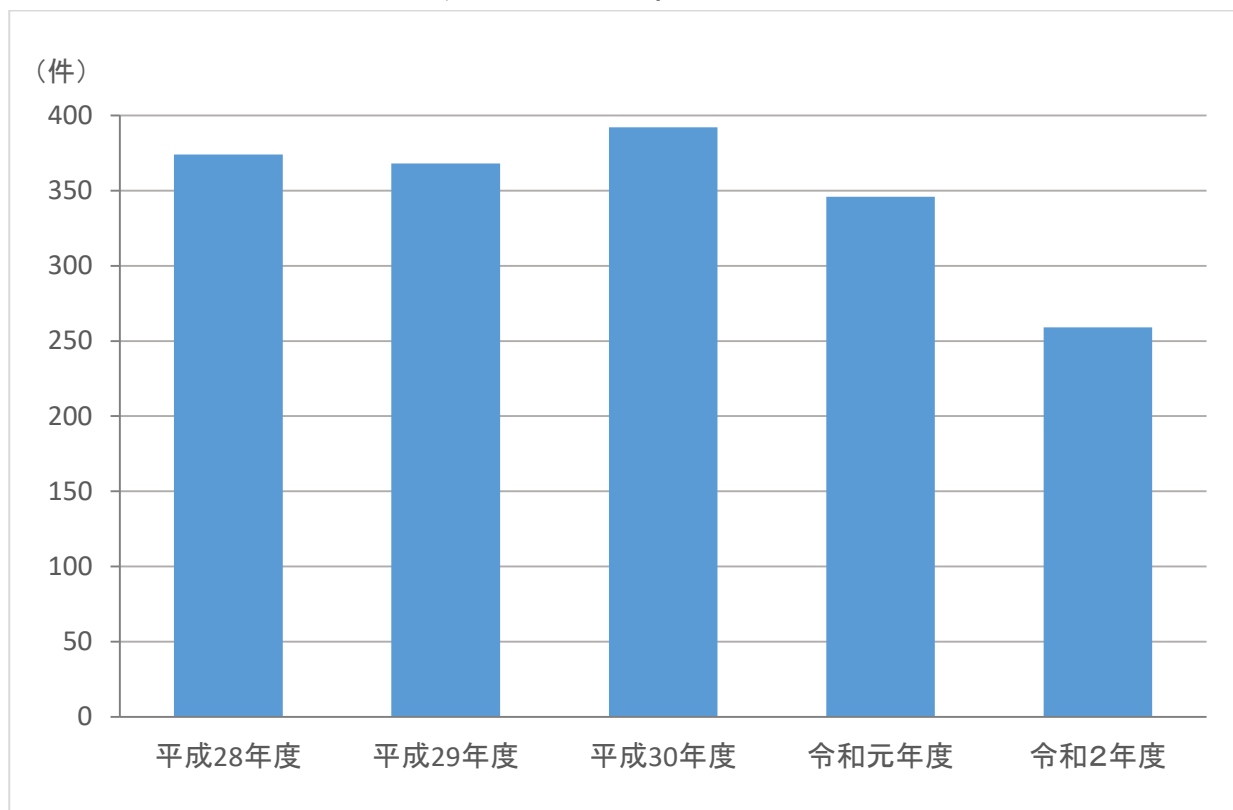


出典：教育指導課

I - 1 2 教育相談件数の推移

教育センターにおける、子どもの情緒や発達、学校での悩みやいじめなどに関する教育相談件数（来所）は、350件～400件付近の推移をみせています。令和2年度については新型コロナウイルスの影響で来所者が減ったことが考えられます。

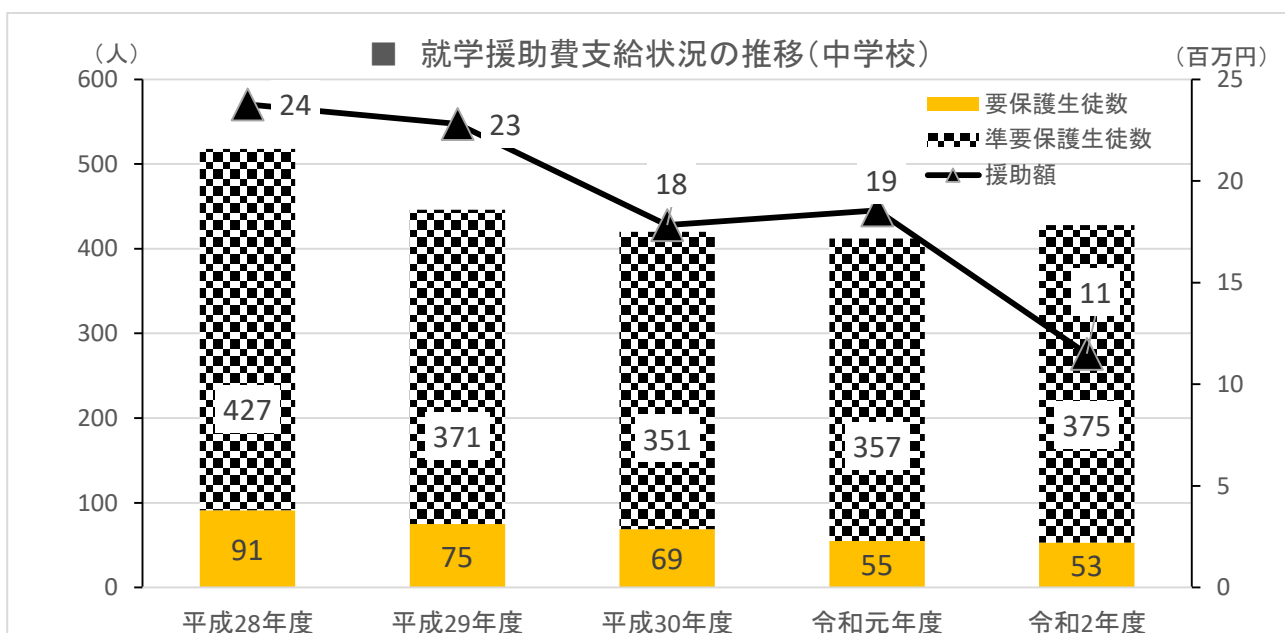
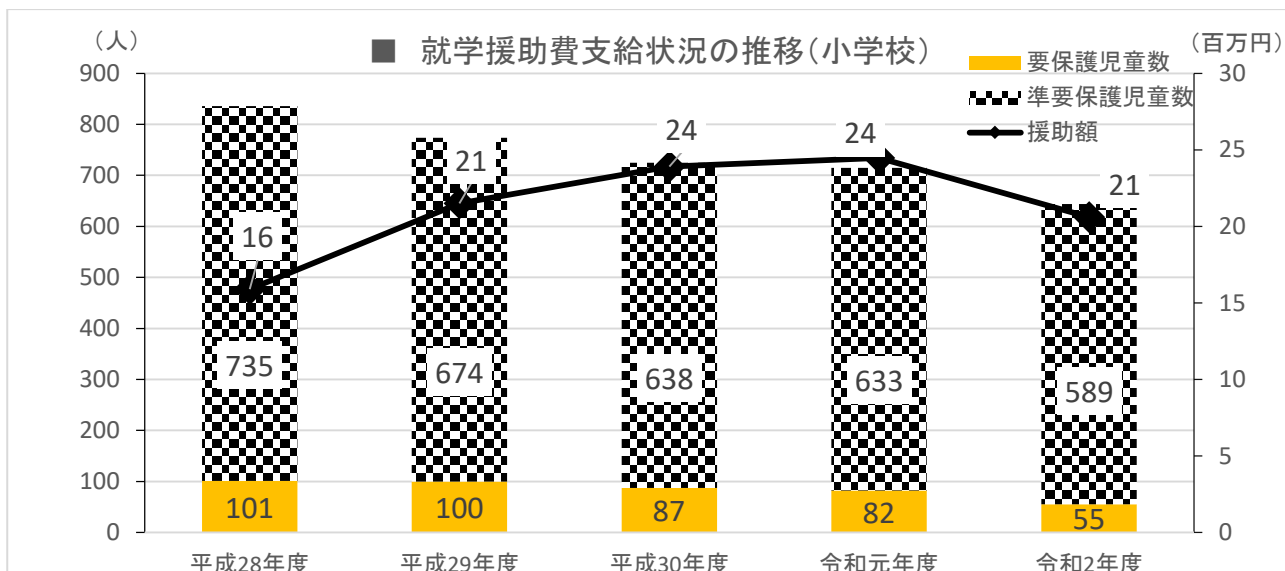
■教育相談（来所）件数の推移



出典：「多摩市の教育」

I-13 就学援助支給状況の推移

平成28年度以降、援助額は小学校で増額傾向に、中学校で減額傾向にありました。令和2年度は修学旅行等のイベントが新型コロナウイルスの影響により中止となったため、減額となった。

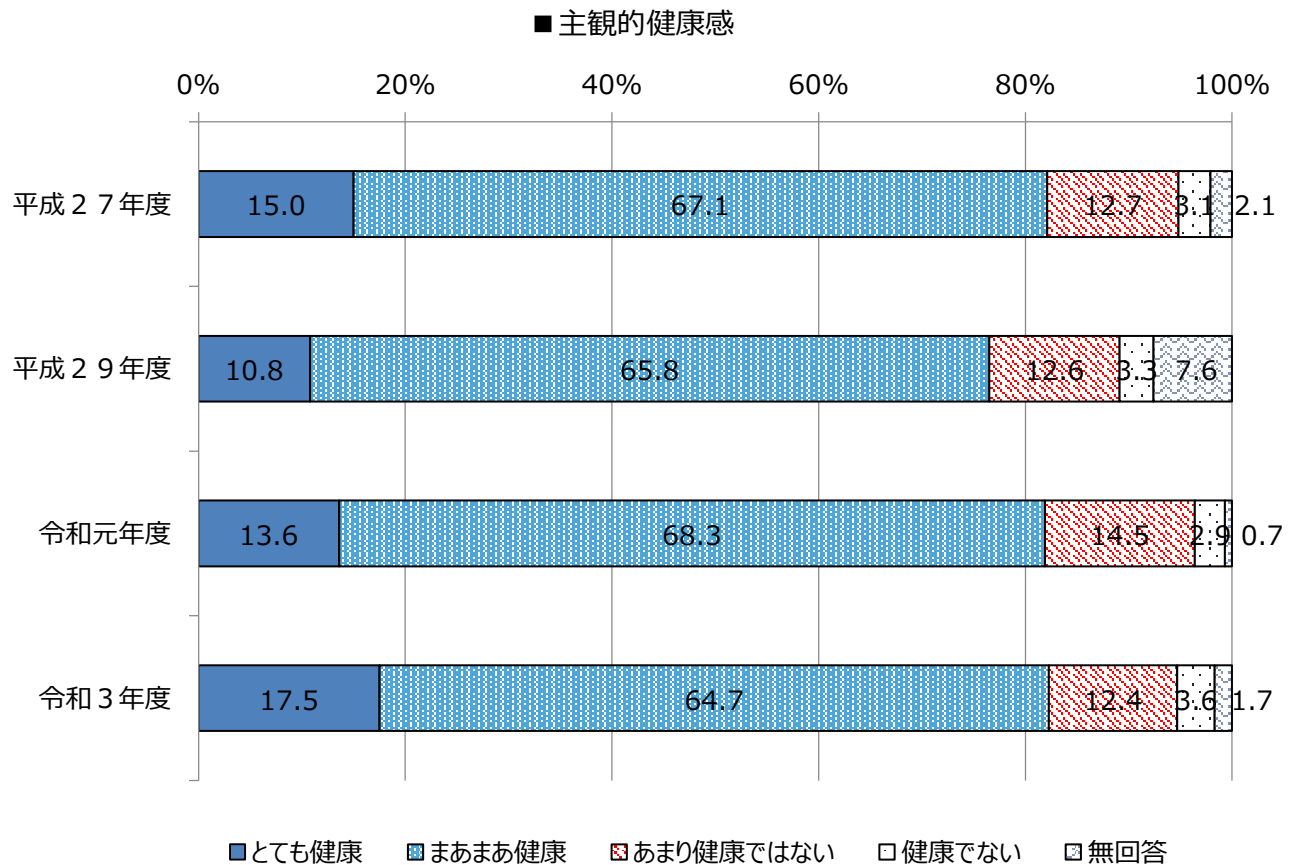


出典：「多摩市の教育」

第Ⅱ節 みんなが明るく、安心して、いきいきと暮らしているまち

Ⅱ-1 主観的健康感の推移

主観的健康感については、平成29年度に「とても健康」、「まあまあ健康」と回答している人が減少しているものの、「無回答」の数が多いため、回答範囲のみの比率で比較するとほぼ横ばいとなっています。

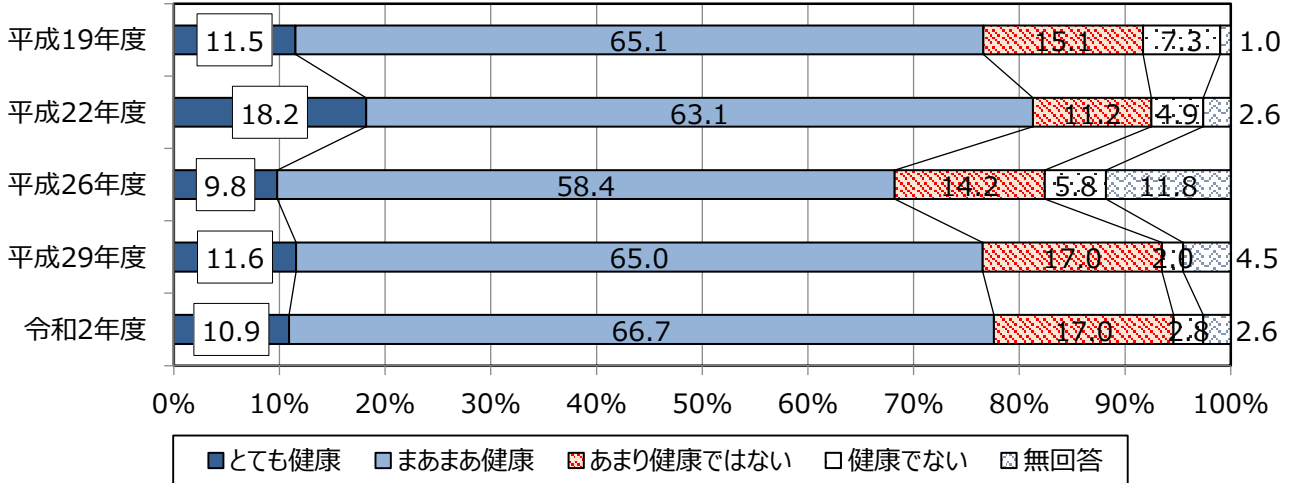


出典：「多摩市政世論調査」

II-2 高齢者の主観的健康感の推移

高齢者の健康感は、平成19年度から令和2年度にかけて、ほぼ横ばいに推移しています。

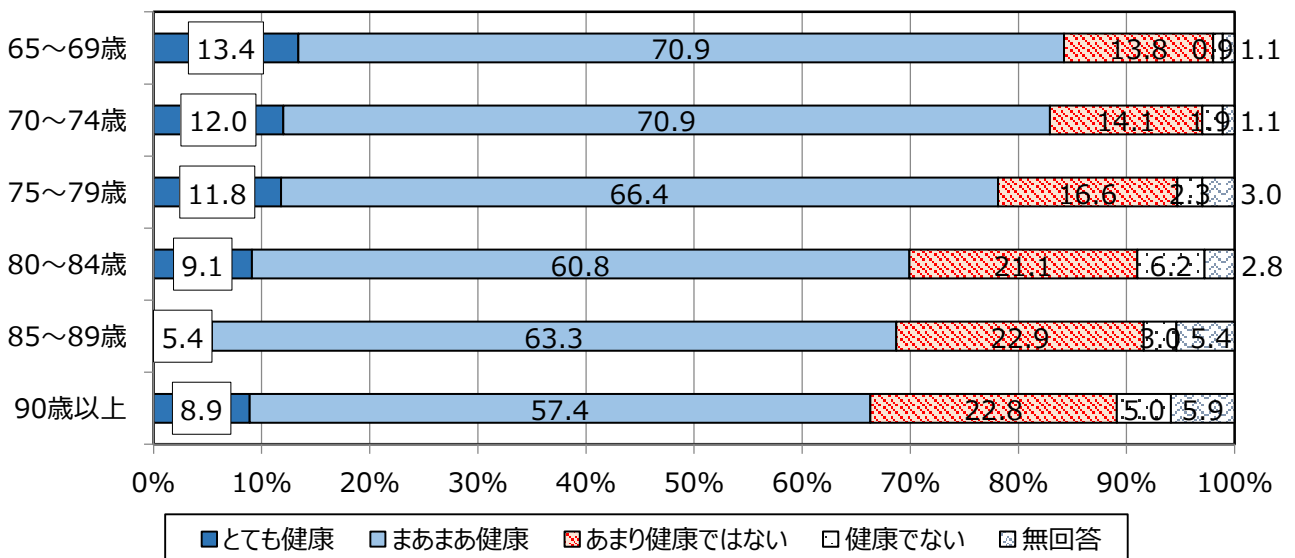
■ 高齢者の主観的健康感の推移



出典：「多摩市高齢者実態調査報告書」

80歳以上になるとあまり健康ではないと感じる人の割合が急激に増えており、加齢による身体機能の低下等が、健康感へ影響していると考えられます。また、75歳、85歳という段階であまり健康ではないという回答が増えている状況です。

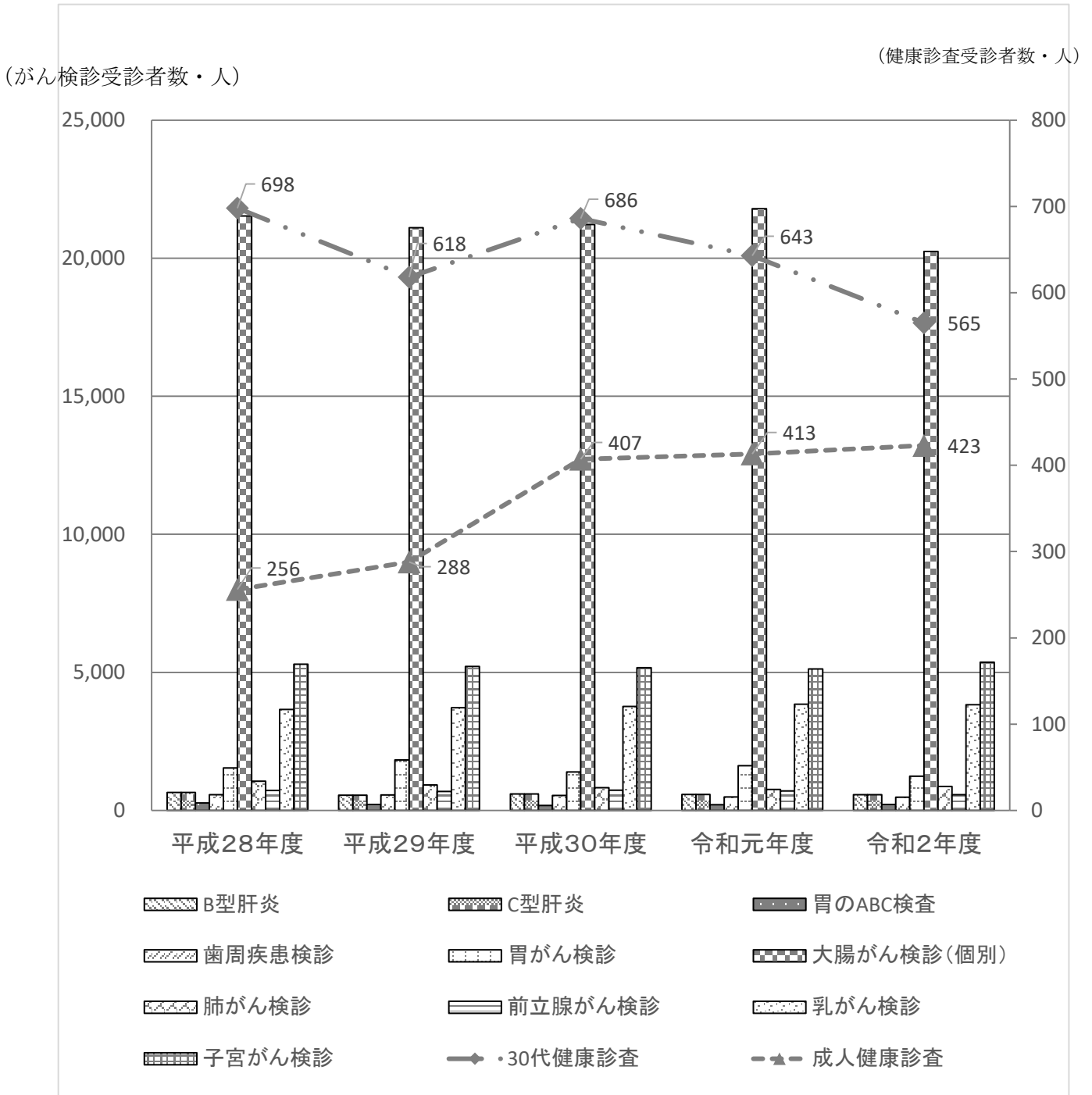
■ 高齢者の主観的健康感（年齢別）



出典：「多摩市高齢者実態調査報告書（令和2年度）」

II-3 「健康診査」及び「がん検診」受診者の推移

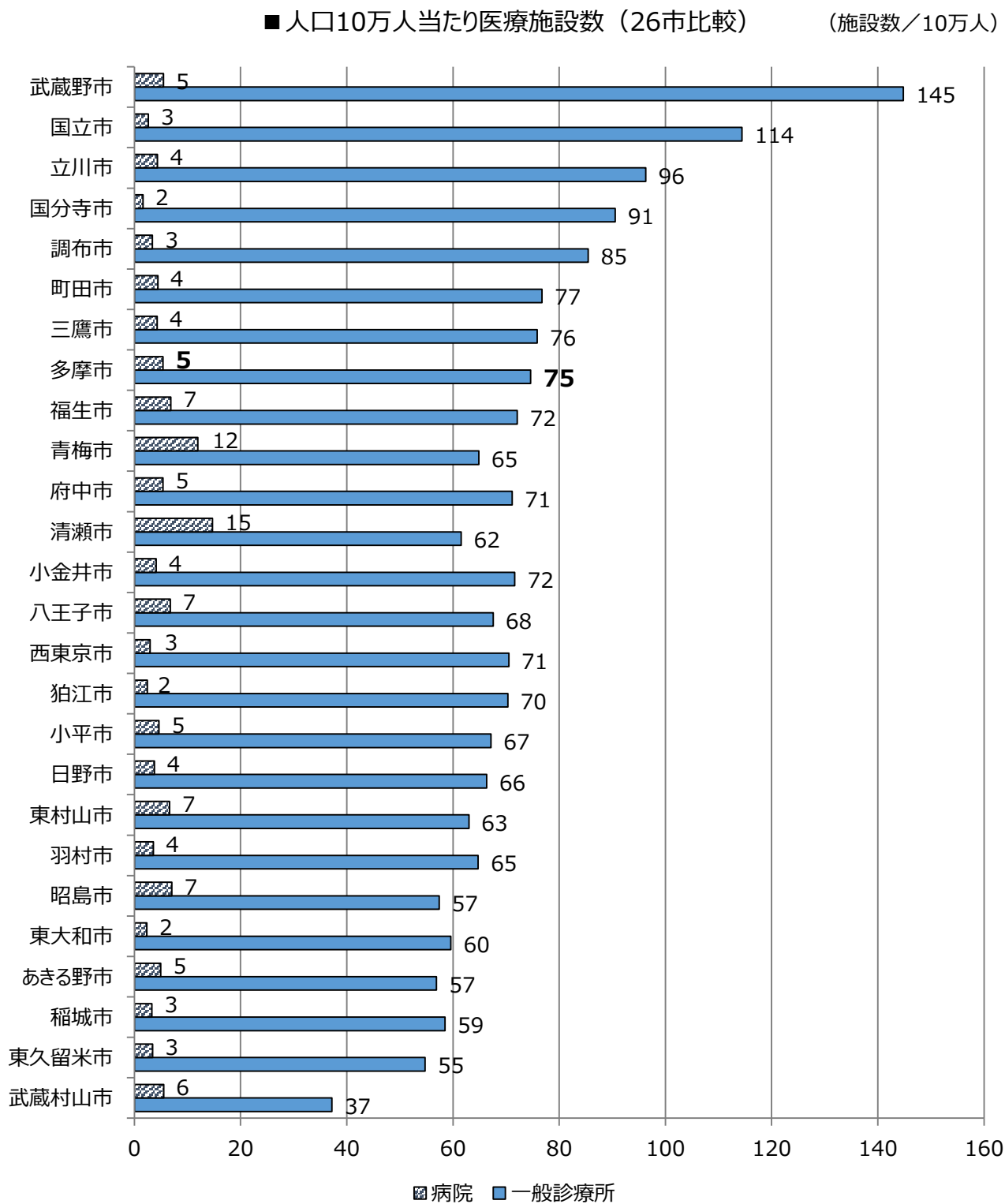
健康診査の受診者数は、650 件あたりを推移している。令和2年度においては新型コロナウイルスの影響により受診者が検査を敬遠した可能性が考えられる。がん検診の受診者数も漸増しており、市民の健康維持増進への意識の高まりがあると考え。健幸都市を目指した取り組みが、成果として現れていると考えられます。



出典：健康福祉部健康推進課

II-4 医療施設数（26市比較）

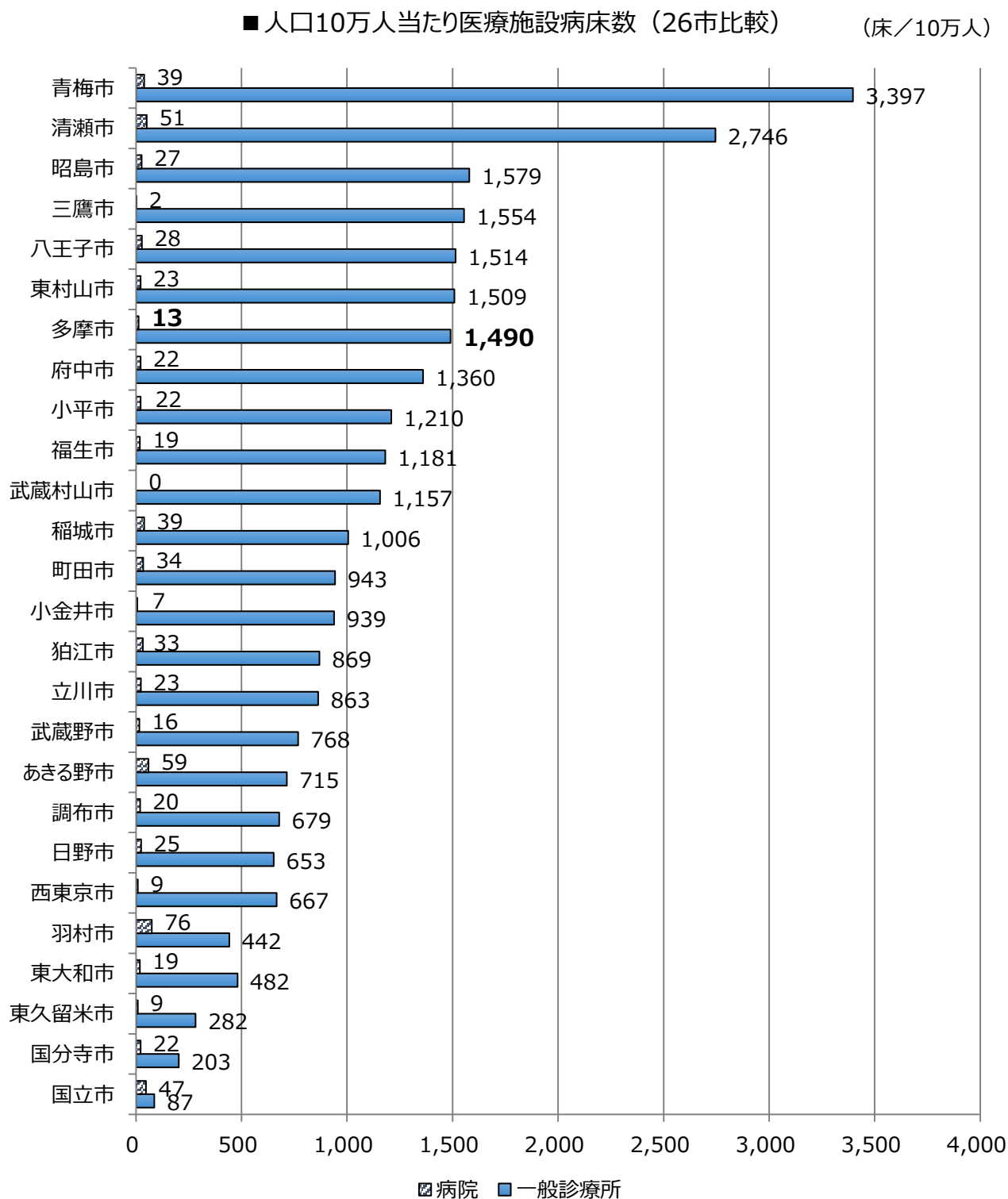
人口10万人あたりの医療施設数では26市中8位であり、26市平均（78）を上回っているため、医療施設数は多く、安心して生活を送るための医療機関の整備が進んできていると考えられます。



出典：「東京都の医療施設」（令和元年10月1日）
人口10万人当たり：住民基本台帳（平成31年1月1日）

II-5 医療施設病床数(26市比較)

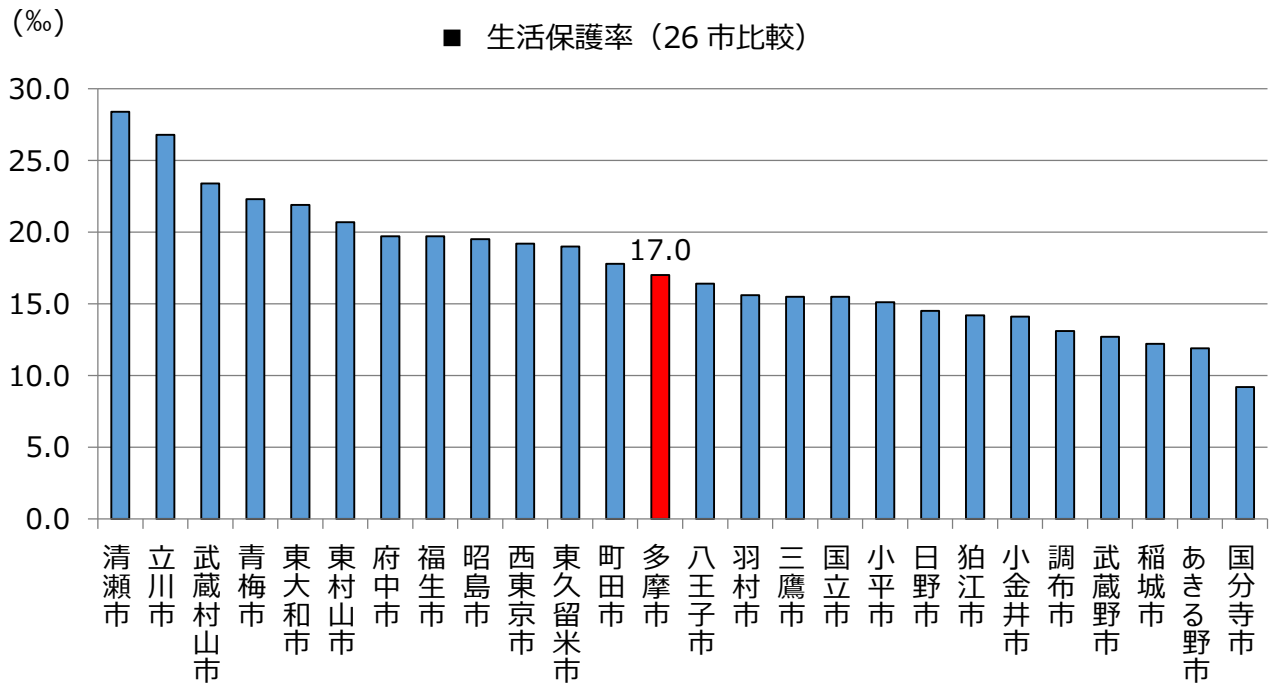
医療施設病床数について、人口10万人当たりでは26市中7位であり、26市平均(1,113)よりも病床数が多く、医療体制の整備が進んでいると言える状況です。



出典：「東京都の医療施設」(令和元年10月1日)
人口10万人当たり：住民基本台帳(平成31年1月1日)

II-6 生活保護率（26市比較）

多摩市における生活保護率は、17.0%（パーミル）となっており26市中低い方から13番目となっています。また、26市平均（17.5%）との比較では、若干低い水準となっています。

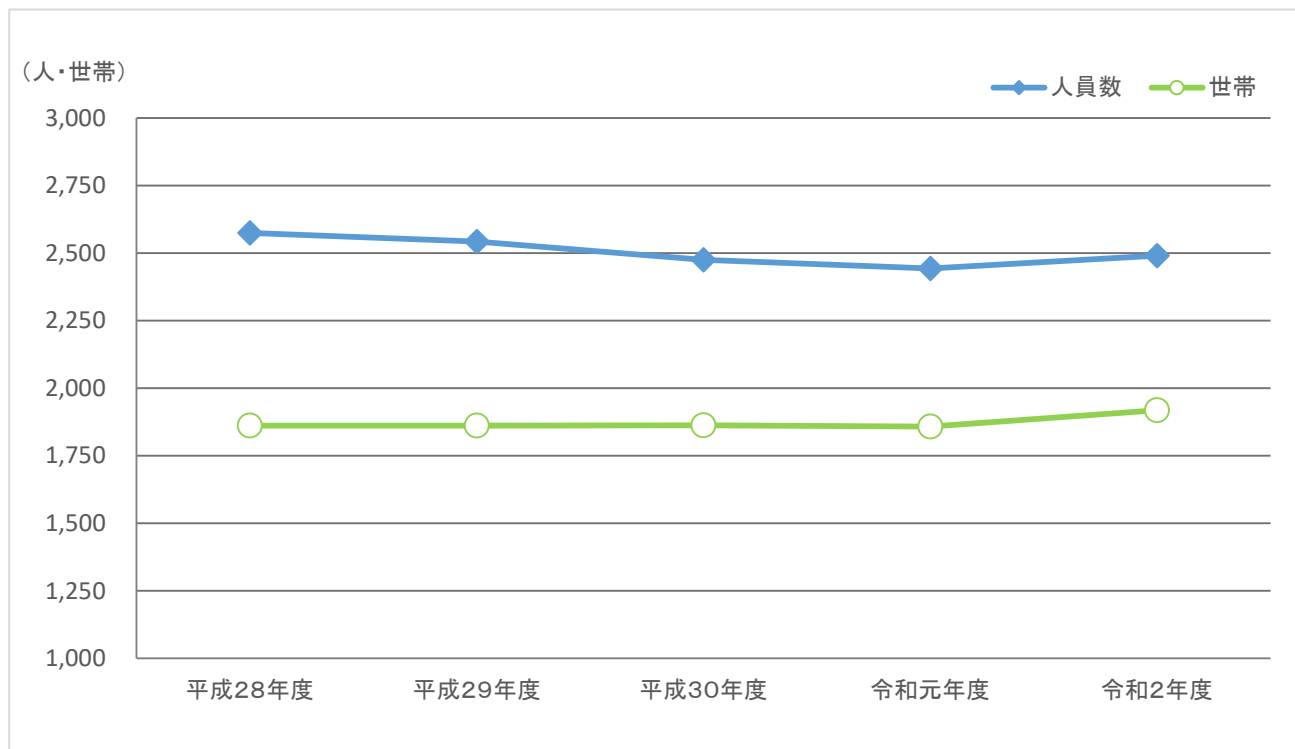


出典：東京都福祉保健局 福祉・衛生行政統計（令和3年4月月報）

II-7 生活保護人員数・世帯数の推移

生活保護人員数・世帯数とも、令和元年度まで下降傾向でしたが、人員数は令和2年度に増加しているものの、ほぼ横ばいの推移となっている。

■ 生活保護人員数・世帯数の推移

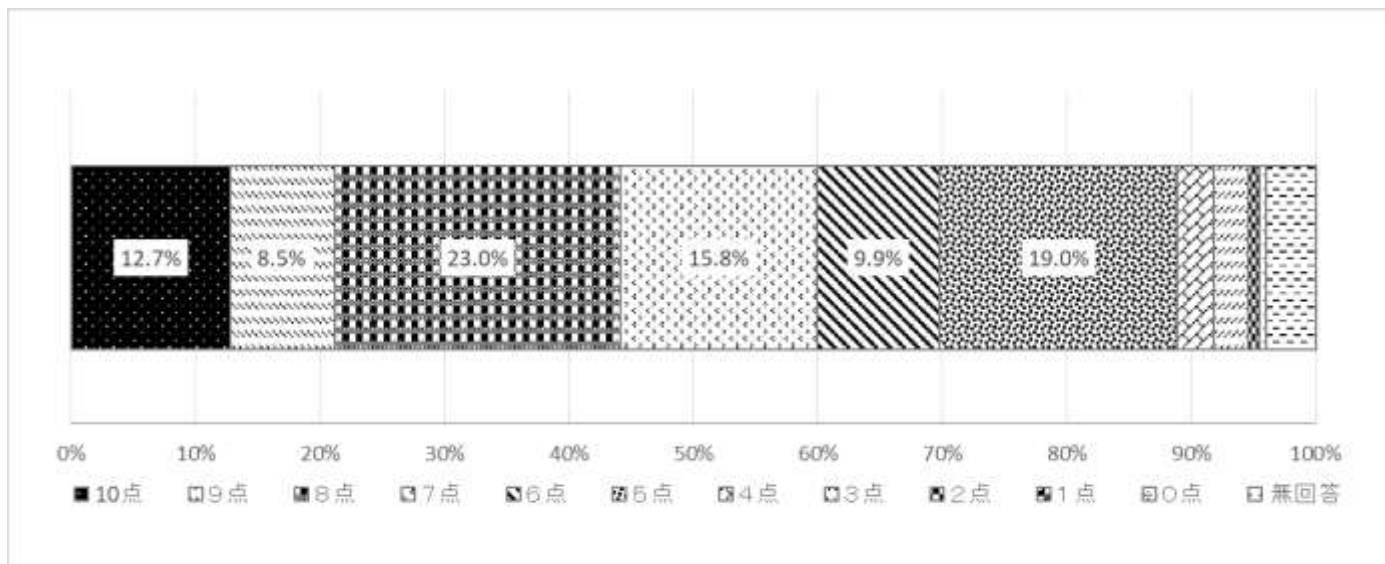


保護人員については、各年度3月31日時点の数

出典：健康福祉部生活福祉課

Ⅱ-8 65歳以上による幸福度について

令和元年11月1日現在、市内に居住する65歳以上の方で、要介護認定（要介護1～5）を受けていない方を対象に調査を実施し、現在どの程度幸せと感じるか（とても不幸を0点、とても幸せを10点として回答）については、5～10点を併せると88.9%、8～10点では44.2%となっています。また、無回答を除いた回答の平均は7.02点でした。

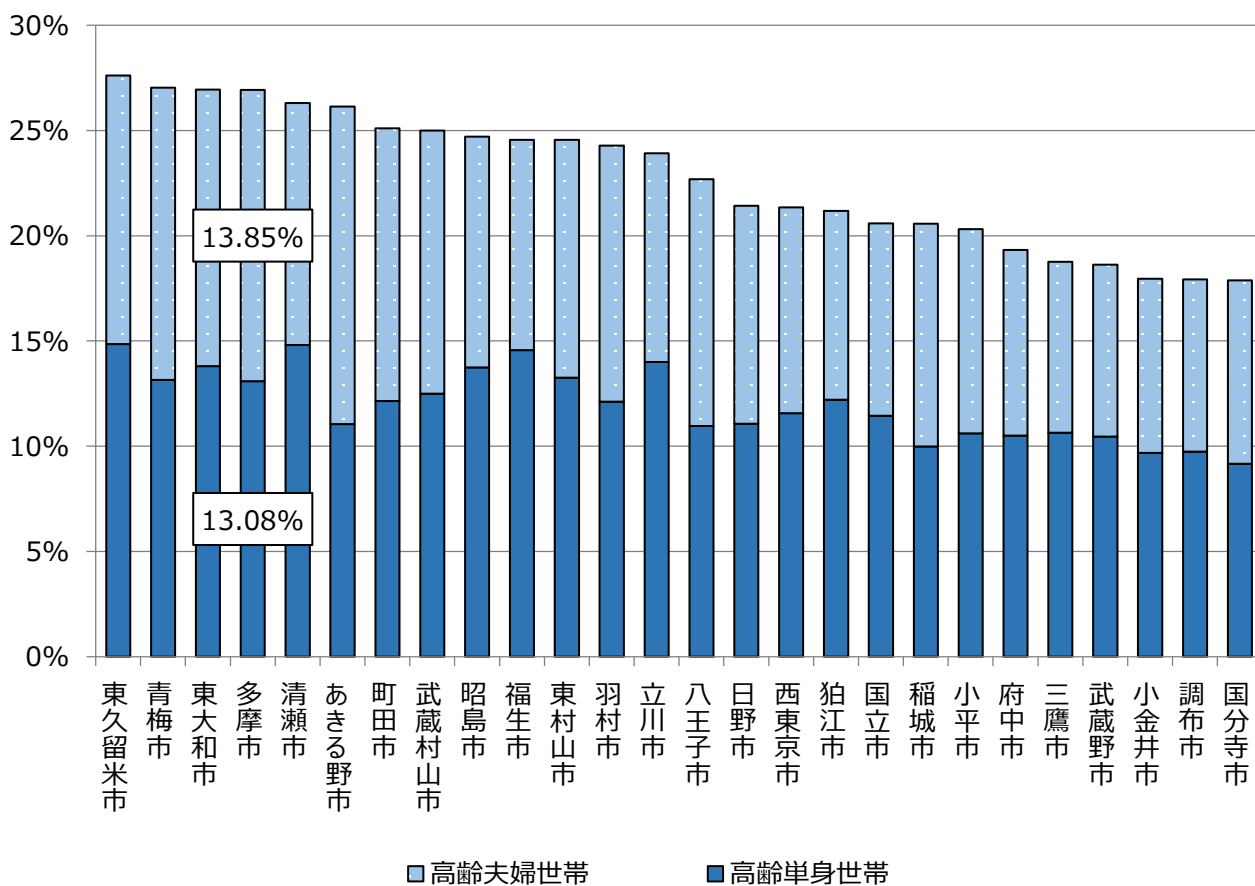


「多摩市高齢者実態調査報告書 令和2年度版」

II-9 高齢者世帯比率

今後、急速な高齢化に伴い、一般世帯に占める高齢者世帯比率はさらに高くなると予測されます。このため、高齢者のみで生活している世帯に潜在化している生活上の諸問題を把握し、今後の保健福祉施策を考えていく必要があります。

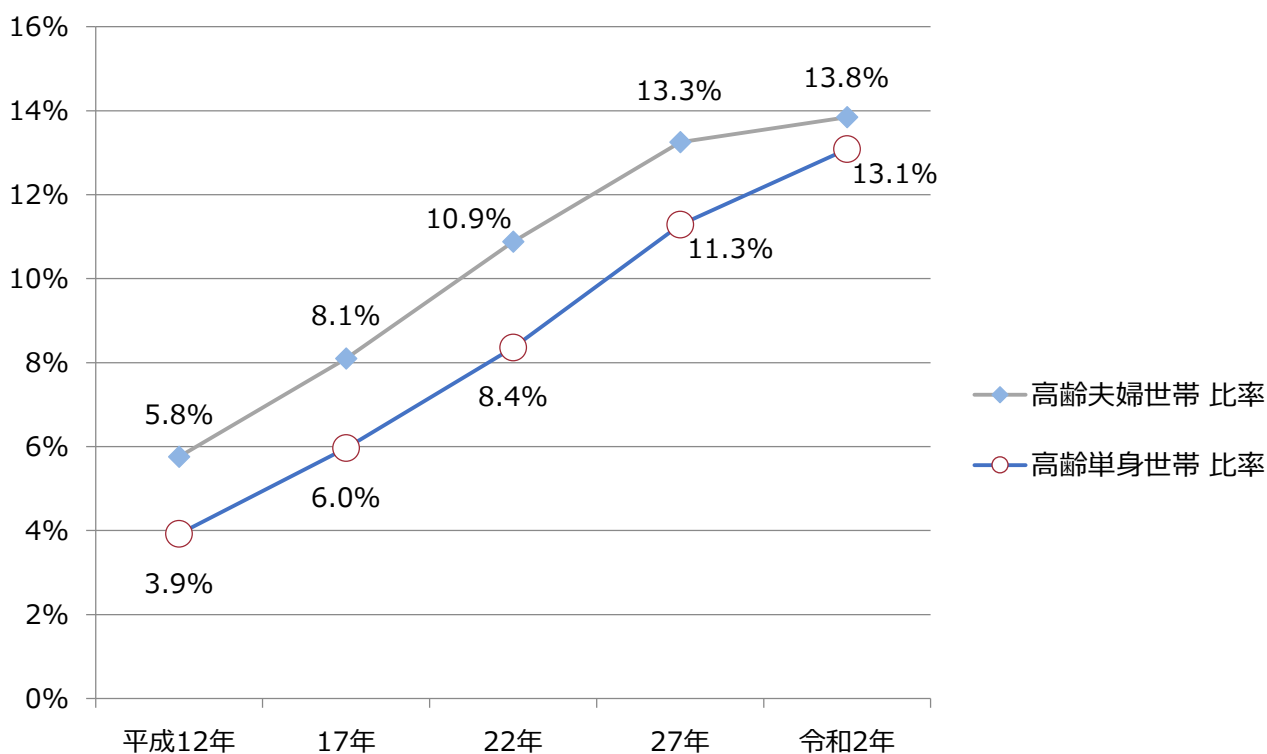
■ 高齢者世帯比率



出典：「令和2年 国勢調査」

Ⅱ-10 高齢者世帯比率の推移

多摩市の高齢者世帯比率の推移をみると、一般世帯に占める高齢夫婦世帯、高齢単身世帯の割合は、年々高くなってきています。また、高齢者単身世帯が平成12年から令和2年の間に約3.3倍、高齢者夫婦世帯は約2.3倍となっています。令和2年では、高齢夫婦世帯比率は伸びが緩やかになった一方、高齢単身世帯比率は伸び続けています。

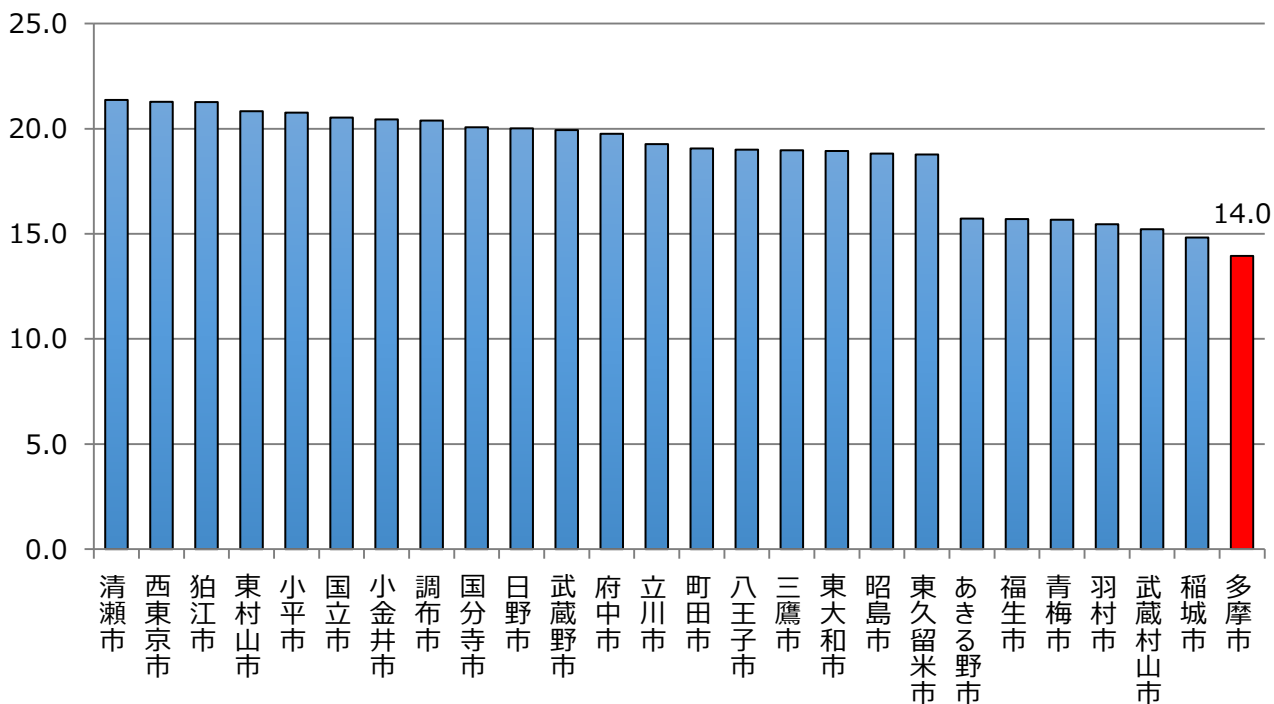


出典：「国勢調査」

Ⅱ-11 65歳以上の要支援・要介護認定比率（26市比較）

多摩市における65歳以上の人口に占める、要支援・要介護の認定者の比率は、14.0%となっており、26市中最も少なくなっています。

■ 65歳以上の要支援・要介護認定比率



(令和2年1月時点)

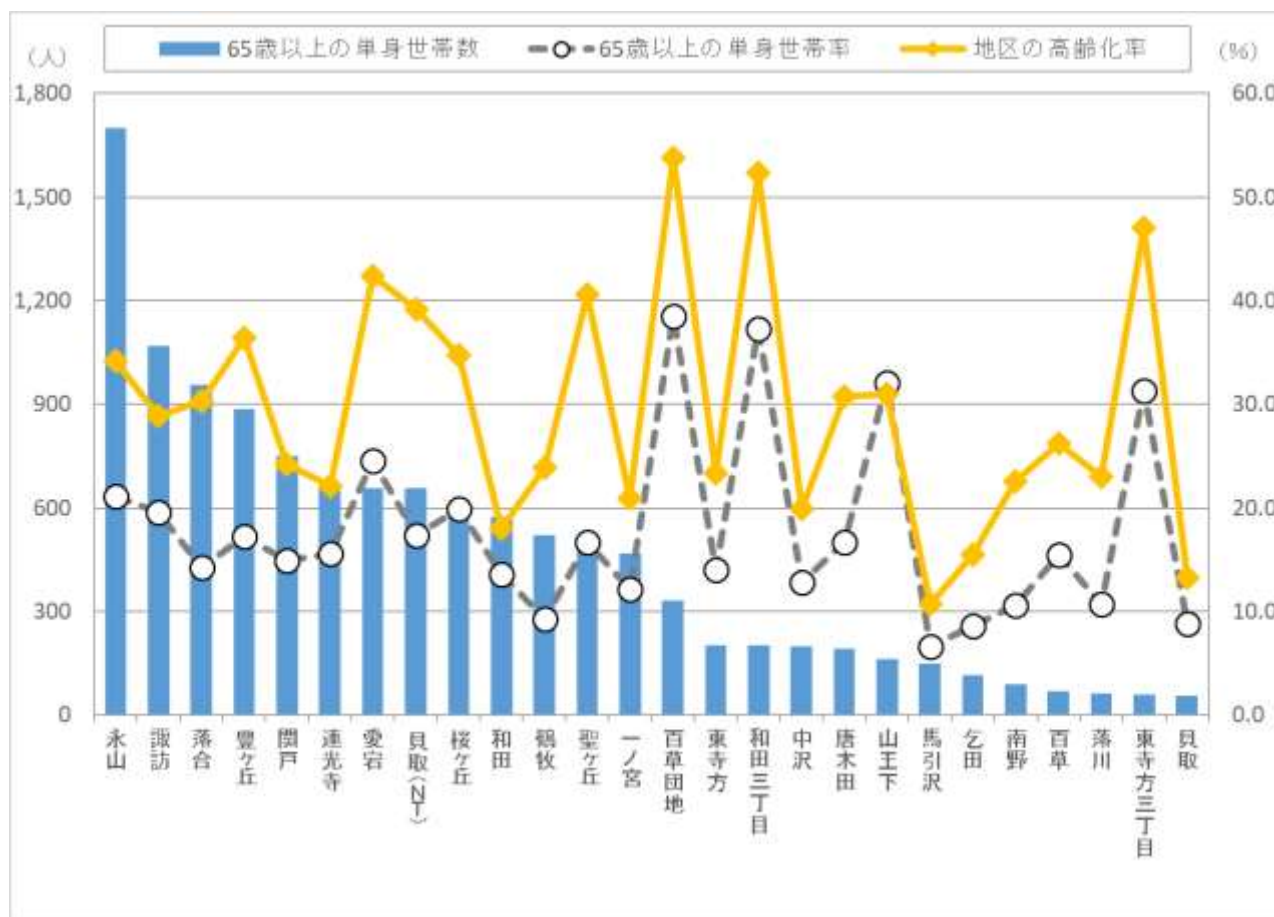
出典：福祉衛生統計年報（東京都）

II-12 地区別65歳以上の単身世帯数及び高齢化率

65歳以上の単身世帯数をみると、永山地区と諏訪地区が多くなっていますが、百草団地、和田三丁目、山王下、東寺方三丁目、愛宕では、65歳以上の単身世帯数の割合と高齢化率がともに高くなっていることから、単身の高齢者が多く、若年者が少ない地域と言えます。

なお、老人ホーム等の施設の有無が地区の数値に影響していることも考えられます。

■ 地区別65歳以上の単身世帯数及び高齢化率



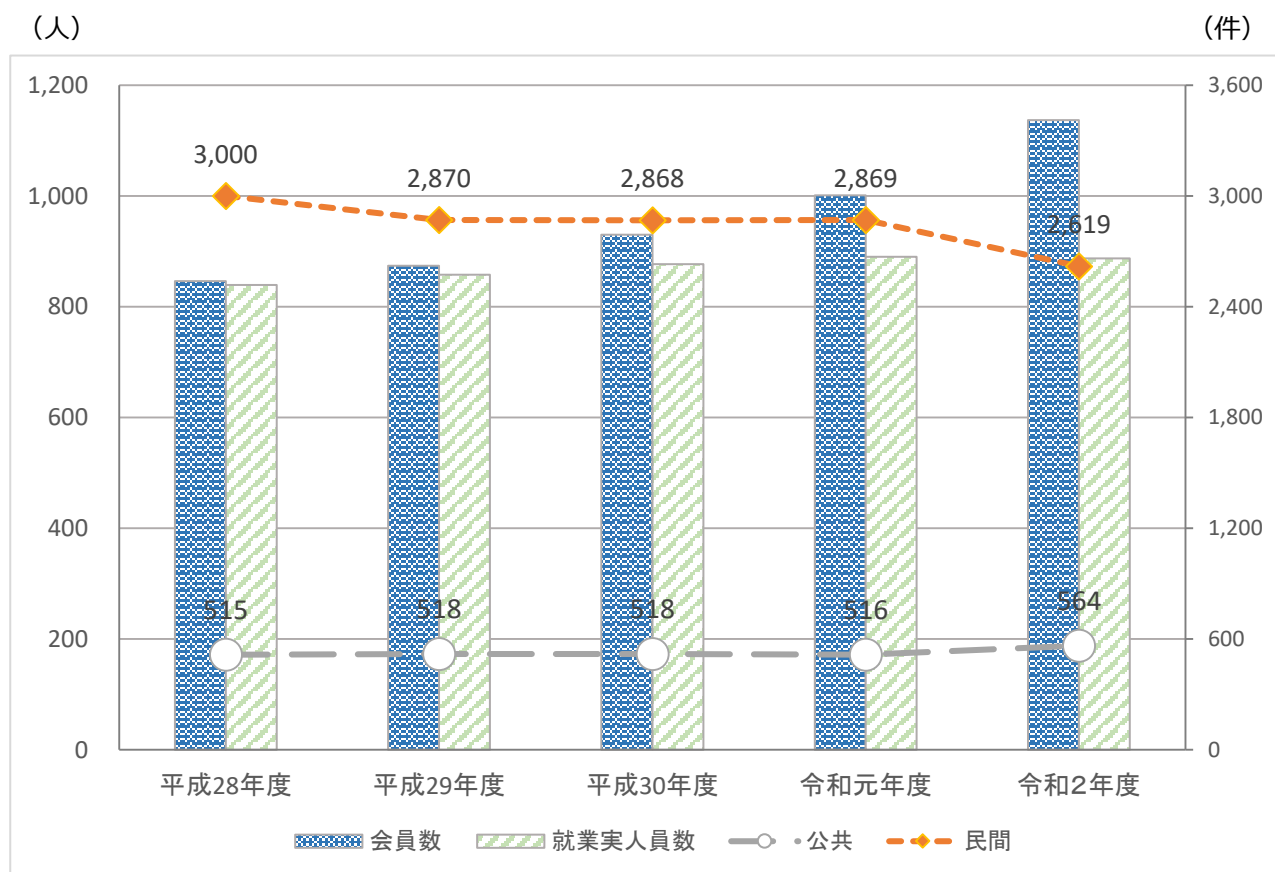
(令和2年10月1日現在)

出典：市民経済部市民課

II-13 シルバー人材センターの会員数と受託件数の推移

平成30年度より大幅に増加していき令和2年度においては約1,100人となっています。しかしながら、民間の受託件数が減少しており就業実人員数は増加しておりません。そのため就業率は、平成28年度には99.2%に達していましたが令和2年度には78%まで減少しています。

■ シルバー人材センターの会員数と受託件数の推移

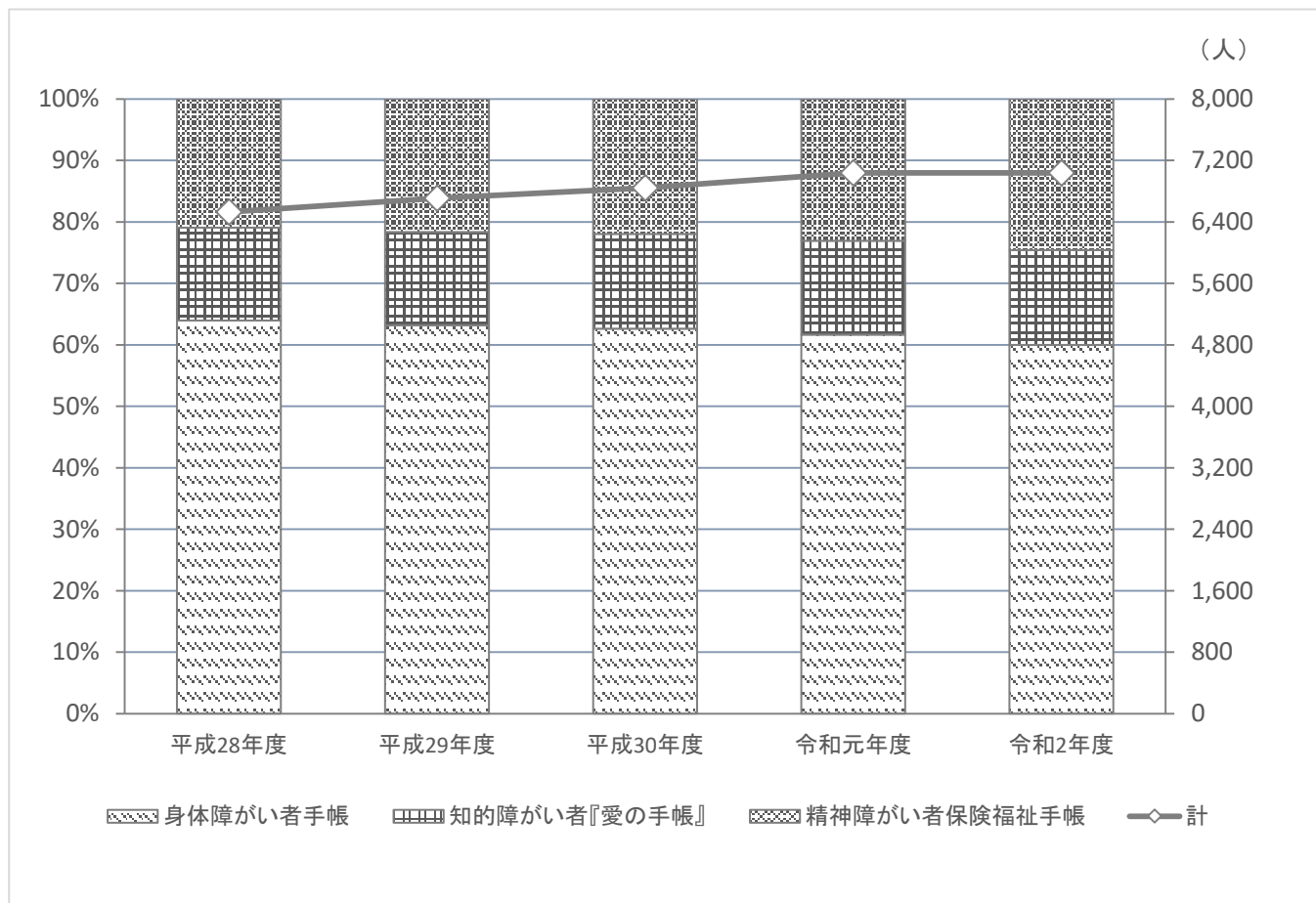


出典：健康福祉部高齢支援課

Ⅱ-14 障がい者人口（障害者手帳所持者数）の推移

すべての障害種別が増加傾向にありますが、その中でも精神障がい者の増加幅が大きくなっています。

■ 障がい者人口（障害者手帳所持者数）の推移



※重複者含む

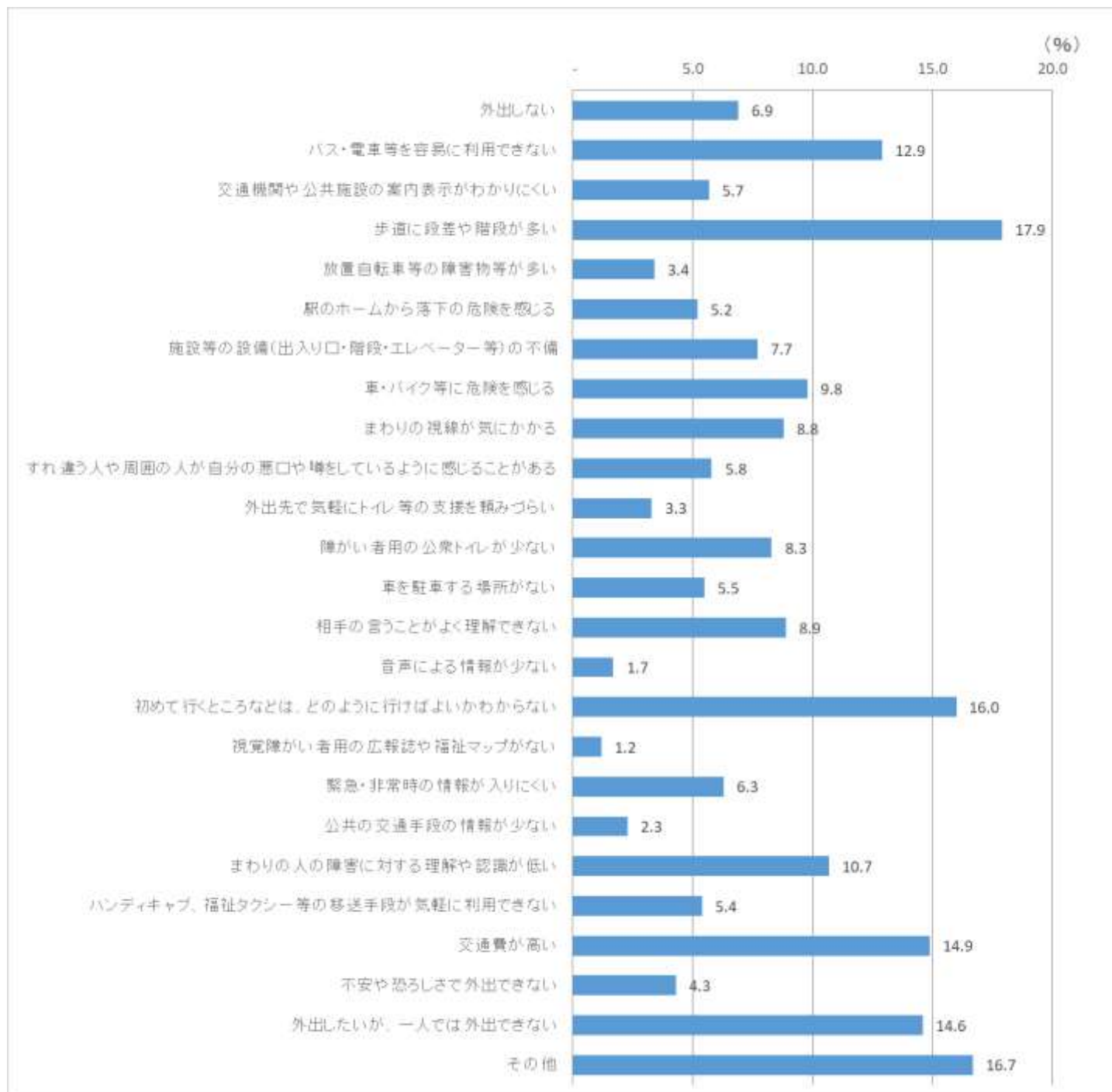
出典：健康福祉部障害福祉課

II-15 障がい者の外出時の支障項目

障がい者が外出する時に困ることとして、歩道に段差や階段が多い、初めて行くところなどの行き方がわからない、交通費が高いなどが挙げられています。

■ 障がい者の外出時の支障項目

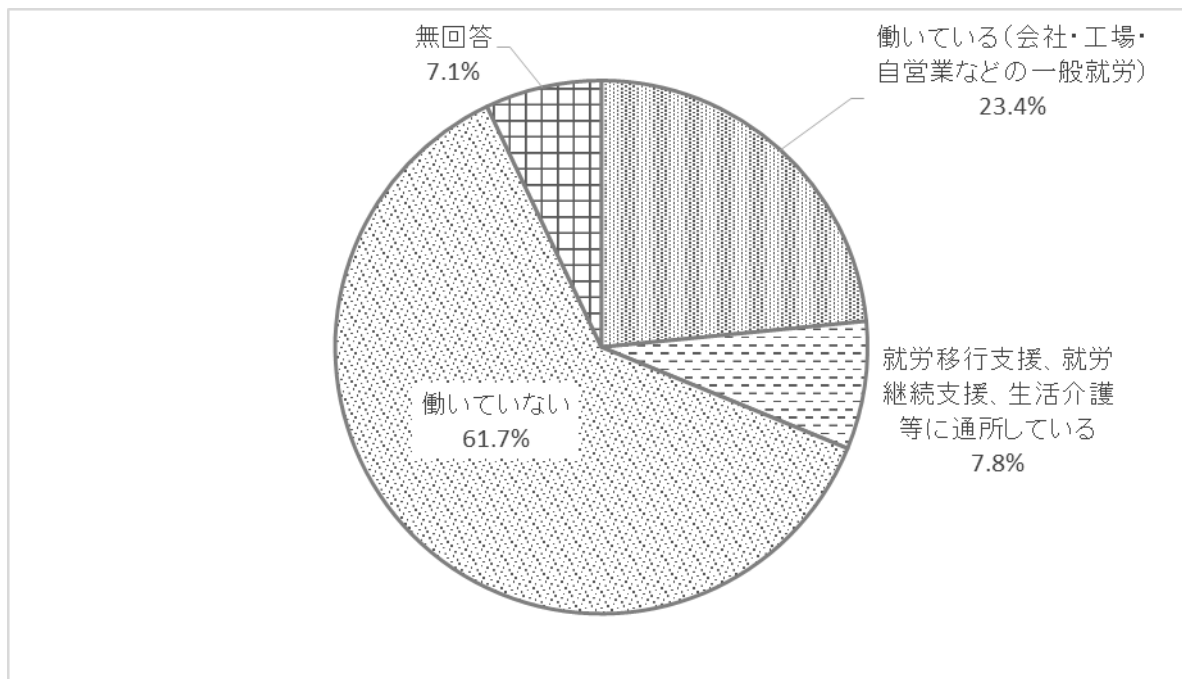
【問：あなたが外出する時、困ることは何ですか。（3つまで回答可）】



II-16 障がい者の就労状況

多摩市障がい者生活実態調査報告書（令和2年度）によると、アンケート回答者のうち、働いている人は23.4%です。就労移行支援・就労継続事業所などに通所している人7.8%となっています。

■ 障がい者の就労状況



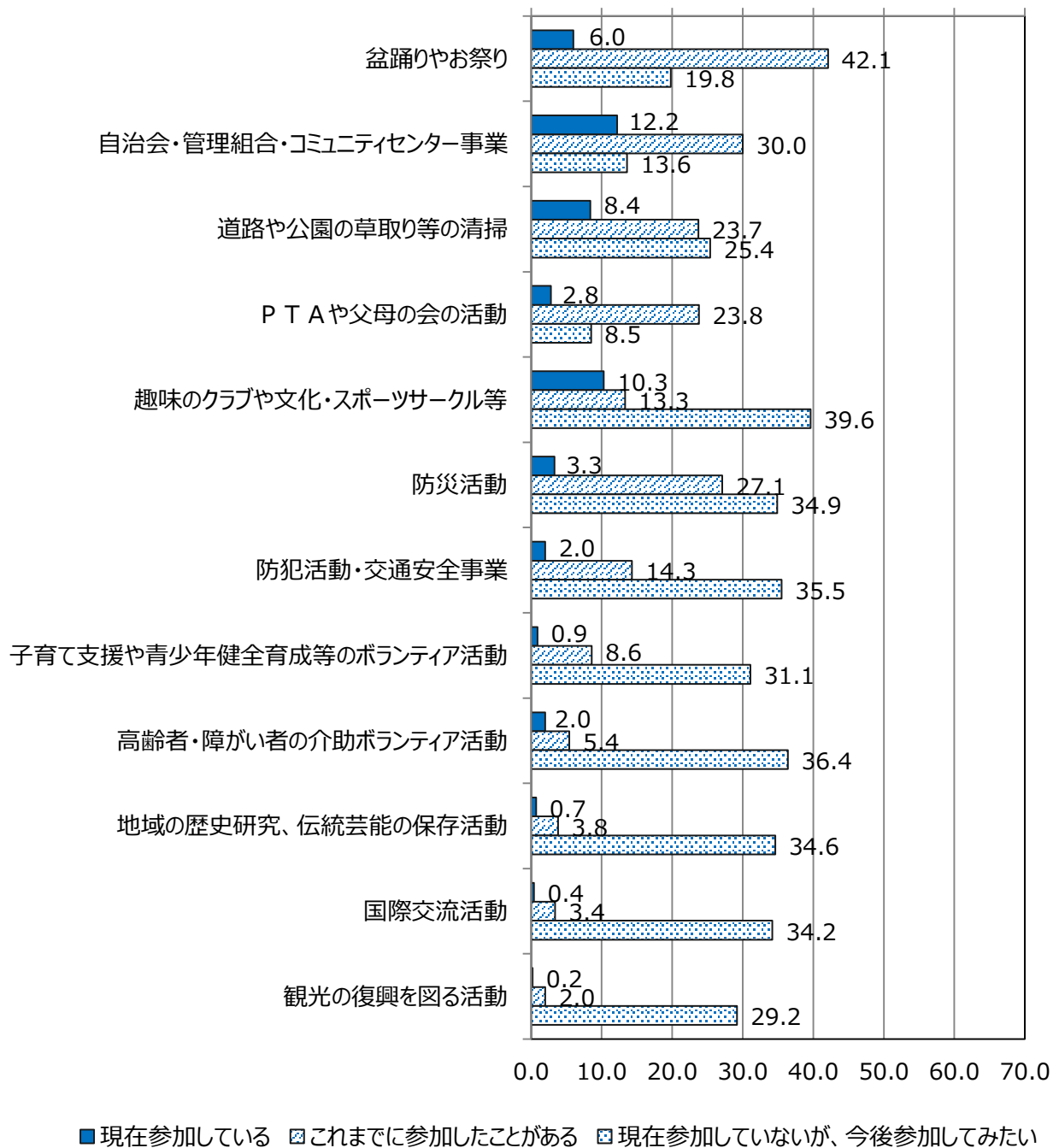
出典：多摩市障がい者生活実態調査（令和2年度）

第Ⅲ節 みんなで楽しみながら地域づくりを進めるまち

Ⅲ-1 地域活動への参加状況

現在参加している活動及び今後参加してみたい活動は、「防災活動」、「趣味のクラブや文化・スポーツサークル等」、「高齢者・障がい者の介助ボランティア活動」等が上位にきています。新型コロナウイルスの影響により、「現在参加している」の割合が例年に比べ大きく減少している。

■ 地域活動への参加状況

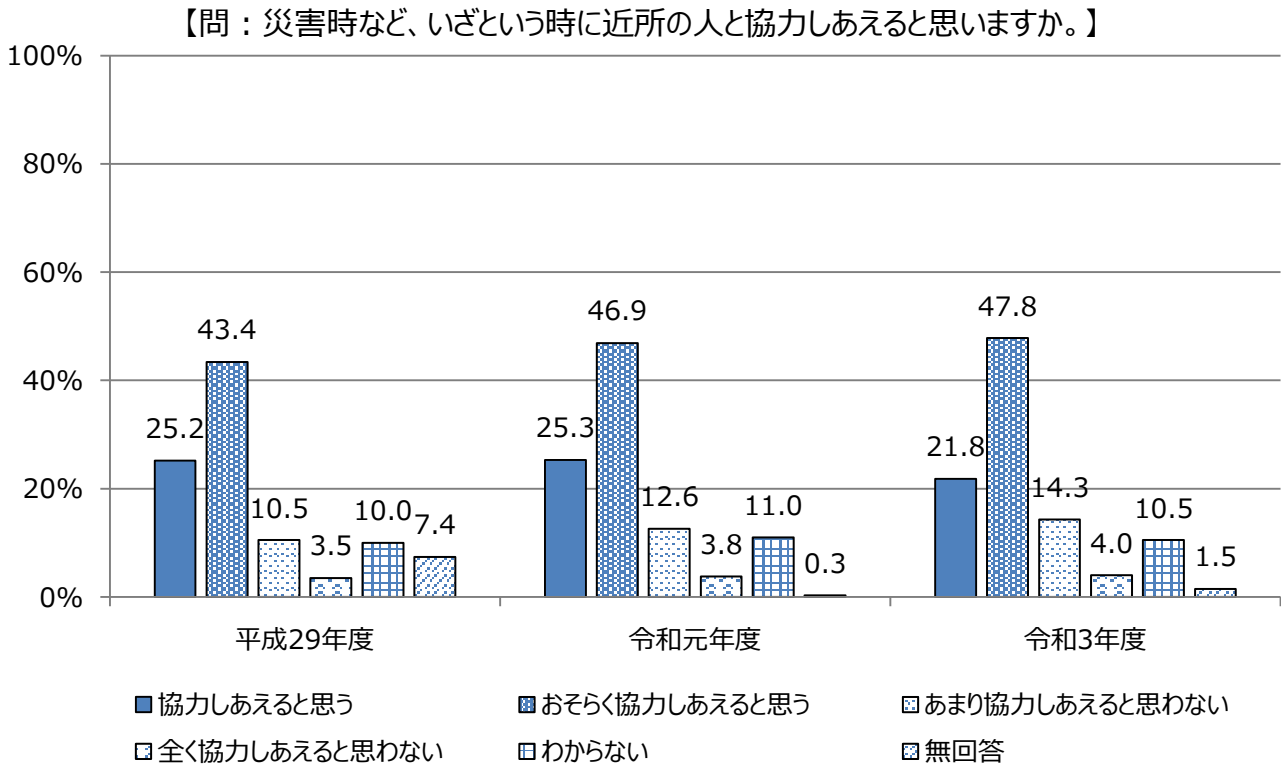


出典：多摩市政世論調査（令和3年度）

Ⅲ-2 地域における支え合い

平成29年度から令和3年度にかけては、「災害時など、いざという時に近所の人と協力しあえると思いますか」の問いについて、「協力しあえると思う」、「おそらく協力しあえると思う」の合計はおよそ7割と高く、横ばいの傾向にあります。

■ 地域における支え合い

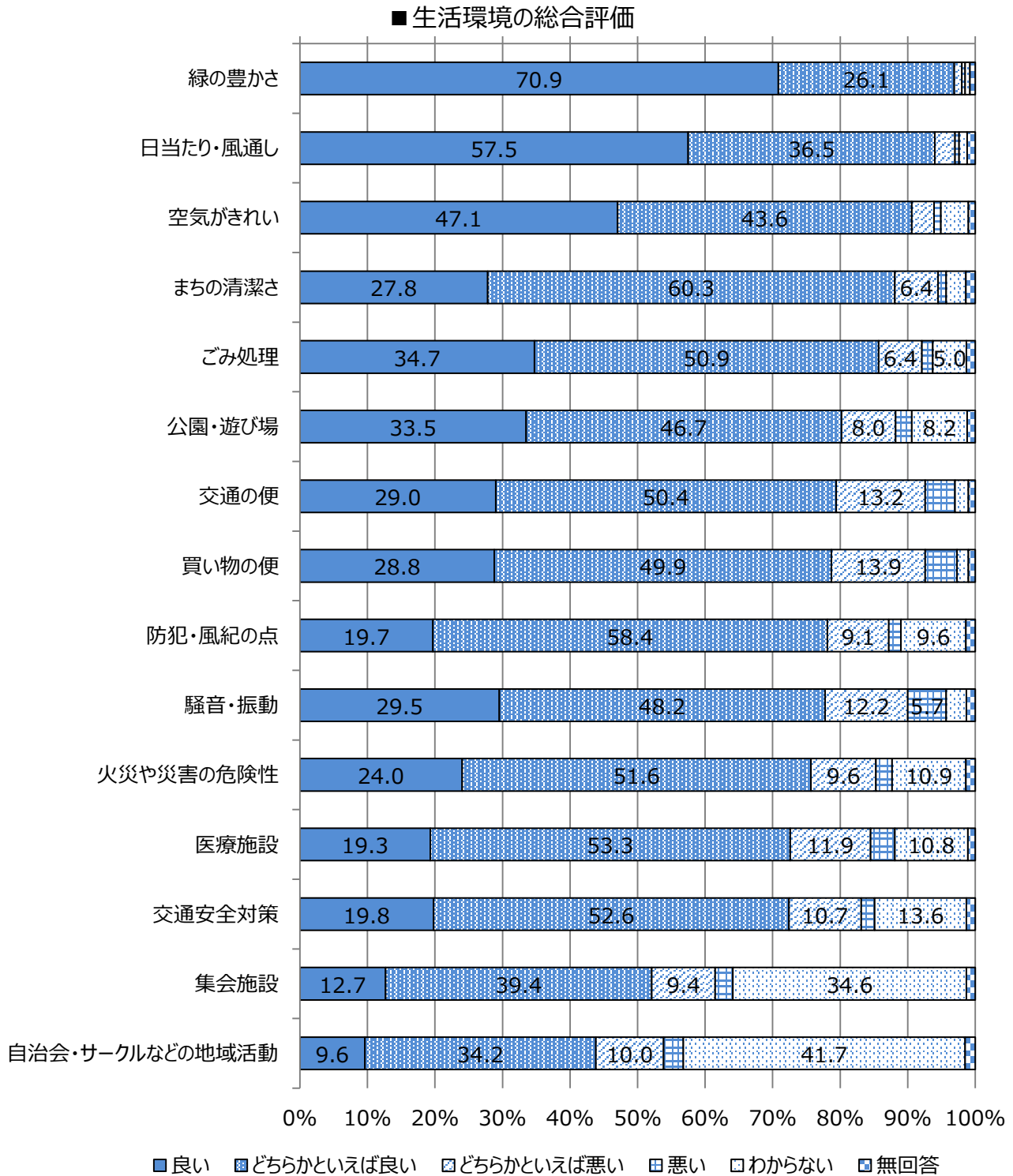


出典：多摩市政世論調査（令和3年度）

Ⅲ-3 生活環境の総合評価

評価が高い項目は、「緑の豊かさ」、「日当たり・風通し」、「空気がきれい」であり、過去から比較すると、数値も横ばい傾向です。これらが多摩市の特徴として考えられます。

他方、「自治会・サークルなどの地域活動」、「集会施設」については他項目と比較すると評価が低く、過去から比較すると、数値は減少傾向にあります。



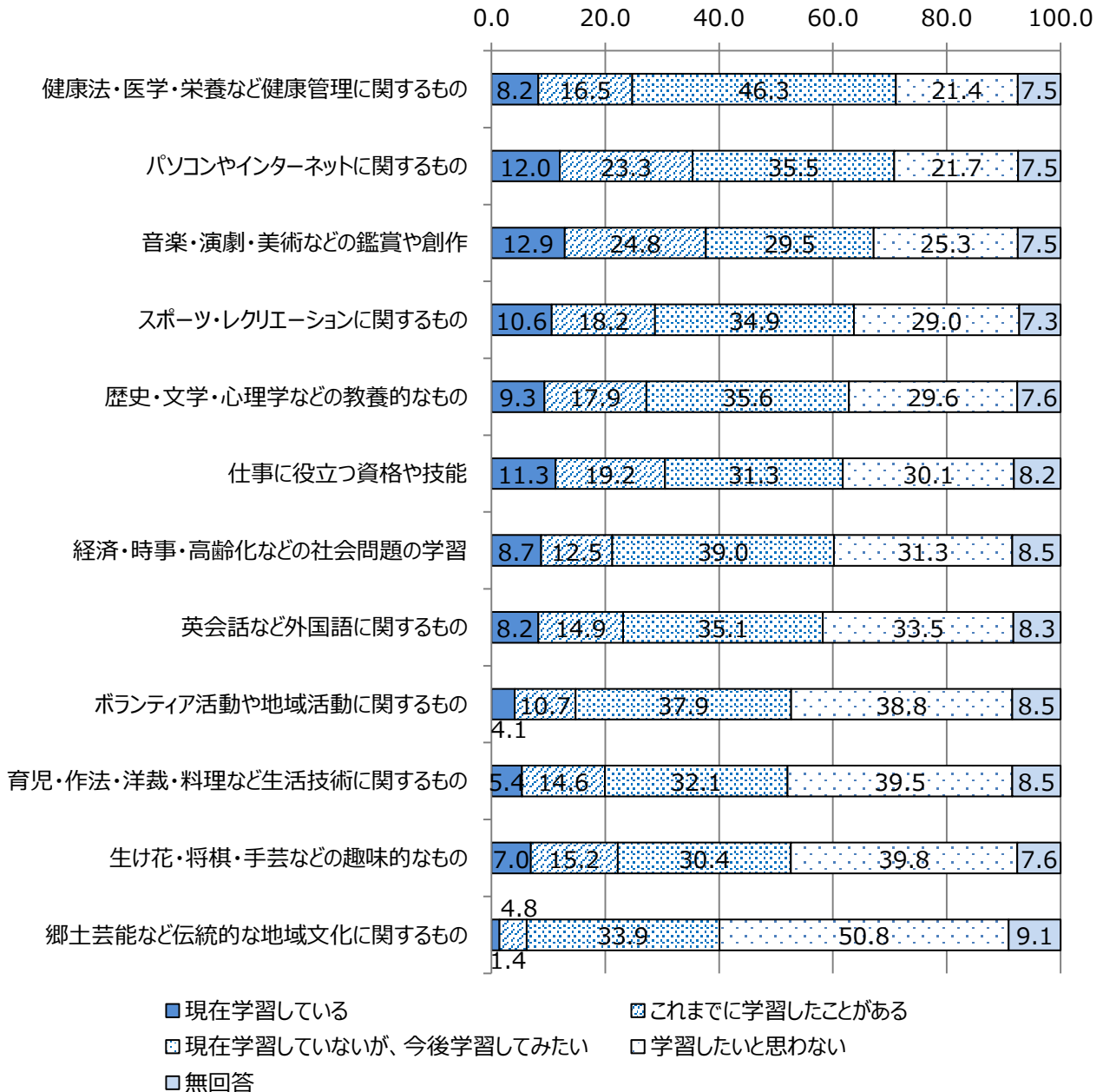
出典：多摩市政世論調査（令和3年度）

Ⅲ-4 生涯学習への参加状況

私たちは、学校を卒業して社会に出てからも、仕事に関わる分野の勉強や、豊かで充実した人生を送るために趣味を持つなど様々な学習の機会があります。令和3年度の市政世論調査では、ほとんどの分野において半数以上が現在学習している、これまでに学習したことがある、今後学習してみたいと回答しています。

特に、健康などに関するもの、パソコンやインターネットに関するもの、音楽・演劇・美術などの芸術鑑賞への関心が高いことがわかります。

■ 生涯学習への参加状況



出典：多摩市政世論調査（令和3年度）

Ⅲ-5 1人当たりの個人貸出冊数（26市比較）

図書館の利用の状況を1人当たりの個人貸出冊数で比較すると、多摩市は10.5冊で、26市中3位となっています。この数字からは、図書館の利用が市民に広く行き渡っていることが読み取れます。26市の中でも上位に入る背景には、市内に図書館施設が7館1分室と充実していること、1回あたりの貸出冊数制限がないことなど、図書館サービスの充実に努めていることが考えられます。

No	自治体名	冊数
1	武蔵野市	15.7
2	稲城市	12.5
3	多摩市	10.5
4	調布市	10.0
5	福生市	9.8
6	西東京市	9.4
7	三鷹市	8.4
8	立川市	8.4
9	日野市	8.3
10	あきる野市	7.8
11	町田市	7.6
12	府中市	7.4
13	東大和市	7.4
14	小金井市	7.0
15	小平市	6.8
16	東久留米市	6.7
17	清瀬市	6.6
18	青梅市	6.4
19	狛江市	6.1
20	国立市	6.1
21	東村山市	6.1
22	国分寺市	5.7
23	羽村市	5.2
24	昭島市	5.1
25	武蔵村山市	4.2
26	八王子市	3.8
(参考) 26市平均		7.7

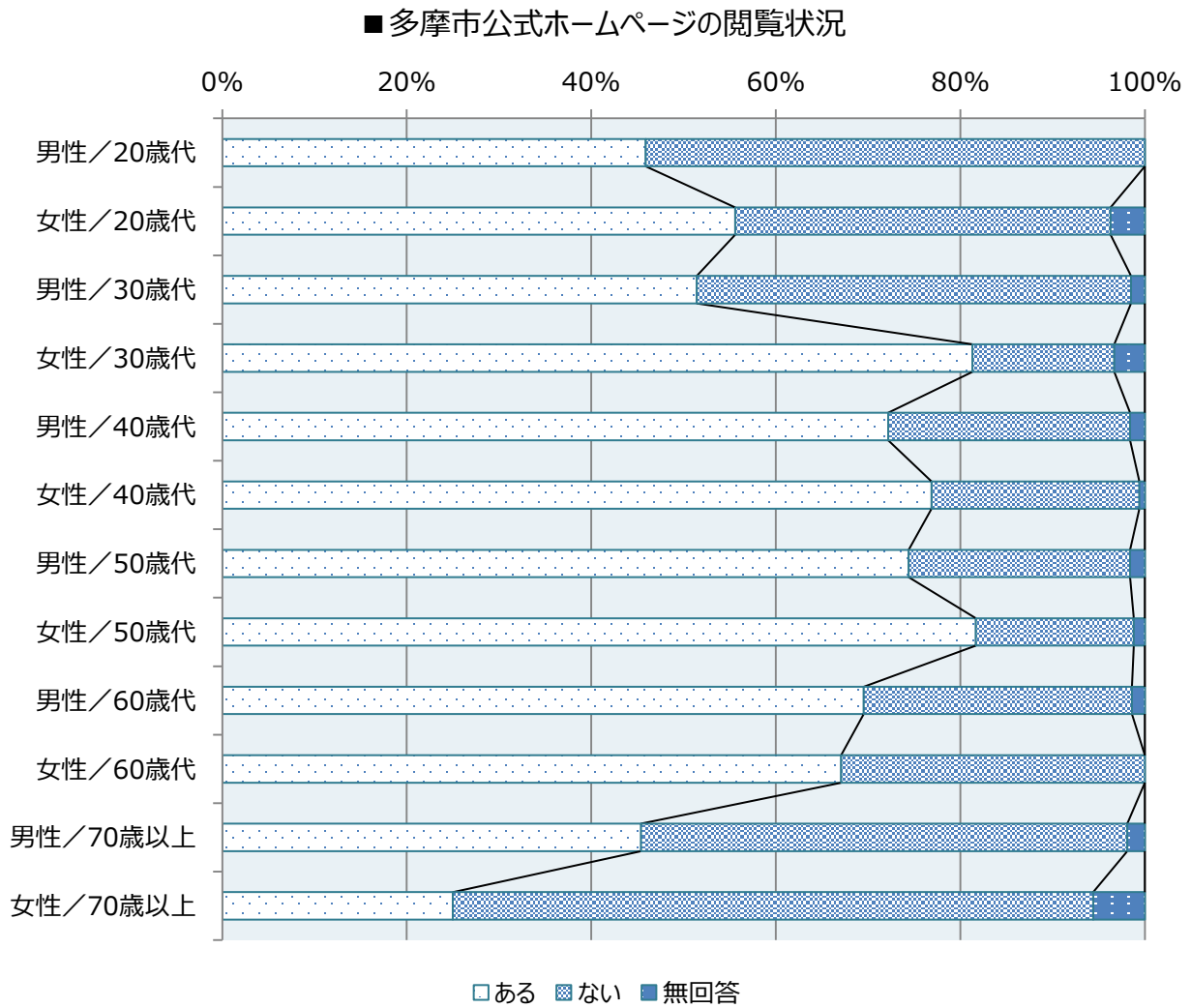
1人当たりの個人貸出冊数 = 貸出総数 ÷ 人口

*貸出総数(令和2年度東京都公立図書館調査)

*人口(令和2年国勢調査 人口等基本集計)

Ⅲ-6 多摩市公式ホームページの閲覧状況

多摩市公式ホームページの閲覧状況を見ると、30～50 歳代で閲覧割合が高いのに対し、20 歳代・70 歳代では「閲覧したことがない」の割合も目立つことが分かります。70 歳代はインターネットに触れる機会が少ないこと、20 歳代は市政への関心が薄いことが影響しているものと推測されます。

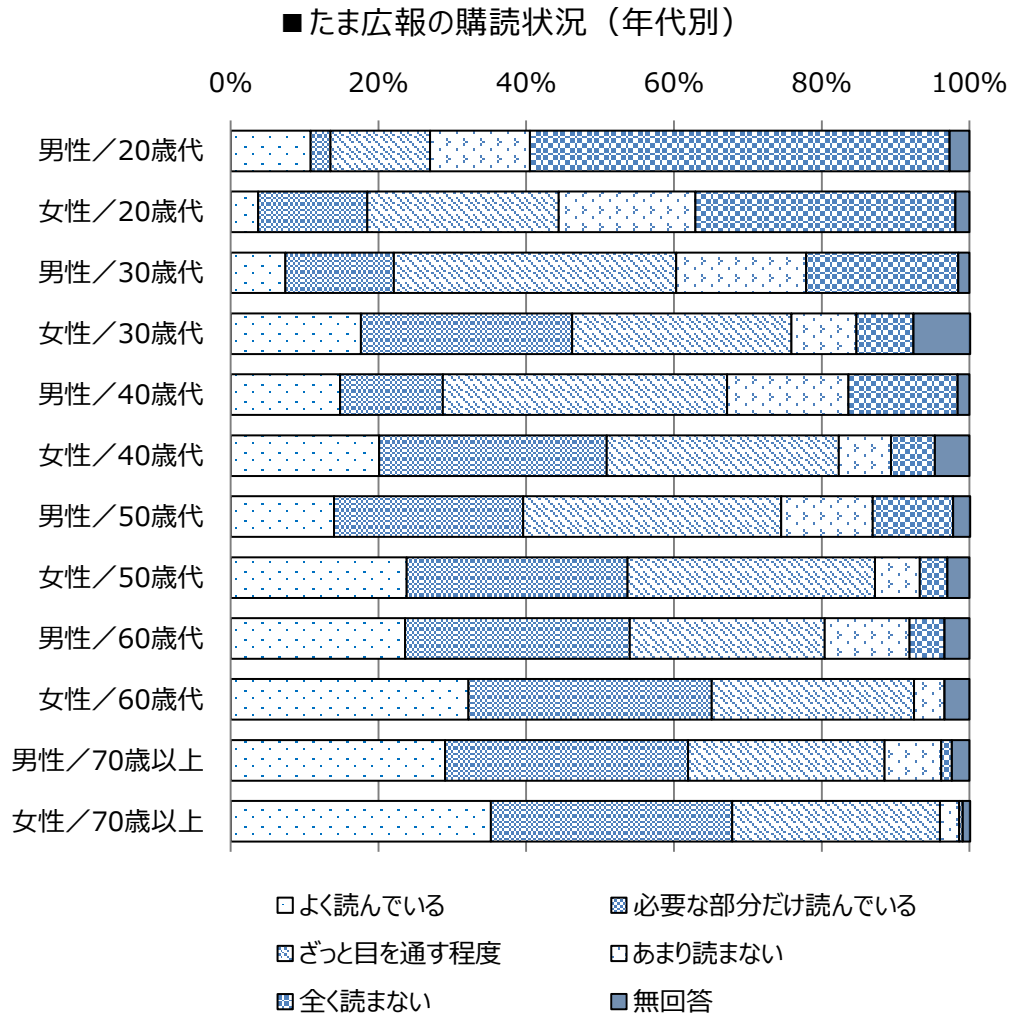


出典：多摩市政世論調査（令和3年度）

Ⅲ-7 「たま広報」の購読状況

「たま広報」の購読状況を年代別にみると、年齢が高くなればなるほどたま広報を読んでいる人の割合が高いことが分かります。

たま広報を全戸配布するようになったこともあり、若い年代の方々の割合が増えています。

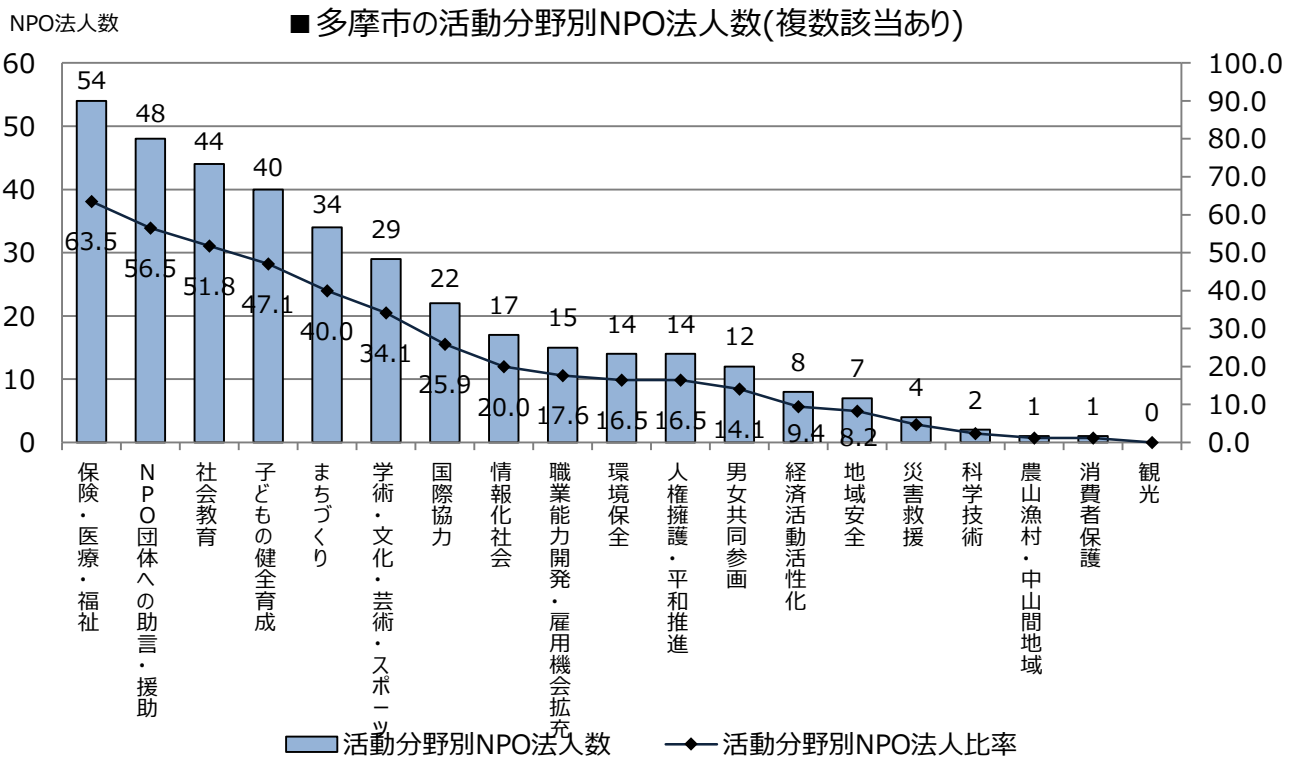
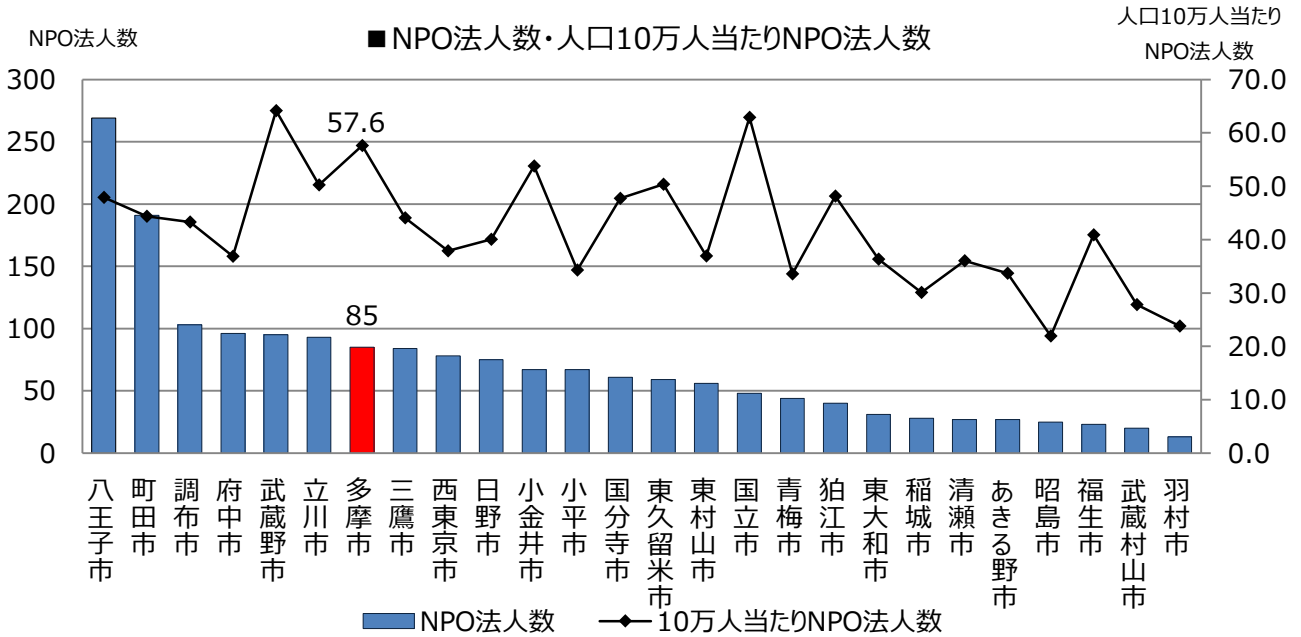


出典：多摩市政世論調査（令和3年度）

Ⅲ-8 NPO 法人数 (26 市比較)

多摩市の NPO 法人数は 85 で 26 市中 7 番目に多く、人口 10 万人当たりの NPO 法人数は 57.6 で 26 市中 3 番目となっています。これらの数字からは、多摩市の NPO 法人数は相対的に多いといえ、地域活動が盛んであることがうかがえます。

多摩市の活動分野別 NPO 法人数は、定款に記載された特定非営利活動の種類(複数の項目に該当する法人もある)を多い順に集計したもので、他市の傾向と概ね同じです。



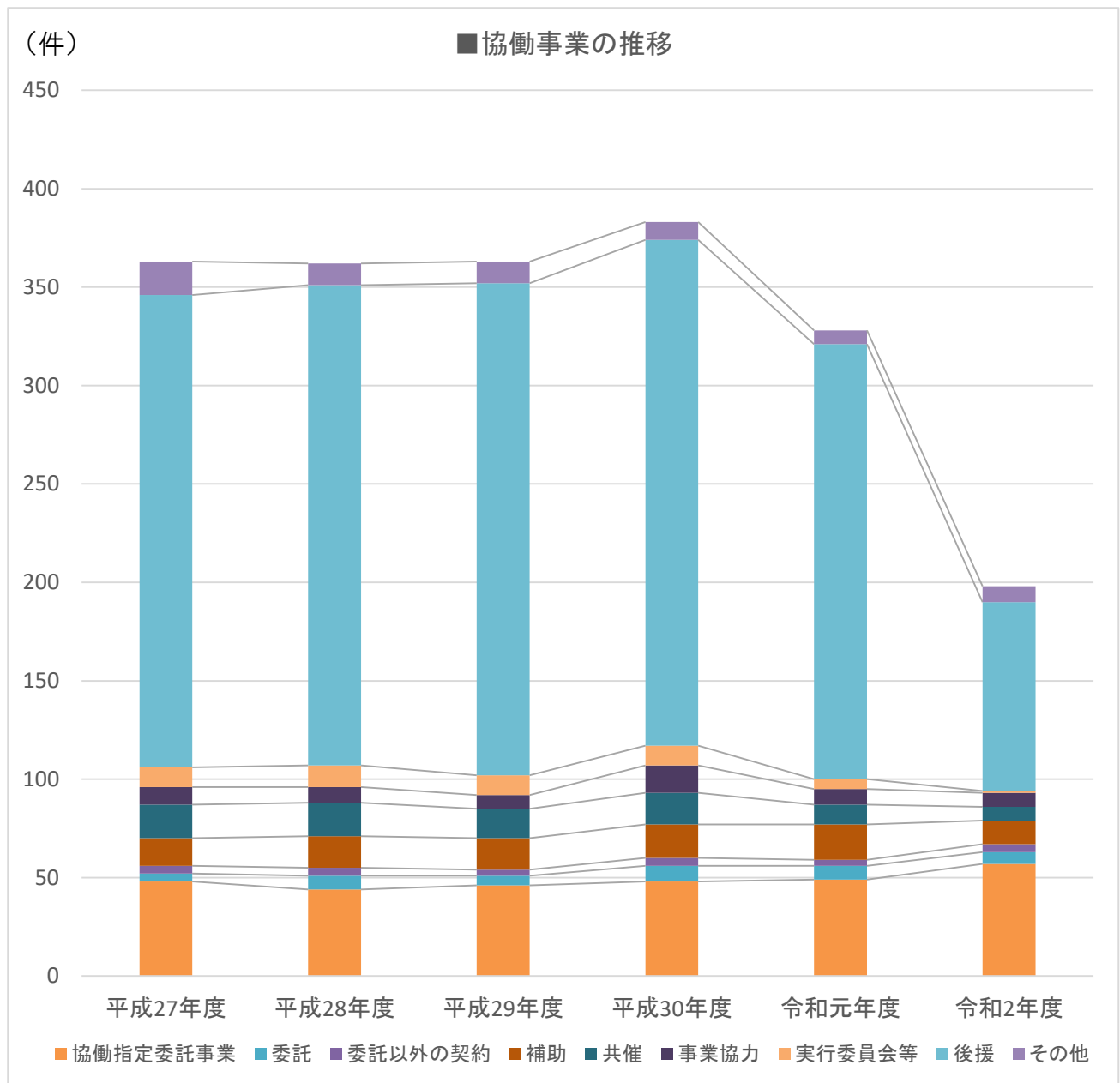
出典：東京都生活文化局 NPO 法人ポータルサイト（令和4年2月1日確認）
住民基本台帳による東京都の世帯と人口（令和4年1月1日）

Ⅲ-9 協働事業の推移

今日の社会では、市民団体や企業、大学など多様な主体と連携し、地域の課題解決に向けて取り組むことが求められています。多摩市においても、市民の視点で課題を捉え、市民の様々なニーズに対して質の高い公共サービスを提供するため、協働事業を推進しています。

協働事業の種類	例
協働指定委託事業	コミュニティセンター管理運営事業など
委託	学校施設等使用券売払事務業務委託 フレイル予防事業業務委託など
委託以外の契約	親水水路等奉仕活動 公園愛護会活動など
補助金	多摩市自治連合会補助金 集会所用地借上料補助金など
共催	生ごみリサイクル講習会 市民企画講座など
事業協力	小学生対象科学等体験講座 サロンライトコンサートなど
実行委員会	フォーラム等開催
その他	アダプト制度や図書館障がい者サービス事業

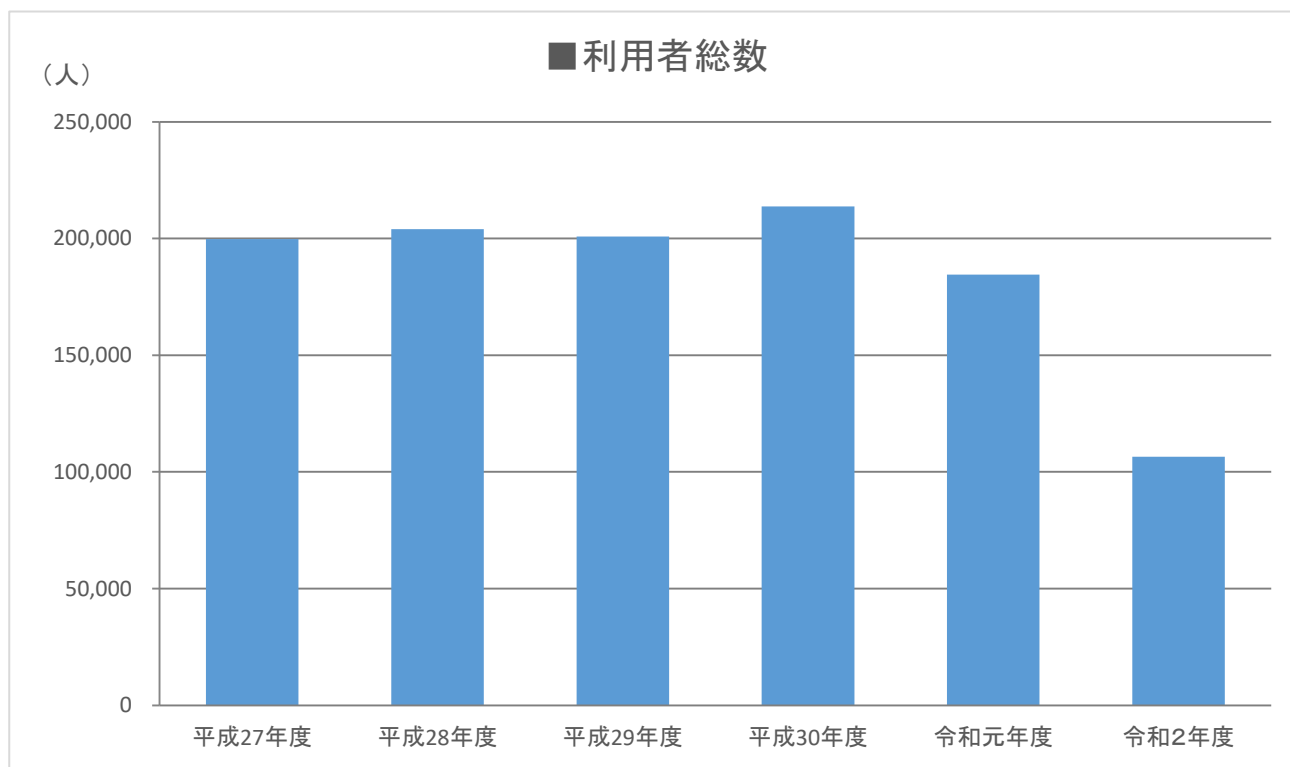
協働事業数の推移をみると、協働事業数全体は平成 27 年度以降 360 件程度で推移しており、特に「後援」の割合が多くを占めていることが分かります。新型コロナウイルスの影響により令和元年度より事業数が減っています。



出典：市民団体等との協働事例集（令和2年度実績）

Ⅲ-10 総合体育館の利用状況の推移

総合体育館の利用状況を見ると、平成27年から平成30年にかけて、増加傾向であることが見て取れます。理由としては平成27年度より指定管理制度の導入した成果が考えられますが、令和2年度は新型コロナウイルスの影響により大幅な減少が見受けられます。

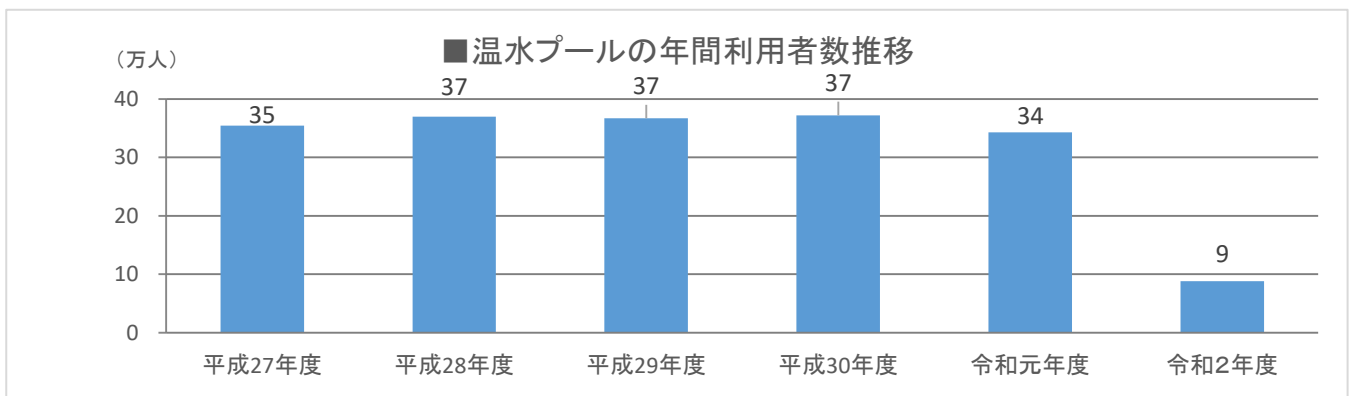
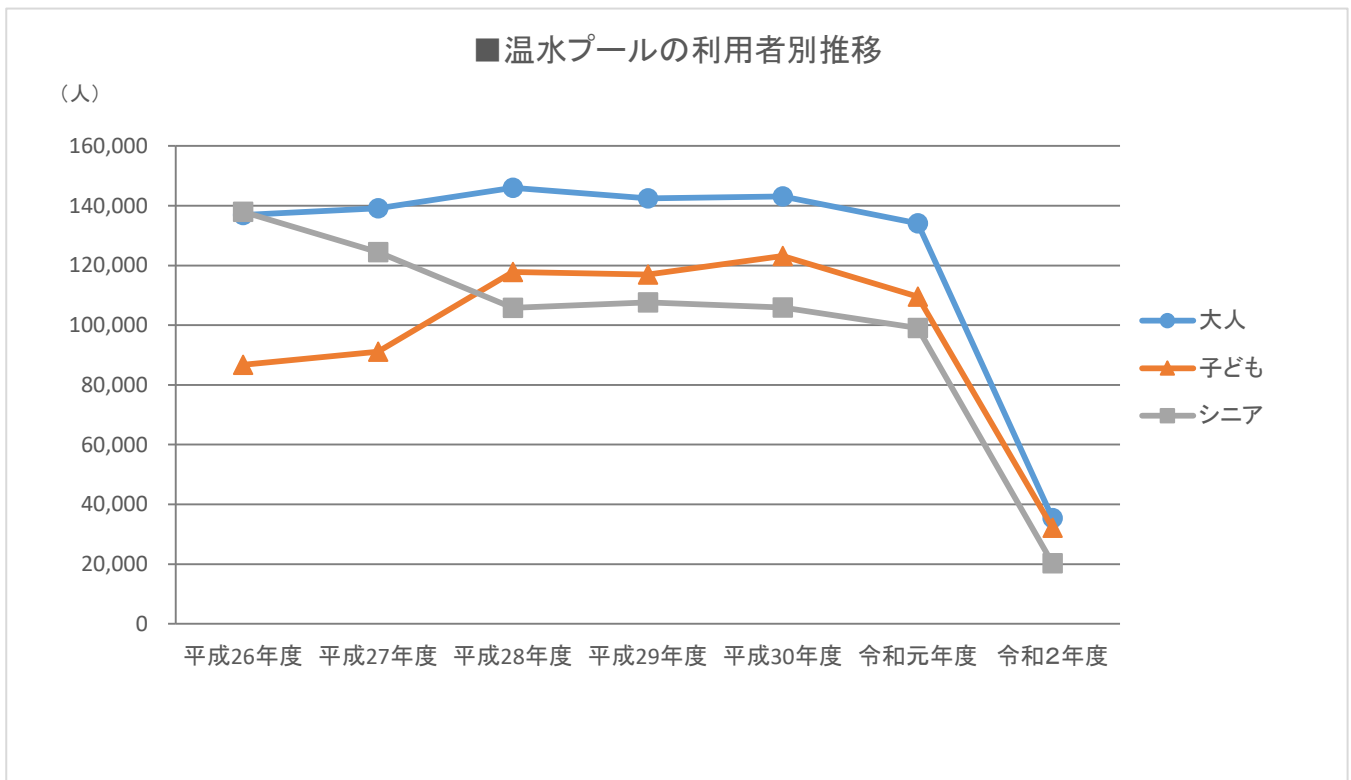


出典：くらしと文化部スポーツ振興課

Ⅲ- 1 1 温水プールの利用状況の推移

温水プールの利用状況を見ると、年間利用者総数は35万人から37万人の間を推移しており安定的な利用があります。平成28年度をピークに一定の推移をえていましたが、令和2年度は新型コロナウイルスの影響を受けて減少しています。

利用の内訳についてですが大人、子ども、シニアの三区別とすると年度によって増加、減少はありますが、大人の利用者が多いことがわかります。28年度から子供の利用が増えているのは、指定管理者が自主事業として子供を対象にした水泳教室を拡充している理由が考えられます。引き続き、多くの方に利用して頂くために、より大人、シニアに使っていただくことも大事だと考えます。

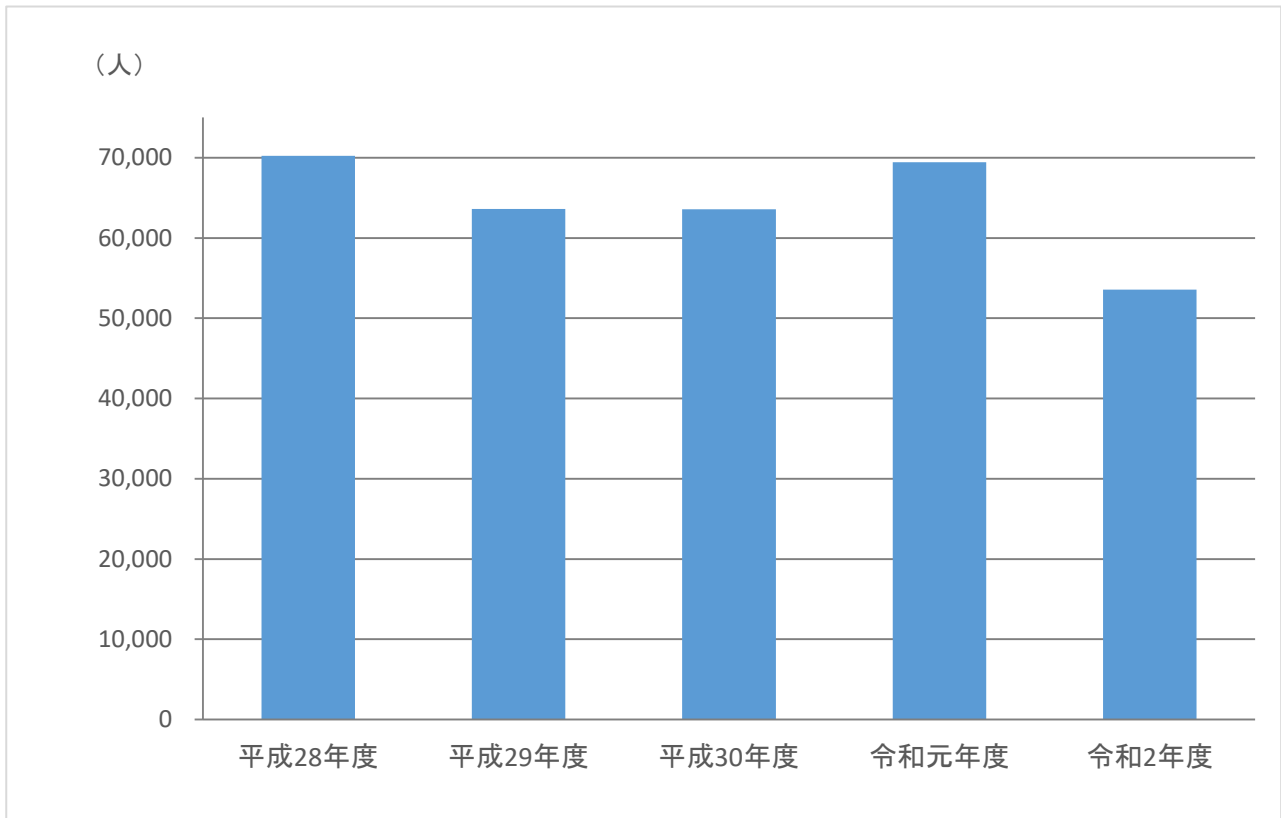


出典：くらしと文化部スポーツ振興課

Ⅲ-12 文化財関係施設の見学者等の推移

文化財関係施設の見学者数の推移は、平成28年度から令和元年度にかけて、増減が見受けられます。これは、展示等の内容により変動があります。

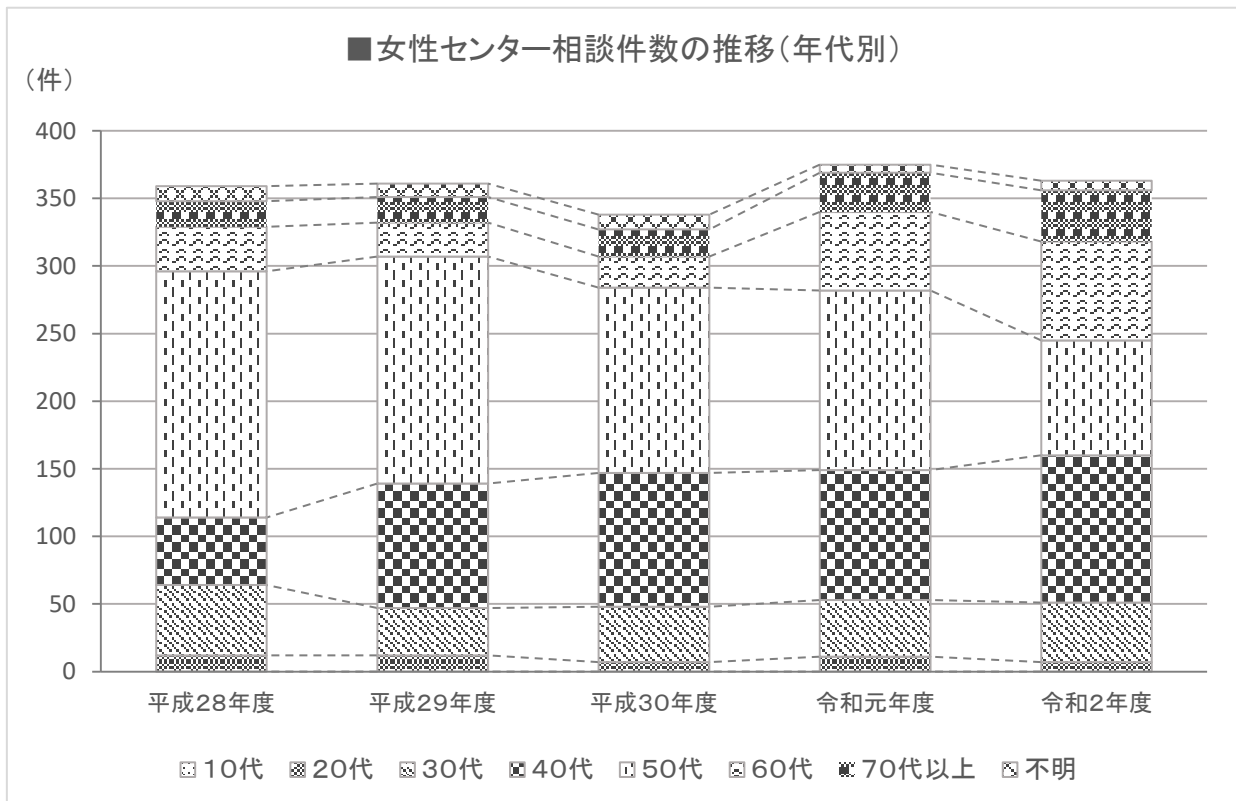
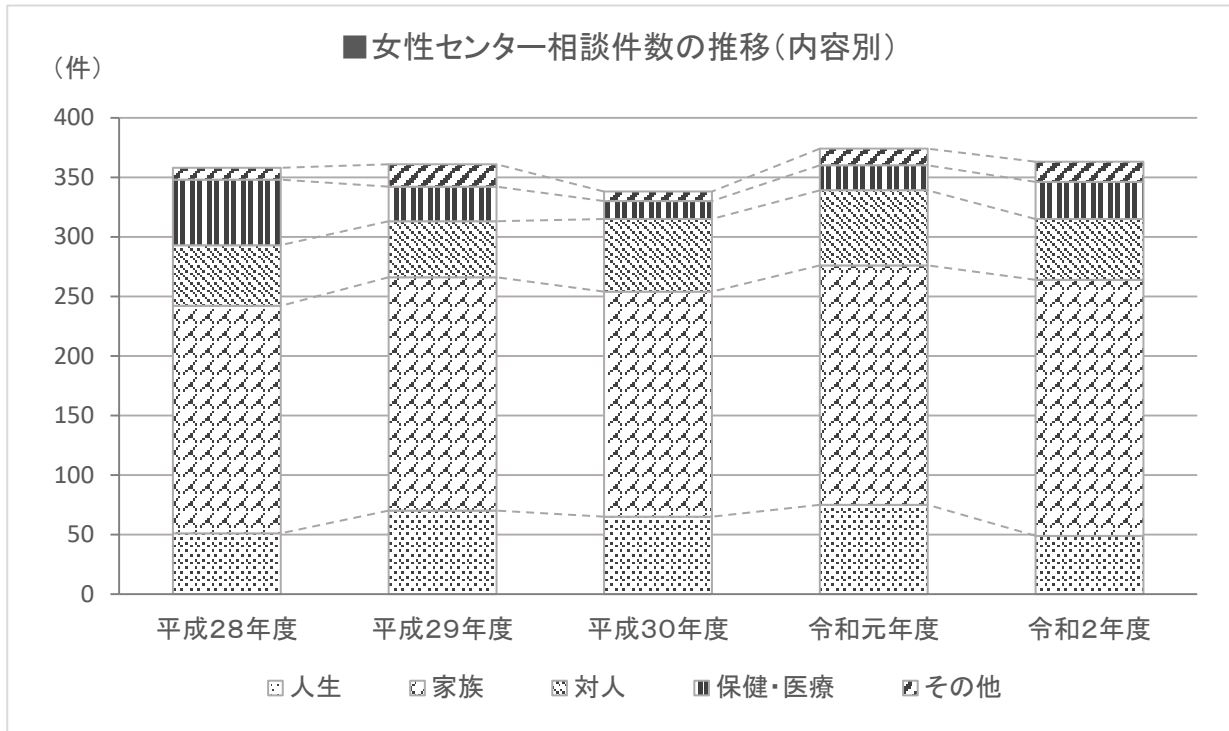
■ 文化財関係施設の見学者等の推移



出典：教育部教育振興課

Ⅲ-13 女性センターにおける相談件数の推移

平成 28 年度から令和 2 年度にかけての女性センターの相談件数は 350 件前後で推移しています。平成 26 年度では 500 件近い相談件数があったところ徐々に減少傾向に向かっていると言えます。内容別の相談件数の推移をみると、各種増減があるものの、大きな変化はないと言えます。また、年代別の相談件数の推移をみると、この 5 年間で 40 代・60 代の相談件数が増えているのに対し、50 代の相談件数が減少していることがわかります。

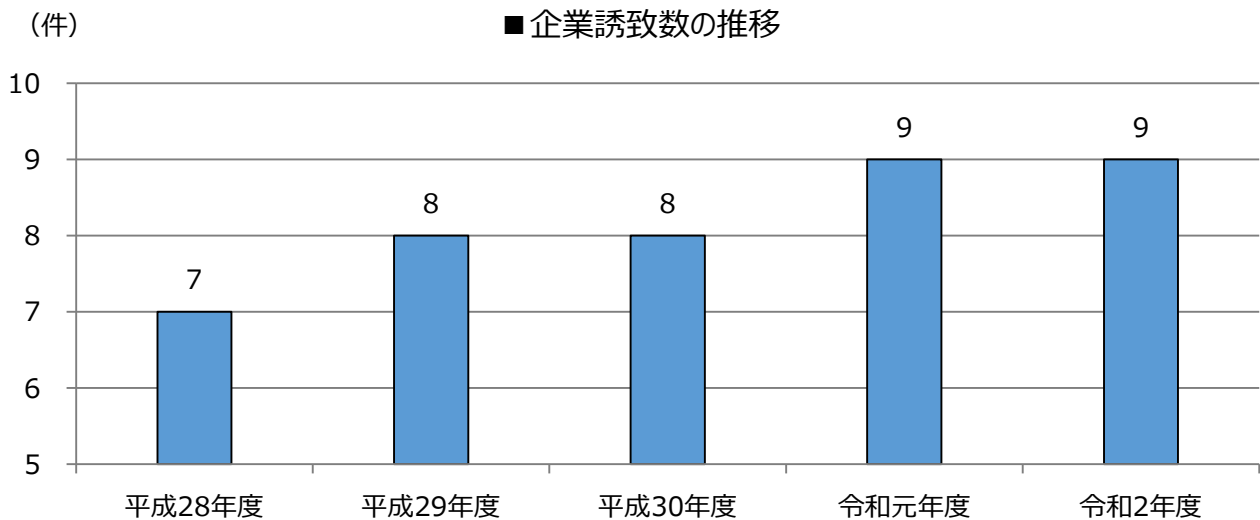


第IV節 働き、学び、遊び みんなが活気と活力を感じるまち

IV-1 企業誘致数の推移

多摩市では、都市再生機構及び東京都と連携し、多摩ニュータウン区域内に新たに業務用地を取得し立地する企業に対して奨励措置を講じ、企業誘致を推進しています。

なお、多摩市企業誘致条例の規定に基づき、奨励企業として指定された企業は、5年（又は3年）の間、年間最大1億円（本社設置の場合は最大1億2千万円）の奨励金が交付されています。



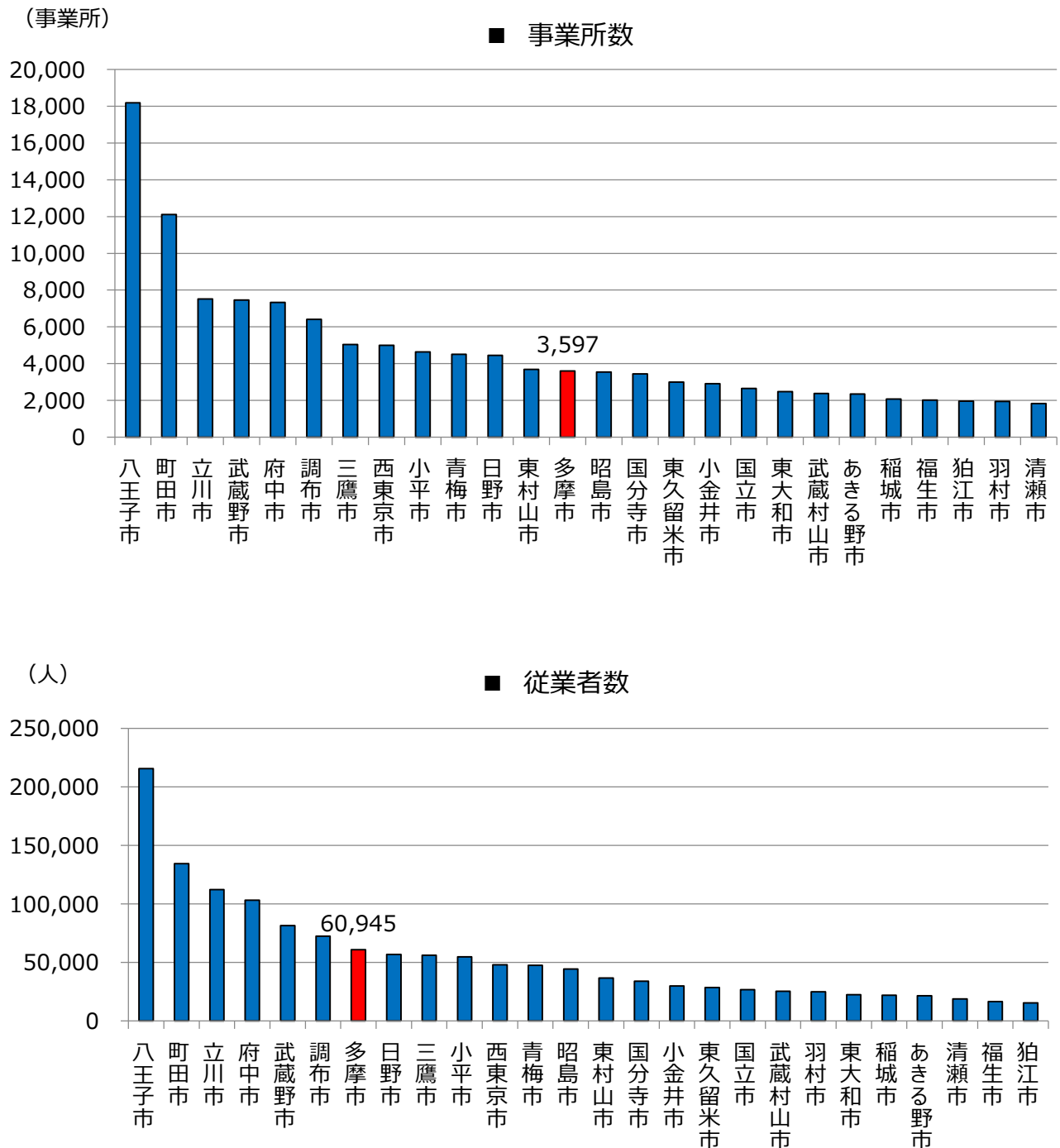
出典：市民経済部経済観光課

※令和2年4月1日現在の指定企業は次のとおり。

指定年月日	会社名	概要
平成17年5月11日	株式会社グリーン・ワイズ	世田谷区からの本社移転
平成19年5月29日	SCSK株式会社 (旧・株式会社CSK)	新設および一部市内移転
平成19年11月20日	京西テクノス株式会社	八王子市および都内からの本社移転
平成20年5月21日	KDDI株式会社(1)	多摩市内で拡張
平成21年11月16日	JUKI株式会社	調布市および都内からの本社移転
平成23年5月27日	株式会社きらぼし銀行 (旧・株式会社東京都民銀行)	研修センターおよびコールセンターの新設
平成24年8月20日	株式会社野村総合研究所	データセンターの新設
平成30年3月1日	株式会社長谷工コーポレーション	長谷工テクニカルセンターの新設
令和2年2月1日	KDDI株式会社(2)	LINK FOREST (リンクフォレスト) の新設

IV-2 事業所数及び従業者数（26市比較）

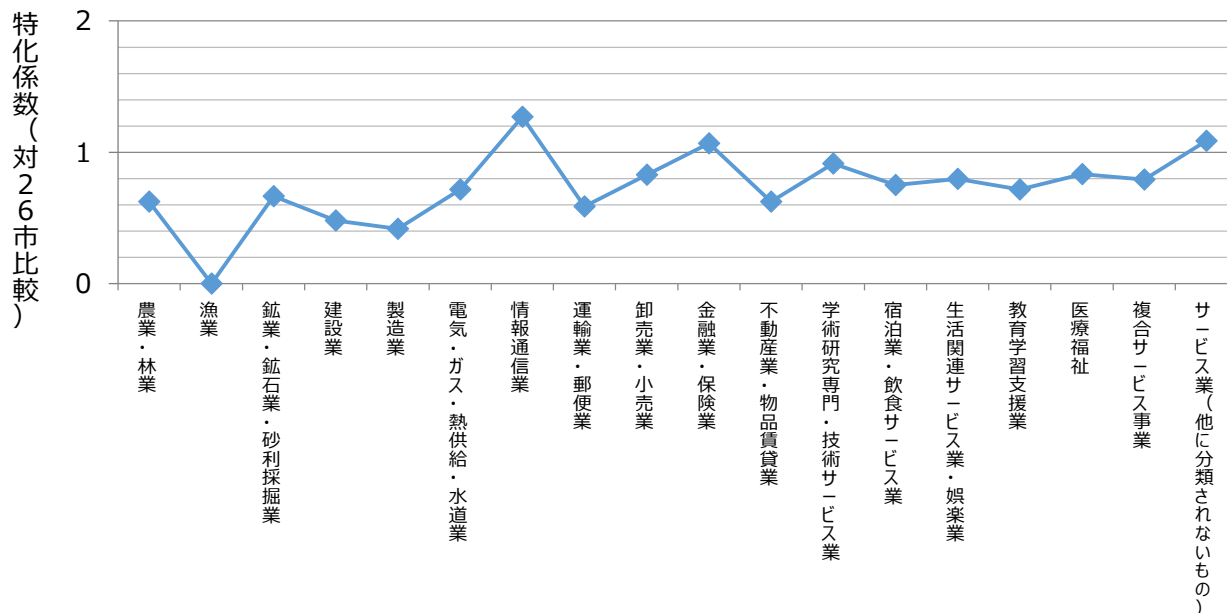
市内の事業所数は、3,597 事業所、従業者数は、60,945 人です。近隣26市との比較では、事業所数は13番目、従業者数は7番目に位置しています。



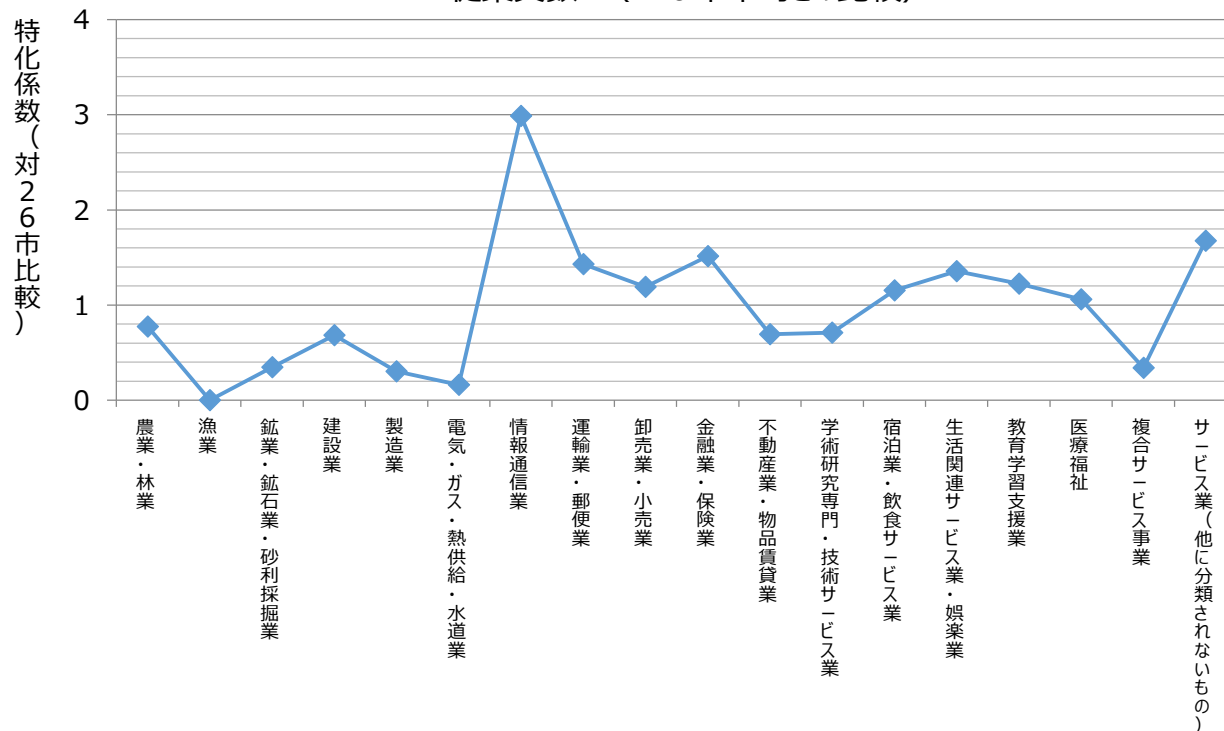
出典：総務省統計局「平成28年経済センサス-活動調査結果」（平成28年6月1日現在）

下図は、本市と近隣26市とを比した特化係数のグラフです。特化係数とは、産業の業種構成等につき、ある地域の構成比と、当該地域が含まれる集団の平均構成比とを比較した数値であり、上図からは、本市において情報通信業やサービス業（他に分類されないもの）が盛んであることが伺えます。

■ 事業所数（26市平均との比較）



■ 従業員数（26市平均との比較）

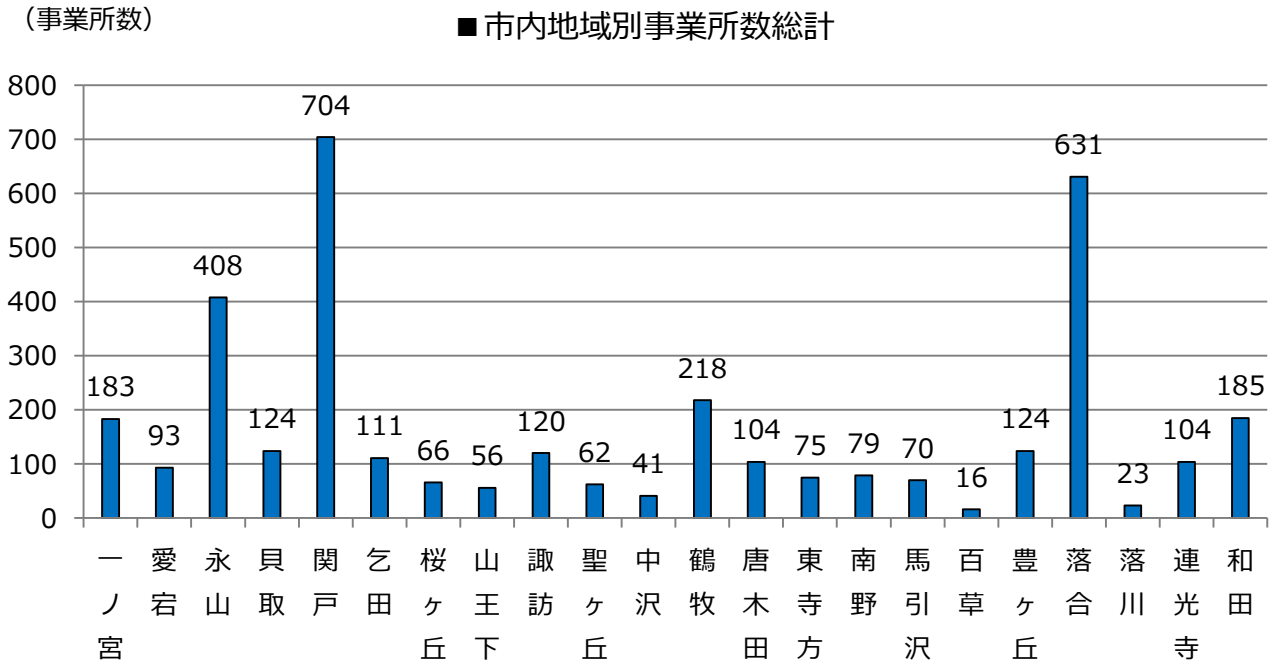


出典：総務省統計局「平成28年経済センサス-活動調査結果（平成28年6月1日時点）」

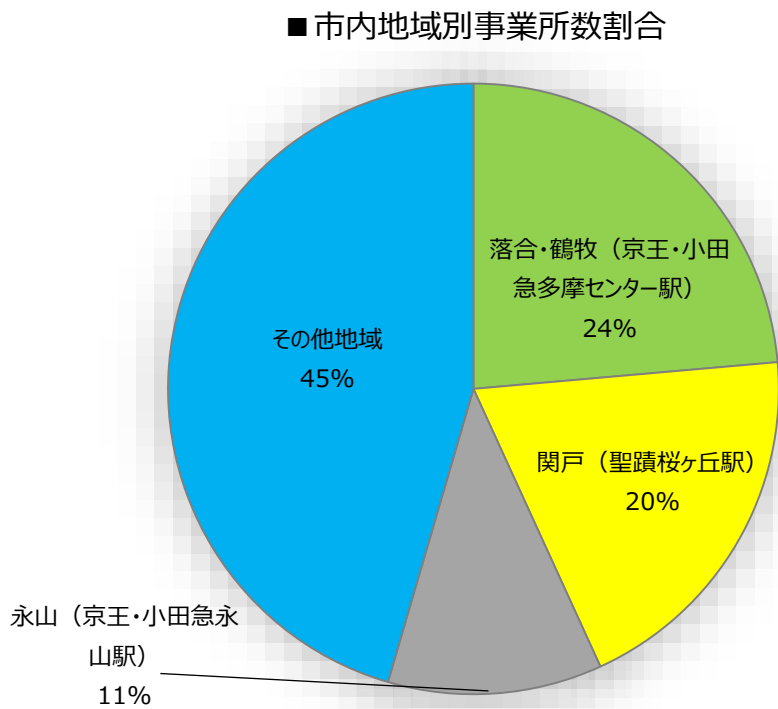
※平成28年経済センサス-活動調査では、「公務（ほかに分類されるものを除く）」が調査対象外

IV-3 市内地域別事業所数及び従業者数

市内の事業所を地域別にみると、関戸地区が最も多く、704事業所です。次は落合地区で、631事業所です。落合地区は、多摩センター地区開発の影響等で、その数を大きく増やしていることがわかります。



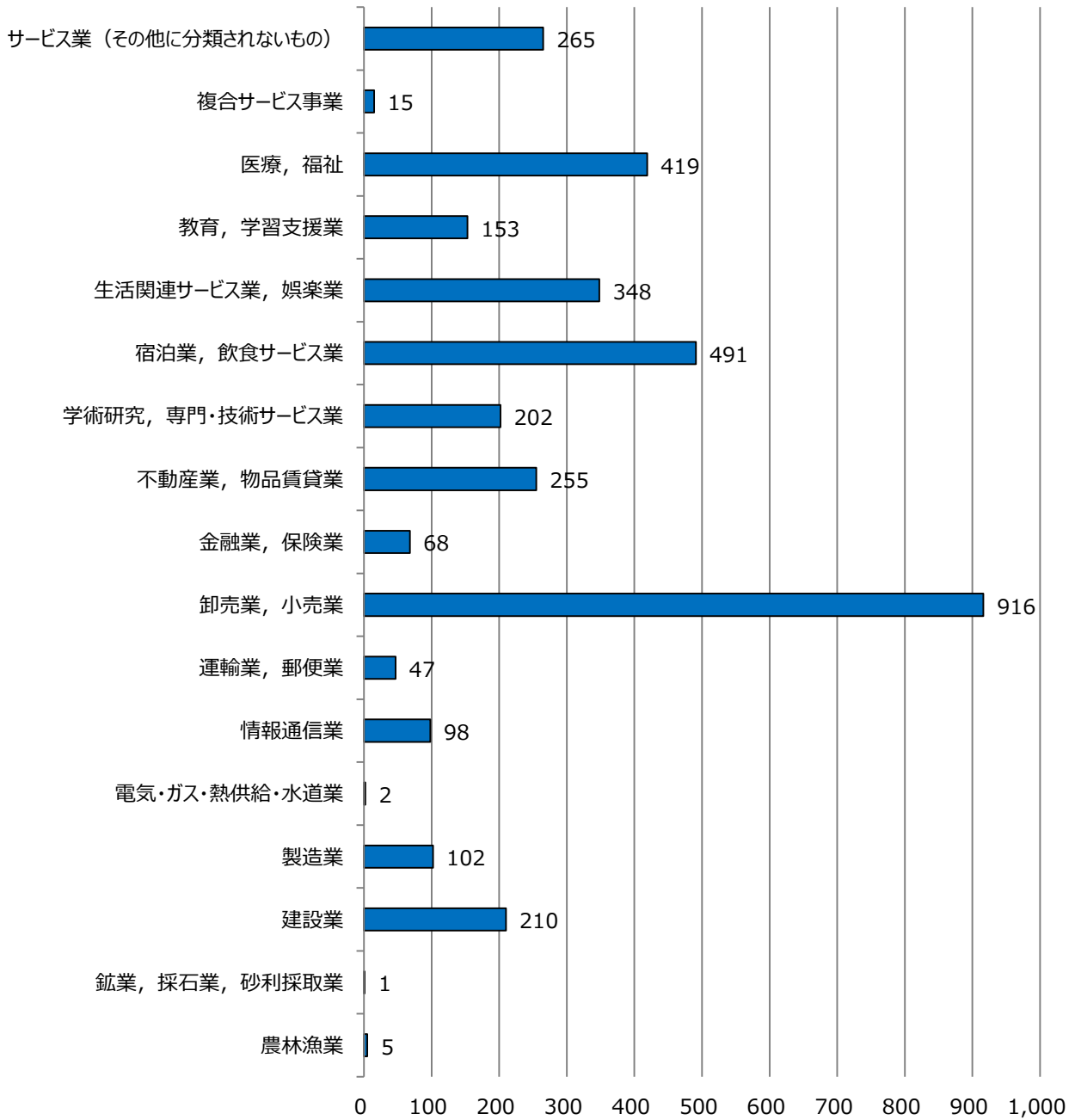
出典：総務省統計局「平成28年経済センサス-活動調査結果（平成28年6月1日時点）」



出典：総務省統計局「平成28年経済センサス-活動調査結果（平成28年6月1日時点）」

■ 市内事業所業種統計

(事業所数)

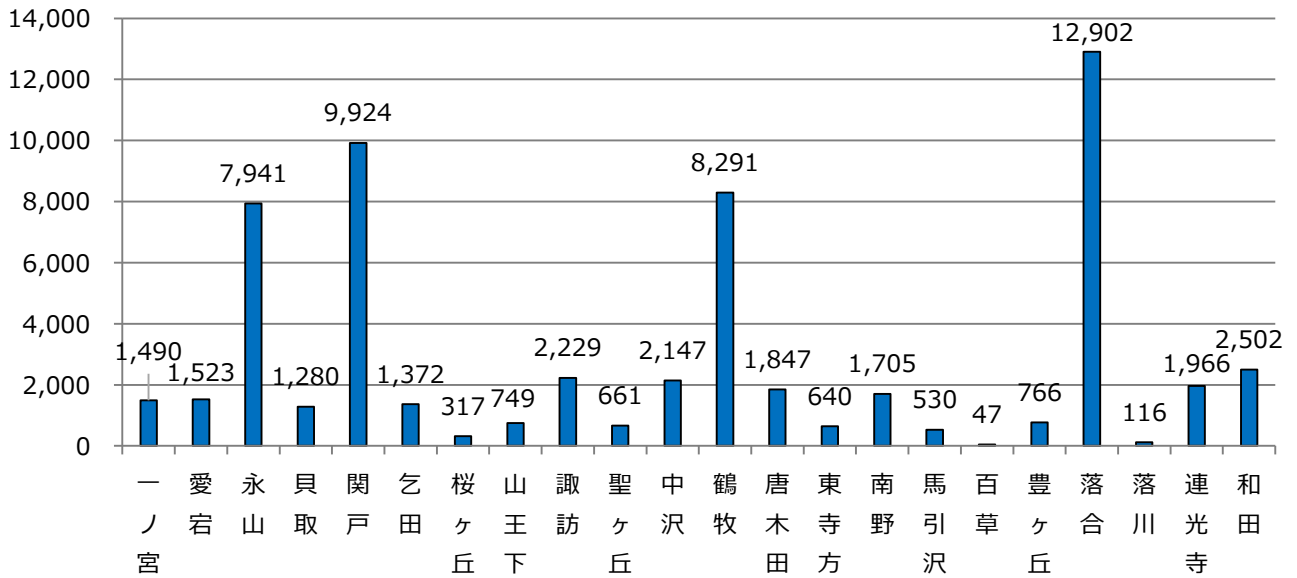


出典：総務省統計局「平成28年経済センサス-活動調査結果（平成28年6月1日時点）」

※平成28年経済センサス-活動調査では、「公務（ほかに分類されるものを除く）」が調査対象外

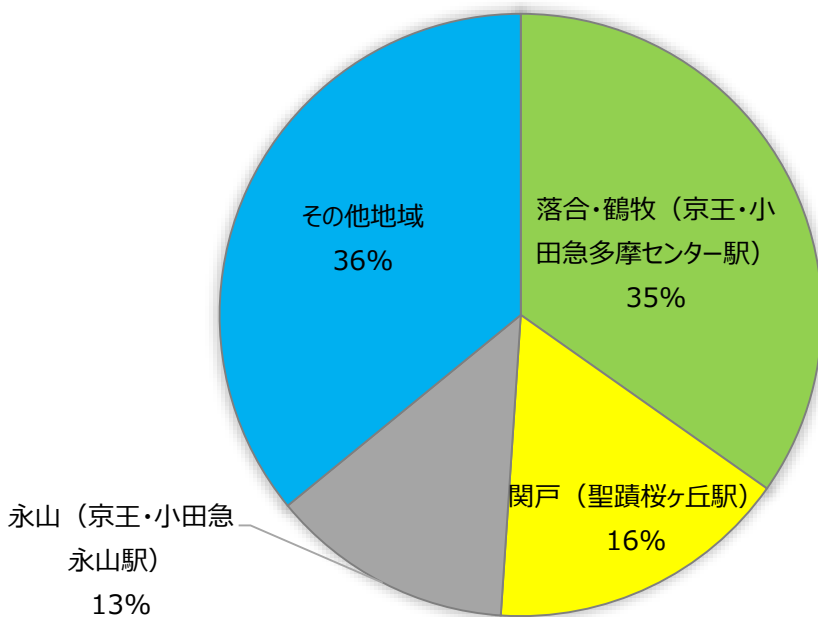
市内の従業員数を地域別にみると、従業所では2番目であった落合地区が最も多く、12,902人です。次は関戸地区で、9,924人です。

■ 市内地域別従業者数



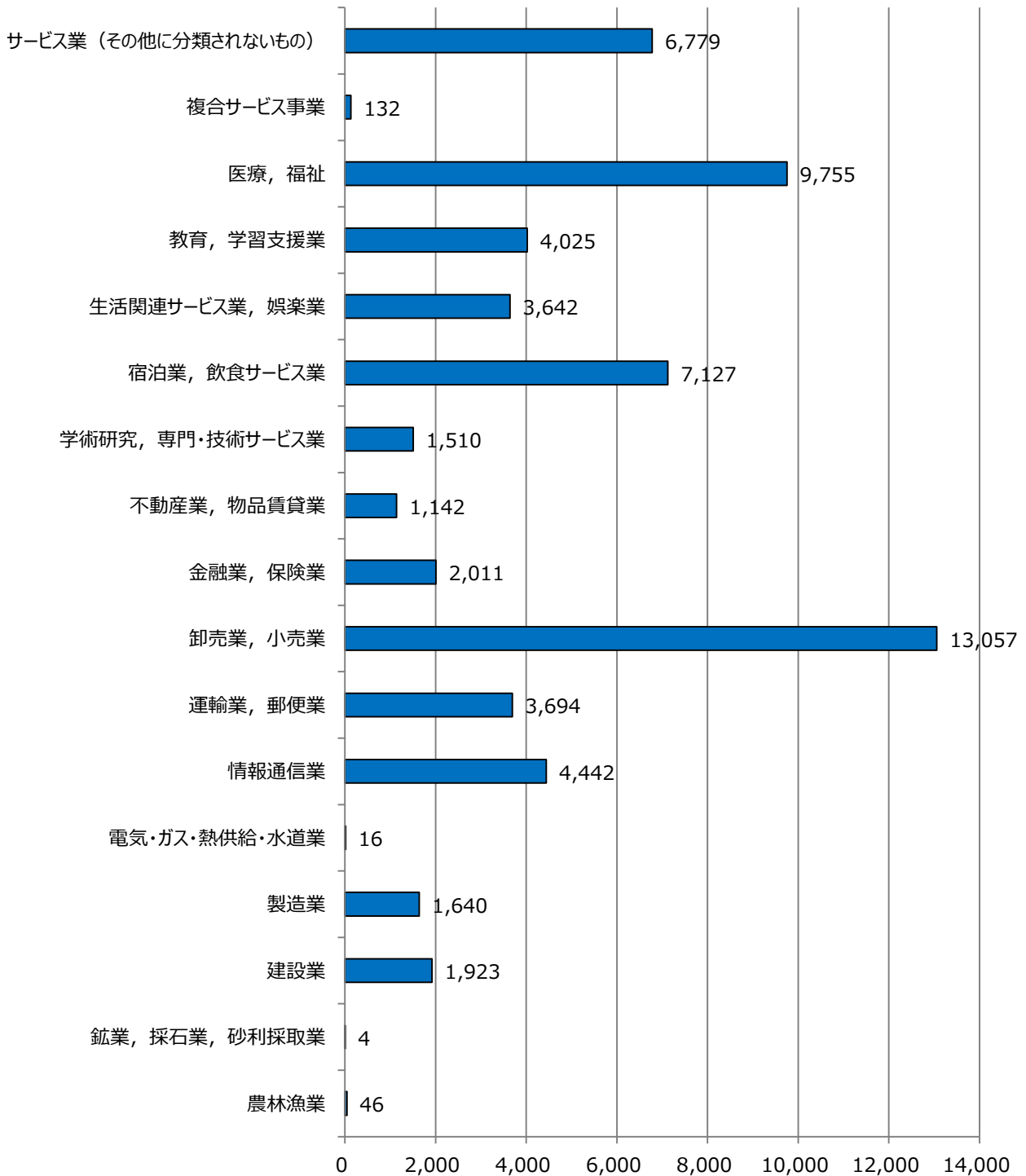
出典：総務省統計局「平成28年経済センサス-活動調査結果（平成28年6月1日時点）」

■ 市内地域別従業者割合



出典：総務省統計局「平成28年経済センサス-活動調査結果（平成28年6月1日時点）」

■ 市内従業者別業種統計



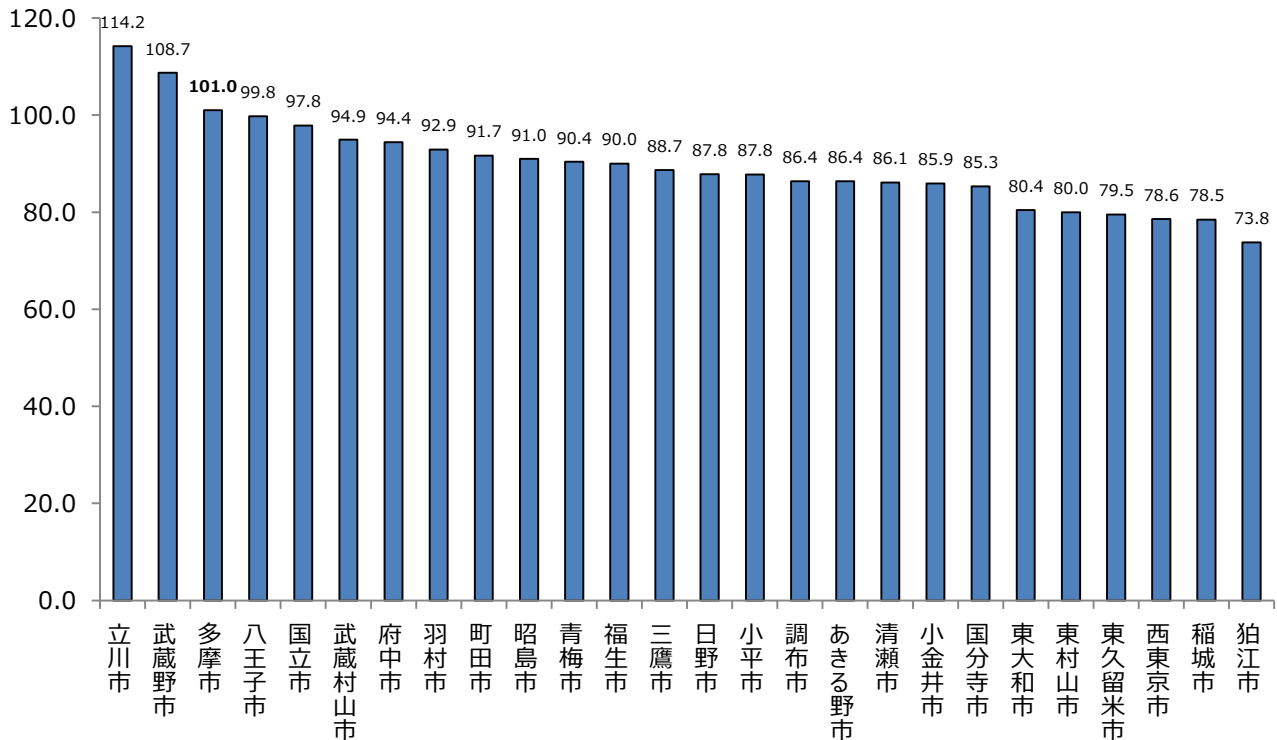
出典：総務省統計局「平成28年経済センサス-活動調査結果（平成28年6月1日時点）」

※平成28年経済センサス-活動調査では、「公務（ほかに分類されるものを除く）」が調査対象外

IV-4 昼夜間人口比率（26市比較）

昼夜間人口比率において、多摩市は26市と比較して高くなっています。昭和60年代、多摩市はベッドタウンとしての印象が強かったですが、近年は企業や大学の誘致を受け、就業・就学人口が増加し、かつてのベッドタウンは学び働き・暮らすまちへと変化してきています。

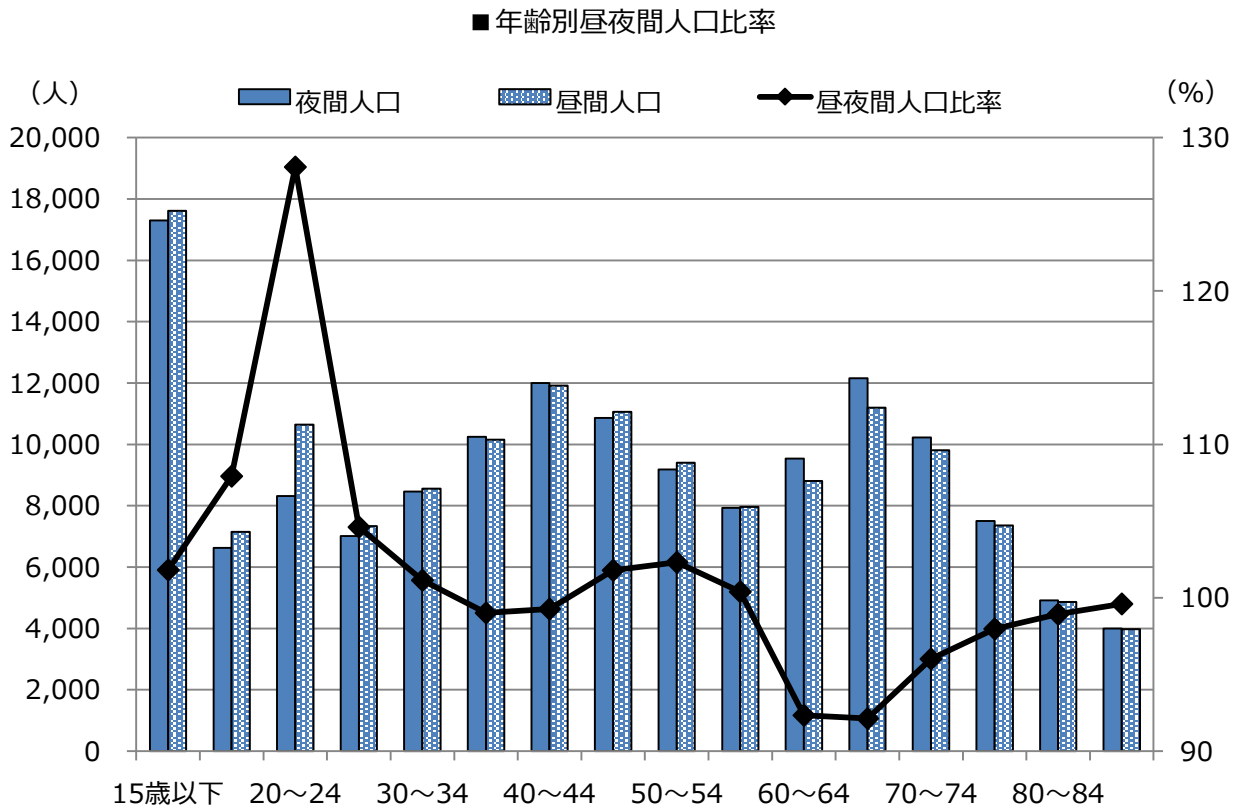
■ 昼夜間人口比率



出典：国勢調査（平成27年度）

IV-5 年齢別昼夜間人口比率

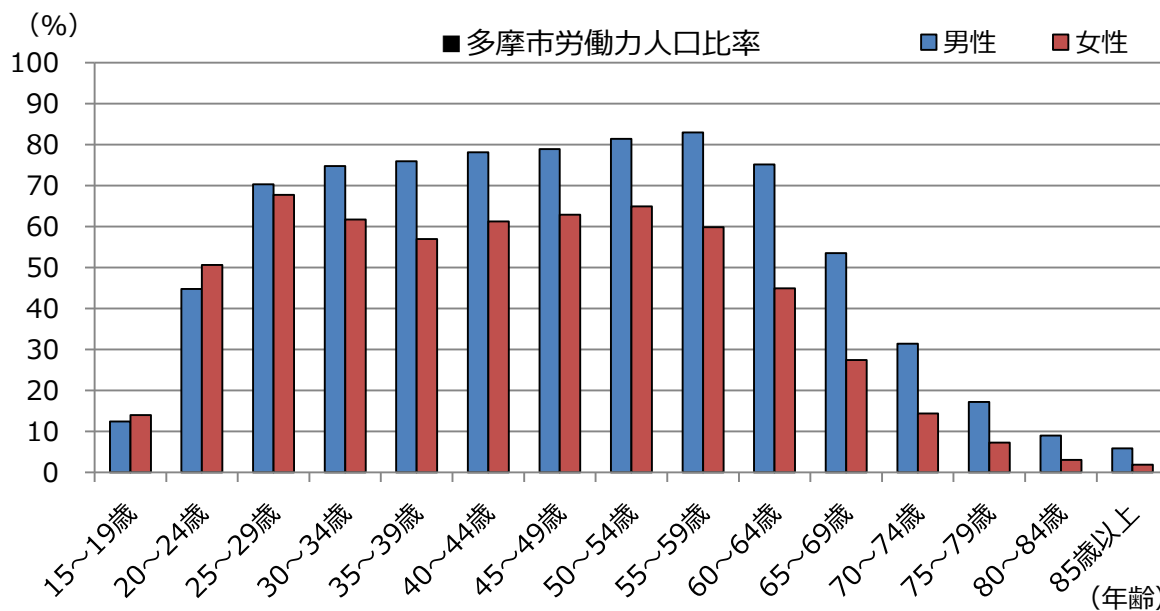
年齢別昼夜間人口比率について、20～24歳が最も高く、65～69歳が最も低くなっています。15～29歳の昼間人口が多い要因は就業・通学人口の流入が要因として考えられます。



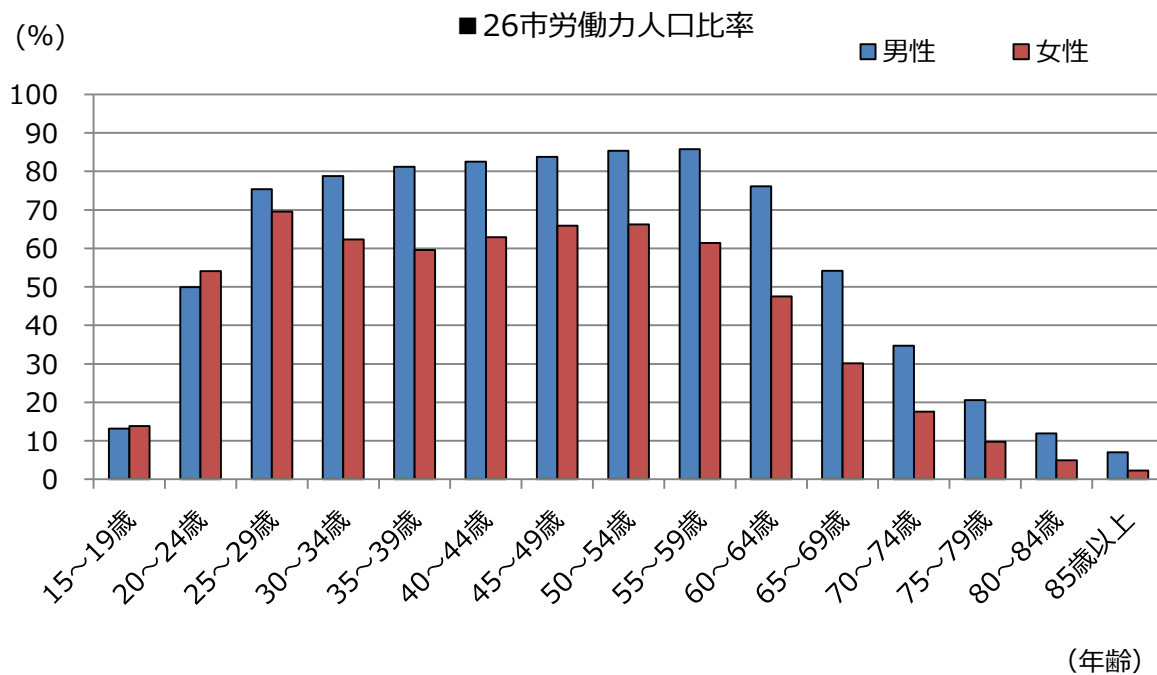
出典：国勢調査（平成27年度）

IV-6 労働力人口比率

労働力人口とは労働する能力及び意志を持つ方の数を指す。多摩市・26市平均で世代ごとの割合の推移はほぼ同じです。多摩市の65歳以上の労働力人口割合はどの年代も26市平均を下回っています。



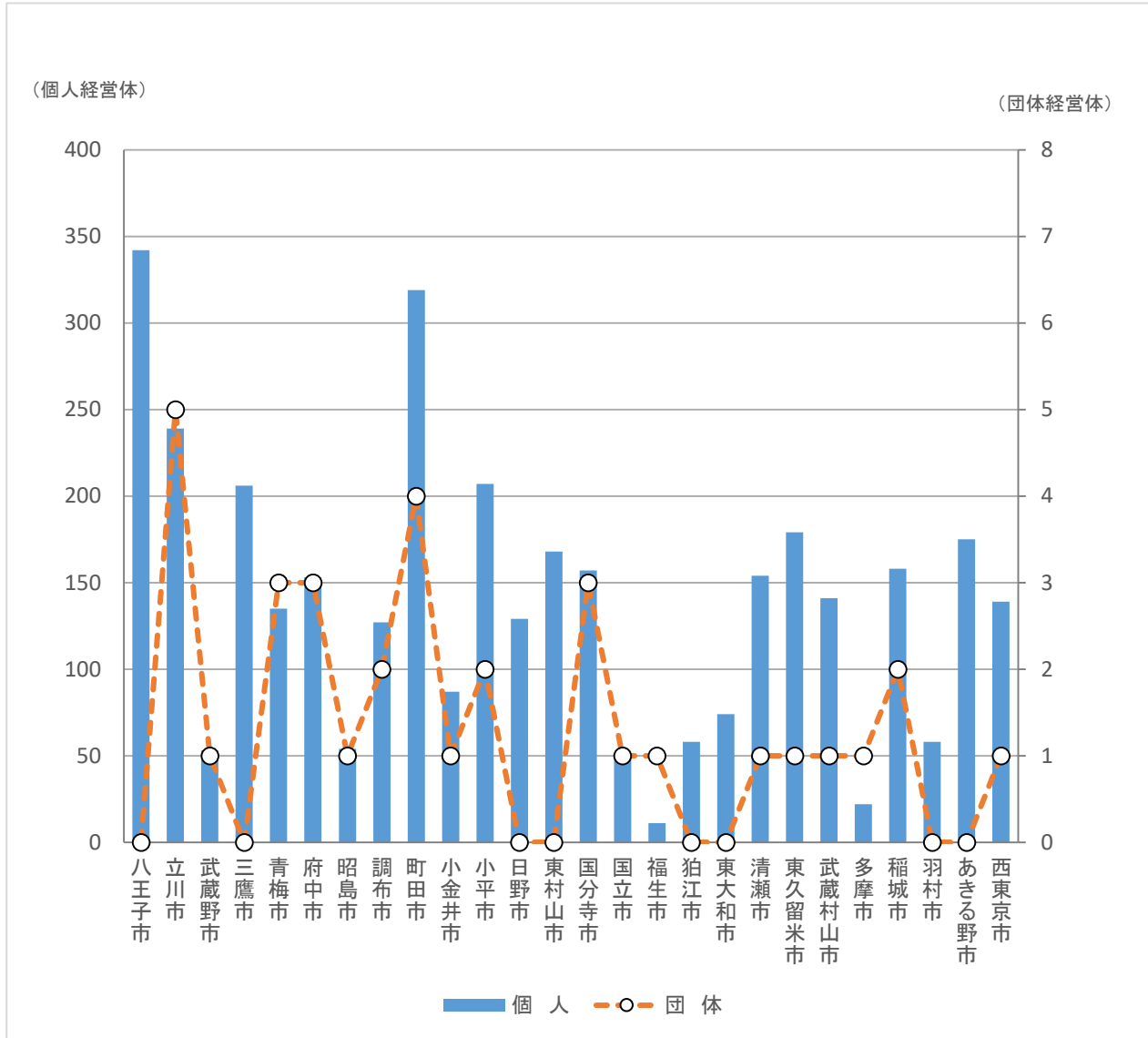
出典：国勢調査就業状態等基本集計（平成27年度）



出典：国勢調査就業状態等基本集計（平成27年度）

IV-7 農業経営体数（26市比較）

多摩市は26市と比較して農家戸数が少ない状態ですが、平成30年度を最後に家庭菜園使用者数の微増が見られます。これからも農業を持続させていくために、継続性・新たな農業者の創出が課題となってきています。



出典：2020年農林業センサス

■家庭菜園の設置状況

単位：園・区画

年度	菜園数	区画数			
		10㎡区画	20㎡区画	30㎡区画	合計
平成28年度	7	221	165	0	386
平成29年度	6	221	101	0	322
平成30年度	7	197	101	0	298
令和元年度	7	197	101	0	298
令和2年度	7	197	101	0	298

30㎡区間は0で推移しており、10㎡・20㎡区画とも5カ年で減少していることが読み取れます。

■家庭菜園の使用者数（延べ人数）

単位：人

年度	区画数			
	10㎡区画	20㎡区画	30㎡区画	合計
平成28年度	195	166	0	361
平成29年度	205	101	0	306
平成30年度	154	98	0	252
令和元年度	170	102	0	272
令和2年度	190	101	0	291

年度により人数の変動があるもののおおむね300人前後で推移しています。

■体験農業事業の実績

単位：館、人

年度	参加児童館数	参加児童総数	作付け品種
平成28年度	5	92	さつま芋、里芋、落花生
平成29年度	5	92	さつま芋、里芋、落花生
平成30年度	5	92	さつま芋、里芋、落花生
令和元年度	5	88	さつま芋、里芋、落花生
令和2年度	3	65	さつま芋、里芋、落花生

例年市内5つの児童館の児童が体験農業に参加していることがわかります。

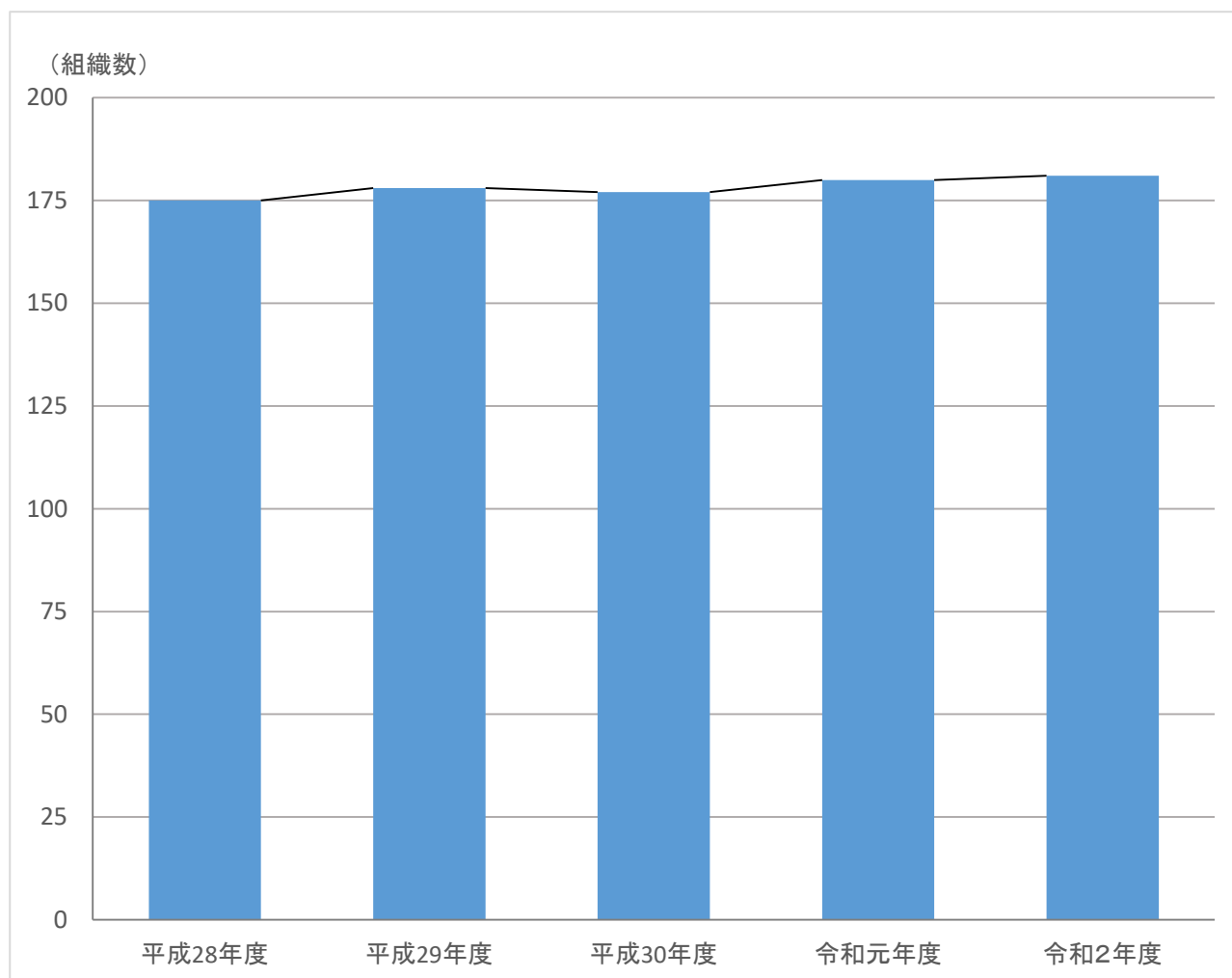
人数はほぼ横ばい、作付け品種は安定して3品目で推移していることが読み取れます。

出典：市民経済部経済観光課

第V節 「いつまでもみんなが住み続けられる安全で快適なまち」

V-1 自主防災組織数の推移

自主防災組織数は、年に1、2団体程度増加しており、令和2年度では181団体となっています。



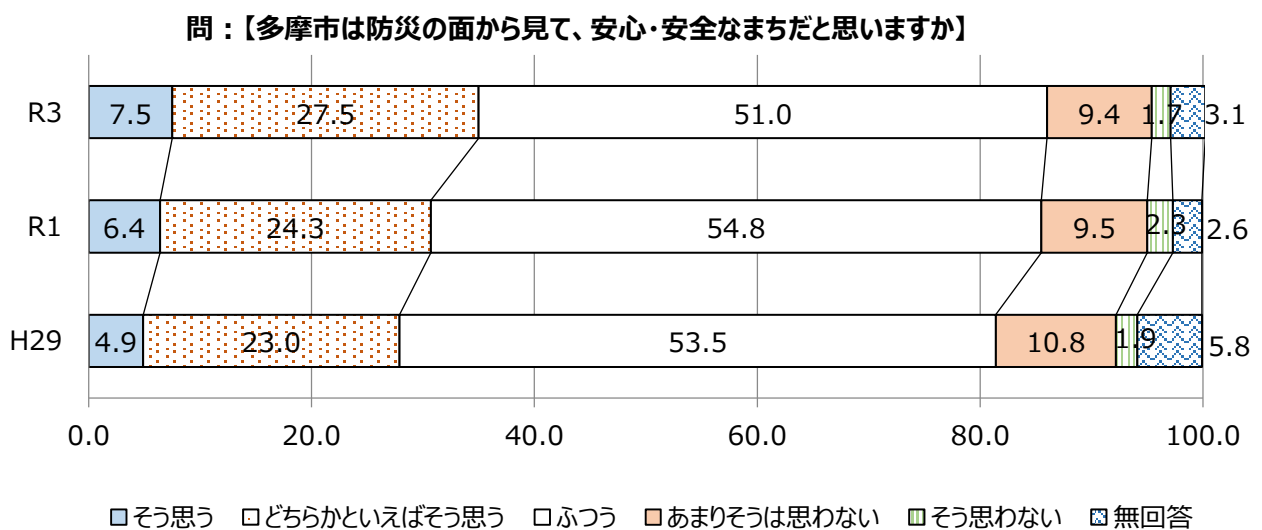
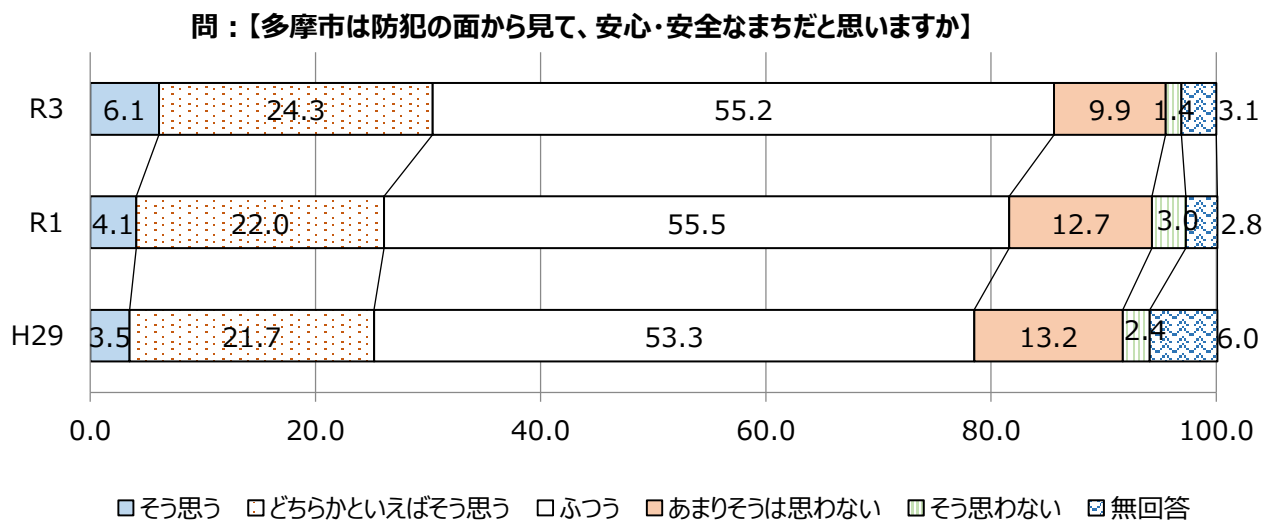
出典：総務部防災安全課

V-2 まちの安全・安心度の推移

多摩市を防犯の面から見て、安心・安全なまちだと思う（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）とする割合は、平成 29 年から令和 3 年にかけて 5.2 ポイント増え、安心・安全なまちだと思わない（「そう思わない」+「あまりそう思わない」）とする割合は 4.3 ポイント減少しています。

また、多摩市を防災の面から見て、安心・安全なまちだと思う（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）とする割合は、平成 29 年から令和 3 年にかけて 7.1 ポイント増え、安心・安全なまちだと思わない（「そう思わない」+「あまりそう思わない」）とする割合は 1.6 ポイント減少しています。

■ まちの安全・安心度の推移

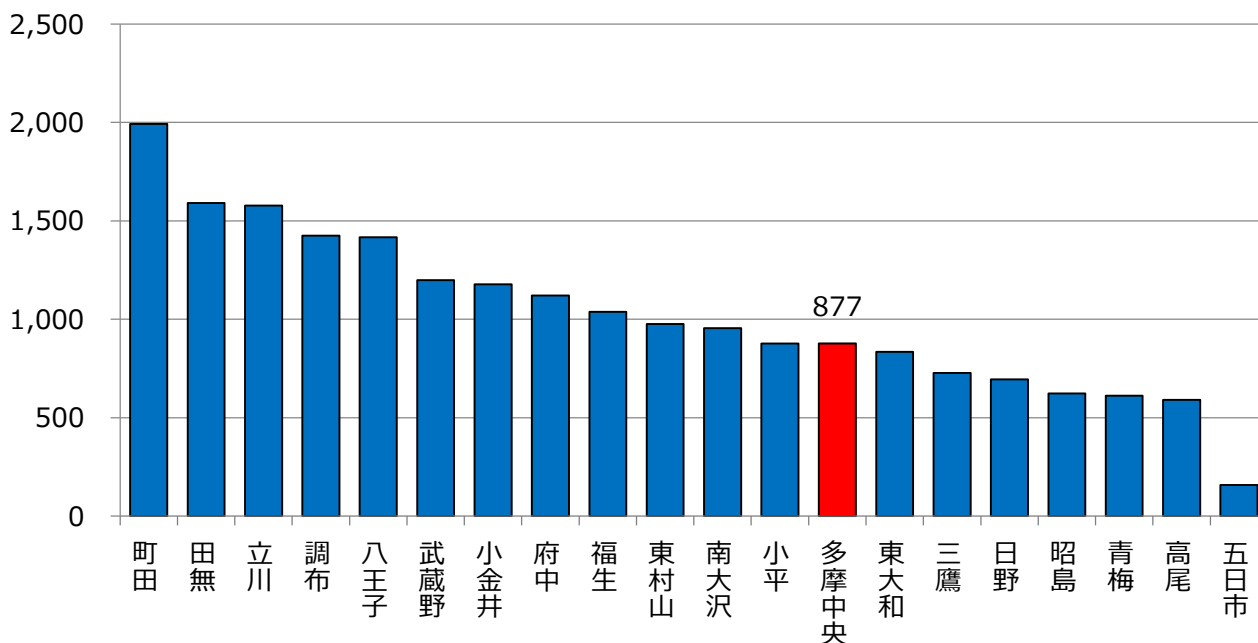


出典：「多摩市政世論調査」

V-3 刑法犯認知件数

多摩中央警察署管内(多摩市、稲城市を管轄)における刑法犯認知件数は 877 件となっており、20 警察署中少ない方から 8 番目です。

■ 刑法犯認知件数

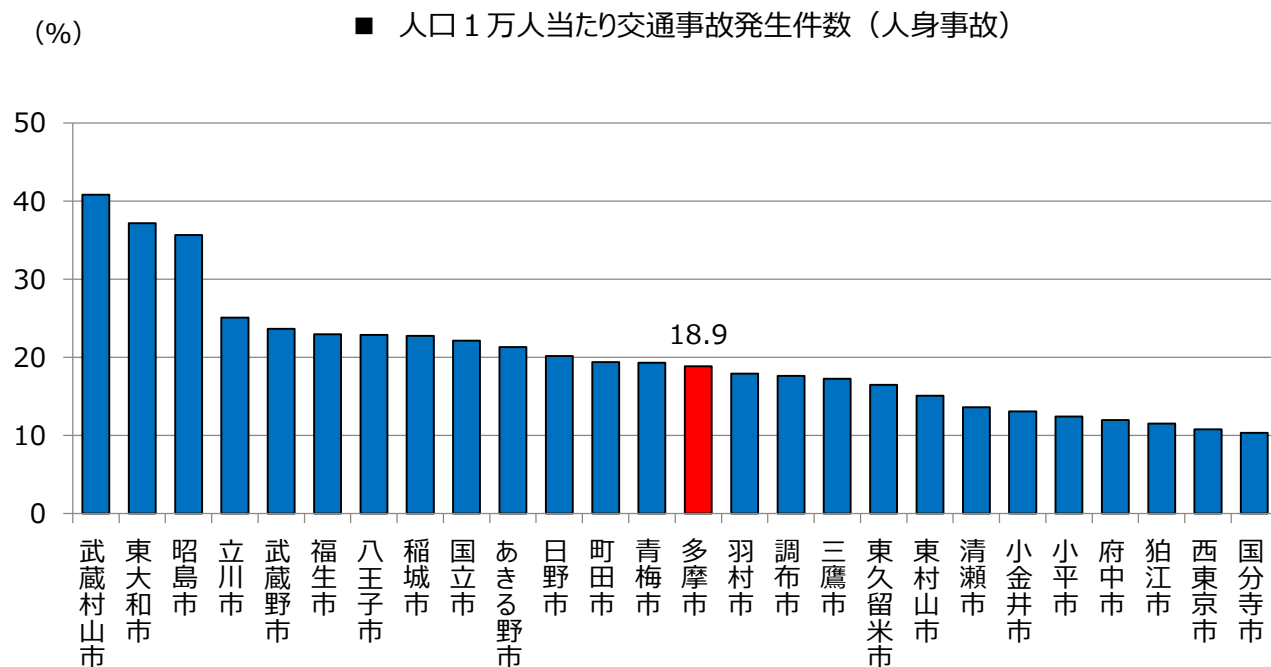


※刑法犯とは、殺人、強盗、窃盗など「刑法」等の法律に規定する犯罪で、特別法犯、交通事故に関わる業務上(重)過失致死傷罪を除く。また、認知件数とは警察が犯罪について、被害の届出等により、その発生を確認した件数

出典：警視庁総務部文書課「令和2年(2020年)警視庁の統計」

V-4 交通事故発生件数—人身事故—（26市比較）

人口1万人当たり交通事故発生件数（人身事故）は、18.9件となっており26市中14番目で、平均20.0件より低くなっています。



※人口1万人当たり交通事故発生件数（人身事故）：

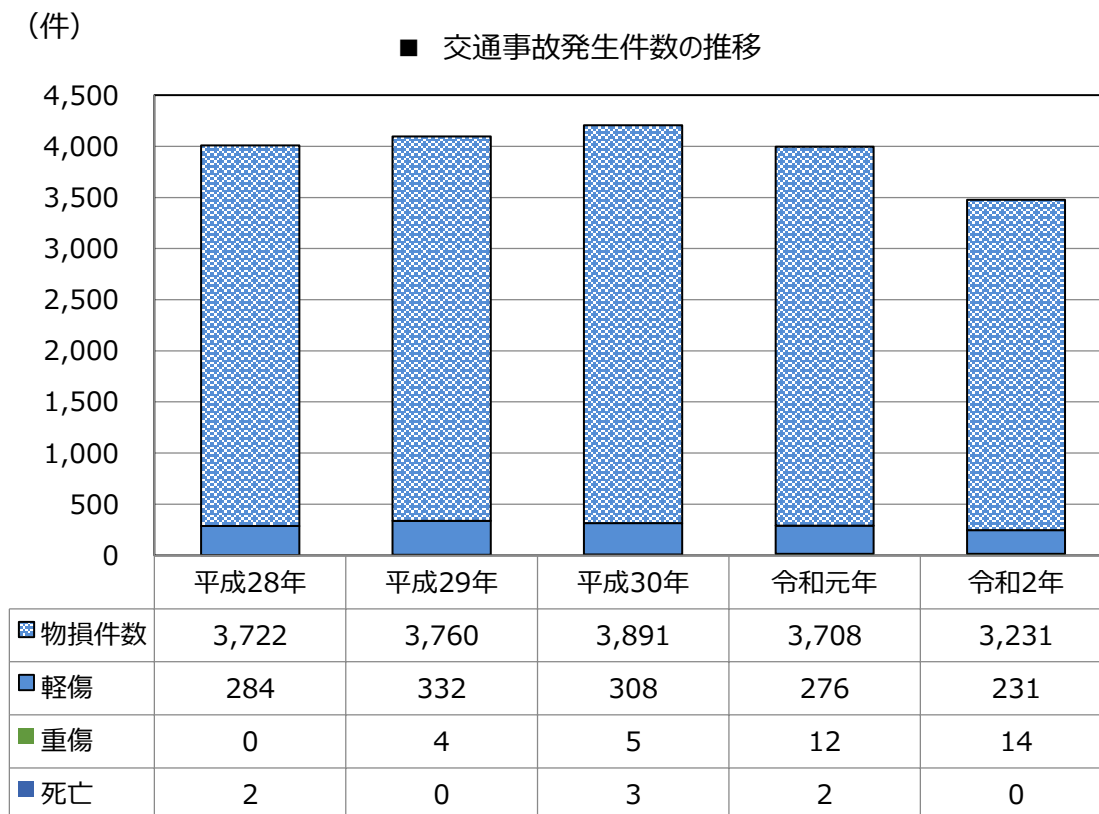
交通事故発生件数（人身事故）÷人口（令和3年1月1日現在住民基本台帳）×10,000

※高速隊扱いの事故は含まない

出典：警視庁交通総務課「交通人身事故発生状況(令和3年中)」

V-5 交通事故発生件数の推移

交通事故発生件数は、令和元年度まで 4,000 件前後で推移していましたが、令和 2 年度からは減少傾向です。



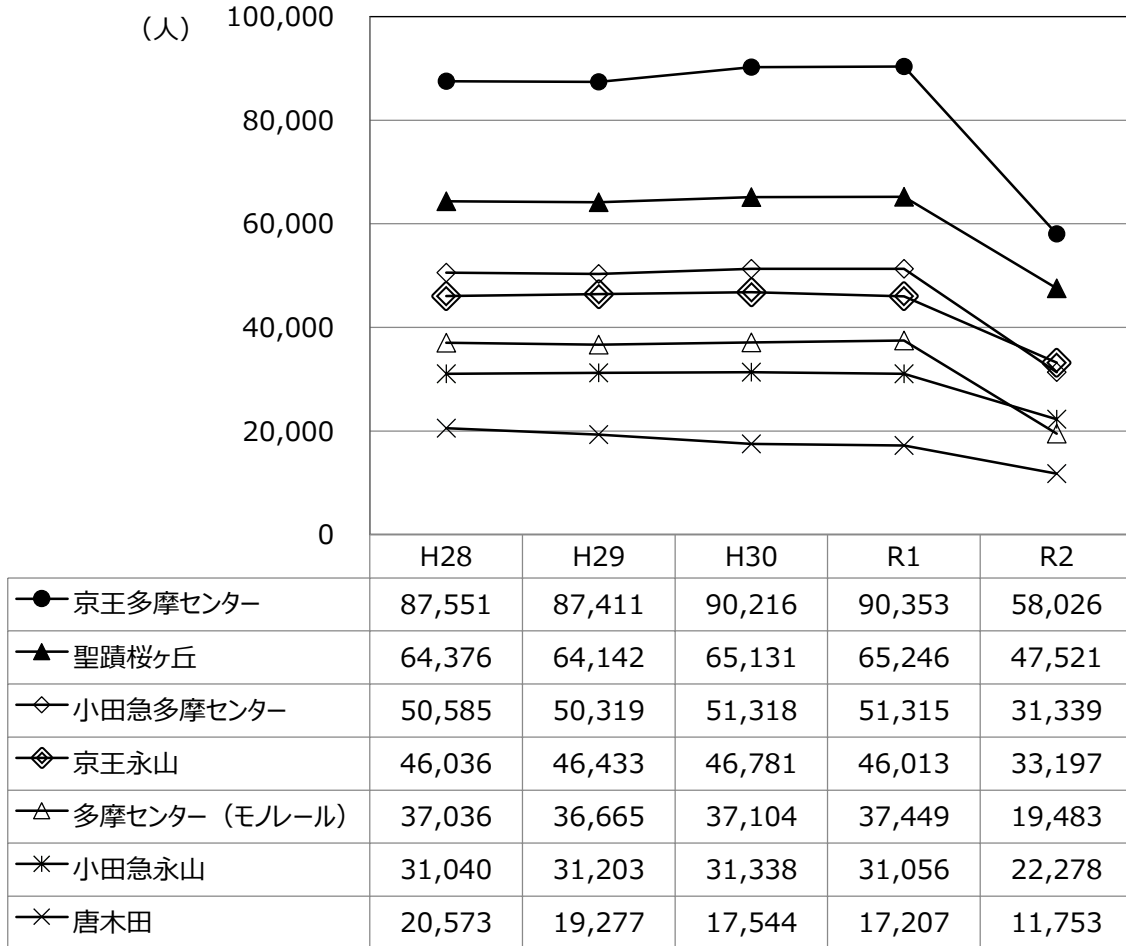
※多摩市のみ

出典：多摩中央警察署

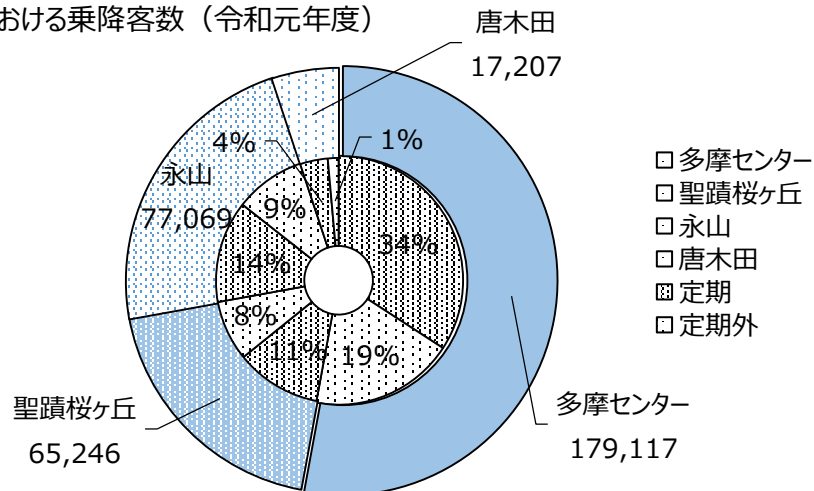
V-6 市内7駅における乗降客数

市内7駅における1日当たりの乗降客数は、京王多摩センター駅が最多ではあるものの、令和2年度から各駅の乗降客数が急激に減少しています。新型コロナウイルス感染症流行による外出自粛や、テレワークの推進などが影響していると思われます。

■ 市内7駅における1日当たり乗降客数の推移



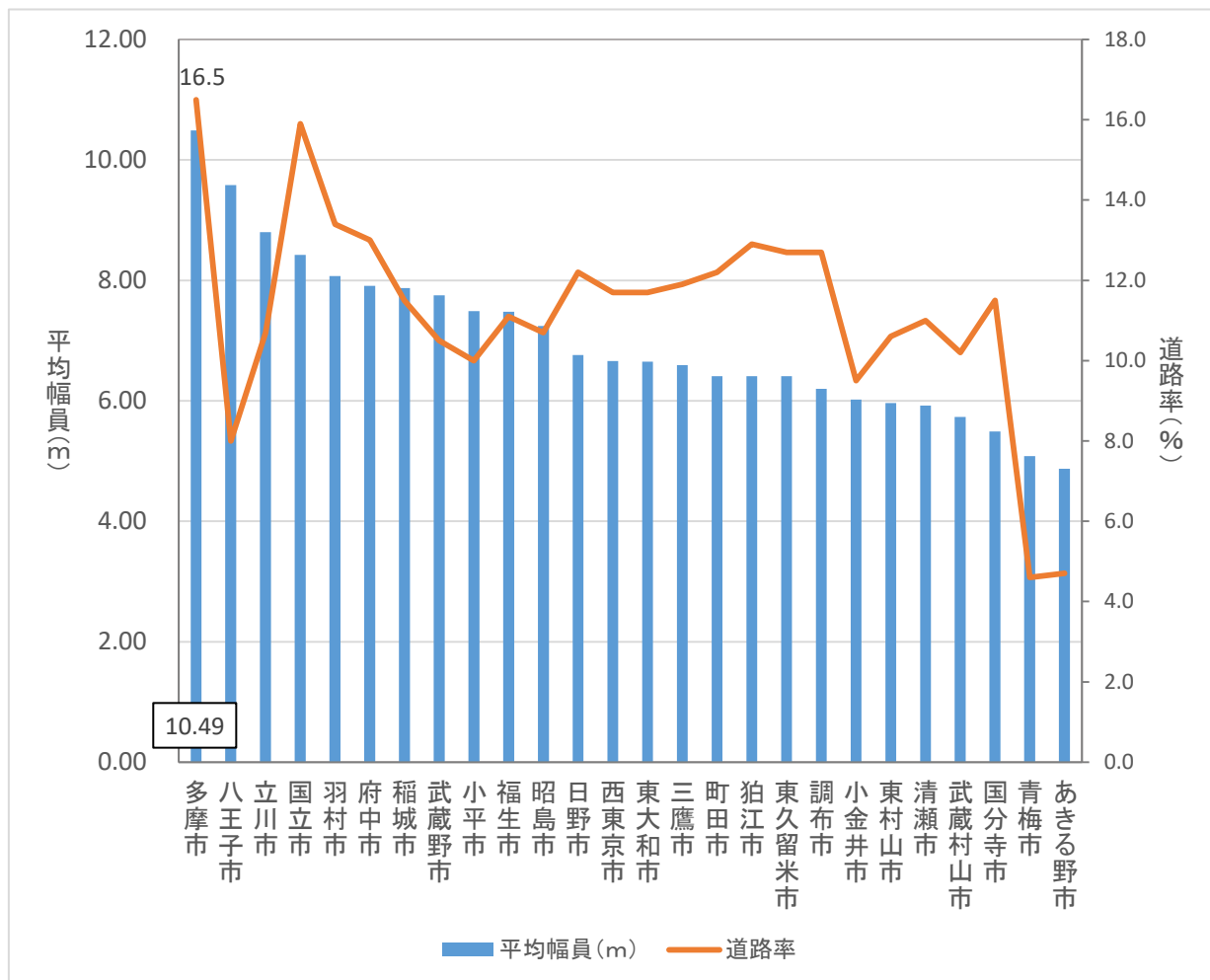
■ 市内4地域における乗降客数（令和元年度）



出典：京王電鉄、小田急電鉄、多摩都市モノレール

V-7 道路率（26市比較）

多摩市における道路率（行政面積に占める道路面積の割合）は16.5%で、26市中1番であり、また、平均幅員は10.5mで26市中最も広い道路整備が進んでいることがうかがえます。



出典：東京都建設局道路管理部「東京都道路現況調書 令和2年度」（令和3年1月）

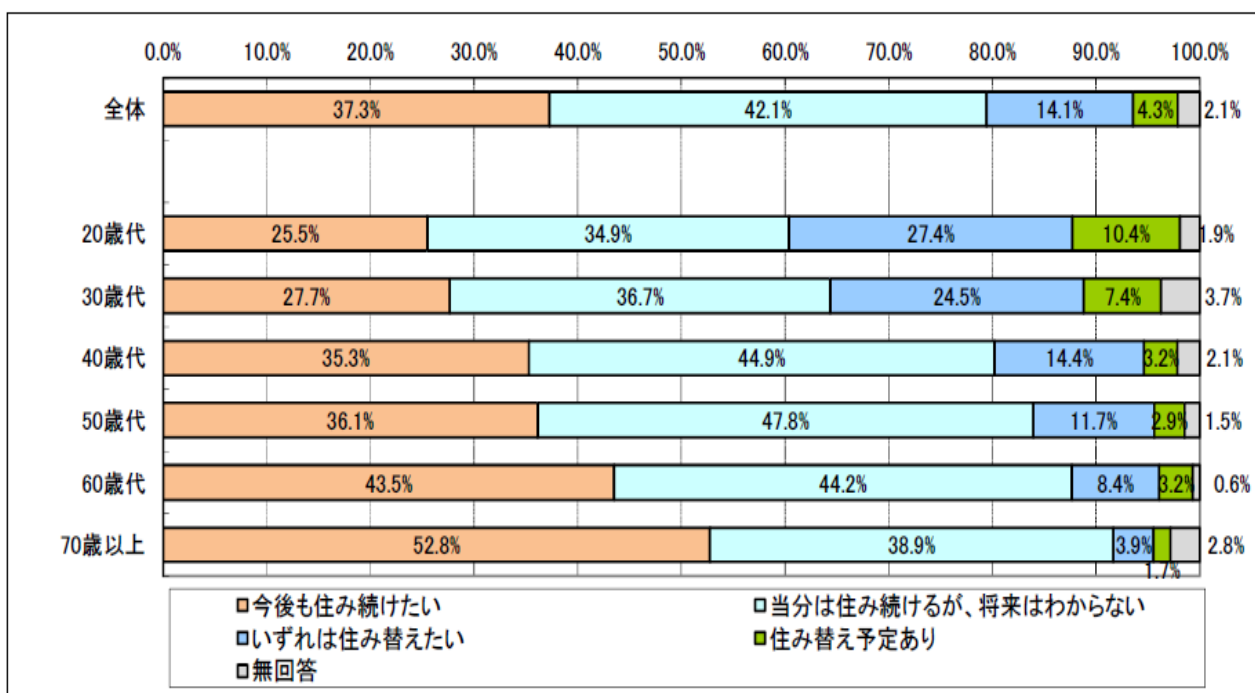
V-8 住まい・住生活に関する意識調査

多摩市第3次住宅マスタープランは平成28年度から令和7年度までの10年間における住宅施策について定めたものであり、以下のデータは平成28年の3月であることから、参考値として掲載する。

【参考】

多摩市への定住意向は、全体で79.4%です。若年層の定住意向が低く、高齢層の定住意向が高いのが大きなポイントです。

なお、「高齢者」、「子育て期」が考える理想の住まいや環境は、次ページ以降にポイントをまとめています。



出典：多摩市第3次住宅マスタープラン（平成28年3月策定）

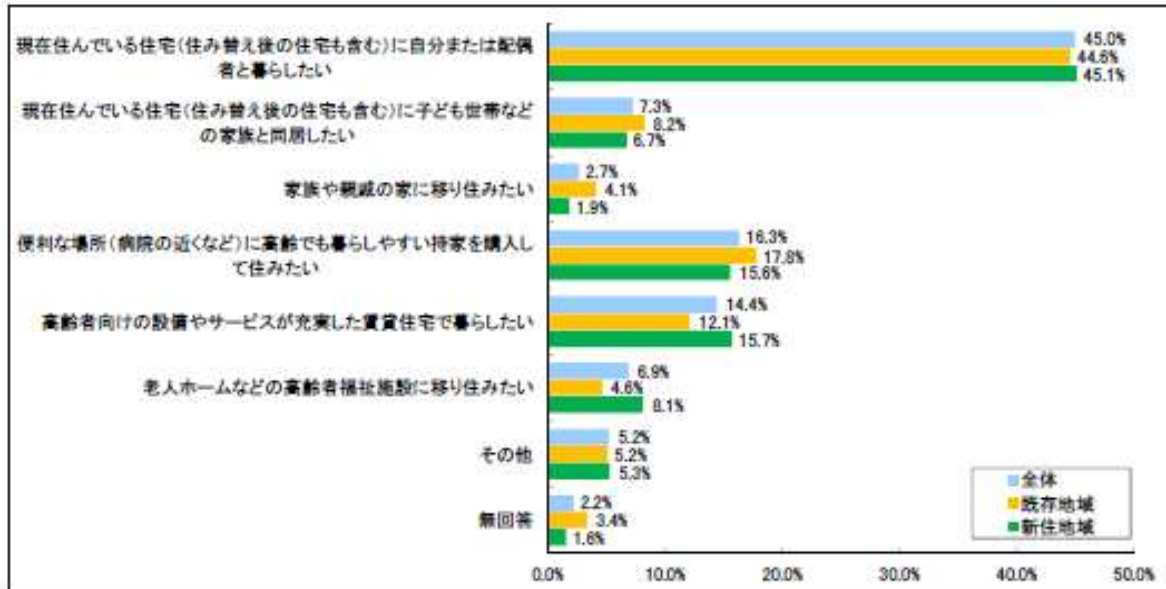
①高齢者の住まいについて

【参考】

■ 老後の理想の住まい（地域別老後の理想の住まい）

ポイント1 現在住んでいる住宅で暮らしたい 約 45%

ポイント2 集合住宅の持家居住者は 約 54%

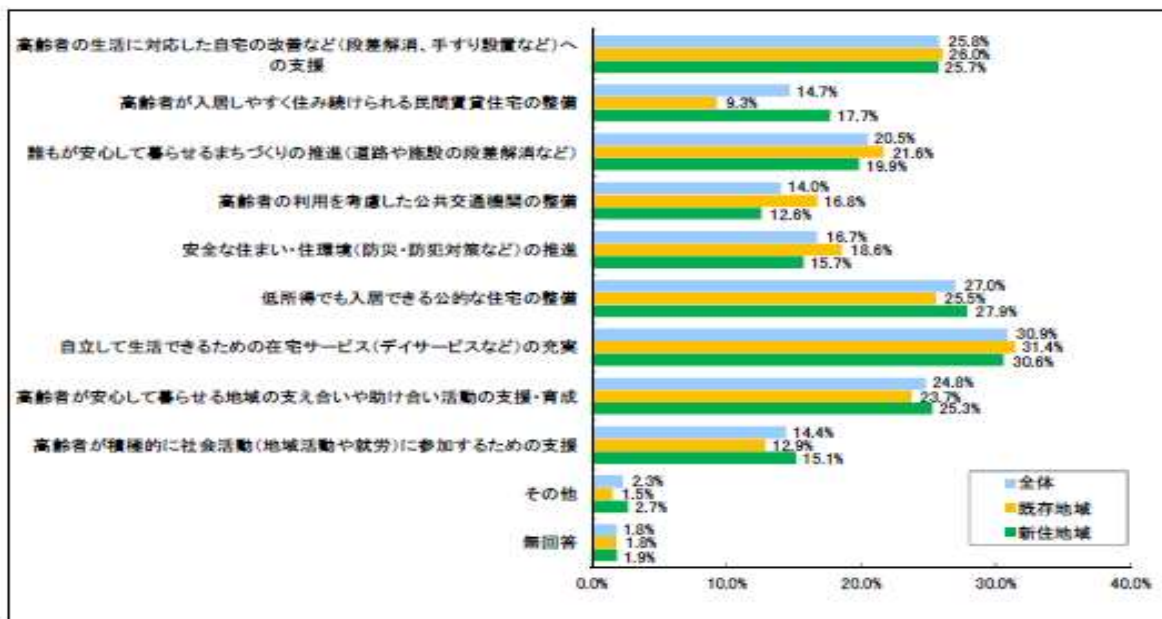


出典：多摩市第3次住宅マスタープラン（平成28年3月策定）

■ 高齢者が安心して暮らせるために必要な施策（複数回答）

ポイント1 自立して生活できるための在宅サービス約 31%

ポイント2 高齢者の生活に対応した自宅の改善などの支援 約 26%



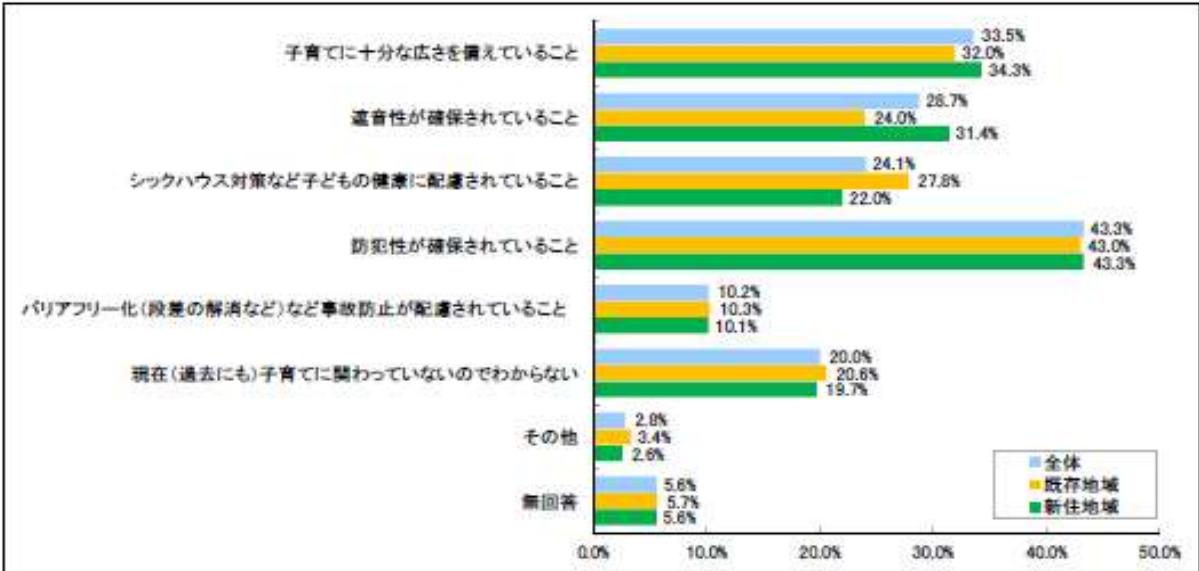
出典：多摩市第3次住宅マスタープラン（平成28年3月策定）

②子育て期の住まいについて

【参考】

■子育てしやすい住宅（複数回答）

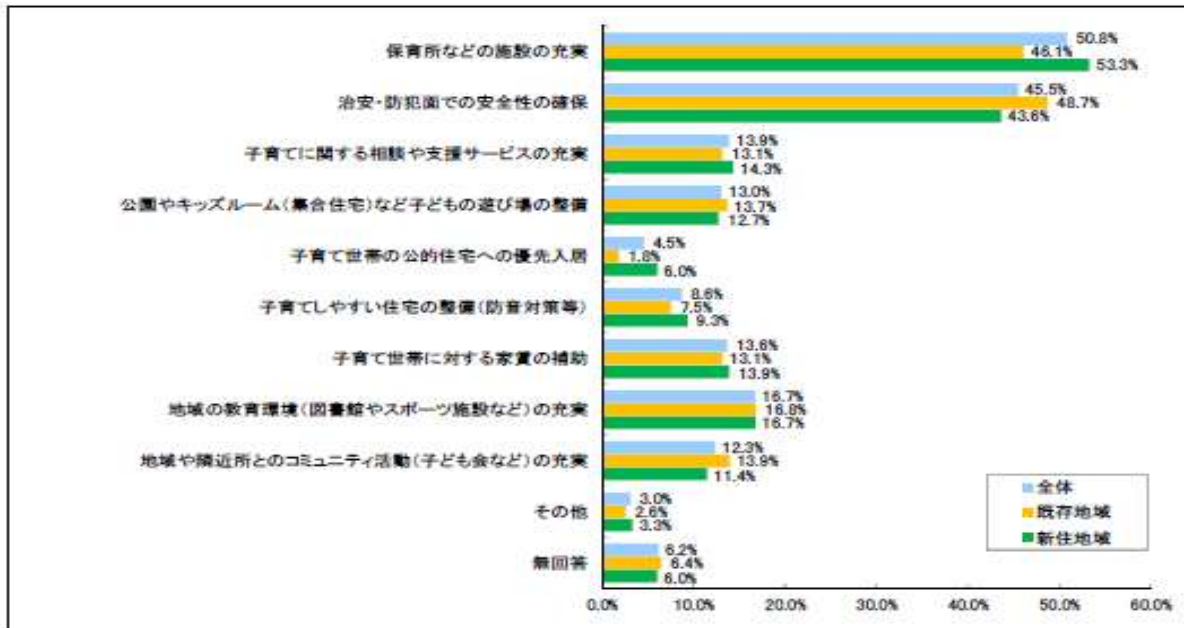
ポイント1 防犯性の確保 約43%
 ポイント2 子育てに十分な広さ 約34%



出典：多摩市第3次住宅マスタープラン（平成28年3月策定）

■子育てしやすい環境（複数回答）

ポイント1 保育所などの施設の充実 約51%
 ポイント2 治安・防犯面での安全性の確保 約46%



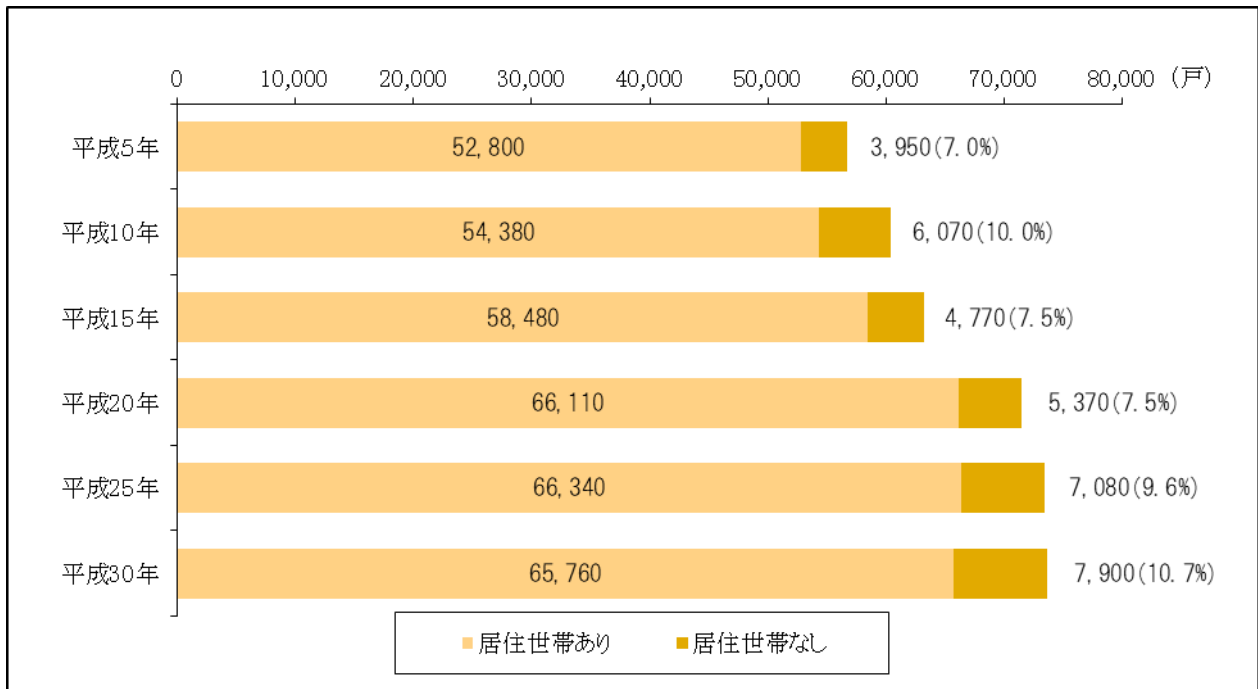
出典：多摩市第3次住宅マスタープラン（平成28年3月策定）

V-9 住宅ストック状況

① 住宅数

「住宅・土地統計調査結果」（総務省統計局）によると、平成30年時点で、住宅総数は73,660戸であり、年々増加傾向にあります。なお、詳細については、次ページ以降にポイントをまとめています。

■ 住宅数の推移

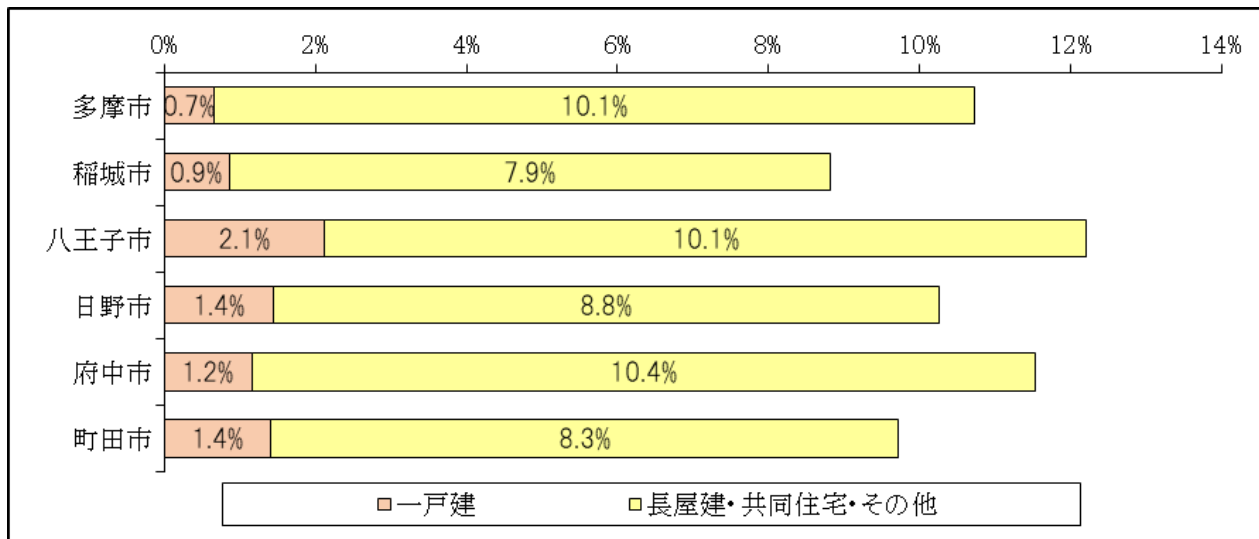


出典：住宅・土地統計調査（平成30年）

② 空き家の状況

近隣市と空き家の状況を比較すると、9～12%程度であると言えます。

■ 多摩市と近隣市の空き家の状況

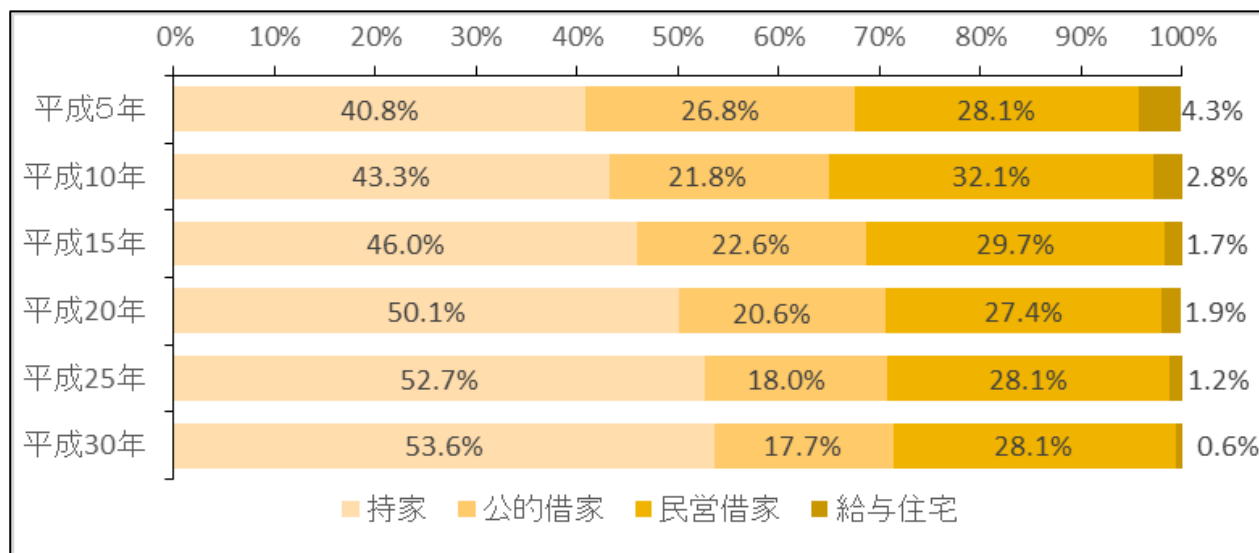


出典：住宅・土地統計調査（平成30年）

③ 所有の状況

本市の住宅の所有関係別の推移を見ると、持ち家は増加傾向にあり、平成30年には53.6%となっています。

■ 所有関係別の推移

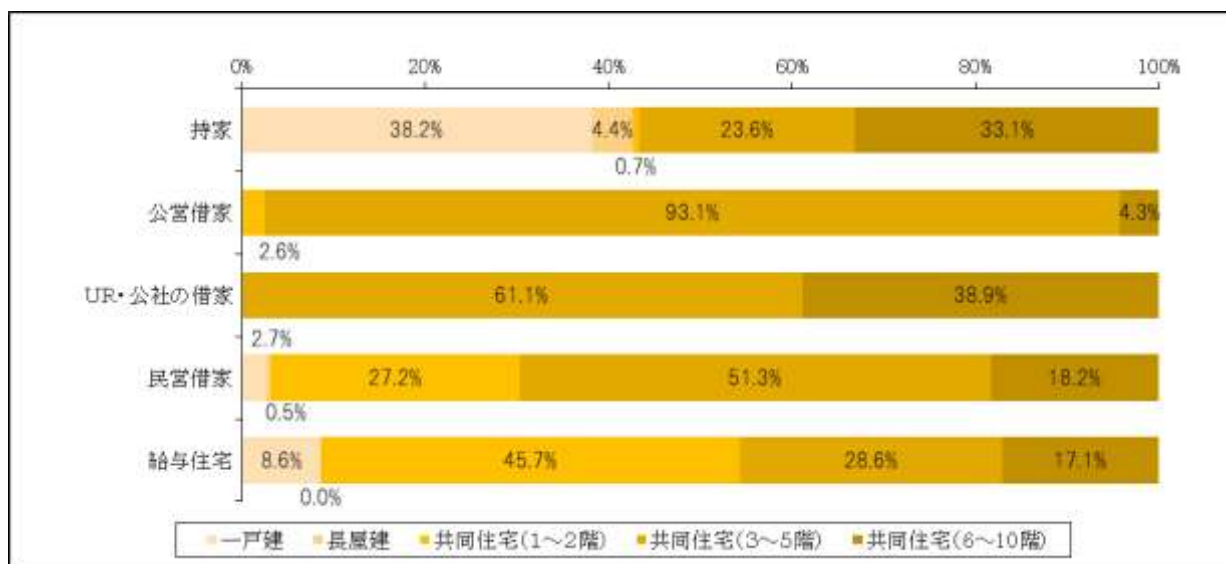


出典：住宅・土地統計調査（平成30年）

④ 建て方

持家では一戸建てが最も多く、38.2%となっていますが、持家の半数を共同住宅が占めています。また、公営、民営借家の95%以上は共同住宅となっています

■ 所有関係別建て方の割合

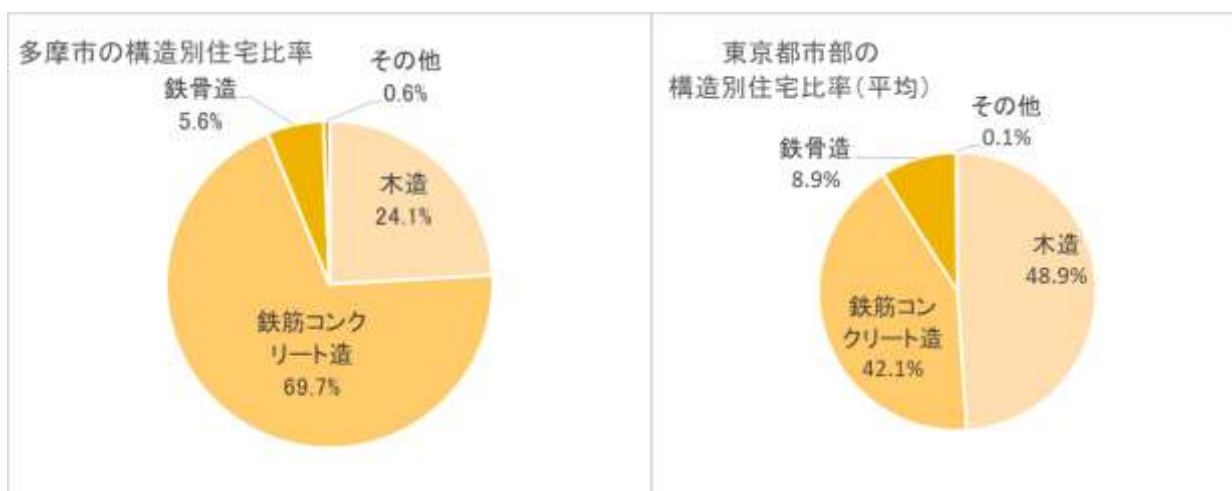


出典：住宅・土地統計調査（平成30年）

⑤ 構造

本市では、鉄筋コンクリート造の住宅が69.7%と東京都市部の平均42.1%より大幅に高い割合となっていることが特徴です。一方、木造住宅は、東京都市部平均が48.9%であるのに対し、本市は24.1%と半分以下の割合となっています。

■ 構造別住宅比率の比較



出典：住宅・土地統計調査（平成30年）

⑥ 建築時期

本市では耐震設計基準が改正された昭和 56 年以前に建築された住宅は、持家では約 8,000 戸、公的な借家では約 10,000 戸となっています。また、旧耐震基準の分譲マンション数は 216 棟で東京都の市部では最も多くなっています。

■ 所有関係別の建設時期の割合



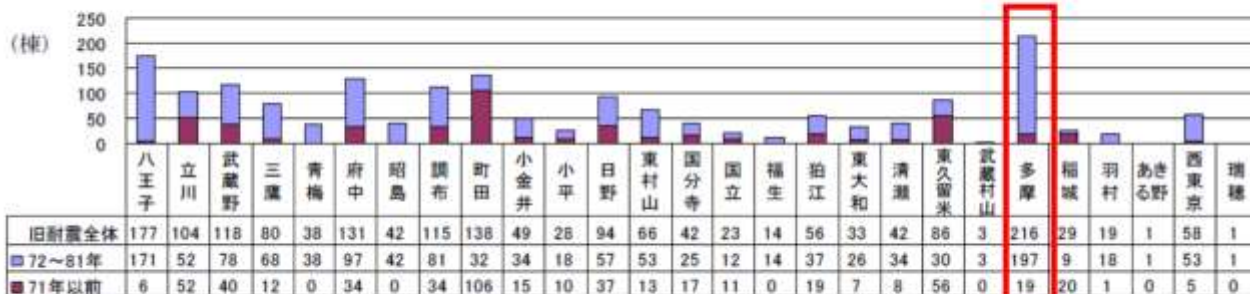
※国土交通省の住生活基本計画（平成 28 年 3 月）では、耐震基準（昭和 56 年基準）が求める耐震性を有しない住宅ストックの比率を平成 37 年までにおおむね解消することを目標としている。

出典：住宅・土地統計調査（平成 30 年）

■ 旧耐震基準の分譲マンション数

【参考】

旧耐震基準の分譲マンション数（3 階以上対象。2 階以下の共同住宅（タウンハウス等）は含まない。）



資料：東京都 マンション実態調査結果（平成 25 年 3 月）（P46）より一部抜粋

⑦公的賃貸住宅等

■公的賃貸住宅等供給数

種別		平成21年	平成26年	令和3年
公営住宅	市営住宅	132戸	132戸	112戸
	都営住宅	4,963戸	4,920戸	4,590戸
特定優良賃貸住宅	都民住宅	150戸	87戸	4戸
公社住宅		1,630戸	1,630戸	1,630戸
UR賃貸住宅		7,364戸	7,312戸	6,014戸
合計		14,239戸	14,081戸	12,350戸

※都営住宅の管理戸数は、建替えや撤去のために募集や撤去のために募集を停止している戸数を除いています。

■26市の公的賃貸住宅等供給状況

【参考】



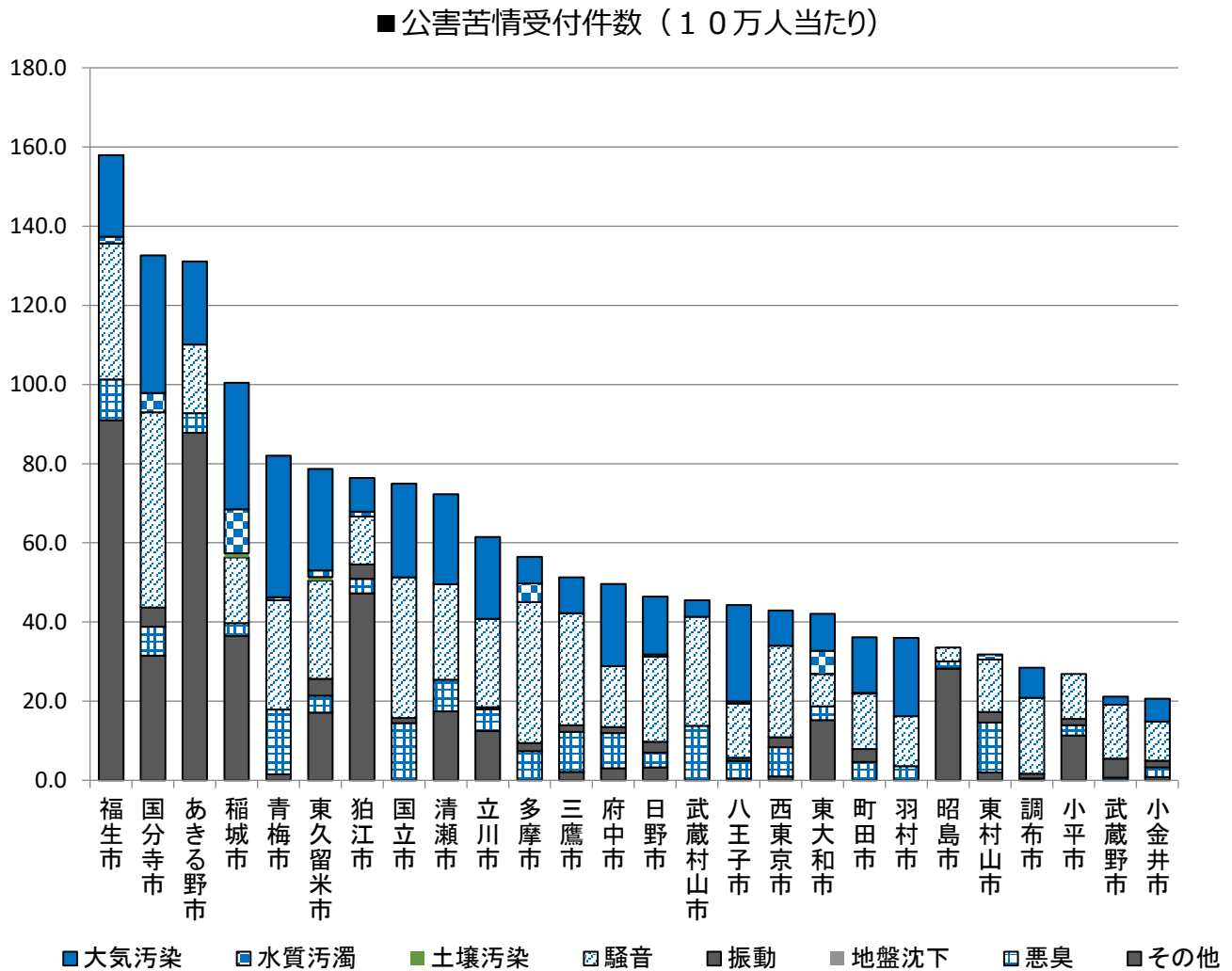
出典：多摩市第3次住宅マスタープラン（平成28年3月策定）

第VI節 「人・自然・地球 みんなで環境を大切にすまち」

VI-1 公害苦情受付件数（26市比較）

令和元年度の公害苦情受付件数は、10万人当たりで比較すると56.5件で、多摩市は26市中11位で、26市平均の60.8件よりも低くなっています。

かねてより多摩市は大気汚染、水質汚濁、騒音の公害苦情が寄せられていますが、近年では騒音の割合が上昇しています。



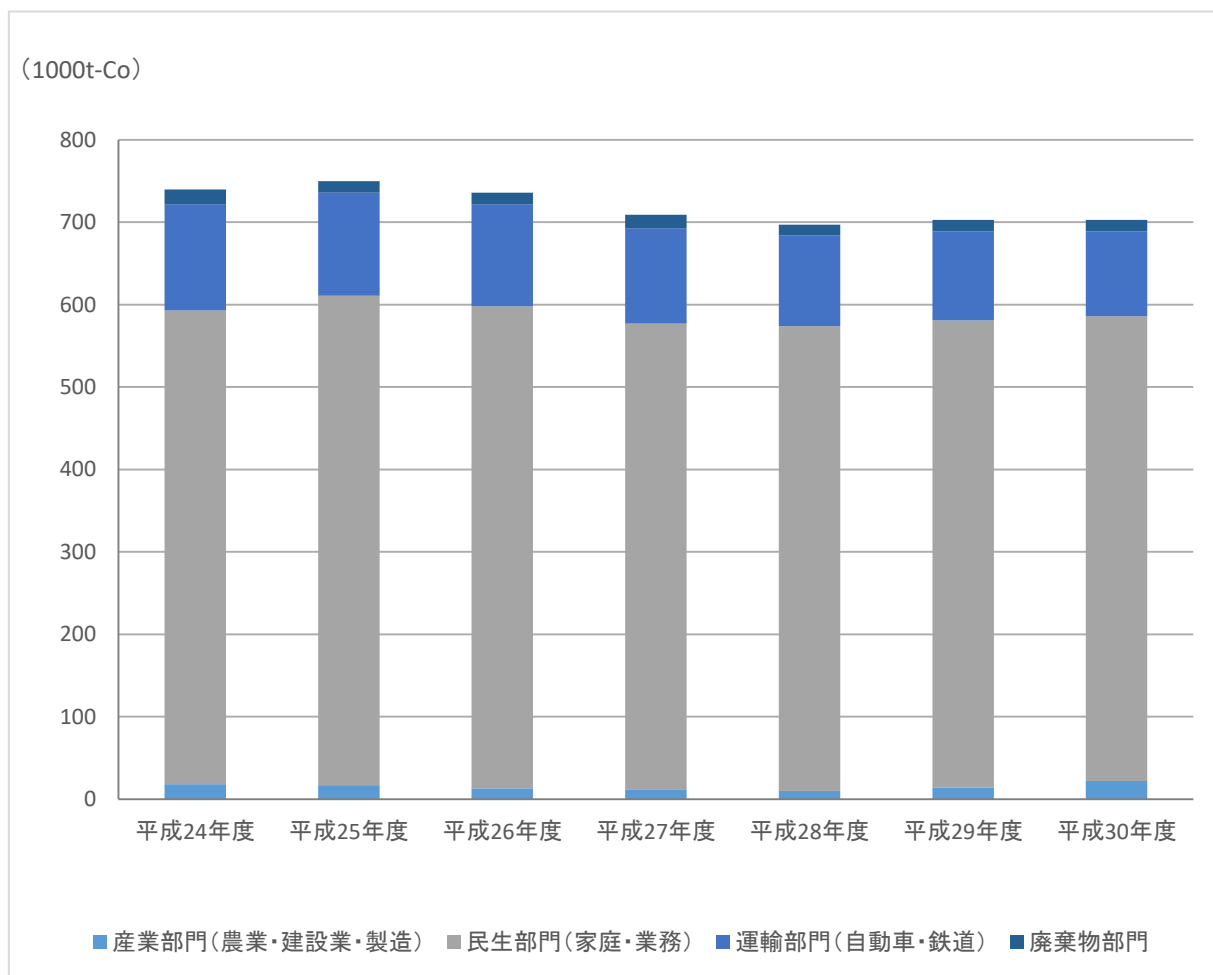
出典：東京都環境局総務部総務課広報広聴担当「公害苦情統計調査（令和元年度）」

※人口は「住民基本台帳による東京都の世帯と人口（町丁別・年齢別）/平成31年1月」より

VI-2 二酸化炭素排出量の推移

運輸部門での排出量は減少を、産業部門、廃棄物・民生部門では横ばいあることから全体としての排出量も減少しています。

■ 市内の二酸化炭素排出量



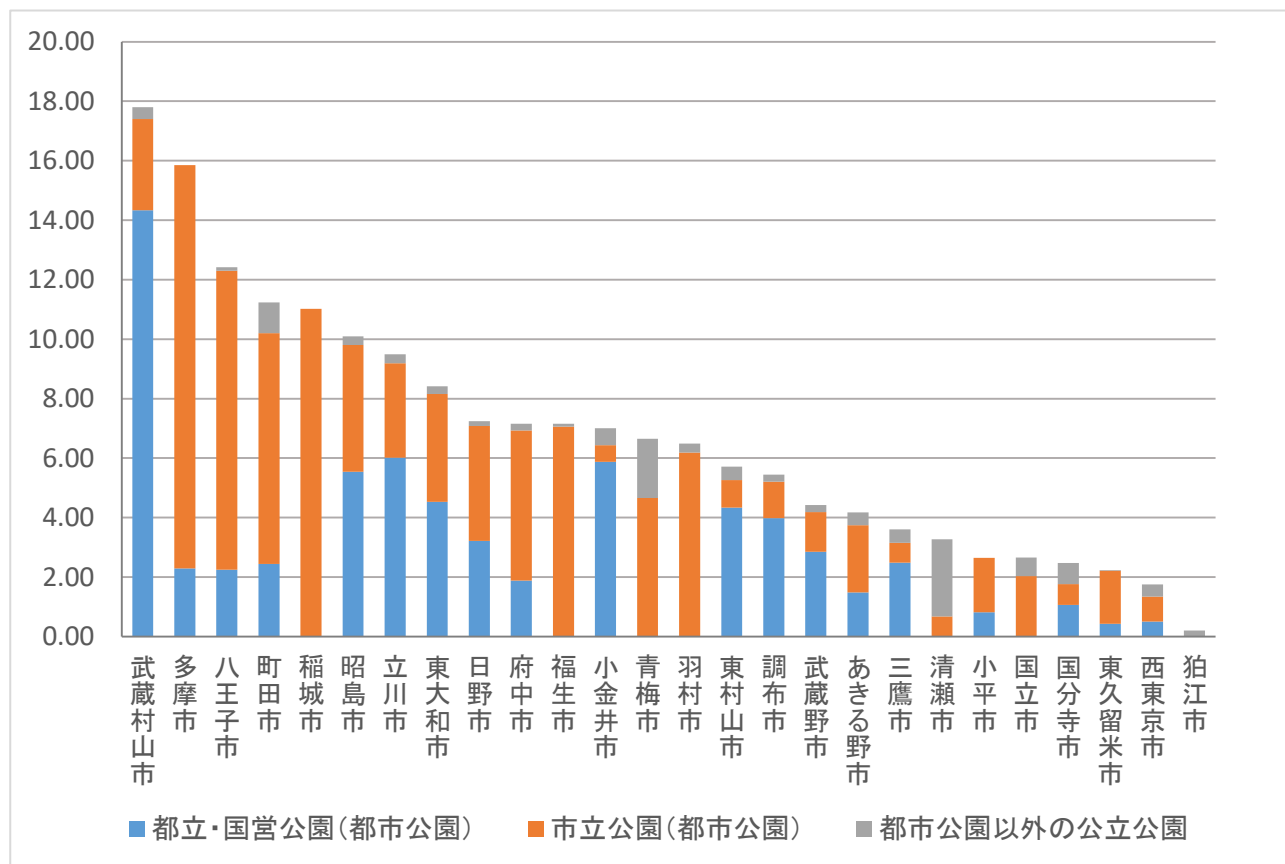
出典：オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」より抜粋

VI-3 1人当たり都市公園等面積（26市比較）

多摩市における1人当たりの都市公園等面積は15.85㎡と26市中2番目で、公園が充実していることがうかがえます。なお、市立公園のみの面積で見ると、多摩市は13.56㎡で26市中トップです。

(㎡/人)

■ 人口1人当たりの都市公園等面積



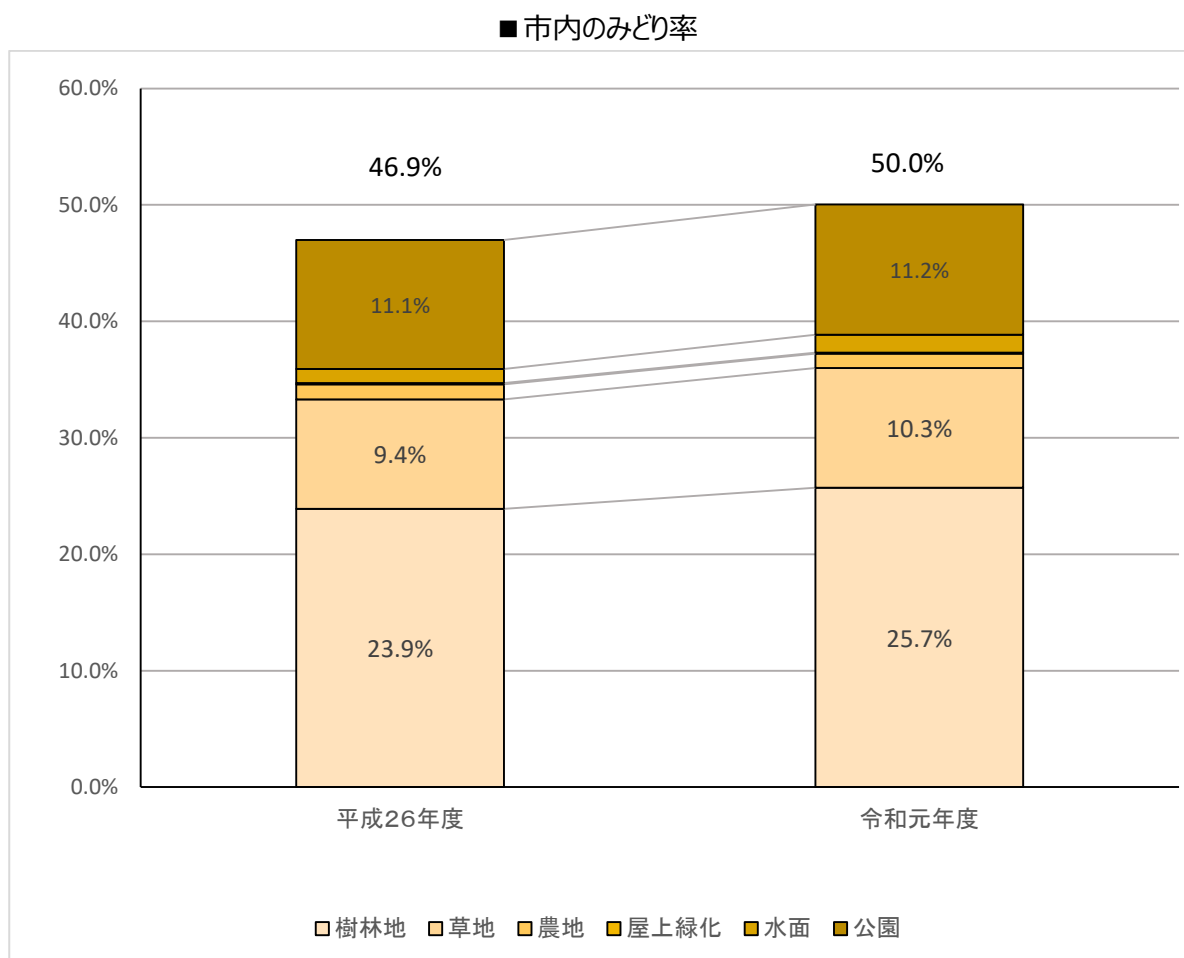
出典：東京都建設局公園緑地部管理課「公園調書（令和3年4月1日現在）」

※人口は、「東京都の人口(推計)令和3年1月1日現在」（東京都総務局統計部）を使用

VI-4 みどり率

多摩市におけるみどり率は、市域面積の約半分を占めています。なかでも、樹林地と公園が大きな割合を占めています。また、多摩市のみどりは「昔ながらのみどり」と「多摩ニュータウン事業により新たに創出されたみどり」がつながりをもっていることが大きな特徴です。

※みどり率：従来のみどりの量を把握する「緑被率（樹林地、草地、農地、宅地等、道路、公園が占める割合）」という考え方に、「河川等の水面の占める割合」と「公園内で樹林等の緑で覆われていない面積」の割合を加えたみどりの把握の仕方。東京都、多摩市ともにこの方法により、まちのみどりを把握している。



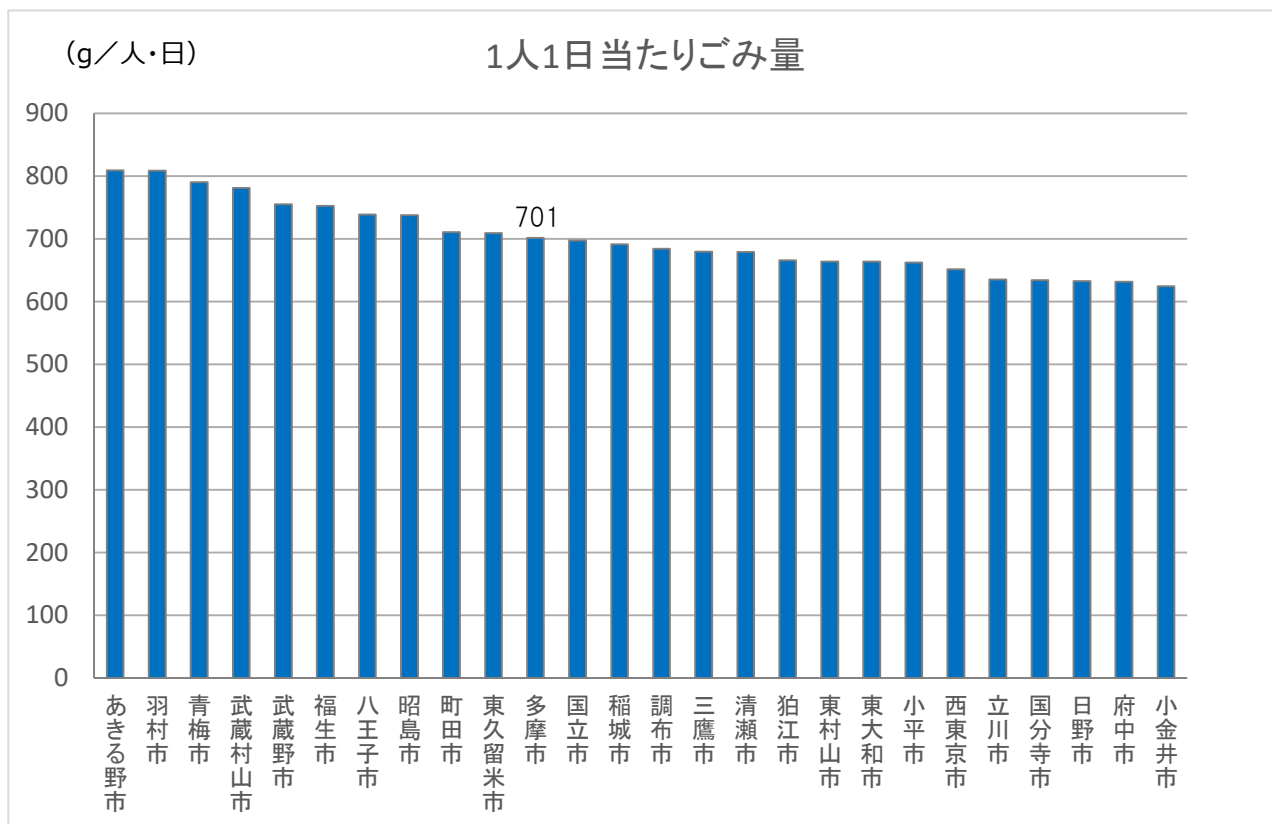
出典：平成 31 年度「みどりの現況調査報告書」

※割合は市域面積に対する各項目割合（市域面積は、平成 26 年度時点 2,108ha を使用、平成 31 年度時点 2,101ha を使用※ 2）

※ 2 国土地理院の全国都道府県市区町村別面積調を平成 2 6 年度末に公表その際面積の変更あり

VI-5 1人1日当たりごみ量（26市比較）

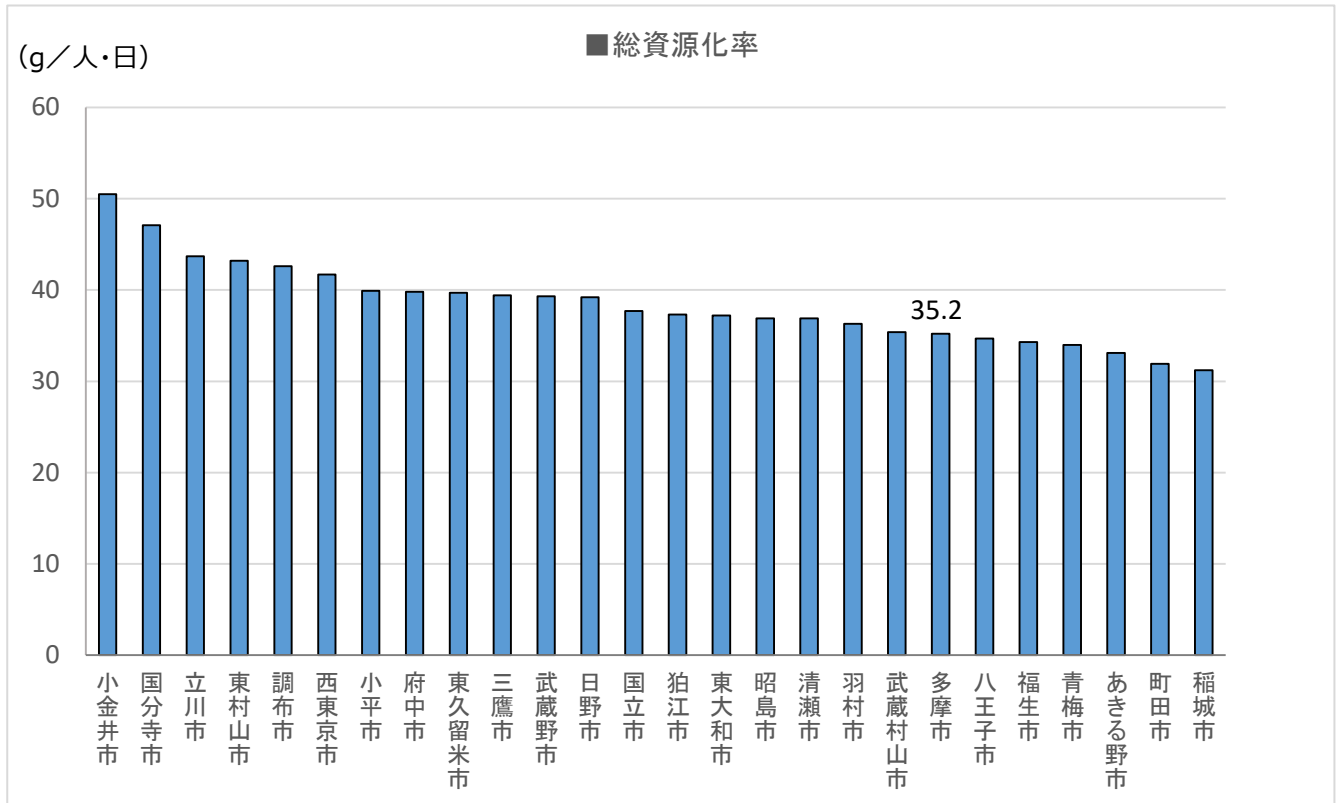
多摩市における1人1日当たりごみ量は令和2年度現在701gで、26市中多い方から11番目です。



出典：多摩地域ごみ実態調査(令和2年度統計)

VI-6 総資源化率（リサイクル率）（26市比較）

多摩市における総資源化率（リサイクル率）は、令和2年度現在で35.2%となっており、26市中低い方から7番目です。



出典：多摩地域ごみ実態調査(令和2年度統計)

